

科目名	科目担当代表教員	ページ数
心理学概論	小塚 美由記	3
総合教養講座	白戸 力弥	12
文章表現	佐々木 雅哉	21
食生活論	荒井 三津子	30
生活と社会環境	辻 幸美	39
キャリア入門	白戸 力弥	48
現代医療と福祉・介護	高岡 哲子	55
日本国憲法	池田 杏奈	64
キャリア形成	木村 悠里菜	73
情報処理	常見 裕子	80
生命科学	有賀 早苗	89
数理・データサイエンス・AI入門	松岡 審爾	98
数理・データサイエンス・AI実践	松岡 審爾	105
統計の基礎	武田 裕康	112
英語Ⅰ	Patrick Hall	121
英語Ⅰ	Patrick Hall	130
英語Ⅰ	Patrick Hall	139
英語Ⅱ	相馬 哲也	148
韓国語Ⅰ	曹 順姫	157
韓国語Ⅱ	權 永慶	166
生涯スポーツⅠ	平岡 英樹	175
生涯スポーツⅠ	平岡 英樹	184
生涯スポーツⅡ	平岡 英樹	193
生涯スポーツⅡ	平岡 英樹	202
教育学概論Ⅰ	中田 和彦	211
教育学概論Ⅱ	中田 和彦	220
生涯学習概論Ⅰ	吉岡 亜希子	229
生涯学習概論Ⅱ	吉岡 亜希子	238
教育心理学Ⅰ	木谷 岐子	247
教育心理学Ⅱ	木谷 岐子	256
アカデミックライティング	宮崎 隆志	265
地域未来概論(地域の未来を語る)	熊野 稔	274
世界と北海道	小山田 健	283
日本政治経済論	宮本 融	292
自治体を知る	熊野 稔	301
北海道の食文化	藤井 駿吾	310
持続可能な地域社会と地域創生	木村 俊昭	319
北海道の社会と文化(多文化共生)	小山田 健	328
教育から考える地域と未来Ⅰ	中田 和彦	337
教育から考える地域と未来Ⅱ	中田 和彦	346
社会教育論	中田 和彦	355

人口減少時代の地域と大学	山本 健慈		364
教育から考える社会貢献	吉岡 亜希子		373
コミュニティ教育論Ⅰ	宮崎 隆志		382
コミュニティ教育論Ⅱ	宮崎 隆志		391
こども家庭支援論	吉岡 亜希子		400
こども家庭支援の心理学	吉岡 亜希子		409
地域商業概論	木村 悠里菜		418
人口減少時代の対話と合意形成	松田 祐		427
地域と文化	木村 悠里菜		436
健康社会と福祉	松本 洋子		445
まちづくり法規	熊野 稔		454
公衆衛生学	續 佳代		463
都市計画学	熊野 稔		472
社会福祉	松岡 是伸		481
景観デザイン論	熊野 稔		490
統計と社会調査法	小田 史郎		499
アントレプレナーシップ概論	玉井 健一		508
公務員講座Ⅰ	高橋 保夫		517
公務員講座Ⅱ	高橋 保夫		526
日本語ビジネスライティング	佐々木 雅哉		535
地域を知る(地域未来創造入門)	熊野 稔		544
地域を知る(地域未来創造入門)	木村 俊昭		553
地域を知る(地域未来創造入門)	中田 和彦		562
地域を知る(地域未来創造入門)	宮崎 隆志		571
地域を知る(地域未来創造入門)	吉岡 亜希子		580
地域を知る(地域未来創造入門)	木村 悠里菜		589
地域未来創造基礎(Adventure)	熊野 稔		598
地域未来創造基礎(Adventure)	木村 俊昭		607
地域未来創造基礎(Adventure)	中田 和彦		616
地域未来創造基礎(Adventure)	宮崎 隆志		625
地域未来創造基礎(Adventure)	吉岡 亜希子		634
地域未来創造基礎(Adventure)	木村 悠里菜		643
地域未来創造演習Ⅰ(Beginning)	熊野 稔		652
地域未来創造演習Ⅰ(Beginning)	木村 俊昭		666
地域未来創造演習Ⅰ(Beginning)	中田 和彦		680
地域未来創造演習Ⅰ(Beginning)	宮崎 隆志		694
地域未来創造演習Ⅰ(Beginning)	吉岡 亜希子		708
地域未来創造演習Ⅰ(Beginning)	木村 悠里菜		722
地域未来創造演習Ⅰ(Beginning)	松田 祐		736

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		教養科目 人間と文化					
科目名		心理学概論				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	小塚 美由記						
授業の位置づけ							
本科目は、リハビリテーション学科理学療法専攻と作業療法専攻のディプロマポリシーでは「臨床場面や研究において状況の変化に柔軟に対応できるコミュニケーション能力を身につけている(思考・判断・表現)」に位置付けられ、2年前期の「臨床心理学」と連携している。看護学科のディプロマポリシーでは、「看護学の本質を理解するために必要な、文理横断的かつ学際的な知識と論理的な思考力を有し、看護を取り巻く状況の変化に柔軟に対応できる。(思考・判断・表現)」に位置付けられており、1年次後期の「メンタルヘルス」と連携している。地域未来学科のディプロマポリシーでは「地域社会における教育の役割を理解し、教育学に関する専門的知識・技能を身につけ、生涯にわたり学び続ける素養を有している。(知識・技能)」地域社会における意欲的かつ主体性のある個人や企業の学習活動を引き出し、支援することで、生涯学習社会の実現に貢献できる。(関心・意欲・態度)」に位置付けられている。健康栄養学科では、「幅広い教養を身につける」「教養人文系」に位置付けられている。							
授業の概要							
本科目では、人格論に焦点を合わせながら現代心理学の概観を試みる。まず学習、動機づけ、知覚等の心理学的概念を用いて人格の形成過程を説明する。さらに摂食障害、薬物依存、多重人格等、広く人格障害に関与する異常行動の病理に言及する。履修者は、心理学を通して、人間が、外側からは知ることのできない人間のこころの内側とそのしくみをどのように解き明かしてきたのかを知ると同時に、その方法を自分自身にも適用し、自分を客観的に見つめ、いまの自分がどのように形成されてきたのか、また、、今の自分をどのように変えていくことができるのかという問題に答えられることを期待する。							
到達目標							

- ①心理学が辿った歴史的な研究の過程と特徴を理解できる。(知識・技能)
 ②心理学概論の研究の変遷を適切にとらえ表現することができる。(思考・判断・表現)
 ③心理学概論の学習を他のメンバーと協力し、学習課題を解決することができる。(関心・意欲・態度)

授業の方法

パワーポイントと教科書により講義形式で行う。
 アクティブラーニングとして題材を提示し、グループワークも行う。

ICT活用

Googleフォームを使用する

実務経験のある教員の教育内容

課題に対するフィードバックの方法

質問は授業中、Googleフォームで質問を受け付け、都度回答を行う。学習課題への回答を評価しコメントを添え返却する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション、基礎心理学の進化心理学による行動的形質であるヒューマン・ユニバーサルズの意味、教科書1の自己発見、教科書2のヒポクラテスの単純元素、教科書3のプラトンの自己概念、教科書5のイスラムと精神医学について理解できる。	シラバスにより学習の見通しを持ち、教科書の「はじめに」の内容を熟読する。(90分)	ヒューマン・ユニバーサルズの教科書1の自己発見、教科書の2のヒポクラテスの単純元素、教科書3のプラトンの自己概念、教科書5のイスラムと精神医学を整理する。(90分)
担当教員			
第2回	教科書6の古代心理学における共通感覚の意味から教科書10のデカルトの思考機械と松果体とその役割、教科書11のウィリスの脳解剖とウィリス動脈輪、さらに教科書12のジョン・ロックの知性の本性としての自己の記録内容について理解できる。	教科書の6の共通感覚から12の知識の本性を熟読し学習内容の把握をする。(90分)	教科書6のデカルトの思考機械、ウィリスの脳解剖、ウィリス動脈輪、教科書12の知識の本性を整理する。(90分)
担当教員			
第3回	教科書13のバークリーの観念と実物からフェヒナーの法則、教科書17のキルケゴールの自己の選択、教科書18のフィニアス・ゲージの記憶による前頭前野・大脳皮質の実行機能を中心に学習内容を理解できる。	教科書13のバークリーの観念と実物からフェヒナーの法則、教科書17のキルケゴールの自己の選択、教科書18のフィニアス・ゲージの記憶による前頭前野・大脳皮質の実行機能を中心に学習内容を理解する。	教科書13のバークリーの観念と実物からフェヒナーの法則、教科書17のキルケゴールの自己の選択、特に教科書18のフィニアス・ゲージの記憶の研究内容を中心に整理する。(90分)
担当教員			

第4回	教科書19のモーズリーの気分障害から教科書20のダーウィンの情動、教科書19のフランシス・ゴールドンの優生学、教科22のシャルコーのヒステリー法則、教科書24の情動のジェームス・ランゲ説及び感情心理学と情動の2要因理論について理解できる。	教科書19のモーズリーの気分障害から教科書20のダーウィンの情動、教科書19のフランシス・ゴールドンの優生学、教科22のシャルコーのヒステリー法則、教科書24の情動のジェームス・ランゲ説についての範囲を熟読し授業準備をする。(90分)	教科書19のモーズリーの気分障害から教科書20のダーウィンの情動、教科書19のフランシス・ゴールドンの優生学、教科22のシャルコーのヒステリー法則、教科書24の情動のジェームス・ランゲ説及び感情心理学と情動の2要因理論について整理する。(90分)
担当教員			
第5回	教科書25の脳半球優位性、特に教科書26のフロイトの精神分析理論を中心に教科書27の心理学の原理、28の自立神経系の研究を理解できる。	教科書25の脳半球優位性、教科書26のフロイトの精神分析、教科書27の心理学の原理、28の自立神経系の研究の範囲を熟読し授業準備をする。(90分)	教科書25の脳半球優位性、教科書26のフロイトの精神分析を中心に、教科書27の心理学の原理、28の自立神経系の研究を整理する。(90分)
担当教員			
第6回	教科書29の双極性障害から教科書35の劣等コンプレックスを中心に教科書36サイコドラマの研究について理解できる。	教科書29の双極性障害から、教科書36のサイコドラマの研究の範囲を熟読し授業準備をする。(90分)	教科書29の双極性障害から、教科書35の劣等コンプレックスを中心に、教科書36のサイコドラマの研究を整理する。(90分)
担当教員			

第7回	教科書37の知能指数から教科書42の発達心理学を中心に、教科書45の心理学の場理論の研究について理解できる。	教科書37の知能指数、教科書42の発達心理学、教科書45の心理学の場理論の研究の範囲を熟読し授業準備をする。(90分)	教科書37の知能指数、教科書42の発達心理学を中心に教科書45の心理学の場理論の研究を整理する。(90分)
担当教員			
第8回	教科書46の自閉症(自閉症スペクトラム・ASD)から教科書50の知能の心理学、教科書52のアルバート・エリスの認知行動の研究を中心に理解できる。	教科書46の自閉症、教科書50の知能の心理学、教科書52のアルバート・エリスの認知行動の研究の範囲を熟読し授業準備をする。(90分)	教科書46の自閉症、教科書50の偏見の学習、教科書52のアルバート・エリスの認知行動の研究を整理する。(90分)
担当教員			
第9回	教科書53の人生の八つの段階と教科書59の欲求の段階構造の研究を中心に理解できる。	教科書53の人生の八つの段階、教科書59の欲求の段階構造の研究の範囲を熟読し授業準備をする。(90分)	教科書53の人生の八つの段階、教科書59の欲求の段階構造の研究の範囲の学習内容を整理する。(90分)
担当教員			

第10回	教科書60の言語の獲得から教科書63のフェスティンガーの認知的不協和、66のモデリング行動を中心に学習内容を理解できる。	教科書60の言語の獲得、教科書63のフェスティンガーの認知的不協和、67の「スイッチを入れて、波長を合わせ、社会に背を向けよ」の範囲を熟読し授業準備をする。(90分)	教科書60の言語の獲得から教科書63のフェスティンガーの認知的不協和、66のモデリング行動を中心に学習内容を整理する。(90分)
担当教員			
第11回	教科書68のフーコーの人間観から教科書70の抑うつテスト、学習の中心課題である教科書72のボウルビイの愛着理論、教科書74の家族療法の研究を理解できる。	教科書68のフーコーの人間観、教科書70の抑うつテスト、教科書72のボウルビイの愛着理論、教科書74の家族療法の研究の範囲を熟読し授業準備をする。(90分)	教科書68のフーコーの人間観から教科書70の抑うつテスト、学習の中心課題である教科書72のボウルビイの愛着理論、教科書74の家族療法の研究を整理する。(90分)
担当教員			
第12回	学習の中心となる教科書75の記憶地図からヒューリスティックス、教科書80のアイデンティティ、教科書81の衝動性と脅迫性の研究について理解できる。	教科書75の記憶地図、ヒューリスティックス、教科書80のアイデンティティ、教科書81の衝動性と脅迫性の研究の範囲を熟読し授業準備をする。(90分)	学習の中心となる教科書75の記憶地図からヒューリスティックス、教科書80のアイデンティティ、教科書81の衝動性と脅迫性の研究について整理する。(90分)
担当教員			

第13回	教科書82の感覚データから、学習の中心である教科書83の自己肯定感、教科書85のフロー体験、教科書87の機能的MRIの研究までを理解できる。	教科書82の感覚データ、教科書85のフロー体験、教科書87の機能的MRIの研究の範囲を熟読し授業準備をする。(90分)	教科書82の感覚データから、学習の中心である教科書83の自己肯定感、教科書85のフロー体験、教科書87の機能的MRIの研究までを整理する。(90分)
担当教員			
第14回	学習のまとめとしての小テストを実施し、教科書88の六つの基本感情、教科書91の心的外傷後ストレス、教科書93の意識に関する難問について理解できる。	学習のまとめである小テストに向けての準備をし、教科書88の六つの基本感情、教科書91の心的外傷後ストレス、教科書93の意識に関する難問を熟読し授業準備をする。(90分)	教科書88の六つの基本感情、教科書91の心的外傷後ストレス、教科書93の意識に関する難問の研究を整理する。(90分)
担当教員			
第15回	教科書94のミラーニューロン、教科書95の社会的調和、教科書100の再現可能性の危機、パーソナリティ・ビッグファイブ理論について理解でき、本科のまとめを行う。	教科書94のミラーニューロン、教科書95の社会的調和、教科書100の再現可能性の危機、パーソナリティ・ビッグファイブ理論を熟読し授業準備をする。(90分)	教科書94のミラーニューロン、教科書95の社会的調和、教科書100の再現可能性の危機、パーソナリティ・ビッグファイブ理論を整理し、本科目のまとめを行う。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	70	各授業で理解度確認問題(1回1点～5点を14回・70点)
その他	30	まとめテスト(1回)
教科書		
図鑑心理学～歴史を変えた100の話～(トム・ジャクソン＝著 清水・井上智義＝監訳・訳(NEWTON PRESS 2020発行)を各自購入し教科書とする。また自作の補助資料を授業ごとに提供する。		
参考文献		

心理学概論・学びと知のイノベーション(小野寺孝義 磯崎三喜年(編)小川俊樹 ナカニシヤ出版 2011発行)

履修条件・留意事項等

学習内容の理解と定着を図るため準備学習、事後学習を重視し学習規律を守り提出物は期限を厳守する。授業中は自ら意見表明するなど能動的な参加態度を必須とする協同的な学びにより、「心理学概論」への理解を深めて頂きたい。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		教養科目 人間と文化					
科目名		総合教養講座				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	白戸 力弥、松岡 審爾、大森 圭、小塚 美由記、渡部 俊弘						

授業の位置づけ

初年次教育の一環として、大学での学習から生活、さらに課外活動や大学祭、建学の理念など広範な分野を理解を深める。本科目の履修により、今後4年間の大学生活がより有意義なものになるよう、新入生を導く道標を示す授業である。

国際教養学科のディプロマ・ポリシー（DP）の「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につけている。」、「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や共感力を備えている。」と関連する。国際コミュニケーション学科のDPの「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につけている。」、「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力を備えている。」と関連する。地域未来学科のDPの「地域社会における教育の役割を理解し、教育学に関する専門的知識・技能を身につけ、生涯にわたり学び続ける素養を有している」と関連する。看護学科のDPの「医療・看護に関わる社会や時代の変化の本質を考究でき、豊かな人間性と高い倫理観、社会的責任を持ち、時代の変化に合わせて主体的に社会を支えることができる。」と関連する。リハビリテーション学科理学療法専攻のDPの「グローバル化の進展を視野に入れつつ、生涯にわたり医療・保健の質の向上に貢献することができる。」、「幅広く教養を深め、豊かな人間性と高い倫理観、社会変化への適応力を持ち、理学療法学の持続的な発展に貢献して社会をさせることができる。」と特に関連する。また作業療法学専攻のDPの「地域医療を支える多職種連携を理解し、主体的に協力関係を築くことができる。」、「幅広く教養を高める向上心を持ち、作業療法学の持続的な発展に貢献するという使命感を持っている。」、「科学的根拠に基づいた作業療法の実践のために必要な問題探求力と問題解決思考を身につけている。」と特に関連する。

授業の概要

この科目は、初年次教育として本学の学生としての所属意識を育み、学生生活をどう有意義に過ごすかを意識化してもらうためのものである。また、これからの社会の変化に対応できる学際的で教養豊かな人間性を養い、本質的な物の見方、捉え方をより豊かなものとし、不確実な時代を自分らしく生きるための柔軟性と自立性を養うことを目的とした科目である。さらに、SDGsの本質を理解し、地球規模の視野で持続可能について考え、地域創生の視点で行動できるグローバルな思想を兼ね備えた人材を育成することを目的としている。

到達目標

- ・本学の建学の理念、宗教と食事制限、SDGsやカーボンニュートラルの取り組みの重要性を理解できること。
- ・4年間を通して、しっかりと履修計画を立てられること。
- ・大学生活を快適に送るために必要な規則を理解し、それに沿った行動を取れること。
- ・Google Classroomの利用ができること。
- ・図書館を利用し、学習に必要な図書を借りることができること。
- ・充実した大学生活を送るため、勉学、課外活動を含めた効率の良い1日の行動計画を立案・実行出来ること。
- ・大学を盛り上げるための具体的な提案が出来ること。

授業の方法

パワーポイントを用いた授業を行う。また、学内Wi-Fiを用いたICTを用いた授業を行う。さらに、えこりん村でSDGs研修を行う。

ICT活用

一部の授業回で、提示したURLにアクセスし、操作を行ってもらう予定である。また、グーグルフォームなどを使用する

実務経験のある教員の教育内容

ゲスト講師として、恵庭市職員による恵庭市の紹介、警察官とIT企業の職員によるインターネット上の脅威と防御方法を予定している。

課題に対するフィードバックの方法

グーグルフォームを用いた授業の感想等を述べてもらい、フィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	北海道文教大学建学の理念 鶴岡夫妻が遺した灯火 学訓「清く 正しく 雄々しく進め」に込められた、真理を探究する明晰な頭脳、誠実な精神、チャレンジ精神を目指す理念を共有する。	本学の創設者である鶴岡夫妻について調べておく。(90分)	各自の目指す職業で鶴岡夫妻の建学理念を実現する方法についてまとめる。(90分)
担当教員	渡部 俊弘		
第2回	この時代、君はどう生きるか これからの社会、不確実な時代を自分らしく生きるための、本質的な物の見方、捉え方を学ぶ。	これまで読んだ本の中から、自分の生き方に影響を与えたと思える本をもう一度読んでおく。(90分)	これからの自分の進路を見据えながら、事前学習で読んだ本を精読する。授業の感想を提出する。(90分)
担当教員	渡部 俊弘		
第3回	授業を受講するには① 履修方法・登録方法について、具体的に説明する。また、履修要件、進級基準や卒業要件について説明する。	学生便覧の「履修ガイド」を読んでおく。(90分)	各自、ユニバーサルパスポートを使用して履修科目を登録する。(90分)
担当教員	白戸 力弥		

第4回	授業を受講するには② Google Classroomの使い方について	本学から付与されるGoogleアカウントでログインする。(90分)	各科目のClassroomに参加する。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第5回	授業に役立つ図書館の利用法 本学図書館の概要と利用方法について説明する。 レポート作成や発表資料作成で必要になる資料について、蔵書検索機(OPAC)を含めた探し方の方法を習得する。(図書館)	学生便覧の「図書館」の部分を読んでおく。(90分)	実際に図書館を訪れ、蔵書検索で興味のある本を探してみる。また、インターネット経由で蔵書を検索してみる。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第6回	SNSの利用上の注意について 大学生活におけるSNSの利用上の注意点について理解を深め、良識あるSNSの利用ができるようになる。	現在までのSNSのトラブルで社会的問題となった内容を調べる。(90分)	大学生活で節度のあるSNSの利用法について復習する。(90分)
担当教員	白戸 力弥		

第7回	グローバル化に対応した食知識 グローバル化が進んでいる現代において、外国の食文化や知識を得ることは、どの職業においても円滑なコミュニケーションをとるための一助となる。	宗教によって禁忌とされている食べ物(あるいは食べることが許されている食べ物)について調べておく。(90分)	食事に対する宗教上の戒律の理由についてまとめる。(90分)
担当教員	小塚 美由記		
第8回	サイバーセキュリティについて スマートフォンやパソコン等が普及し誰でも気軽にインターネットを利用できるようになっている一方で、インターネットにまつわるトラブルが増加している。本学では全館Wi-Fiが利用できるためインターネットを安全に使用するためには、より注意が必要である。そこで、無線LANにおいてどのような脅威がありどのように対処すればよいのか、また、無線LANを利用するにあたっての注意事項をゲスト講師を招いて学ぶ。 (NTT東日本、北海道警察サイバーセキュリティ対策本部)	インターネット使用にあたってどのような脅威があるかを調べておく。(90分)	セキュリティ対策や身につけるべき情報モラルを復習しておく。(90分)
担当教員	松岡 審爾		
第9回	学友会・課外活動団体紹介 中央執行委員会の役割と位置付けについて知り、学生としての自覚を持ち、自ら積極的に大学生活をより有意義にするため、各自が出来ることを考える一助とする。(学友会) 各団体の活動内容と団体所属学生の大学生活を紹介し、勉学と課外活動の両立を図るための具体的な方法を把握する。(各団体)	学生便覧で、学友会に関する項目に目を通しておく。また、大学ホームページなどで、本学所属の課外活動団体について調べておく。(90分)	自らの大学生活を有意義なものにするための目標と計画を立てる。また、勉学時間、課外活動、アルバイトなど各自の1日の行動を見直し、有意義な時間を過ごせるよう計画を立てる。(90分)
担当教員	大森 圭		

第10回	大学祭実行委員会紹介 大学祭実行委員会の役割と位置付けと、大学祭の歴史について紹介する。	各大学の大学祭内容について調べておく。(90分)	各大学の大学祭内容について分かる範囲で調べておく。(90分)
担当教員	大森 圭		
第11回	本学のカーボンニュートラルの取り組みの紹介 カーボンニュートラル推進センター	本学のカーボンニュートラルの取り組みをインターネット等で調べておく。(90分)	自ら実践できるカーボンニュートラルの取り組みを考える。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第12回	恵庭市の歴史と特徴 恵庭市役所からゲスト講師を招き、これからの4年間のほとんどの時間を過ごす恵庭市について理解を深め、地域社会との連携を深める。 (恵庭市企画課)	恵庭市のホームページなどから、恵庭市の概要、特長について調べておく。(90分)	各自の目指す職業で、恵庭市の未来に貢献する施策を考える。(90分)
担当教員	白戸 力弥		

第13回	未来のために、今この一瞬を大切に ゲスト講師：青木さやかさん	ゲスト講師のこれまでの活動について、インターネット等で調べておく。(90分)	講義内容を振り返り、自ら実践できることを考える。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第14回	UHB北海道文化放送制作のドキュメンタリー映画『無理しないケガしない明日も仕事！新根室プロレス物語』の上映	上映映画について予習をする。(90分)	上映映画について復習をする。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第15回	えこりん村SDGs研修 えこりん村の取り組みを研修し、持続可能な社会の在り方について学ぶ。	SDGsの17の目標、およびえこりん村の取り組みをインターネット等で調べておく。(90分)	共有した他のグループの情報をもとに、研修の復習をおこなう。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業の感想等の提出および授業参加の積極性から総合的に判断する。
その他	0	なし。
教科書		
なし。		
参考文献		

渡部俊弘／人とつながる「笑いと涙」の40年一恵庭で描く地方大学のプラットフォーム構想／丸善プラネット
渡部俊弘／トシさんが行く！～北海道の食の礎を築いた鶴岡トシのパワフル人生記～／北海道文教大学出版会

履修条件・留意事項等

ゲスト講師等の都合により、授業計画の順序通りの内容とならないため、決定次第、別途連絡する。合理的な理由による欠席は点数を考慮するので欠席届を出すこと。15回の授業は、えこりん村での日帰り研修を行う。日程は別途、連絡する。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		教養科目 人間と文化					
科目名		文章表現				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	佐々木 雅哉						

授業の位置づけ

初年次教育科目である。
幅広い教養を身につけるために、社会で必要となる文章作成能力、プレゼンテーション能力を修得する科目である。

授業の概要

本科目では、大学生活の基本となる日本語の文章表現能力を学ぶ。日本語そのものの基本を押さえた上で、思考法を鍛え、レポート・論文の作成力を修得し、日本語の基礎的な法則を確実に定着させながら、日本語の文章表現の能力を高める。また、文章作成と添削および相互批評を組み合わせた実作学習によって習得することで、社会で必要となるスキルを身に付けることを目指す。
また、「新聞製作の現場」からゲスト講師を招聘し、文章表現の知見を盛り込んだ講義を展開する。

到達目標

- ・社会に存在する様々な文章について、分類することができるようになる。
- ・各講義の目標とする文章表現技術を習得し、実的な文章作成ができるようになる。
- ・文の正誤・適否・美醜等が区別できるようになる。

授業の方法

- 1.講義形式で、文章作成の要素を中心に説明を行う。
- 2.説明に基づいて実際に各自文章作成や相互評価を行う。
- 3.インタビュー・ドキュメンテーション・投稿・観察等を実際に行い、その結果を文章作成に反映させる。
- 4.完成させた文章を、担当教員の指示により提出する。

ICT活用

必要に応じてパワーポイント等を用いた授業を実施し、ICTを活用する。

実務経験のある教員の教育内容

公立小学校での担任、管理職経験や研究団体での研究歴があり、学校教育や国語科教育に幅広い知識と経験を有する。これらを生かし、多面的な視野に基づく文章表現の指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

作成した課題は、提出後の講義において適宜紹介したり、例示したりして評価内容を可視化していく。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	【オリエンテーション】 講義内容を概観し、到達目標や評価について理解する。 「文章の書き方」の基本について学ぶ。 ・学生時代に書く文章には何がある? ・タイトルの意図 ・「作文」と「小論文」	これまでに書いた文章について、どんなものがあつたかを想起する。	講義の要点・課題の整理・本時の課題文の完成と提出。(90分)
担当教員	佐々木 雅哉		
第2回	ゲスト講師による講義①【新聞って何だろう】 当日の新聞を教材に、「テレビとネットの違い」、「信頼できる情報源」などを学ぶ。	新聞の入手方法を調べたり、実際に紙面を観察したりする。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時の課題文の完成と提出。(90分)
担当教員			
第3回	【会話表現から学ぶ①】 聞き取りやすさ／あいさつ／敬語の使い方	新書などから好きな本を選び、通読する。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時の課題文の完成と提出。(90分)
担当教員			

第4回	ゲスト講師による講義②【新聞を呼んでみよう】 当日の新聞を教材に、「新聞製作の仕組み」、「面建て」、「読者参加(投稿)面」などについて学ぶ。	いろいろな新聞を通読する。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時の課題文の完成と提出。(90分)
担当教員			
第5回	ゲスト講師による講義③【新聞の作り方】 新聞製作における、「5W1H」、「取材・執筆法」、「レイアウト」などを学ぶ。	いろいろな新聞を通読する。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時の課題文の完成と提出。(90分)
担当教員			
第6回	ゲスト講師による講義④【友だち新聞を作ろう】 ペアをつくり、前回までの講義を参考に、取材一記事執筆を体験する。	いろいろな新聞を通読する。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時の課題文の完成と提出。(90分)
担当教員			

第7回	ゲスト講師による講義⑤【オールドメディアとSNSの功罪】 SNSやオールドメディアの功罪を学ぶ。	いろいろな新聞を通読する。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時の課題文の完成と提出。(90分)
担当教員			
第8回	【会話表現から学ぶ②】 発声／自己紹介文／先方を意識した話し方／声かけ／電話／面接	新書などから好きな本を選び、 通読する。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時の課題文の完成と提出。(90分)
担当教員			
第9回	ゲスト講師による講義【表現・基礎① 教科書づくりの現場から】 「教科書をつくる」ということ／教科書の出版事情／教育と文章・文字／文字を正しく書く	小、中学校で使用した教科書について、体裁や学んだ教材について想起する。	講義の要点・課題の整理・本時の課題文の完成と提出。(90分)
担当教員			

第10回	【表現・基礎②】 文章を書くときの留意点／書き方の基本／正しい表記	新書などから好きな本を選び、 通読する。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時の 課題文の完成と提出。(90分)
担当教員			
第11回	【表現・応用①】 実習日誌／礼状・手紙／メール	新書などから好きな本を選び、 通読する。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時の 課題文の完成と提出。(90分)
担当教員			
第12回	【表現・応用②】 履歴書／エントリーシート／送付状／送り方	新書などから好きな本を選び、 通読する。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時の 課題文の完成と提出。(90分)
担当教員			

第13回	【表現・応用③】 小論文の基本的な書き方を学ぶ ・テーマ設定の仕方、具体例と問題意識 ・様式の復習	新書などから好きな本を選び、 通読する。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時 の課題文の完成と提出。(90分)
担当教員			
第14回	【表現・応用④】 効果的な(広告)宣伝フレーズを考える。 イベントポスターや新聞広告などのキャッチコピーに注目 する。	新書などから好きな本を選び、 通読する。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時 の課題文の完成と提出。(90分)
担当教員			
第15回	【まとめ】 これまで学んできた文章表現の技法を反芻しながら、再確 認していく。 得た知見をまとめる。	これまで授業で使用した資料類 をまとめ、復習しておく。(90分)	指定された提出課題の完成・提 出。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	行わない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	作成した文章のうち指定されたもののみを提出する。 提出の指示があった課題は、すべて評価の対象とする。 出席率を評価の対象とする。
その他	0	
教科書		
なし		
参考文献		

必要に応じて提示する。
必要に応じて教材配信システムを活用する。

履修条件・留意事項等

状況により、講義内容の変更や順序が変わる場合がある。(第9回)
出席率を評価対象とする。
連絡はGoogle classroomで行う。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		教養科目 人間と文化					
科目名		食生活論				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	荒井 三津子						

授業の位置づけ

ヒトが食べるモノ、食べるコト、食べる理由を広く学び、食生活全般を扱う学習に必要な基礎知識を身につける教養科目である。また、人間の文化を学ぶことにより幅広く教養を身につけるための科目である。リハビリテーション学科理学療法専攻と作業療法学科のディプロマ・ポリシーでは、「幅広く教養を高め、豊かな人間性と高い倫理観、社会変化への適応力を持ち、理学療法学の持続的な発展に貢献して社会を支えることができる。（関心・意欲・態度）」に位置付けられ、「リハビリテーション栄養学」と連携している科目である。看護学科ではのディプロマポリシーでは「看護学の本質を理解するために必要な、文理横断的かつ学際的な知識と論理的な思考力を有し、看護を取り巻く状況の変化に柔軟に対応できる。（思考・判断・表現）」に位置付けられられている。地域未来学科のディプロマポリシーでは「幅広い視点から地域課題を発見し、課題解決に向けて主体的に行動でき、かつ、地域において協働できる人的資源の開発や組織体制の構築に貢献できる。（思考・判断・表現）」に位置付けられ、「北海道の食文化」と連携した科目である。健康栄養学科では、「幅広い教養を身につける」「教養人文系」に位置付けられ、「栄養学入門」「応用栄養学」と特に連携した科目となる。さらに、栄養学系教科、調理学および調理科学系教科、食品学系教科の学習の理解に役立つだけでなく、生物学や食文化に視野を広げることで、さまざまな領域の指導者、教育者に必要な教養と実践力を身につけることができる科目である。

授業の概要

ヒトはなぜ食べるのか。なぜダイエットするのか。なぜ食卓に花を飾るのか。人間にとって「食」は単に栄養補給のための餌ではなく「食事」である。生命を維持するための「食事」の機能と重要性を確認し、国内外の食事の歴史、文化、食器、食の様式や食事作法、食に関する広告や現在の食事情、将来予測される問題点等について多角的に学習する。

到達目標

医療現場や教育機関で食事に関する指導を行う上で必要な食器、食具の歴史や種類、使い方、食空間の演出方法に関して説明できる。

○ 国内外の食事様式の歴史を学ぶことで、食べることの文化的な意味を説明できる。

○ 食に関する情報や広告、外食産業などの仕組みや戦略を理解し、多様化する食事の未来を予測できる。

○ インターネット時代の食事やキャラクター弁当、遺伝子組み換えや環境問題など、食事に関する幅広いテーマについて、将来、医療や教育の現場で問題を提起し議論を展開できる。

授業の方法

- ①必要に応じて板書とパワーポイントを利用し、視覚的な理解を深める。
- ②内容に合わせ、学生たちの調査報告をとりいれ、活発な議論により、食生活への関心を深める。
- ③中間テストとレポート提出により理解度をはかり指導する。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

北海道立の高等学校と歯科衛生士専門学校で生物学、調理師学校食文化等の教育経験がある。また長く生活文化研究所を運営しており、人間の生活と食文化、食生活に関する幅広い知識と指導経験がある。この経験を生かし、卒業後の実務に活かせる知識と技術、指導者になるための心構えも指導する。

課題に対するフィードバックの方法

調査レポートと確認試験を採点評価後返却し、講義時間内に解説を行う。提出してもらったレポートと確認試験に質問欄を設け、質問があった場合は直接コメントを返す。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	「食」は生理的、文化人類学的、社会学的、生物学的、環境学的など様々な方向からアプローチできる興味深いテーマである。初回は自分たちが食べる理由や目的について真摯に考察し、15回の講義内容を俯瞰して学習の意味を確認する。	私たちが食べる理由について考えてくること。90分程度。	生き物とはなにか、たべるとはなにかをまとめる 90分程度。
担当教員			
第2回	私たちが食べなければならない理由について、イキモノとはなにかという生物学的視野から学び直す。動物に共通する食べる仕組みの精巧さを確認し、同時に他の動物と人間の「食べる」理由の違いについて考察する。	私たちが食べる理由について考えてくること。90分程度。	生き物とはなにか、たべるとはなにかをまとめる 90分程度。
担当教員			
第3回	＜食べるヒト・食べる仕組みと最新の「腸内」事情＞ ヒトの消化の仕組みを概観し、食べモノと健康、腸内細菌および消化器官系医療の最新事情について学ぶ。	ヒトが食べない理由を考えてくる 90分程度。	食べる理由と食べない理由をまとめる。90分程度。
担当教員			

第4回	＜ヒトが食べない理由・ダイエットと肥満＞ ダイエットの起源とその変遷、現状と背景を学習する。過食の原因と効果的なダイエット法、機能性食品についての知識も確認し、栄養や健康の指導者としての姿勢を考える。	ヒトが食べない理由を考えてくる。90分程度。	食べる理由と食べない理由をまとめる。90分程度。
担当教員			
第5回	＜ヒトが食べない理由・ベジタリアン事情とフードファディズム＞ 世界にひろがるベジタリアンの実状とその思想の背景、および、特定の食品に過剰な健康効果を期待したり否定するフードファディズムについて学習する。	マスコミが話題にする食を調べる。90分程度。	食事作法の学習の意義をまとめる。90分程度。
担当教員			
第6回	＜「食べ方」を学ぶ理由＞ 学校における栄養教育と家庭と社会における「食べ方」の学びについて学習する。国内外のさまざまな食事作法が誕生した背景と食事作法の意味、さらに継承されつづける理由について考察する。	マスコミが話題にする食を調べる。90分程度。	食事作法の学習の意義をまとめる。90分程度。
担当教員			

第7回	<ヒトから人間へ・食べるモノの変遷> 私たちの「食」の過去と現在を概観する。日本の食事様式の歴史や、外食と中食の歴史と現状についても学習する。そのプロセスで「餌」から「食事」へとその意味を変えてきた人間の「食」の複雑さについて考察する。 アクティブラーニングとして、周囲と自分たちの食事について話し合いをし、発表してもらう。	動物の餌と人間の食事の違いを考える。90分程度。	カラダに良いとはどういうことか、まとめる。90分程度。
担当教員			
第8回	<おいしさとはなにか> 「からだにいい」とはなにか。「栄養がある」とはどういうことか。「おいしい」とはどのようなものか。普段なにげなく口にする表現の意味するところを科学的に学び、食事の機能と意味を理解する。	動物の餌と人間の食事の違いを考える。90分程度。	カラダに良いとはどういうことか、まとめる。90分程度。
担当教員			
第9回	<ヒトはなぜ食べるのか> 講義の前半の総まとめを行い、人間が食べる理由、食べない理由について多方面から考察する。	前半のノートを整理してくる。90分程度。	最新のバイオテクノロジーについて整理する。90分程度。
担当教員			

第10回	<「食」の未来> 染色体操作や遺伝子組み換えなど、最新の品種改良や魚介類の養殖について、その手法や課題、可能性について詳しく学習する。同時に食をめぐる地球規模の環境問題についても学び、未来の「食」に関する課題を考察する。	前半のノートを整理してくる。90分程度。	最新のバイオテクノロジーについて整理する。90分程度。
担当教員			
第11回	<食事空間を学ぶ> 火と水、道具の利用がなければ私たちの「食」の発展はなかった。火と水がどのように扱われ、「台所」はどのように進化してきたか、その変化の社会的文化的意味も合わせて学習する。配膳や食事様式についても学び、食空間の機能についての知識を深める。	自分の料理道具と食空間を調査する。90分程度。	日本の食文化の歴史をまとめる。90分程度。
担当教員			
第12回	<「食」をめぐる仕掛け・外食の歴史と広告> 外食の歴史を概観し、現代の外食産業を支える広告の機能と種類を学習する。そのことから私たちの食行動の変化や時代の流れ、加えて食の未来と問題点を広く考察する。	自分の料理道具と食空間を調査する。90分程度。	日本の食文化の歴史をまとめる。90分程度。
担当教員			

第13回	＜「食」の演出＞ 料理・食器・盛り付け・食卓・食空間のインテリアなど、人間はなぜ「食」の場面を飾るのか。なぜ演出が必要なのか。色彩学やデザインの基礎を学び、食卓装飾の歴史をたどりながら、食べることの意味を広く考察する。	自分の料理道具と食空間を調査する。90分程度。	日本の食文化の歴史をまとめる。90分程度。
担当教員			
第14回	＜餌場から食事の場へ・テーブルコーディネートの機能＞ 食欲やコミュニケーションに大きく作法する食卓の演出について、具体的に学習する。色彩学やテーブルコーディネートの基礎知識を確認し、「食」の場面に必要な知識や技術の深さと広さについて学ぶ。	食の未来と教育について考察する。90分程度。	食の未来と教育について考察する。90分程度。
担当教員			
第15回	＜年中行事と祭り・儀礼の食・縁起について＞ 食の場面における「ハレ」と「ケ」、および日本の冠婚葬祭や年中行事の食の多様性と意味について幅広く学習する。「食」がもつコミュニケーションツールとしての機能や、人間のこころの「よりどころ」や「やすらぎ」としての役割についても考察する。 試験	試験範囲復習。90分程度。	試験の見直し。90分程度。
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	70	確認テスト2回
その他	30	調査レポートの評価
教科書		
なし		
参考文献		

なし

履修条件・留意事項等

私語厳禁。
毎回必ず教科書を持参すること。

備考欄

特になし

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		教養科目 人間と文化					
科目名		生活と社会環境				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	辻 幸美、金子 翔拓						

授業の位置づけ

各該当学科のディプロマ・ポリシー・カリキュラムポリシー・アドミッションポリシーを鑑み、現代日本の社会環境を高齢者や代表的な疾患による身体障害を持つ人を通して理解するとともに科学的思考力と創造的思考力を活用して看護の発展と社会へ貢献できる研究の基本的な能力を身につける共通重要科目であり、更に人の生活全般と関連し、地域医療や社会環境を考える基礎となると共に、将来医療職種専門職を希望される学生においては、必要と考える。また「人間の文化を学ぶことにより幅広く教養を身につけるための科目である。」特に看護科においては、看護の基盤となる問題解決能力を活用して看護過程の展開や臨床判断を行うための基本的な能力を会得する重要科目である。(思考・判断・表現)

授業の概要

現代日本においては、様々な疾患や障害を持つ人々が地域社会で生活している。この現状を踏まえ、疾患や障害といった背景を持ちながらも快適な生活を送るためにはどのような生活環境の整備が求められているのかについて、生活環境が生活の質に大きく影響する疾患や障害の特徴を理解したうえで考察する。

到達目標

- ① 現代日本の地域医療の現状を説明できる。
- ② 代表的な疾患に適合した生活環境の整備について説明できる。
- ③ 今後の日本における生活環境のあるべき姿を考え、説明することができる。

授業の方法

パワーポイントを用い講義形式ですすめる。また、講義後に課題を提示し講義内容の確認を行う。

ICT活用

授業中の課題の一部にグーグルクラスルームを用いた双方向授業を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

金子翔拓:病院やクリニックなどの身体障害領域において作業療法士として勤務した経験を活かし、社会と生活環境の授業を行う。

辻幸美:22年間、脳神経外科病院で看護師として務めた経験を活かし、社会と生活環境の授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

前回授業の最後に提出された課題に関して、次回の授業で補足説明や解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 医療保険制度の現状を理解する(診療報酬制度等も含む)	自身を取り巻く生活環境について考えてくること。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	辻 幸美		
第2回	高齢者の生活と社会環境① 高齢者(虚弱老人・認知症を含む)と生活について理解を深める。	高齢者と生活について調べておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	辻 幸美		
第3回	高齢者の生活と社会環境② 高齢者(虚弱老人・認知症を含む)に適する生活環境の整備について理解を深める。	高齢者が生活しやすい環境とは何かについて調べておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	辻 幸美		

第4回	高齢者の生活と社会環境③高齢者(虚弱老人・認知症を含む)が生活するうえでの「リスク」について理解を深める。	高齢者が生活しやすい環境とは何かについて調べておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	辻 幸美		
第5回	障害者の生活と社会環境① 筋ジストロフィー疾患患者の生活環境の整備について考える。	筋ジストロフィー疾患患者の生活しやすい環境とは何かについて調べておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	辻 幸美		
第6回	障害者の生活と社会環境②重症心身障害児(者)の症状や障害の概要を説明し、患者の生活様式について理解を深める。	重症心身障害児(者)はどのような症状を呈するのかについて調べておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	辻 幸美		

第7回	障害者の生活と社会環境③ 精神疾患患者の生活環境の整備について考える。	精神疾患患者が生活しやすい環境とは何かについて調べておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	辻 幸美		
第8回	ハンセン病とハンセン病療養施設の生活と社会環境について、過去の日本における偏見と差別を鑑み考える。	ハンセン氏病を取り巻く社会の歴史を調べておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	辻 幸美		
第9回	介護保険制度の現状を理解し、地域社会で在宅サービスを受ける対象者について理解する。	介護保険制度について調べておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	金子 翔拓		

第10回	障害者の生活と社会環境④ 脳卒中患者の症状や障害の概要を説明し、患者の生活様式について理解を深める。	脳卒中とはどのような症状を呈するのかについて調べておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	金子 翔拓		
第11回	障害者の生活と社会環境④ 脳卒中患者の生活環境の整備について考える。	脳卒中患者が生活しやすい環境とは何かについて調べておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	金子 翔拓		
第12回	障害者の生活と社会環境⑤ パーキンソン病患者の症状や障害の概要を説明し、患者の生活様式について理解を深める。	パーキンソン病とはどのような症状を呈するのかについて調べておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	金子 翔拓		

第13回	障害者の生活と社会環境⑤パーキンソン病患者の生活環境の整備について考える。	パーキンソン病患者が生活しやすい環境とは何かについて調べておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	金子 翔拓		
第14回	障害者の生活と社会環境⑥脊髄損傷患者の症状や障害の概要を説明し、患者の生活様式について理解を深める。	脊髄損傷患者が生活しやすい環境とは何かについて調べておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	金子 翔拓		
第15回	障害者の生活と社会環境⑥脊髄損傷患者の生活環境の整備について考える。 まとめ 1～14回までの内容について総復習を行い、障害を持つ人の生活環境について理解する。	脊髄損傷患者が生活しやすい環境とは何かについて調べておくこと。 1～14回の内容について、これまでに作成したノートを確認しておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	金子 翔拓		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行わない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業中の課題、授業への参加態度 なお、レポート課題等の提出期限を厳守についても評価の対象である。
その他	0	・授業への参加態度 ・レポート課題等の提出期限を厳守すること
教科書		
なし(プリントにて対応)		
参考文献		

特に指定しない

履修条件・留意事項等

なし

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		教養科目 社会と制度					
科目名		キャリア入門				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	1
担当教員	白戸 力弥、大森 圭、高岡 哲子、木村 俊昭、熊野 稔						
授業の位置づけ							
本科目は、初年次教育の一貫として、大学生活の充実や社会で活躍するために、「キャリア」・「キャリアデザイン」の重要性を学ぶ。加えて、これらにとって必要なスキルのひとつである「人間関係づくりとコミュニケーション」を理解するための科目である。なお本科目は、「キャリア形成」と連携している教養科目である。							
授業の概要							
グローバル化と高度情報化が益々進展する現代社会においては、自己のアイデンティティを確立することが重要である。そのために、我々をとりまく文化、環境を再認識しながら自らの生き方や生活、仕事について考えることを目指す。							
到達目標							

- ・「キャリア」や「キャリアデザイン」を説明できる。
- ・自己理解の方法(「人生曲線」、「ジョハリの窓」等)、「計画的偶発性」について述べることができる。
- ・「人間関係づくりとコミュニケーション」の5つの視点、「社会人基礎力」を説明できる。

授業の方法

- ・パワーポイントによるプレゼンテーション資料と教科書、動画等を併用しながら、講義形式とアクティブラーニングの手法を取り入れた演習方式の授業を実施する。
- ・理解度確認のために、確認テストや事後レポート課題を実施する。

ICT活用

- ・パワーポイントによるプレゼンテーション資料と教科書、動画等を併用しながら、視覚的に内容が理解しやすい授業を実施する。
- ・Google Classroomを活用し、配布資料を共有するため、授業前に各自印刷し持参する。

実務経験のある教員の教育内容

病院で勤務した経験を活かし、実際の医療現場の視点を交えながら講義を行う(白戸、大森、高岡)。

課題に対するフィードバックの方法

各講義において振り返りを実施し、学生の理解度の確認を行う。加えて質問については、解説を適宜実施する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーションの実施と、「キャリア」・「キャリアデザイン」などを理解する。	これまで「キャリア」という言葉を使ったり聞いたりした事があれば、その場面はどのようなものだったかを具体的に思い出す。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員	大森 圭、白戸 力弥		
第2回	学習内容: ・人間関係づくりの5つの視点 ・信頼関係、自己開示、傾聴、相互理解、フィードバック ・社会人基礎力の3つの能力 * 前に踏み出す力(アクション) * 考え抜く力(シンキング) * チームで働く力(チームワーク) 行動目標: ・実社会でのキャリア形成において「人間関係」と「社会人基礎力」が果たす役割を理解することができる。 ・具体的事例を分析し、5つの視点と社会人基礎力を用いて説明できる。 評価:確認テスト(10点)実施	教科書を熟読して人間関係作りの5つの視点を確認し、ノートにまとめる。	講義で学んだ「5つの視点」や「社会人基礎力」を、自分の体験や今後の目標にどう活かせるかを200字程度で記述する。
担当教員	高岡 哲子		
第3回	自己分析から自己理解のあり方、計画的偶発性等を講義、関連DVDを視聴し、対話する。理解度をみつつ、小テスト(自己紹介の内容確認)を実施し、学び、習い、問い立ての場とする。	「私は…」から始まる文で、自己紹介の内容を考える。(10個以上)(90分) 例:私は、北海道文教大学の学生です。など	授業内容を整理する。(90分)
担当教員	木村 俊昭		

第4回	「人間関係づくりとコミュニケーション」のきづくの視点などの概要を理解する。 ゲスト講師:健康栄養学科 田中弘之学科長	生まれてから現在までの人生の中で、印象に残った出来事を整理する。(90分) 例:高校に合格した。失恋した。など	授業内容を整理する。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第5回	「人間関係づくりとコミュニケーション」のうけいれるの視点に関する講義、関連DVD視聴を実施し、理解度を確認のうえ、小テスト(コミュニケーション方法)を実施する。	自分自身の日頃のコミュニケーション方法を振り返る。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員	木村 俊昭		
第6回	「人間関係づくりとコミュニケーション」の”むきあう”の概要について理解し、不合理な信念とどのように向き合うのか、ワークを通して体験的に学ぶ。 ※教科書を持参すること。 確認テスト(10点) ゲスト講師:看護学科 坂東奈穂美	これまでの人生において苦痛や怒り、悩み・不快・不安のあった出来事と、その出来事をどうしてほしかったのかを考え、教科書P.40にある「エクササイズⅡ」のA、C、Bの欄に記述してくる。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員	白戸 力弥		

第7回	仕事力向上マニュアルの解説及び「人間関係づくりとコミュニケーション」のみつめる・みとおすの視点などの概要を理解する。	自分自身の興味・性格・能力・動機を整理する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員	熊野 稔		
第8回	仕事力向上マニュアルの解説及びこれまでの講義の総括を実施した上で、大学4年間の目標などを考える。	大学4年間で成し遂げたいことを考えた上で、そのための方法を調べる。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員	熊野 稔		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない。	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	事後レポート、確認テスト
その他	0	
教科書		
人間関係づくりとコミュニケーション/山内雅恵(監修)、船木幸弘(編著)他/金子書房		
参考文献		
授業内で順次紹介する。		
履修条件・留意事項等		

- ・各講義で使用する資料はGoogle Classroom上にアップロードするため、必要に応じ、各自印刷し持参する。
- ・出欠管理は、講義内で実施する予定である。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		教養科目 社会と制度					
科目名		現代医療と福祉・介護				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	高岡 哲子						

授業の位置づけ

各該当学科のディプロマポリシーを鑑み、地域包括ケアシステムにおいて高齢者障害者等が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、[住まい][医療][介護][看護][予防][生活支援]が切れ目なく一体的に提供ができ、「心/意 欲/態度」が養われる重要な科目である。更に日本の社会事情を広く理解するうえで必要な知識としての[医療/福祉/介護]に焦点をあて、近未来 の社会制度を思考し、構築するための基礎的能力の向上を目指す。

授業の概要

少子高齢化、人口減少、人材不足、医療技術の進化など、社会構造の変化に伴い、医療・福祉・介護の制度や考え方も大きく変化している。本授業では、制度の理解だけでなく現場の課題を分析し、解決策を考える力を養う。日本と世界の医療・福祉制度を比較し、各国の特徴や課題を把握するとともに、ケーススタディやディスカッションを通じて、未来の医療・福祉のあり方を主体的に考える。また、多職種連携の重要性や、ICT技術の活用がもたらす医療・福祉の変革について学び、理想的な医療・福祉・介護の姿を考察する。

到達目標

- ・現代医療・福祉・介護の実態を理解し、日本と世界の課題を比較し説明できる。
- ・現場で役立つ知識やスキルを学び、今後の医療・福祉の未来について考えることができる。
- ・ディスカッションやワークショップを通じて主体的に学ぶ姿勢を身につけることができる。
- ・多職種連携やICTの活用を理解し、実際の現場に適応できる。

授業の方法

講義:教員による解説を中心に、最新のデータや事例を交えながら、医療・福祉・介護の制度や現場の課題について学ぶ。
 グループワーク:学生同士でディスカッションし、現場の課題を分析し、解決策を考える。
 発表:各グループの成果を発表し、全体で学びを共有する。

ICT活用

本授業では、Googleフォームを活用した授業内リアクションペーパーや課題レポートの収集を通じて、学習の効率化を図る。また、電子カルテやAI、遠隔医療など、医療・福祉分野でのICT活用事例を授業内で紹介し、現場での実践的な活用方法を学ぶ。

実務経験のある教員の教育内容

総合病院において看護師として約7年間勤務し、多職種と連携しながら高齢者のケアに携わった経験を活かし、本授業を実施する。現場で直面した医療・福祉・介護の課題や、チーム医療の重要性を具体的な事例を交えて伝えることで、制度や理論だけでなく、実践的な視点での学びを深める。

課題に対するフィードバックの方法

本授業では提出された課題に対し、共通フィードバックを中心に実施し、全体の理解を深める。具体的には、授業内で優れた回答やよくある誤解を共有し、解説を行うことで全体の学習効果を高める。また、個別のフィードバックは、単位取得が危うい場合や、課題の理解が大きくずれている場合に実施する。該当する学生には、具体的な改善点を提示し、学習の方向性を修正できるよう支援する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	ガイダンスと現代医療・福祉・介護の全体像(講義・GW) 内容:本科目の奥的や方法を理解する。現代の医療・福祉・介護の役割を概観し、様々な課題をグループディスカッションする。 行動目標:・本科目の目的と方法を理解し、学習計画を立てることができる。 ・現代の医療・福祉・介護の全体像を理解し、様々な課題を考察できる。	・シラバスを確認し、授業の進め方を理解する(約90分)。 ・ノートを一冊用意する。	医療と福祉・介護の関係について、新たに気づいたことをノートにまとめる(90分)。
担当教員			
第2回	地域包括ケアと在宅医療の未来(講義・GW) 内容:地域包括ケアシステムの概要と在宅医療・訪問介護の役割を理解する。医療・介護の人材不足や地域格差、多職種連携の課題を理解し、ICT活用など今後の展望について考える。 行動目標:・地域包括ケアシステムの概要を理解し、その役割を説明できる。 ・在宅医療における多職種連携の課題を考えることができる。	地域包括ケアの基本概念を調べ、概要をノートにまとめる(約90分)。	在宅医療について新たに気づいたことをノートにまとめる(約90分)。
担当教員			
第3回	未来の社会課題と対策を考える(GW)。 内容:2040年の日本の医療・福祉・介護を想定し、人口減少や高齢化、医療・介護人材不足などの社会課題を整理する。グループで議論し、政策・制度改革、テクノロジー活用などの視点から解決策を検討する。 行動目標:・2040年における医療・福祉・介護の課題を予測し、整理できる。 ・課題に対する具体的な解決策を考え、グループで議論できる。 ワークシート提出①	Classroomにアップされている第3回ワークシートの1を記載する(90分)。	未来の社会課題について新たに気づいたことをノートにまとめる(90分)。
担当教員			

第4回	未来の社会課題と対策の提案(発表) 内容:第3回のグループワークでまとめた2040年の医療・福祉・介護の課題と解決策を発表し、全体でディスカッションを行う。 行動目標:・2040年の医療・福祉・介護の課題に対する解決策を多角的に考察し、議論できる。 ・発表やディスカッションを通じて、新たな視点を得て、未来の社会に向けた理解を深める。 ① ノート提出	第3回のグループワークを振り返り、他グループの発表に備えて質問や意見を考える(90分)。	講義内容を整理し、2040年に向けた医療・福祉・介護の課題と解決策をノートにまとめる(90分)。
担当教員			
第5回	医療・介護現場のリアルと職種間連携(講義・GW) 内容:医療・介護現場の課題を学び、職種間連携(チーム医療)の重要性を理解する。多職種が協力することで得られるメリットや、連携の成功・失敗事例を通じて、現場での課題と解決策を考察する。 行動目標:・医療・介護現場の現状と職種間連携の重要性を説明できる。 ・チーム医療のメリットと課題を理解し、多職種連携のポイントを考察できる。	・医療・介護分野の職種と役割を調べ、ノートにまとめる(約90分)。	・講義内容を整理し、多職種連携の重要性と課題についてまとめる。 ・現場でのより良い連携のために必要なことを考え、200～300字で記述する(約90分)。
担当教員			
第6回	テクノロジーと医療・福祉の未来(講義・GW) 内容:AI・ロボット・ICT・遠隔医療の最新事例を学び、医療・福祉現場への導入によるメリットと課題を考察する。テクノロジーの発展がもたらす未来の医療・福祉の変化について理解を深める。 行動目標:・医療・福祉分野における最新のテクノロジーの活用事例を説明できる。 ・テクノロジーが医療・福祉の未来に与える影響と今後の展望を考察できる。	医療・福祉分野で導入されている最新のAI・ロボット技術や遠隔医療の事例を調べ、概要をまとめる(90分)。	講義内容を整理し、テクノロジーが医療・福祉に与える影響と2040年の展望について考察し、200～300字で記述する(90分)。
担当教員			

第7回	医療・福祉現場の課題解決(GW) 内容:医療・福祉現場で発生する課題をケーススタディとして取り上げ、グループで分析し、解決策を検討する。多職種連携やテクノロジー活用などの視点を取り入れながら、現場の実践的な対応策を考える。 行動目標:・医療・福祉現場で発生する具体的な課題を分析し、整理できる。 ・課題に対する実践的な解決策を考え、グループで議論できる。	医療・福祉現場の課題事例を調べ、自分なりの考えをまとめる。(90分)	グループで議論した内容を整理し、課題解決のポイントを200～300字で記述する(90分)。
担当教員			
第8回	現場の課題解決アイデア(発表) 内容:第7回のグループワークで検討した医療・福祉現場の課題と解決策を代表グループが発表し、全体でディスカッションを行う。講義では、現場の成功事例を紹介し、多職種連携やICT活用を含めた課題解決のポイントを学ぶ。 行動目標:・医療・福祉現場の課題と解決策を多角的に考察し、議論できる。 ・発表やフィードバックを通じて、新たな視点や実践的な学びを得る。 ② ノート提出	第7回のグループワークを振り返り、発表に備えて質問や意見を考える(90分)。	講義内容とディスカッションで得た学びを整理し、医療・福祉の課題解決のポイントを200～300字でまとめる。(90分)。
担当教員			
第9回	世界の医療・福祉制度と日本の違い(講義) 内容:北欧、アメリカ、アジアの医療・福祉制度の特徴を比較し、日本の制度との違いを学ぶ。各国の成功例や課題を踏まえ、日本の医療・福祉制度の強みや改善の可能性を考察する。 行動目標:・各国の医療・福祉制度の特徴を理解し、日本との違いを説明できる。 日本の医療・福祉制度の課題と改善策を考察できる。 リアクションシート①	北欧・アメリカ・アジアの医療・福祉制度について調べ、特徴をまとめる。(60分)	講義内容を整理し、日本の医療・福祉制度の強みと課題について200～300字で記述する(90分)
担当教員			

第10回	認知症・精神疾患とケアの最前線(講義・GW) 内容:認知症と精神疾患の基礎知識を学び、最新のケアや支援のアプローチを理解する。地域支援や介護者の負担軽減策に注目し、認知症・精神疾患を持つ人が安心して暮らせる社会のあり方を考察する。 行動目標:・認知症・精神疾患の基本的な知識と最新のケア・支援方法を理解できる。 ・認知症・精神疾患を持つ人を支える社会的な仕組みや課題を考察できる。	認知症や主要な精神疾患の特徴を調べ、簡単にまとめる(90分)。	講義内容を整理し、認知症や精神疾患のケア・支援の重要なポイントを200～300字で記述する(90分)。
担当教員			
第11回	「もし自分が利用者だったら？」視点で考える(GW) 内容:高齢者・障害者・患者が直面する日常の課題の事例を基に利用者の立場で考える。 行動目標:・高齢者・障害者・患者の立場を想像し、利用者視点での課題を理解できる。 ・利用者のニーズを踏まえた適切な支援策を考え、議論できる。 ワークシート②	第11回のグループワークを振り返り、発表に備えて質問や意見を考える(約90分)。	グループで話し合った内容を整理し、「利用者視点の支援のあり方」について200～300字で記述する。(約90分)。
担当教員			
第12回	利用者視点の支援アイデア(発表) 内容:第11回のグループワークで検討した「利用者視点の支援アイデア」について、代表グループが発表し、全体でディスカッションを行う。 行動目標:・利用者の立場に立った支援アイデアを多角的に考察し、議論できる。 ・発表やフィードバックを通じて、利用者中心の支援のあり方の理解を深める。 ① ノート提出	第11回のグループワークで検討した支援アイデアを振り返り、発表に備えて質問や意見を考える(90分)。	講義内容とディスカッションの振り返りを整理し、「利用者視点の支援とは何か？」について200～300字で記述する(90分)。
担当教員			

第13回	医療事故・倫理と法制度(講義・GW) 内容:医療事故の原因と予防策を学び、医療・介護の安全対策を考察する。医療倫理の基本原則やコンプライアンスの重要性を理解し、法制度との関係を踏まえた適切な対応を学ぶ。 行動目標:・医療事故の原因と予防策を理解し、安全な医療・介護のための対策を説明できる。 ・医療倫理やコンプライアンスの基本を理解し、現場での実践の重要性を考察できる。	過去の医療事故の事例を調べ、その原因と対策を簡単にまとめる(90分)。	講義内容とディスカッションの振り返りを整理し、「利用者視点の支援とは何か?」について200～300字で記述する(90分)。
担当教員			
第14回	これからの働き方とキャリア形成(講義・GW) 内容:医療・福祉分野のキャリアパスを学び、資格取得やスキル向上の重要性を理解し、未来のキャリア形成について検討する。 行動目標:・医療・福祉分野のキャリアパスを理解し、自身の将来の選択肢を考えられる。 ・多職種連携の重要性を理解し、協働のあり方を考察できる。 ④ ノート提出	医療・福祉分野の職種と役割、資格取得の方法について調べる(90分)。	講義内容を整理し、将来のキャリア形成について200～300字で記述する(90分)。
担当教員			
第15回	授業のまとめと学びのふりかえり(講義・GW) 内容:これまでの講義をふりかえり、医療・福祉分野における学びを整理する。 行動目標:・これまでの授業内容を整理し、自身の学びを言語化できる。 ・医療・福祉の未来や自身のキャリアの考えを深め、表現できる。 ① リアクションシート	授業全体をふりかえり、印象に残ったテーマを整理する(90分)。	講義のまとめを整理し、医療・福祉の未来や自身の今後の学びについて200～300字で記述する(90分)。
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	80	ワークシート:2回×30点=60点 リアクション:2回×10点=20点
その他	20	ノート提出:4回×5点=20点
教科書		
なし		
参考文献		

必要時講義中に提示する。

履修条件・留意事項等

私語、指示時以外の携帯電話の使用を禁止する。
 学習は主体的に行う。
 欠席した場合は、必ず欠席届を提出する。
 遅刻早退する、もしくはした場合は、必ず、教員へ申し出る。

備考欄

なし

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		教養科目 社会と制度					
科目名		日本国憲法				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	池田 杏奈						
授業の位置づけ							
教養科目のカリキュラムマップにおいて、「人間の社会を学ぶことにより幅広く教養を身につけるための科目である。」に位置づけられる。国際教養学科のディプロマ・ポリシーの「北海道、日本及び世界諸地域の課題とその分析や解決を考えることのできる、世界諸地域の言語、政治、経済、社会、文化等の国際教養を身につけている。(知識・技能)」と主に関連する。また、国際教養コミュニケーション学科の「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につけている。(思考・判断・表現)」と主に関連する。さらに、看護学科のディプロマ・ポリシーの「看護学の本質を理解するために必要な、文理横断的かつ学際的な知識と論理的な思考を有し、看護を取り巻く状況の変化に柔軟に対応できる。(思考・判断・表現)」と関連する科目である。また、理学療法学専攻のディプロマ・ポリシーの「幅広く教養を高め、豊かな人間性と高い倫理観、社会変化への適応力を持ち、理学療法学の持続的な発展に貢献して社会を支えることができる。(関心・意欲・態度)」、「臨床場面や研究において状況の変化に柔軟に対応できるコミュニケーション能力を身につけている。(思考・判断・表現)」と、作業療法学専攻のディプロマ・ポリシーの「グローバル化の進展を視野に入れつつ、生涯にわたり医療・保健の質の向上に貢献することができる。(関心・意欲・態度)」と関連する。さらに、地域未来学科のディプロマ・ポリシーの「地域の歴史や文化、多様な資源の価値を深く理解し、新たな価値を創造することにより、持続可能な社会を実現し、次代へ発信・継承することができる(知識・技能)」と関連する。							
授業の概要							
民主主義(国民主義)と基本的人権の相関関係を明確にするとともに、なぜ「憲法」が国家の最高法規とされるかを理解することを目指す。次いで、日常生活の場面で生じる様々な紛争解決する手段としての裁判の意義、システムを学び、同時に法解釈の手法を考察する。以上の基本的な知識を修得した上で、日本国憲法の精神と構造を(明治憲法との比較を含め)大枠で理解するよう努める。							
到達目標							

1. 日本国憲法を最高法規とする我が国の法体系について説明できる。
2. 様々な基本的人権について概要を述べるができる。
3. 法というルールを介して、社会人としての関係形成、問題解決の方法、変化する社会への対応など、我が国において生きていく上で生じ得る問題について自ら考え、論じることができる。

授業の方法

パワーポイント及び配布印刷物を活用しながら講義形式で進める。
各講義中に毎回コメント(授業についての振り返り、思ったこと、疑問等を記述したもの)をGoogleフォーム、クラスルーム等に提出する。
確認テストをGoogleフォーム等を利用して時間内に行う(全15回)。

ICT活用

Google フォームのテスト作成機能を用いて練習問題を提供し自主学習を促す。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして理解度確認テストを実施後、解答の解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	【ガイダンス・裁判制度】 担当教員の自己紹介、授業の概要、予習と復習の方法、成績評価についての説明を行う。 日本の裁判制度の概要、法の基礎知識について学ぶ。	事前に教科書を購入し、「読者のみなさんへ」の部分を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、フォーム等に記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
第2回	【子どもの人権】 校則を題材にして「子どもの人権」について解説する。	授業前に教科書を購入し、「Theme1 ブラック校則——子どもの人権」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、コメントシートで記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
第3回	【外国人の権利】 法律上「国民」とは誰を指すのかを知り、「外国人」との権利の違いについて学ぶ。	「Theme2 欲しいのはまず選挙権——外国人の権利」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、フォーム等に記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			

第4回	【プライバシー権】 プライバシーとはどういうものとして、法律上どのように保護されているかを学ぶ。	「Theme3 わたしの秘密——プライバシー権」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、フォーム等に記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
第5回	【自己決定権】 自己決定権は憲法によってどのように保障されているのかを学ぶ。	「Theme4 何の自己決定か？——自己決定権」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、フォーム等に記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
第6回	【法の下での平等】 以前の民法や刑法の条文等を題材に、「法の下での平等」について学ぶ。	「Theme5 再婚は100日後——法の下での平等(1)」 「Theme6 むかし親殺しありき——法の下での平等(2)」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、フォーム等に記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			

第7回	【信教の自由】 「信教の自由」を保障している条文の構造を理解し、保障の限界について判例を基に学ぶ。	「Theme7 法廷の宗教戦争——信教の自由」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、フォーム等に記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
第8回	【表現の自由】 「表現の自由」が日本国憲法の保障する人権の中でもとりわけ重要度の高いものといわれる理由を考察し、どのような表現の自由であっても保障されるのかということについて考える。	「Theme8 ポルノの権利——表現の自由(1)」 「Theme9 人殺し教えます——表現の自由(2)」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、フォーム等に記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
第9回	【営業の自由】 営業の自由はどのように保障されているかを学び、どのような場合に制限されるかについて考える。	「Theme10 銭湯の楽しみ——営業の自由」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、フォーム等に記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			

第10回	【生存権】 憲法25条が保障する「健康で文化的な最低限度の生活」とはどのような生活を指すのかについて考える。	「Theme11 クーラーのない生活——生存権」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、フォーム等に記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
第11回	【教育権】 学校で子どもたちに教えらるる教育の内容を決定できるのは誰であるかについて、判例を基に学ぶ。	「Theme12 教科書はつらいよ——教育権」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、フォーム等に記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
第12回	【死刑制度】 死刑制度の是非について憲法の視点から考える。	「Theme13 罪と罰のはて——死刑制度」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、フォーム等に記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			

第13回	【国会・内閣・裁判所】 日本国憲法が採用する「二院制」について学び、「国会」の役割について考える。 内閣総理大臣はどのようにして選ばれるのかについて学ぶ。 裁判に関する諸権利について学び、裁判員裁判について考える。	「Theme16 両院は車の両輪——国会(1)」 「Theme17 民の声 vox Dei? ——国会(2)」 「Theme18 首相の選び方——内閣」 「Theme19 裁判はだれのために——裁判所」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、フォーム等に記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
第14回	【天皇・平和主義】 明治憲法下での天皇と現行憲法の天皇の違いについて学ぶ。 憲法9条と自衛隊の関係について考える。	「Theme14 皇室外交? ——天皇」 「Theme15 人権の条件——平和主義」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、フォーム等に記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
第15回	【地方自治・憲法改正・まとめ】 地方自治とは何かについて学ぶ。 憲法改正の手続きと憲法改正の限界について学ぶ。	「Theme21 住民投票で決着を! ——地方自治」 「Theme22 憲法の変身——改憲の可能性」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、フォーム等に記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内で実施する確認テスト、授業への参加態度、授業後に提出するコメントやレポート等により評価する。
その他	0	なし。
教科書		
いちばんやさしい憲法入門〔第6版〕／初宿正典、高橋正俊、米沢広一、棟居快行／有斐閣		
参考文献		

講義中に適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

特になし。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		教養科目 社会と制度					
科目名		キャリア形成				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	木村 悠里菜						

授業の位置づけ

本科目は、社会で活躍する事を視野にいれ、「キャリア」・「キャリアデザイン」の重要性を学ぶ。加えて、これらにとって必要なスキルのひとつである「人間関係づくりとコミュニケーション」を理解し、役立てるための科目である。なお本科目は、「キャリア入門」の発展となる。

授業の概要

これからの人生を、職業を通じて社会に貢献し、生計を立て、また職業人として日々充実感を持つことのできるよう、自らの職業観・勤労観を培うとともに、自らの生き方や生活デザインについて基本的な展望を身につける。

到達目標

- ・「キャリア」や「キャリアデザイン」、「計画的偶発性」を説明できる。
- ・「人間関係づくりとコミュニケーション」の5つの視点、「社会人基礎力」について論じることができ、活用することができる。
- ・キャリアに関する具体的な事例に対し、「人間関係づくりとコミュニケーション」の5つの視点、「社会人基礎力」から説明できる。

授業の方法

- ・パワーポイントによるプレゼンテーション資料と教科書、動画等を併用しながら、講義形式とアクティブラーニングの手法を取り入れた演習方式の授業を実施する。
- ・理解度確認のために、期末レポートを実施する。

ICT活用

- ・パワーポイントによるプレゼンテーション資料と教科書、動画等を併用しながら、視覚的に内容が理解しやすい授業を実施する。
- ・Google Classroomを活用し、配布資料を共有するため、授業前に各自印刷し持参する。

実務経験のある教員の教育内容

大手消費財メーカーのマーケティング職や外資系コンサルティングファームでの経営コンサルタント職等の実務経験を活かして、「キャリア」・「キャリアデザイン」・「人間関係づくりとコミュニケーション」について実例を交えた具体的な授業を実施する。

課題に対するフィードバックの方法

各講義において振り返りを実施し、学生の理解度の確認を行う。加えて質問については、解説を適宜実施する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーションの実施と、「キャリア」・「キャリアデザイン」・「計画的偶発性」などを理解する。	・「キャリア」の意味やイメージについて思いつくまに考える。 ・「キャリア」の意味について調べる。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第2回	人生曲線、パーソナリティ検査、ジョハリの窓などを学び、テストを実施することで自己理解を深める。「社会人基礎力」について学ぶ。	家族や友人、知人などから、自分自身がどのようにみえているかをヒアリングする。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第3回	人生曲線などの作成や、基本的なORJIサイクル・落とし穴などの理解をとおして、「人間関係づくりとコミュニケーション」のきつづくの視点などを理解する。	出生から現在までの人生の中で、印象に残った出来事を整理した上で、今後の人生の見通しを立てる。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			

第4回	コミュニケーションの分類を学んだ上で、アサーティブな表現などを中心に理解することで、「人間関係づくりとコミュニケーション」のうけいれるの視点などを理解する。	相手を尊重し、自分の意見や感情をうまく相手に伝えるためのコミュニケーション方法を考える。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第5回	不合理な信念(ビリーフ)やABCD理論などを学び、「人間関係づくりとコミュニケーション」のむきあうの視点などを理解する。	自分が持つ思い込みにどのようなものがあるのかを考える。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第6回	ライフ・キャリアのレインボー、統合的ライフ・プランニング、価値観、人間の能力の3つの領域などを学ぶことで、「人間関係づくりとコミュニケーション」のみつめる・みとおすの視点などを理解する。	自分がどんなことに価値を見出し、やる気を起こすのかを考える。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			

第7回	社会人基礎力などを理解する。加えて動画の視聴を通して学ぶ。	様々な人々と仕事をするために必要なことを考える。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第8回	これまでの講義の総括を実施する。加えて、キャリアデザインなどについて考える。	なりたい自分ややりたい仕事について考えた上で調べる。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない。	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	60	期末レポート
その他	40	準備学習・事後学習の状況・授業態度や意欲・グループワークなどの状況など
教科書		
人間関係づくりとコミュニケーション/山内雅恵(監修)、船木幸弘(編著)他/金子書房		
参考文献		
授業内で順次紹介する。		
履修条件・留意事項等		

- ・講義資料はGoogle Classroomにアップロードするため、各自印刷し持参
- ・出欠管理は、講義内で実施予定
- ・グループワークが中心となるため、積極的参加が必須
- ・授業態度が不適切な場合(例:私語、授業と関係のない行為)、欠席扱いとなることがある
- ・本科目は、キャリア入門の振返りを含む

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		教養科目 自然と科学					
科目名		情報処理				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	常見 裕子						

授業の位置づけ

初年次教育の一環として、大学の学修や社会に必要なスキルである情報リテラシーを修得する科目である。また、国際教養学科と国際コミュニケーション学科のディプロマ・ポリシー「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につけている。」と特に関係がある科目である。地域未来学科の「地域社会のデジタル化等の変化に適応しながら、地域の特性を踏まえた教育の在り方について考究し、地域の未来を担う人づくりに貢献できる」と特に関係があり、「幅広い視点から地域課題を発見し、課題解決に向けて主体的に行動でき、かつ、地域において協働できる人的資源の開発や組織体制の構築に貢献できる」とも関係がある科目である。

授業の概要

本科目では、コンピュータを用いて文書作成、表計算、プレゼンテーションを行うために必要な基本操作を学ぶ。また、コンピュータのセキュリティ対策方法、情報モラルにもとづくインターネットの利用について習得する。コンピュータを使うためのスキルを身に付けるだけでなく、コンピュータに関する諸問題についても学ぶ。

到達目標

1. ワープロソフトWordを用いて表、図なども挿入されたドキュメント作成を行なうことにより情報のアウトプットができる。
2. 表計算ソフトExcelを用いて基本的な計算や関数の使用、グラフ作成、データベースの操作を行うことができる。
3. ウェブサイトからデータを取得し、Excelを用いて情報の加工や分析ができる。
4. プレゼンテーションソフトPowerPointを用いて、広く情報を伝えるためのプレゼンテーションを作成できる。
5. コンピュータ等のセキュリティおよび情報モラルを念頭において情報を運用することができる。

授業の方法

Wordを用いたレポート等作成、Powerpointを用いたプレゼンテーション技法、Excelを用いた分析については各人がパソコンを操作して習得する。情報の探索、データの分析法、セキュリティと情報モラルに関する内容はパワーポイントを用いて講義形式で行う。これらのOfficeソフトの操作を理解するために、教科書会社が提供するeラーニングシステム(NESS)により各自が主体的に確認テスト問題を行う(第3回～第11回、第13回、第14回)。

ICT活用

教科書に付属してアカウントを得られるeラーニングシステム(NESS)を用いて練習問題を提供し、授業時間外における自主学習を促す。また、教科書会社が提供するOffice2021のリファレンス動画サイトを用いて基本的な操作の自主学習を促す。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

eラーニングシステム(NESS)により確認テストの結果がすぐに表示されフィードバックされる。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	【情報のアウトプット・レポート等作成技術】《Word》Wordの基本的操作として、起動、画面構成、リボンを概観し、文書の新規作成や保存方法を習得する(§2-STEP1のLesson1)。また、文字の変換や記号、特殊文字、読みが不明の漢字の入力方法を再確認する(§2-STEP1のLesson2)。 【セキュリティと情報モラル】コンピュータウイルス感染予防技術についての知識を得る(§5-STEP1のLesson1)。コンピュータウイルス感染予防の心構えとスパイウェアについての知識を得る(§5-STEP1のLesson2)。	シラバスを読み、教科書のp30～p47, p250～p257を読んでおく。(90分)	本日習った操作を復習しておく。また、タッチタイピングの練習を行う。(90分)
担当教員			
第2回	【情報のアウトプット・レポート等作成技術】《Word》Wordの基本的操作として文字の修正・範囲指定・変換、文字の変更、文字の移動・複写方法を習得する(§2-STEP1のLesson3)【セキュリティと情報モラル】不正アクセスを防ぐ技術としてのcookie, パスワードの管理を習得する。また、不正アクセス法について学ぶ。ソーシャルエンジニアリングとフィッシング詐欺対策の知識を得る(§5-STEP1のLesson3)。	教科書のp47下～p59,p258～p267を読んでおく。不正アクセス禁止法について調べておく。(90分)	本日習った操作を復習しておく。(90分)
担当教員			
第3回	【情報のアウトプット・レポート等作成技術】《Word》チラシ作成を例として文字書式の設定方法、インデント、タブ設定を習得する(§2-STEP2のLesson1)。【セキュリティと情報モラル】著作権に違反しないための注意点(§5-STEP2のLesson2)および個人情報の漏洩対策を学ぶ(§5-STEP2のLesson3)。	教科書のp60～p67上半分, p271～p275を読んでおく。(90分)	本日習った操作を復習しておく。NESSの§2Word-STEP2-確認テストの問題を解く。(90分)
担当教員			

第4回	【情報のアウトプット・レポート等作成技術】《Word》チラシ作成を例として、均等割り付け、表の作成方法、ワードアートの挿入方法を習得する(§ 2-STEP2のLesson1)。	教科書のp67下半分～p75上半分を読んでおく。(90分)	本日習った操作を復習しておく。NESSの § 2Word-STEP2-確認テストの問題を解く。(90分)
担当教員			
第5回	【情報のアウトプット・レポート等作成技術】《Word》チラシ作成を例として、画像や図形の挿入、ページ罫線の作成、印刷の方法を習得する(§ 2-STEP2のLesson1)。レポート作成に必要なページ設定、表紙の作成法、ページ番号、Excelグラフ、図表番号の挿入について習得する(§ 2-STEP2のLesson2)	教科書のp75下半分～p90を読んでおく。(90分)	本日習った操作を復習しておく。教科書のp80練習7を行う。NESSの § 2Word-STEP2-確認テストの問題を解く。(90分)
担当教員			
第6回	【情報のアウトプット・レポート等作成技術】《Word》レポート作成に必要な、脚注の挿入、見出し作成、文章校正機能について習得する(§ 2-STEP2のLesson2)。 【情報の分析評価】《Excel》表計算ソフトの概略を理解しExcelのファイル操作を習得する(§ 3-STEP1のLesson1)	教科書のp91～p97, p100～p106を読んでおく。(90分)	本日習った操作を復習しておく。教科書のp98練習8を行う。NESSの § 2Word-STEP2-確認テストの問題を解く。(90分)
担当教員			

第7回	【情報の分析評価】《Excel》データの表示設定(文字・表示形式、罫線の設定、行の高さ・列幅の変更)を習得する(§ 3-STEP2のLesson1)。	教科書のp107～p121を読んでおく。(90分)	本日習った操作を復習しておく。教科書のp122練習9を行う。NESSの§ 2Word-STEP2-確認テストの問題を解く。(90分)
担当教員			
第8回	【情報の分析評価】《Excel》印刷手法(改ページプレビュー、基本的な印刷、印刷イメージの確認、印刷タイトル)を習得する(§ 3-STEP2のLesson2)。数式の入力方法・コピー、合計の計算を習得する(§ 3-STEP2のLesson3)。§ 2Word-Section2の試験(20問)を実施する。	教科書のp123～p138を読んでおく。(90分)	本日習った操作を復習しておく。教科書のp137練習12を行う。NESSの§ 3Excel-STEP3-確認テストの問題を解く。(90分)
担当教員			
第9回	【情報の分析評価】《Excel》相対参照と絶対参照の使い分け、よく使用する関数の利用法、数学／三角関数を習得する。また、条件に応じて処理を変えるIF関数、ネストを習得する(§ 3-STEP2のLesson3)。	教科書のp139～p152を読んでおく。(90分)	本日習った操作を復習しておく。教科書のp152練習16を行う。NESSの§ 3Excel-STEP3-確認テストの問題を解く。(90分)
担当教員			

第10回	【情報の分析評価】《Excel》あるデータに別のデータ列を結合するVLOOKUP関数を習得する(教科書にはない)。グラフの要素、縦棒グラフおよび円グラフの作成法、レーダーチャートの作成、グラフの編集、複合グラフの作成、グラフの印刷方法を習得する(§ 3-STEP3のLesson1,2)。	教科書のp153～p176を読んでおく。VLOOKUP関数について調べておく。(90分)	本日習った操作を復習しておく。教科書のp163練習17, p169練習18, p173練習20を行う。NESSの § 3Excel-STEP3-確認テストの問題を解く。(90分)
担当教員			
第11回	【データの分析演習】《Excel》ウェブサイトからデータを取得する方法を学ぶ。また、そこで得られたデータを加工しデータを分析する方法を学ぶ。(教科書にはない)。 【データベース】《Excel》データベース機能を理解し、基本的な操作である並べ替え、オートフィルターによる抽出と並べ替えを修得する。(教科書にはない)。	データベースについて調べておく。(90分)	本日習った操作を復習しておく。NESSの § 3Excel-STEP3-確認テストの問題を解く。(90分)
担当教員			
第12回	【データベース】《Excel》データベース機能における数値フィルター、テキストフィルター、トップテン機能を修得する。 【ピボットテーブル】《Excel》データベースから集計表を作成できるピボットテーブルを修得する。 § 3 Excel-Section3(STEP2,STEP3合同20問)の試験を実施する。	データベース、ピボットテーブルについて調べておく。(90分)	本日習った操作を復習しておく。(90分)
担当教員			

第13回	【情報のアウトプット・プレゼンテーション技法】《PowerPoint》プレゼンテーションの基本とPowerPointの画面構成(§ 4-STEP1)、スライドの作成、コピーや移動方法、編集方法を習得する。また、ワードアートの作成法、図解を用いた説明に適したSmartArtの作成法、画像の挿入方法を習得する(§ 4-STEP2のLesson1)。	教科書のp178, p181, p186～p210を読んでおく。(90分)	本日習った操作を復習しておく。NESSの § 4Powerpoint-STEP2-確認テストの問題を解く。(90分)
担当教員			
第14回	【情報のアウトプット・プレゼンテーション技法】《PowerPoint》Excelの表やグラフを挿入し編集する方法を習得する。図形の作成方法を習得する。(§ 4-STEP2のLesson1)。スライドショーにおける画面切り替え効果、文字に対するアニメーション効果の設定を習得する。(§ 4-STEP2のLesson2) SmartArtと図形に対するアニメーション効果の設定を習得する。スライドショーの実行操作を習得する(§ 4-STEP2のLesson2)。	教科書のp211～p234を読んでおく。(90分)	本日習った操作を復習しておく。教科書のp220練習22, p234練習23を行う。NESSの § 4Powerpoint-STEP2-確認テストの問題を解く。(90分)
担当教員			
第15回	【情報のアウトプット・プレゼンテーション技法】《PowerPoint》発表の準備に関する機能として、ノートの入力、スライド印刷、リハーサル機能の操作方法を習得する(§ 4-STEP3のLesson1)。発表時の服装、態度、話し方について学ぶ(§ 4-STEP3のLesson2)。 § 4 PowerPiont-STEP2の試験(10問)を実施する。	教科書のp235～p248を読んでおく。(90分)	これまでの操作を復習し教科書のp182～p185を読んでおく。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内で実施する試験と各回の学習状況により評価する。
その他	0	なし
教科書		
イチからしっかり学ぶ！Office基礎と情報モラルMicrosoft365・Office2021対応／ア出版		
参考文献		

なし
履修条件・留意事項等 教科書は必ず北海道文教大学のキャンパスショップで購入してください(キャンパスショップのネット販売もしくは学内の売場)。やむを得ずネット通販で購入の場合は必ず新品を購入してください。メルカリ等中古品の購入および未購入の場合は試験サイトへのアクセス権を発行できず試験を受験できないため単位は取得できません。
備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		教養科目 自然と科学					
科目名		生命科学				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	有賀 早苗						

授業の位置づけ

科学的知識を学ぶことにより、幅広く教養を身につけるための科目である。
「解剖学」、「生理学」、「生化学」(健康栄養)、「解剖学I」、「解剖学II」、「生理学I」、「生理学II」(看護、リハビリ)、「免疫学」(看護)、「教科教育法 理科」(こども発達)と連携する教養科目である。

授業の概要

生命科学の内容は私たちの健康、医療、食生活、生活環境などの日常生活に密接に関わっているだけではなく、持続的な社会の発展や生物多様性保全など地球生態系にも関係するヒトがよりよく生きるための知識である。この授業科目では、専門科目の学習に発展・深化しうる身近なトピックスを取り上げながら、生物に共通した細胞・分子レベルの仕組みから生物の特性を知り、ヒトと生態系との共生を考える知識基盤を築くと共に、遺伝子操作・再生医療等の科学的基礎理解から健全な生命倫理観の醸成基盤も築いていく。高等学校で生物を履修しなかった学生にも十分理解できるように、初歩的な事項から、最先端研究まで、興味が広がるように解説する。

到達目標

- ・生物が物質から成る細胞を単位に構成されることを理解する
- ・遺伝情報に基づく生物に共通した流れであるセントラルドグマを理解する
- ・細胞・分子レベルから癌等の疾患の原因を理解する
- ・遺伝子操作・再生医療等の基本的な仕組みを理解する

授業の方法

本授業で学ぶべき内容をわかりやすく解説したパワーポイントスライドの映写により講義を進め、指定した教科書も参照しながら学ぶ。授業終わりに各回の授業の要点をまとめたスライドを示す。授業への出席確認はGoogleクラスルームを活用して行う。
アクティブラーニングとして、学期末の講義において、小グループでのディスカッションに基づく課題研究発表を行う。

ICT活用

実習等との日時重複、その他不可避の状況により授業が対面実施できない場合には、Googleクラスルームよりオンデマンドビデオ配信授業を実施する。

実務経験のある教員の教育内容

なし

課題に対するフィードバックの方法

授業後、復習教材として、Googleクラスルームに各回の授業で用いたパワーポイントスライドから抜粋してPDFにした授業資料、および各回の授業内容の理解・定着度をチェックする確認小テスト(自己採点、解答解説もGoogleクラスルームに掲載、成績評価には含めない)を掲載するので、筆記試験に向けた準備・復習に活用されたい。
2回実施する筆記試験後には、解答解説を授業内で行うとともにGoogleクラスルームに掲載する。
授業内容等に関する質問は、授業の前後に直接対面で、あるいはGoogleクラスルームへのメールで受け付ける。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	物質から成る生物：科目ガイダンスとして、本科目の位置づけ、概要、到達目標、授業方法・進め方、成績評価等について、シラバスに基づき説明する。アンケート等により、履修学生の高等学校までの生物学学習状況を確認する。授業内容としては、非生物と異なる生物の特性、分子・細胞レベルで生物を捉える共通原理(分子生物学のセントラルドグマ)、生物が物質から成ることを理解する。	シラバスをよく読んで、この科目で学ぶこと、学習目標等を把握しておく。また教科書のp.2～6、p.14～16を読み、疑問点・不明点を整理しておく。(60分程度)	授業ノート・授業資料PDFを読み返して学習内容を確認・整理し、生物を構成する分子で最も多い水分子の意義を説明できるようにする。Googleクラスルーム掲載の確認小テストに回答してしこ採点する。(120分程度)
担当教員	有賀 早苗		
第2回	タンパク質：分子生物学のセントラルドグマに登場する物質のうち、タンパク質について、基本構造と性質、生物・生命現象における機能・重要性について学ぶ。	教科書p.7～8, p.116, p.175を読み、疑問点・不明点を整理しておく。また、アミノ酸について簡単に調べておく。(60分程度)	授業ノート・授業資料PDFを読み返して学習内容を確認・整理し、タンパク質の変性について説明できるようにする。Googleクラスルーム掲載の確認小テストに回答して自己採点する。(120分程度)
担当教員	有賀 早苗		
第3回	核酸①(DNA)：分子生物学のセントラルドグマに登場する物質のうち、核酸(DNA、RNA)について、共通する構造を学び、さらにDNAについて、特徴的な構造・性質、生物・生命現象における重要性について学ぶ。DNA、遺伝子、ゲノム、染色体を正しく区別して認識できるよう解説する。	教科書p.11～16, p.18～19を読み、疑問点・不明点を整理しておく。(60分程度)	授業ノート・授業資料PDFを読み返して学習内容を確認・整理し、DNA、遺伝子、ゲノム、染色体を正しく区別して、それぞれ説明できるようにする。Googleクラスルーム掲載の確認小テストに回答して自己採点する。(120分程度)
担当教員	有賀 早苗		

第4回	核酸②(RNA)：分子生物学のセントラルドグマに登場する物質のうち、RNAについて、特徴的な構造・性質、生物・生命現象における重要性について学ぶ。	教科書 p.14～17を読み、疑問点・不明点を整理しておく。(60分程度)	授業ノート・授業資料PDFを読み返して学習内容を確認・整理し、ノートを整りし、遺伝暗号コードがなぜ3文字(3塩基)配列なのか、説明できるようにする。Googleクラスルーム掲載の確認小テストに回答して自己採点する。(120分程度)
担当教員	有賀 早苗		
第5回	細胞の基本構造：生物の最小構成単位である細胞について、基本構造を学び、原核生物・真核生物の違いを学ぶ。真核生物を構成する真核細胞がもつ細胞内小器官、特に細胞膜、核、ミトコンドリアについて、構造・機能を学ぶ。現代生物学では生物とはみなされないウイルスについても概要を学ぶ。	教科書p.3～12を読み、疑問点・不明点を整理しておく。(60分程度)	授業ノート・授業資料PDFを読み返して学習内容を確認・整理し、ノートを整りし、なぜウイルスは現代生物学では生物とみなされないのか、説明できるようにする。Googleクラスルーム掲載の確認小テストに回答して自己採点する。(120分程度)
担当教員	有賀 早苗		
第6回	遺伝情報の複製と細胞周期：遺伝情報の複製について、2本鎖DNAの半保存的複製の分子機構の基礎を学ぶ。細胞の生活環である細胞周期の中で、細胞分裂に先立つ特定の時期においてのみ遺伝情報の複製が行われること、また真核生物のDNA末端の繰り返し配列テロメアについても学ぶ。	教科書p.62～71を読み、疑問点・不明点を整理しておく。(60分程度)	授業ノート・授業資料PDFを読み返して学習内容を確認・整理し、真核生物のDNA末端複製問題とはどのようなことか、説明できるようにする。Googleクラスルーム掲載の確認小テスト、第6回分の回答・自己採点とともに、筆記試験Aに向けて、第1回から第5回の講義内容、出題された確認小テストの問題も復習する。(120分程度)
担当教員	有賀 早苗		

第7回	筆記試験A：第1回から第6回までの授業内容に関する筆記試験(60分程度)を実施する。試験答案回収の後、試験問題と解答の解説を行う。	授業ノートを整理して、第1回から第6回の講義内容、出題された確認小テストの問題を復習する。(120分程度)	筆記試験Aの確認・復習をして、理解・定着の不足していたところを拡充する。(60分程度)
担当教員	有賀 早苗		
第8回	進化の概要：生物の進化について、生物の歴史、ダーウィンの『進化論』から木村資生の『中立説』、分子時計、RNAワールド仮説などを通して、進化が進歩ではなく多様性の増加であることを学ぶ。人類の進化についても、ミトコンドリア・イヴ説や鎌状赤血球症の分布などから学ぶ。	木村資生の『中立説』について簡単に調べ、疑問点・不明点を整理しておく。(60分程度)	授業ノート・授業資料PDFを読み返して学習内容を確認・整理し、ミトコンドリア・イヴ説はどのようにして考えられたか、説明できるようにする。Googleクラスルーム掲載の確認小テストに回答して自己採点する。(120分程度)
担当教員	有賀 早苗		
第9回	遺伝情報の発現：セントラルドグマに沿った遺伝情報の発現の流れについて、転写・翻訳の分子機構の基礎、発現のしくみから見た原核生物・真核生物の違いを学ぶ。遺伝情報発現調節の分子機構について、大腸菌オペロンの例から仕組みの基礎を学ぶ。また、従来の遺伝学だけでは説明のできないエピジェネティクスについても概要を学ぶ。	教科書p.14～17, p.24～26, p.172を読み、疑問点・不明点を整理しておく。(60分程度)	授業ノート・授業資料PDFを読み返して学習内容を確認・整理し、原核生物・真核生物の遺伝情報発現の仕組みの違いを説明できるようにする。Googleクラスルーム掲載の確認小テストに回答して自己採点する。(120分程度)
担当教員	有賀 早苗		

第10回	発現調節と細胞分化：多細胞生物を構成する細胞は生殖細胞と体細胞物とに大別されることを学び、生殖細胞から多様な体細胞が生じる細胞分化の過程は遺伝情報発現調節によって実現されていることを学ぶ。多細胞生物1個体に属するすべての細胞は同一ゲノムをもつことに基づいたクローン動物、iPS細胞の作製原理について学ぶ。一方、限られた遺伝子数で多様性を実現する遺伝子の再構成、および動く遺伝子トランスポゾンについて学ぶ。	教科書p.18～22, p.30～34, p.47～48を読み、疑問点・不明点を整理しておく。(60分程度)	授業ノート・授業資料PDFを読み返して学習内容を確認・整理し、エビジェネティクスとはどのようなことか、説明できるようにする。Googleクラスルーム掲載の確認小テストに回答して自己採点する。(120分程度)
担当教員	有賀 早苗		
第11回	細胞死・細胞癌化：細胞の増殖・分化・死・癌化の相関性について学び、多細胞生物の宿命である癌の発症について、原因・分子機構の概略を学ぶ。多細胞生物の発生・個体維持に不可欠な細胞増殖・細胞分化・細胞死の制御機構が破綻した場合に細胞が癌化することを学ぶ。細胞癌化に関わる遺伝子群(原癌遺伝子群)は細胞増殖・分化・死の調節・制御に必須な遺伝子群であることを学ぶ。	教科書p.62～71を読み、疑問点・不明点を整理しておく。(60分程度)	授業ノート・授業資料PDFを読み返して学習内容を確認・整理し、iPS細胞とはどのようなものか説明できるようにする。Googleクラスルーム掲載の確認小テストに回答して自己採点する。(120分程度)
担当教員	有賀 早苗		
第12回	遺伝子操作：遺伝子そのものや発現調節を人工的に操作する遺伝子操作・バイオテクノロジーについて、方法の基礎を成す技術と、新たな展開を生んだPCR、ゲノム編集などの技術革新について学ぶ。翌週授業で実施する筆記試験Bについて、および翌々週授業で実施のグループ発表の解説も行い、グループ編成等を伝える。	教科書p.26～29, p.34～39を読み、疑問点・不明点を整理しておく。(60分程度)	授業ノート・授業資料PDFを読み返して学習内容を確認・整理し、原癌遺伝子群とはどのような遺伝子群か説明できるようにする。Googleクラスルーム掲載の確認小テスト、第12回分の回答・自己採点とともに、筆記試験Bに向けて、第1回から第11回の講義内容、出題された確認小テストの問題、筆記試験Aも復習する。(120分程度)
担当教員	有賀 早苗		

第13回	筆記試験B: これまでの全授業内容に関する筆記試験 (60分程度)を実施する。試験答案回収後、試験問題と解答の解説を行う。 翌週の第14回, 第15回授業で実施するグループ発表に向け、グループに分かれて準備作業を開始する。	授業ノートを整理して、第1回から第6回、第8回から第12回までの講義内容、出題された確認小テストの問題、筆記試験Aの復習をする。(120分程度)	授業ノート・授業資料PDFを読み返して学習内容を確認・整理し、PCRとは何を利用したどのような技術か説明できるようにする。グループ発表の準備を始める。(60分程度)
担当教員	有賀 早苗		
第14回	グループ発表: 設定された課題テーマについて、グループごとにパワーポイントスライドを使った発表を行い、参加者全員でディスカッションする。	グループごとに課題テーマに関するディスカッション、パワーポイントスライド作成、発表練習などを行う。(90分程度)	グループ発表に向けた準備作業を行う。(90分程度)
担当教員	有賀 早苗		
第15回	グループ発表: 前回授業に引き続いて、設定された課題テーマについて、グループごとにパワーポイントスライドを使った発表を行い、参加者全員でディスカッションする。課題レポートについて解説する。	グループごとに課題テーマに関するディスカッション、パワーポイントスライド作成、発表練習などを行う。(90分程度)	自身のグループだけでなく他のグループの発表も踏まえ、課題レポートを作成・提出する。(90分程度)
担当教員	有賀 早苗		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	80	出席：15回の授業のうち第7, 13, 14, 15回を含む12回以上の出席を単位取得要件とする 筆記試験：第7回、第13回の授業内に実施する2回の筆記試験の得点を成績評価対象とする(筆記試験A 30点、筆記試験B 50点)
その他	20	グループ発表：第14, 15回の授業時に実施する、予めグループで準備した発表について成績評価対象とする(10点) 課題レポート：第15回の授業で提示する決められた書式で作成し、Googleクラスルームを通じて期日までに提出するレポートを成績評価対象とする(10点)
教科書		
みんなの生命科学 第2版 北口哲也・塚原伸次・坪井貴司・前川文彦 化学同人 ISBN 9784759820997		
参考文献		

授業において適宜紹介する

履修条件・留意事項等

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		教養科目 自然と科学					
科目名		数理・データサイエンス・AI入門				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	松岡 審爾						

授業の位置づけ

数理・データサイエンス・AIへの関心を高め、それを適切に理解し活用する基礎的な能力を養うための科目である。また、理学療法学専攻のディプロマ・ポリシー「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている」と関係がある科目である。また、作業療法学専攻のディプロマ・ポリシー「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている。」「科学的根拠に基づいた作業療法の実践のために必要な問題探求力と問題解決思考を身につけている。」と特に関係がある科目である。看護学科のディプロマ・ポリシー「看護学の本質を理解するために必要な、文理横断的かつ学際的な知識と論理的な思考力を有し、看護を取り巻く状況の変化に柔軟に対応できる。」と特に関係があり、「グローバル化の進展を視野に入れつつ、科学的思考と創造的思考で生涯にわたって看護学と医療保健の質向上に貢献できる。」と関係がある科目である。地域未来学科の「地域社会のデジタル化等の変化に適応しながら、地域の特性を踏まえた教育の在り方について考究し、地域の未来を担う人づくりに貢献できる」と特に関係がある科目である。国際コミュニケーション学科のディプロマ・ポリシー「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につけている」と関係がある科目である。「数理・データサイエンス・AI実践」につながる科目である。

授業の概要

ICT(情報通信技術)の進歩によってビッグデータをはじめとする様々なデータから、統計、科学的手法、人口知能(AI)を駆使して価値を引き出すデータサイエンスが求められている。この授業ではデータサイエンスの概略や代表的な数理的手法、なかでもAIのさまざまな手法や活用事例を学ぶ。さらに、データやAIの利活用において留意すべき事項も学習する。

到達目標

数理・データサイエンス・AIが、現在進行中の社会変化に深く寄与し、生活に影響を与えていることを説明できる。 数理・データサイエンス・AIが日常生活や社会の課題を解決するうえで有用であると同時に限界もあることについて説明できる。 数理・データサイエンス・AIが適用されることにより様々な領域であらたな価値がうみだされている実例をあげることができる。 数理・データサイエンス・AIを活用するにあたって留意すべき事(ELSI、個人情報保護、データを扱う上での倫理)について説明できる。 実際のデータが与えられたとき、そのデータの全体像をよみとり、その特徴を可視化するための手法を説明することができる。			
授業の方法 パワーポイント等を用いて講義形式ですすめる。Google Formを用いて意見を出し合う(第7回、第8回)。			
ICT活用 Google Formのテスト作成機能を用いて、宿題を出題する(全8回)。Google Formを用いて意見を出し合う(第7回、第8回)。			
実務経験のある教員の教育内容 該当なし			
課題に対するフィードバックの方法 フィードバックとして宿題の正解を表示するとともに、宿題と同時に提出された質問事項に答える。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	【データ・AI利活用により社会で起きている変化および最新動向】ICT(情報通信技術)の進歩によるビッグデータの集積やIoTの登場、およびAI ((Artificial Intelligence: 人工知能)の技術の発達、それらがもたらすSociety 5.0の社会をイメージできるようにする。【社会で活用されているデータ】データの種類、および社会でどのようにデータが活用されているかを学ぶ。【データ・AIの活用領域】AIとはなにか、AIの社会における利活用事例を学ぶ。【生成AIの活用の留意点】近年急速に発展した生成AIの特徴、弱点、利用にあたって留意すべき点を概説する。	ビッグデータ、IoT、Society 5.0、生成AIについて調べておく(90分)。	提示資料を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
第2回	【実データの取得とデータ分析のプロセス】データ分析のプロセスを概説したのち、外部団体(e-Stat等)の実データをインターネットから取得する方法、実データの加工解析の概要を学ぶ。【データの特徴を表す方法】データの分布(ヒストグラム)と代表値、データのばらつきについて概説する。2変数の関係を調べるための方法として、散布図からわかること、および相関と因果関係について学ぶ。データのグラフによる表現について学ぶ。	データの特徴を表す方法および2変数の関係を調べる方法について調べておく(90分)。	提示資料を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
第3回	【機械学習における学習方法】AIの分析で用いられる機械学習の3つの学習方法(教師あり、教師なし、強化学習)を理解する。【AIの手法1: 教師あり機械学習(回帰)】このうち教師あり機械学習の手法には回帰と分類があることを学ぶ。この中でまず回帰分析とそれらの応用事例を学ぶ。	機械学習とその学習方法について調べておく。また、このうち教師あり機械学習の回帰について調べておく(90分)。	提示資料を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			

第4回	【AIの手法2:教師あり学習(分類)】 教師あり機械学習の分類を行う手法のひとつとしてよく用いられるロジスティック回帰分析および決定木分析の概略を理解する。機械学習の分類における結果の検証方法を学ぶ。AIで問題となる過学習について理解する。	教師あり機械学習の分類、特にロジスティック回帰分析および決定木分析について調べておく(90分)。	提示資料を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
第5回	【AIの手法3 :教師なし学習】 教師なし機械学習の手法のうち、クラスティング、アソシエーション分析(=連関分析)について学ぶ。クラスティングはデータを似たもの同士にグループ分けする手法であり、ここではk-means法を紹介する。アソシエーション分析は同時に購入される商品セットやその確率を算出してマーケティング施策に活かすことができる手法である。 【AIの手法4 :ニューラルネットワーク】 ニューラルネットワーク、ディープラーニングの概略を学ぶ。ディープラーニングによる画像認識の概略を理解する。	教師なし機械学習のクラスティング、アソシエーション分析およびニューラルネットワークについて調べておく(90分)。	提示資料を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
第6回	【社会におけるAIの利活用の現場】 ロボティクス、生成AI、データサイエンスの3つの視点から社会におけるAI利活用の現場レベルの事例を紹介する。その中で共通の重要事項である【データの有用性×人の価値観】のアプローチについて学ぶ。 【実データを用いた解析と結果の共有・伝達方法】 データの共有・伝達に関して、ある企業のクラウドデータプラットフォームの活用事例を用いてデータ解析、共有、伝達の流れを紹介する。 【データ・AI利活用の最新動向】 国内・国外それぞれの最新のAI利活用事例を解説する中で、これからの社会の変化についての予測視点の提供を行う。 (ゲスト講師:山本光喜EZOAI代表)	AIが社会において利活用されている例を調べておく。また、クラウドデータプラットフォームとはなにかを調べておく(90分)	提示資料を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			

第7回	【データを守るうえでの留意事項ー情報セキュリティ・情報倫理】情報化社会におけるデータの守り方である情報セキュリティ、個人情報の保護、情報を扱う上での法規や倫理について理解する 【データ・AIを扱う上での留意事項1ーELSI、AIの公平性・平等性】すべての科学・技術に関する普遍的考え方であるELSI (Ethical: 倫理的、Legal: 法的、Social Issues: 社会的課題)について学ぶ。公平性、平等性を疎外するバイアスとはなにか、どのようなバイアスがありどのような問題が生じているのかについて学ぶ。	科学・技術に関する普遍的考え方であるELSI、AI利用における公平性、平等性を疎外するバイアスについて調べておく(90分)。	提示資料を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
第8回	【データ・AIを扱う上での留意事項2ーAIの透明性・説明可能性、AIに関する社会的課題】AIの透明性・説明可能性がなぜ必要なのか、それを実現するための技術などについて学ぶ。また、AIに関する様々な社会的課題 (AIにより人間が支配される可能性、人間の仕事の激減、AIによるトラブルと責任の所在、ビッグデータとプライバシー、AIの創作物に対する著作権)について学ぶ。	AI技術の発展がもたらすであろう様々な社会的課題について調べておく(90分)。	授業で行った全範囲について復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合 (%)	内容	
定期試験	0	なし	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	宿題の提出と授業内における提出ファイルにより評価する。
その他	0	なし
教科書		
なし		
参考文献		
AI/テラシーの教科書／浅岡伴夫他／東京電機大学出版局 Python3年生機械学習のしくみ／森巧尚／翔泳社 Q&A AIの法務と倫理／古川直裕他／中央経済社		
履修条件・留意事項等		

なし

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		教養科目 自然と科学					
科目名		数理・データサイエンス・AI実践				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	松岡 審爾						

授業の位置づけ

数理・データサイエンス・AIへの関心を高め、それを適切に理解し活用する基礎的な能力を養うための科目である。理学療法学専攻のディプロマ・ポリシー「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている」と関係がある科目である。作業療法学専攻のディプロマ・ポリシー「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている。」「科学的根拠に基づいた作業療法の実践のために必要な問題探求力と問題解決思考を身につけている。」と特に関係がある科目である。看護学科のディプロマ・ポリシー「看護学の本質を理解するために必要な、文理横断的かつ学際的な知識と論理的な思考力を有し、看護を取り巻く状況の変化に柔軟に対応できる。」と特に関係があり、「グローバル化の進展を視野に入れつつ、科学的思考と創造的思考で生涯にわたって看護学と医療保健の質向上に貢献できる。」と関係がある科目である。地域未来学科の「地域社会のデジタル化等の変化に適応しながら、地域の特性を踏まえた教育の在り方について考究し、地域の未来を担う人づくりに貢献できる」と特に関係がある科目である。国際コミュニケーション学科のディプロマ・ポリシー「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につけている」と関係がある科目である。

授業の概要

表計算ソフトやプログラミング言語であるPythonを用いて、インターネットから情報を取得してその特徴をとらえる方法、およびデータサイエンスで用いられるAIの手法を駆使してデータを分析する方法を習得する。

到達目標

インターネットから取得したデータを分析できる形に整えることができる。
 データを分析できる形に整えることができる。
 データの基本統計量の計算や可視化を行うことによりデータを読みとることができる。
 データの特徴を説明することができる。
 任意のデータファイルを読み込み、機械学習の教師あり学習の回帰、分類の手法でデータを分析することができる。

授業の方法

各人がパソコンを操作してExcelやPythonを実際に動かしながら学習してゆく(全8回)。説明部分はパワーポイント等を用いて講義形式ですすめる。

ICT活用

Google Formのテスト作成機能を用いて、宿題を出題する(全8回)。パソコンを用いた演習を行う(全8回)。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして宿題の正解を表示するとともに、宿題と同時に提出された質問事項に答える。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	【データを扱う方法】インターネットから取得されたデータを分析できる形に整える方法を習得する。 【データを読む方法】データの特徴を得るために表計算ソフトの分析ツールを用いて基本統計量(代表値の計算、データのばらつき(分散、標準偏差))を実際に計算する。データの分布を表すヒストグラムの作成法を習得する。	Excelで基本統計量を求める方法を調べておく(90分)。	提示資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第2回	【表計算ソフトを用いたデータの可視化による説明】グラフによるデータの表現を概観する。特に2変数のデータの間の関係を調べるために、表計算ソフトを用いた散布図の作成、相関係数の計算、および散布図から単回帰式を求める方法を習得する。また、分類の様子を概観するための層別散布図の作成方法を習得する。 【クロス集計】ピボットテーブルを活用してクロス集計を行う方法を習得する。	Excelによる散布図の作成、ピボットテーブルの作成方法を調べておく(90分)。	提示資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第3回	【AI開発を行う道具・Python入門】Google Colaboratoryを用いてプログラム言語であるPythonを実行する方法を習得する。 【プログラミングの基本1】Python言語を用いて、プログラミングの基本である3つの処理(順次処理、条件分岐、反復処理)のうち順次処理、条件分岐を体験する。	プログラミングの基本のうち順次処理、条件分岐について調べておく(90分)。	提示資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			

第4回	【プログラミングの基本2】Python言語を用いて、プログラミングの基本である3つの処理(順次処理、条件分岐、反復処理)のうち反復処理を体験する。 【Google Colaboratory上でのファイル読み込み】Google ColaboratoryにExcel形式やcsv形式のファイルを読み込みデータを使用できるようにする方法を習得する。 【Pythonを用いてデータを読み説明する方法】Pythonを用いた代表値の計算、データの分布やばらつき、2変数の相関を調べる方法を習得する。Python用のMatplotlibというライブラリーを用いてデータの可視化の方法を習得する。	プログラミングの基本のうち反復処理について調べておく(90分)。	提示資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第5回	【機械学習 教師あり学習(回帰)】回帰分析の概要を復習したのち重回帰において説明変数が量的変数の場合に限らず説明変数にダミー変数を含む場合の意味について学習する。表計算ソフトの分析ツールやPythonを用いて実際に回帰分析(単回帰、重回帰)を行う方法を習得するとともに、その活用法を学習する。	回帰分析について調べておく(90分)。	提示資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第6回	【機械学習 教師あり学習(分類)】Pythonのscikit-learnというライブラリーを用いて、分類を行うロジスティック回帰分析、決定木分析、ランダムフォレストなどの特徴を理解し、それらの実装を体験する。	機械学習における分類の手法について調べておく(90分)。	提示資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			

第7回	【機械学習 教師なし学習】多くの変数を少数の合成変数にまとめる手法である主成分分析について理解し、Pythonのscikit-learnを用いて主成分分析後の分類(ロジスティック回帰など)を体験する。また、k-means法によるクラスターリングを体験する。 【ニューラルネットワークを体験する】ニューラルネットワーク、ディープラーニングの概要を復習したのち、さらに詳細な理解をするためにA Neural Network Playgroundを用いてニューラルネットワークにおける隠れ層の意味、活性化関数、過学習と正則化、ハイパーパラメータについて学習する。	主成分分析およびクラスターリング手法であるk-means法について調べておく(90分)。	提示資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第8回	【Pythonによるニューラルネットワークの実装】PythonのKerasというライブラリーを用いてニューラルネットワークを実装する方法を習得する。 【データの分析実習】これまでに習得した機械学習の手法を用いてデータを分析する実習を行う。	教師あり学習における分類の各手法の特徴およびニューラルネットワークにおける隠れ層の意味、活性化関数、過学習と正則化、ハイパーパラメータについてこれまで習ったことを復習しておく。	授業で行った全範囲について復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	宿題の提出と授業内における提出ファイルにより評価する。
その他	0	なし
教科書		
なし		
参考文献		
AI/テラシーの教科書／浅岡伴夫他／東京電機大学出版局 Python3年生機械学習のしくみ／森巧尚／翔泳社 Q&A AIの法務と倫理／古川直裕他／中央経済社		
履修条件・留意事項等		

CL教室にてGoogleアカウントでログインができるようにID、パスワードがわかるようにしておいて下さい。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		教養科目 自然と科学					
科目名		統計の基礎				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	武田 裕康						

授業の位置づけ

教養科目のカリキュラムマップの「科学的知識を学ぶことにより、幅広く教養を身につけるための科目である」および、「数理・データサイエンス・AIへの関心を高め、それを適切に理解し活用する基礎的な能力を養う科目である。」と関連する。また、理学療法学専攻のディプロマ・ポリシーの「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている。(知識・技能)」、「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている。(知識・技能)」、「幅広く教養を高め、豊かな人間性と高い倫理観、社会変化への適応力を持ち、理学療法学の持続的な発展に貢献して社会を支えることができる。(関心・意欲・態度)」と関連する。また作業療法学専攻のディプロマ・ポリシーの「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている。(知識・技能)」と主に関連する。さらに地域未来学科のディプロマ・ポリシーの「地域社会のデジタル化等の変化に適応しながら、地域の特性を踏まえた教育の在り方について考究し、地域の未来を担う人づくりに貢献できる(思考・判断・表現)」と関連する科目である。

授業の概要

主としてネイマン-ピアソン理論に基づき、個々の数量的現象の変動や差異と有意性、および集団の特性と変化の推移を理解する手段として統計学の基本的な知識を身につける。さらに統計手法を利用して様々な自然現象や社会現象を把握する際の留意点を十分に理解したうえで、代表値の求め方や分散の取り扱い、相関関係の検討法、各種検定法の特性などを学び、コンピュータを利用して統計処理するための基本理論を学ぶ。

到達目標

1. データをもとにして統計的な記述を行いその特徴を見出すことができる。
2. 統計的推定の考え方を説明することができる。
3. 統計的検定の考え方を説明することができる。
4. 各種検定法の特性を理解し、データに適した方法を選択できる。
5. 統計検定を正しく行い、適切な検定結果から正しい結論を導くことができる。

授業の方法

パワーポイントと配布印刷物を用いて講義形式ですすめる。
理解度確認テストを実施するとともに、宿題を課す(全15回)。第6回以降の後半は問題解決を通じて能動的に学ぶアクティブ・ラーニング型となる。
フィードバックとして理解度確認テスト・宿題を実施後、解答の解説を行う。

ICT活用

Google Classroomの小テスト機能を用いて練習問題を提供し自主学習を促す。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして、理解度確認テスト・宿題を実施後、解答の解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	【記述統計①】データの整理と視覚化をおこなうための度数分布表とヒストグラム、また、データを代表する値である平均値と中央値、最頻値について高校までに学習した内容を確認する。また、統計処理の対象となるデータが4つの尺度(比例尺度、間隔尺度、順序尺度、名義尺度)に分類されることを学ぶ。	教科書1のp14～p27を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			
第2回	【記述統計②】データのばらつきを表す指標(散布度)である分散、標準偏差、四分位偏差について高校までに学習した内容を確認し、データの代表値と散布度の表し方を学ぶ。また、確率分布を理解し、二項分布および代表的な分布である正規分布の性質を理解する。	教科書1のp28～p31、p42～p48、p60～p67を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			
第3回	【推測統計①】統計的調査を母集団全体に行うことは実用的ではないので、標本を抽出して母集団の性質を推測する。まず母集団が正規分布することを仮定して標本から母数を推定する考え方を学んだのち、正規母集団の分散が既知のときに母平均を区間推定する方法を学ぶ。	教科書1のp84～p89、p96～p98、p100～p102、p106～p109、p112～p117を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			

第4回	【推測統計②】正規分布する母集団から標本抽出し、母分散を区間推定する方法を学ぶ。また、正規分布するが分散が未知の母集団、さらには分布も分散も未知の母集団から標本抽出し、母平均を区間推定する方法を学ぶ。これらの理解に必要な自由度、中心極限定理、t分布、カイ二乗分布を学ぶ。	教科書1のp94、p133～136、p71～p73、p96～p98、p118～p128、p68～p70を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			
第5回	【推測統計③】統計的検定の基本的手順を習得し、検定における「帰無仮説」「危険率」「棄却」等の考え方を理解する。あわせて、片側検定、両側検定の使い分けや判定の誤り(第1種の過誤、第2種の過誤)を学ぶ。	教科書1のp138～p154を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			
第6回	【実践編①】関連2群の差の検定法として「対応あるt検定」「ウィルコクソン符号付順位和検定」を学ぶ。これは同じ個体内での変化など、関連のある2つの量に差があるかどうかを判定できる。2つの検定のうちどれを用いるかは正規性の有無で判断するので、正規性の検定も習得する。	教科書2のp48～p51、p101～p110を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			

第7回	【実践編②】独立2群の差の検定法として「スチューデントのt検定」「ウェルチのt検定」「マン・ホイットニー検定」を学ぶ。これらの検定のうちどれを用いるかは正規性の検定、等分散性の検定により判断する。なお、等分散性の検定に必要なF分布についても紹介する。	教科書1のp74～p76、p167～p170 教科書2のp81～99を読んでもおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			
第8回	【実践編③】独立な多群(3群以上)の差を検定する方法として「一元配置分散分析」を分散分析の原理の基本とともに学ぶ。また、正規性や多群の等分散性がないときに用いる「クラスカル・ウォリス検定」、多群の等分散性の検定である「バートレット検定」を学ぶ。	教科書1のp192～p206 教科書2のp111～p124 を読んでもおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			
第9回	【実践編④】関連ある多群の差を検定する「重複(または反復)測定一元配置分散分析」を紹介する。また、2要因を同時に分析する「二元配置分散分析」を学ぶ。ここでは2要因の組合せに対してデータが1つの場合に用いる「繰り返しのない二元配置分散分析」「フリードマン検定」を学ぶ。	教科書1のp207～p213 教科書2のp125～p130、p139～p148を読んでもおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			

第10回	【実践編⑤】分散分析では多群のどこかに差があるかを検定するが、どの群とどの群に差があるかはわからない。これを明らかにする検定が多重比較である。ここではその概念を学び様々な多重比較法を紹介する。	教科書2のp165～p195が範囲だが、このうちp165、p168～p172を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			
第11回	【実践編⑥】2要因の組合せに対してデータが複数存在する場合に用いる「繰り返しのある二元配置分散分析」について学ぶ。またここで得られる2要因の絡みあいの指標＝「交互作用」の解釈も学ぶ。さらに、「重複測定二元配置分散分析」についても紹介する。	教科書1のp218～p226 教科書2のp149～p163を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			
第12回	【実践編⑦】2つの変量の間に相関関係があるかどうかを調べる「ピアソンの相関係数の検定」「スピアマンの順位相関係数検定」を学び、ここで得られる相関係数の意味を学ぶ。また、回帰分析のうち単回帰分析について学ぶ。	教科書1のp34～p40、p172～p184 教科書2のp197～p218を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			

第13回	【実践編⑧】「2×2分割表」について学ぶ。これは2つの名義尺度の変数があり、各変数が2つの値しかとらないとき、変数間の関連の有無を調べる検定法である。ここでは、「カイ2乗独立性の検定」、「フィッシャーの直接確率計算法」、「マクニマー法」について学ぶ。	教科書2のp239～p253を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			
第14回	【実践編⑨】「m×n分割表」について学ぶ。これは2つの名義尺度か順序尺度の変数があり、少なくとも1つの変数が3つ以上の値をとるとき、変数間の関連の有無を調べる検定法である。ここでは「カイ2乗独立性の検定」等について学ぶ。	教科書2のp259～p276を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			
第15回	【実践編⑩】実践編の総まとめとして、調査したいデータに対してどの検定を選択したらよいかを習得する。 【番外編】統計的検定の問題点について考察する。効果の大きさをあらわす統計的指標である効果量について簡単に紹介する。	教科書2でこれまで行った検定法を復習しておくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	50	各講義中に提出する理解度確認テストの提出(15回)
その他	50	各回ごとの宿題の提出(15回)
教科書		
1. 統計解析がわかる／涌井良幸, 涌井貞美／技術評論社 2. 4steps エクセル統計(第5版)／柳井久江／オーエムエス出版		
参考文献		

なし
履修条件・留意事項等
特になし
備考欄
特になし

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		教養科目 外国語					
科目名		英語 I (1組)				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	Patrick Hall						

授業の位置づけ

地域未来学科のディプロマポリシーの「地域社会の中核的コーディネーターとして、多様な主体とのつながりを生み出し、包摂的で持続可能な地域コミュニティを他者と共創できる(知識・技能)」ことと関係がある科目である。

授業の概要

本科目では、英語のリスニング、スピーキング、リーディング、ライティング、プレゼンテーションのスキルを習得する。これらのスキルは、英語で効果的にコミュニケーションを行うために必要であり、講義は参加型の学習スタイルを取る。ネイティブスピーカーと英語を話す機会を得るとともに、第2言語として英語を話す機会が提供される。

到達目標

Students will practice everyday English skills needed for basic interpersonal communication. Focus will be on speaking, listening, and reading, and being able to describe basic things, ask and answer questions, explain and react appropriately, using good, clear, basic grammar constructions. Although the broad focus is general skills, attention will also be given to interacting with patients in a medical setting. (i.e. greeting patients, asking about their condition, giving instructions, etc.)

授業の方法

This is a lecture class where students will listen to the teacher's instruction and do exercises from the textbook. Based upon the activity, student will engage in pair-work, groupwork as well as work individually on various tasks.

ICT活用

If needed, this class may utilize Google Classroom as a Learning Management System (LMS).

実務経験のある教員の教育内容

Not Applicable

課題に対するフィードバックの方法

The teacher will give feedback by explaining the answers of the exercises, commenting on students' performance, and grading assignments.

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	Class intro, syllabus, Unit 0	Go over syllabus and Unit 0 vocab (25 minutes)	Prepare Unit 1 p.12-16, p.I (20minutes)
担当教員			
第2回	Unit 1 Part I p. 12-16: Introducing self, giving and getting information from patients or others	Review Unit 1 part I p. 2-16 vocabulary and concepts (25minutes)	Please read and prepare Unit I part II p. 17-19 (20 Min)
担当教員			
第3回	Unit 1 Part II p.17-19: Introducing self, giving and getting information from patients or others	Review unit 1 vocabulary and concepts (25minutes)	Please read and prepare Unit 2, p.20-24 (20 Min)
担当教員			

第4回	Unit 2, Part I p.20-24: Describing people, Be vs. Have grammar point, medical conditions	Review unit 2 p.20-24 vocabulary and concepts (25minutes)	Please read and prepare Unit 2 Part II (p.25-27) (20 Min)
担当教員			
第5回	Unit 2, Part II p.25-27: Describing people, Be vs. Have grammar point, medical conditions	Review unit 2 vocabulary and concepts (25minutes)	Please read and prepare Unit 3 (p28-32) (20 Min)
担当教員			
第6回	Unit 3, Part I p28-32: Schedules and routines. Making appointments with patients	Review unit 3 (p28-32) vocabulary and concepts (25minutes)	Please read and prepare Unit 3 Part II (p33-35) (20 Min)
担当教員			

第7回	Unit 3, Part II p33-35: Schedules and routines. Test Prep.	Prepare for Test!! (25minutes)	Review vocabulary and concepts (20 Min)
担当教員			
第8回	Midterm	Review concepts you had trouble with on test (25Min)	Prepare for Unit 4 Part I, p. 36-40 (20 Min)
担当教員			
第9回	Unit 4, Part I, p36-40: Describing basic physical things and relations (there is/there are etc.)	Review unit 4 (p36-40) vocabulary and concepts (25minutes)	Please read and prepare p41-43 (20 Min)
担当教員			

第10回	Unit 4 Part II, p41-43: Describing basic physical things and relations (there is/there are etc.)	Review unit 4 vocabulary and concepts (25minutes)	Please read and prepare Unit 5, p.44-48 (20 Min)
担当教員			
第11回	Unit 5 Part I, p.44-48: Giving and receiving directions, use of basic prepositions. Room Picture activity.	Review unit 5 p. 44-48 vocabulary and concepts (25minutes)	Please read and prepare Unit 5 Part II (p.49-51) (20 Min)
担当教員			
第12回	Unit 5 Part II, p.49-51: Giving and receiving directions, use of basic prepositions. Room Picture activity.	Review unit 5 (p.49-51) vocabulary and concepts (25minutes)	Please read and prepare Unit 6 (p.52-56) (20 Min)
担当教員			

第13回	Unit 6, Part I, p52-56: Describing past actions.	Review Unit 6 (p.52-56) (25 Min)	Please read and prepare Unit 6 Part II (p57-59) (20 Min)
担当教員			
第14回	Unit 6, Part II, p57-59: Describing past actions. Side by Side activity: Explaining a visit to a doctor's office in present and past tense. Test prep.	Review Units 4-6 thoroughly!! (as much time as you need, 1 hour mininum!)	Prepare for final exam!! (please study hard)
担当教員			
第15回	Final exam	Be sure all assignments have been completed and given to the teacher (perhaps 25 minutes to assess)	If you have any makeup work or late assignments, complete them and send to Professor (20 minutes, if necessary)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	Midterm 30 Final 40 Attendance and participation, quizzes 30
その他	0	
教科書		
English Firsthand, Fifth Edition Written by March Helgesen, John Wiltshier, Steven Brown Published by Pearson		
参考文献		

Handouts will be given in class

履修条件・留意事項等

please bring textbook, paper, pen or pencil, and previous handouts to each class

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		教養科目 外国語					
科目名		英語 I (2組)				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	Patrick Hall						

授業の位置づけ

地域社会の中核的コーディネーターとして、多様な主体とのつながりを生み出し、包摂的で持続可能な地域コミュニティを他者と共創できる(知識・技能)

授業の概要

本科目では、英語のリスニング、スピーキング、リーディング、ライティング、プレゼンテーションのスキルを習得する。これらのスキルは、英語で効果的にコミュニケーションを行うために必要であり、講義は参加型の学習スタイルを取る。ネイティブスピーカーと英語を話す機会を得るとともに、第2言語として英語を話す機会が提供される。

到達目標

Students will practice everyday English skills needed for basic interpersonal communication. Focus will be on speaking, listening, and reading, and being able to describe basic things, ask and answer questions, explain and react appropriately, using good, clear, basic grammar constructions. Although the broad focus is general skills, attention will also be given to interacting with patients in a medical setting. (i.e. greeting patients, asking about their condition, giving instructions, etc.)

授業の方法

This is a lecture class where students will listen to the teacher's instruction and do exercises from the textbook. Based upon the activity, student will engage in pair-work, groupwork as well as work individually on various tasks.

ICT活用

If needed, this class may utilize Google Classroom as a Learning Management System (LMS).

実務経験のある教員の教育内容

Not Applicable

課題に対するフィードバックの方法

The teacher will give feedback by explaining the answers of the exercises, commenting on students' performance, and grading assignments.

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	Class intro, syllabus, Unit 0	Go over syllabus and Unit 0 vocab (90 minutes)	Prepare Unit 1 p.12-16, p.I (90 minutes)
担当教員			
第2回	Unit 1 Part I p. 12-16: Introducing self, giving and getting information from patients or others	Review Unit 1 part I p. 2-16 vocabulary and concepts (90 minutes)	Please read and prepare Unit I part II p. 17-19 (90 Min)
担当教員			
第3回	Unit 1 Part II p.17-19: Introducing self, giving and getting information from patients or others	Review unit 1 vocabulary and concepts (90 minutes)	Please read and prepare Unit 2, p.20-24 (90 Min)
担当教員			

第4回	Unit 2, Part I p.20-24: Describing people, Be vs. Have grammar point, medical conditions	Review unit 2 p.20-24 vocabulary and concepts (90 minutes)	Please read and prepare Unit 2 Part II (p.25-27) (90 Min)
担当教員			
第5回	Unit 2, Part II p.25-27: Describing people, Be vs. Have grammar point, medical conditions	Review unit 2 vocabulary and concepts (90 minutes)	Please read and prepare Unit 3 (p.28-32) (90 Min)
担当教員			
第6回	Unit 3, Part I p.28-32: Schedules and routines. Making appointments with patients	Review unit 3 (p.28-32) vocabulary and concepts (90 minutes)	Please read and prepare Unit 3 Part II (p.33-35) (90 Min)
担当教員			

第7回	Unit 3, Part II p33-35: Schedules and routines. Test Prep.	Prepare for Test!! (90 minutes)	Review vocabulary and concepts (90 Min)
担当教員			
第8回	Midterm	Review concepts you had trouble with on test (90 Min)	Prepare for Unit 4 Part I, p. 36-40 (90 Min)
担当教員			
第9回	Unit 4, Part I, p36-40: Describing basic physical things and relations (there is/there are etc.)	Review unit 4 (p36-40) vocabulary and concepts (90 minutes)	Please read and prepare p41-43 (20 Min)
担当教員			

第10回	Unit 4 Part II, p41-43: Describing basic physical things and relations (there is/there are etc.)	Review unit 4 vocabulary and concepts (90 minutes)	Please read and prepare Unit 5, p.44-48 (90 Min)
担当教員			
第11回	Unit 5 Part I, p.44-48: Giving and receiving directions, use of basic prepositions. Room Picture activity.	Review unit 5 p. 44-48 vocabulary and concepts (90 minutes)	Please read and prepare Unit 5 Part II (p.49-51) (90 Min)
担当教員			
第12回	Unit 5 Part II, p.49-51: Giving and receiving directions, use of basic prepositions. Room Picture activity.	Review unit 5 (p.49-51) vocabulary and concepts (90 minutes)	Please read and prepare Unit 6 (p.52-56) (90 Min)
担当教員			

第13回	Unit 6, Part I, p52-56: Describing past actions.	Review Unit 6 (p.52-56) (905 Min)	Please read and prepare Unit 6 Part II (p57-59) (90 Min)
担当教員			
第14回	Unit 6, Part II, p57-59: Describing past actions. Side by Side activity: Explaining a visit to a doctor's office in present and past tense. Test prep.	Review Units 4-6 thoroughly!! (as much time as you need, 1 hour mininum!)	Prepare for final exam!! (please study hard) (90+ Minutes)
担当教員			
第15回	Final exam	Be sure all assignments have been completed and given to the teacher (perhaps 90 minutes to assess)	If you have any makeup work or late assignments, complete them and send to Professor (90 minutes, if necessary)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	Midterm 30 Final 40 Attendance and participation, quizzes 30
その他	0	
教科書		
English Firsthand, Fifth Edition Written by March Helgesen, John Wiltshier, Steven Brown Published by Pearson		
参考文献		

Handouts will be given in class.

履修条件・留意事項等

Please bring textbook, paper, pen or pencil, and previous handouts to each class.

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		教養科目 外国語					
科目名		英語 I (3組)				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	Patrick Hall						

授業の位置づけ

地域未来学科のディプロマポリシーの「地域社会の中核的コーディネーターとして、多様な主体とのつながりを生み出し、包摂的で持続可能な地域コミュニティを他者と共創できる(知識・技能)」ことと関係がある科目である。

授業の概要

本科目では、英語のリスニング、スピーキング、リーディング、ライティング、プレゼンテーションのスキルを習得する。これらのスキルは、英語で効果的にコミュニケーションを行うために必要であり、講義は参加型の学習スタイルを取る。ネイティブスピーカーと英語を話す機会を得るとともに、第2言語として英語を話す機会が提供される。

到達目標

Students will practice everyday English skills needed for basic interpersonal communication. Focus will be on speaking, listening, and reading, and being able to describe basic things, ask and answer questions, explain and react appropriately, using good, clear, basic grammar constructions. Although the broad focus is general skills, attention will also be given to interacting with patients in a medical setting. (i.e. greeting patients, asking about their condition, giving instructions, etc.)

授業の方法

This is a lecture class where students will listen to the teacher's instruction and do exercises from the textbook. Based upon the activity, student will engage in pair-work, groupwork as well as work individually on various tasks.

ICT活用

If needed, this class may utilize Google Classroom as a Learning Management System (LMS).

実務経験のある教員の教育内容

Not Applicable

課題に対するフィードバックの方法

The teacher will give feedback by explaining the answers of the exercises, commenting on students' performance, and grading assignments.

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	Class intro, syllabus, Unit 0	Go over syllabus and Unit 0 vocab (25 minutes)	Prepare Unit 1 p.12-16, p.I (20minutes)
担当教員			
第2回	Unit 1 Part I p. 12-16: Introducing self, giving and getting information from patients or others	Review Unit 1 part I p. 2-16 vocabulary and concepts (25minutes)	Please read and prepare Unit I part II p. 17-19 (20 Min)
担当教員			
第3回	Unit 1 Part II p.17-19: Introducing self, giving and getting information from patients or others	Review unit 1 vocabulary and concepts (25minutes)	Please read and prepare Unit 2, p.20-24 (20 Min)
担当教員			

第4回	Unit 2, Part I p.20-24: Describing people, Be vs. Have grammar point, medical conditions	Review unit 2 p.20-24 vocabulary and concepts (25minutes)	Please read and prepare Unit 2 Part II (p.25-27) (20 Min)
担当教員			
第5回	Unit 2, Part II p.25-27: Describing people, Be vs. Have grammar point, medical conditions	Review unit 2 vocabulary and concepts (25minutes)	Please read and prepare Unit 3 (p28-32) (20 Min)
担当教員			
第6回	Unit 3, Part I p28-32: Schedules and routines. Making appointments with patients	Review unit 3 (p28-32) vocabulary and concepts (25minutes)	Please read and prepare Unit 3 Part II (p33-35) (20 Min)
担当教員			

第7回	Unit 3, Part II p33-35: Schedules and routines. Test Prep.	Prepare for Test!! (25minutes)	Review vocabulary and concepts (20 Min)
担当教員			
第8回	Midterm	Review concepts you had trouble with on test (25Min)	Prepare for Unit 4 Part I, p. 36-40 (20 Min)
担当教員			
第9回	Unit 4, Part I, p36-40: Describing basic physical things and relations (there is/there are etc.)	Review unit 4 (p36-40) vocabulary and concepts (25minutes)	Please read and prepare p41-43 (20 Min)
担当教員			

第10回	Unit 4 Part II, p41-43: Describing basic physical things and relations (there is/there are etc.)	Review unit 4 vocabulary and concepts (25minutes)	Please read and prepare Unit 5, p.44-48 (20 Min)
担当教員			
第11回	Unit 5 Part I, p.44-48: Giving and receiving directions, use of basic prepositions. Room Picture activity.	Review unit 5 p. 44-48 vocabulary and concepts (25minutes)	Please read and prepare Unit 5 Part II (p.49-51) (20 Min)
担当教員			
第12回	Unit 5 Part II, p.49-51: Giving and receiving directions, use of basic prepositions. Room Picture activity.	Review unit 5 (p.49-51) vocabulary and concepts (25minutes)	Please read and prepare Unit 6 (p.52-56) (20 Min)
担当教員			

第13回	Unit 6, Part I, p52-56: Describing past actions.	Review Unit 6 (p.52-56) (25 Min)	Please read and prepare Unit 6 Part II (p57-59) (20 Min)
担当教員			
第14回	Unit 6, Part II, p57-59: Describing past actions. Side by Side activity: Explaining a visit to a doctor's office in present and past tense. Test prep.	Review Units 4-6 thoroughly!! (as much time as you need, 1 hour mininum!)	Prepare for final exam!! (please study hard)
担当教員			
第15回	Final exam	Be sure all assignments have been completed and given to the teacher (perhaps 25 minutes to assess)	If you have any makeup work or late assignments, complete them and send to Professor (20 minutes, if necessary)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	Midterm 30 Final 40 Attendance and participation, quizzes 30
その他	0	
教科書		
English Firsthand, Fifth Edition Written by March Helgesen, John Wiltshier, Steven Brown Published by Pearson		
参考文献		

Handouts will be given in class

履修条件・留意事項等

please bring textbook, paper, pen or pencil, and previous handouts to each class

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		教養科目 外国語					
科目名		英語Ⅱ				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	相馬 哲也						

授業の位置づけ

本科目は、外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を修得する科目である。前期に配置されている「英語Ⅰ」はネイティブ・スピーカー教員によるすべて英語で行われる会話の授業であるが、この後期に配置されている「英語Ⅱ」は日本人教員による専門用語等の説明において、必要に応じて日本語を使用する授業である。こうしたことを通じて、英語圏の国で日常生活に不便を感じないレベルの英語力を身に付けることを目指す授業である。

授業の概要

本授業では、高等学校での学習を基に比較的まとまりのある英文を正しく、丁寧に読み取ることを目的に、発音、語彙、語法、慣用的表現の解説と訓練を行うとともに、具体的な場面を設定して英語で自己表現することができるようになることを目的とする。

到達目標

- 基礎的語彙に慣れ親しむことができる。
- 日本語に訳することなしに英文の意味を理解するとともに、パラグラフ単位で意味が把握できる。
- 具体的な場面における英会話の基礎を身に付け、発話できる。

授業の方法

教科書を中心に、プレゼン資料や板書と配布印刷物を用いた演習形式で行う。
ほぼ毎回、単語テストまたは、確認テストを行う。(全13回) 授業内でその解説も行う。

ICT活用

プレゼンテーションソフトによる教材提示やリスニングを行うとともに、グーグルクラスルームを活用して、課題提出などを行う。

実務経験のある教員の教育内容

中学校・高校で17年間、英語教員として指導した経験を生かす。

課題に対するフィードバックの方法

ほぼ毎回単語テストまたは、確認テストを行う。(全13回) 授業内でその解説も行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	◎オリエンテーション ・授業の進め方や評価方法を理解する。 ◎Unit1 For here, or to go? ・ファストフード店での注文に関する表現を学ぶ。	・Unit1 を事前に読んでおくこと。(25分)	・Unit1 に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員	相馬 哲也		
第2回	◎Unit2 How many are in your party? ・レストランでの来客対応に関する表現を学ぶ。	・Unit2 を事前に読んでおくこと。(25分)	・Unit2 に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員	相馬 哲也		
第3回	◎Unit3 I'll be right back. ・レストランでの接客サービスに関する表現を学ぶ。	・Unit3 を事前に読んでおくこと。(25分)	・Unit3 に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員	相馬 哲也		

第4回	◎Unit4 Would you like me to heat this up? ・コンビニやスーパーでの接客サービスに関する表現を学ぶ。	・Unit4 を事前に読んでおくこと。(25分)	・Unit4 に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員	相馬 哲也		
第5回	◎Unit5 Your total comes to 3,240 yen. ・買い物や飲食の会計に関する表現を学ぶ。	・Unit5 を事前に読んでおくこと。(25分)	・Unit5 に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員	相馬 哲也		
第6回	◎Unit6 I'm truly sorry for the trouble ・商品やサービスへの苦情とその対応に関する表現を学ぶ。	・Unit6 を事前に読んでおくこと。(25分)	・Unit6 に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員	相馬 哲也		

第7回	◎Review1 (Unit1-6) ・Unit1からUnit6までの復習をする。	・Review1 を事前に読んで、取り組んでおくこと。(25分)	・Review1に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員	相馬 哲也		
第8回	◎Unit7 Do you have a reservation? ・ホテルや旅館での宿泊受付に関する表現を学ぶ。	・Unit7を事前に読んでおくこと。(25分)	・Unit7 に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員	相馬 哲也		
第9回	◎Unit8 Wi-Fi is available in this area. ・客が利用できるサービスや近隣情報の案内に関する表現を学ぶ。	・Unit8 を事前に読んでおくこと。(25分)	・Unit8 に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員	相馬 哲也		

第10回	◎Unit9 I highly recommend Sakura Restaurant. ・旅行者の希望に応じた店や観光地などの提案に関する表現を学ぶ。	・Unit9 を事前に読んでおくこと。(25分)	・Unit9 に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員	相馬 哲也		
第11回	◎Unit10 Turn right at the first intersection. ・道案内に関する表現を学ぶ。	・Unit11 を事前に読んでおくこと。(25分)	・Unit11 に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員	相馬 哲也		
第12回	◎Unit11 Take the subway to Hommachi. ・交通案内や観光施設の情報提供に関する表現を学ぶ。	・Unit11 を事前に読んでおくこと。(25分)	・Unit11 に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員	相馬 哲也		

第13回	◎Unit12 First, put the money in the machine. ・券売機や電化製品の使用方法の説明に関する表現を学ぶ。	・Unit12 を事前に読んでおくこと。(25分)	・Unit12 に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員	相馬 哲也		
第14回	◎Review2 (Unit7-12) ・Unit7からUnit12までの復習をする。	・Review2 を事前に読んで、取り組んでおくこと。(25分)	・Review2に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員	相馬 哲也		
第15回	◎まとめ ・この授業のまとめを行う。	・総復習して、課題に取り組むこと。(35分)	・学んだ内容のポイントを整理しておくこと。(10分)
担当教員	相馬 哲也		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業への取組状況(20%)、授業内小テスト(60%)、課題(20%)
その他	0	
教科書		
You're welcome! / Tae Kudo / センゲージラーニング		
参考文献		

履修条件・留意事項等

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		教養科目 外国語					
科目名		韓国語 I				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	曹 順姫						

授業の位置づけ

ディプロマポリシーの外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を修得する科目である。

授業の概要

韓国語と日本語は似ていて比較的学び易いといわれるが、両者は文字や発音の面ではかなり異なる言語ある。具体的には、基本子音、基本母音の読み書きを学び、激音および濃音の子音、合成母音の順で覚える。課ごと基本会話を取り入れながら、パッチムやそれによる発音変化について学ぶ。

到達目標

文字(ハングル)を正しい発音で読め、書けるようにする。
簡単な基本会話を身につける。

授業の方法

パワーポイントや視覚教材、メディアなどを用いる
学生の積極的な参加を要する実技形式の授業である。

ICT活用

Google Classroomを用いた双方向授業を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

Google Classroomを用いて実施した、理解度確認テストおよび宿題の解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	①授業ガイダンス(授業の進行、留意点、成績評価など) ②第00課 韓国語とハングル ③簡単な自己紹介練習	なし	教科書p8～p9の復習 自己紹介を覚える。(90分)
担当教員			
第2回	第1課 基本母音 基本会話①	第1回目の授業内容の復習(90分) 教科書p10～p11	基本母音を覚える。(90分) 授業中に学んだ単語の暗記と課題
担当教員			
第3回	第2課 基本子音字(平音①) ・有声音について 小テスト①	第2回目の授業内容の復習。 (90分) 教科書p12～	基本子音字(平音①)を覚える。 授業中に学んだ単語の暗記と課題。(90分)
担当教員			

第4回	第2課 基本子音字(平音②) ・有声音化について②	第3回目の授業内容の復習。 (90分) 教科書p13～	基本子音字(平音②)を覚える。 授業中に学んだ単語の暗記と 課題。(90分)
担当教員			
第5回	第2課 基本子音字(激音) 基本会話② 小テスト②	第4回目の授業内容の復習。 (90分) 教科書p13～	基本子音字(激音)を覚える。 授業中に学んだ単語の暗記と 課題。(90分)
担当教員			
第6回	第3課 合成母音 基本会話③	第5回目の授業内容の復習。 (90分) 教科書p16～p17	合成母音を覚える。 授業中に学んだ単語の暗記と 課題。(90分)
担当教員			

第7回	第3課 合成子音 基本会話④ 小テスト③	第6回目の授業内容の復習。 (90分) 教科書p20~p21	合成子音を覚える。 授業中に学んだ単語の暗記と 課題。(90分)
担当教員			
第8回	第5課 パッチム(終声)	第7回目の授業内容の復習。 (90分) 教科書p22~23	合成子音を覚える。 授業中に学んだ単語の暗記と 課題。(90分)
担当教員			
第9回	仮名のハングル表記 基礎会話⑤ 小テスト④	第9回目の授業内容の復習。 (90分) 教科書p25~	仮名のハングル表記と課題。 (90分) 名前をハングルで書く。
担当教員			

第10回	第6課 連音化 1文字パッチムの連音化 2文字パッチムの連音化と連音化の例外	第9回目の授業内容の復習。 (90分) 教科書p26~p27	連音化の単語の暗記と課題。 (90分)
担当教員			
第11回	連音化の応用(k-pop通して学ぶ) 基礎会話⑥ 小テスト⑤	第10回目の授業内容の復習。(90分) 教科書p28練習問題1.2	韓国語の歌詞の応用と課題。 (90分)
担当教員			
第12回	韓国について学ぶ ソウルの地下鉄 韓国プチ観光	ハングル読みの復習 教科書p19・p29を読む。(90分)	ハングル読みの課題。(90分)
担当教員			

第13回	第7課 アンニョンハセヨ？私は日本人です。① 助詞(は)、名詞＋です・ですか	ハングル単語の復習 教科書p30～p31	助詞(は)、名詞の～です・ですか の復習課題 進出名詞、国名の復習
担当教員			
第14回	第7課 アンニョンハセヨ？私は日本人です。② 鼻音化、自己紹介:と言います/申します。 小テスト⑥	第13回目の授業内容の復習。(90分) 教科書p32～p33	発音の変化の復習と課題。(90分) 自己紹介の文の暗記。
担当教員			
第15回	第7課 アンニョンハセヨ？私は日本人です。③ 会話文⑦と国名と職業の色々 前期復習	第14回目の授業内容の復習。(90分) 教科書p34～p35	第7課の復習。 前期復習課題。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	90	課題40% 小テスト30% 参加度20
その他	10	遅刻、理由無き欠席は減点します。
教科書		
「教養韓国語 初級」金智賢 著:朝日出版社		
参考文献		

なし
履修条件・留意事項等
授業15回中5回以上の欠席は単位が出せません。(5回まで)
備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		教養科目 外国語					
科目名		韓国語Ⅱ				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	権 永慶						

授業の位置づけ

本授業は、外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を修得する科目である。
 韓国語Ⅱは韓国語Ⅰより、一歩進んだ発話と基礎文法を学ぶ。
 グローバル社会の中で世界の人々と交流するためのコミュニケーション能力を備えるための初級韓国語を学ぶ。

授業の概要

「韓国語Ⅰ」同様に教科書に沿って文法を学び会話力を身につける。本授業では、基本的なコミュニケーションを可能なものにするための手助けになり、話したい内容をより豊かに表現できるよう正しい発音で音読したり、学んだ表現を用い会話したりする練習をも行う。

到達目標

韓国語で趣味や好きなことなどを話せ、相手にも聞けるようにする。韓国のwebサイトや新聞から情報を入手できるようにする。

授業の方法

パワーポイントや視覚教材、メディアなどを用いる
学生の積極的な参加を要する実技形式の授業である

ICT活用

Google Classroomを用いた双方向授業を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

なし

課題に対するフィードバックの方法

Google Classroomを用いて実施した、理解度確認テストおよび課題の解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	授業ガイダンス 前期復習	前期復習(90分)	授業内容の復習と課題。(90分)
担当教員			
第2回	第8課 これは何ですか。① こそあど、体言の否定、助詞 の、と 家族の呼称	第1回目の授業内容の復習(90分) 教科書p36～p38	こそあど、体言の否定、助詞 の、と 家族の呼称 授業中に学んだ単語の暗記と課題。(90分)
担当教員			
第3回	第8課 これは何ですか。② 会話⑧、基本名詞 小テスト①	第2回目の授業内容の復習(90分) 教科書p39～p42	会話⑧、基本名詞 授業中に学んだ単語の暗記と課題。(90分)
担当教員			

第4回	第9課 学校はどこにありますか。① 助詞 が、に、と 存在詞 ある/ない	第3回目の授業内容の復習 (90分) 教科書p44～p47	助詞 が、に、と 存在詞 ある/ない 授業中に学んだ単語の暗記と課題。(90分)
担当教員			
第5回	第9課 学校はどこにありますか。② 位置名詞、会話⑨、場所名詞 小テスト②	第4回目の授業内容の復習 (90分) 教科書p48～p49	会話⑨ 場所名詞 授業中に学んだ単語の暗記と課題。(90分)
担当教員			
第6回	第10課 午後に何をしますか。① 用言＋です/ます 助詞 時間 に、場所 に、で、を	第5回目の授業内容の復習 (90分) 教科書p50～p53	用言＋です/ます 助詞 時間 に、場所のに、で、を 授業中に学んだ単語の暗記と課題。(90分)
担当教員			

第7回	第10課 午後に何をしますか。② 会話⑩ 基本動詞 と反対語 小テスト③	第6回目の授業内容の復習 (90分) 教科書p54～p55	会話⑩ 基本動詞 反対語 授業中に学んだ単語の暗記と課題。(90分)
担当教員			
第8回	第11課 誕生日はいつですか。① 漢数詞、曜日	第7回目の授業内容の復習 (90分) 教科書p56～p58	漢数詞、曜日 授業中に学んだ単語の暗記と課題。(90分)
担当教員			
第9回	第11課 誕生日はいつですか。② 後置否定形、会話⑪ 小テスト④	第8回目の授業内容の復習 (90分) 教科書p58～p61	後置否定形、会話⑪ 授業中に学んだ単語の暗記と課題。(90分)
担当教員			

第10回	第12課 どちらにお住まいですか。① 尊敬形、口語体助詞 と、副詞	第9回目の授業内容の復習 (90分) 教科書p62～p64	尊敬形、口語体助詞 と、副詞 授業中に学んだ単語の暗記と課題。(90分)
担当教員			
第11回	第12課 どちらにお住まいですか。② 会話⑫ 体の名称 小テスト⑤	第10回目の授業内容の復習 (90分) 教科書p65～p67	会話⑫ 体の名称 授業中に学んだ単語の暗記と課題。(90分)
担当教員			
第12回	第13課 どんな映画が好きですか。① へヨ体	第11回目の授業内容の復習 (90分) 教科書p68～p70	へヨ体 授業中に学んだ単語の暗記と課題。(90分)
担当教員			

第13回	第13課 どんな映画が好きですか。② 前置否定形、会話⑬、趣味名詞 小テスト⑤	第12回目の授業内容の復習(90分) 教科書p71～p73	前置否定形、会話⑬、趣味名詞 授業中に学んだ単語の暗記と課題。(90分)
担当教員			
第14回	韓国文化を学ぶ:映画鑑賞	第13回目の授業内容の復習(90分)	感想文を書く
担当教員			
第15回	第14課 固有数詞 前期復習	前期復習(90分) 教科書p74～p75	前期復習 授業中に学んだ単語の暗記と課題。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	90	課題40% 小テスト30% 参加度20%
その他	10	遅刻、理由無き欠席は減点します。
教科書		
「教養韓国語 初級」金智賢 著:朝日出版社		
参考文献		

なし
履修条件・留意事項等
授業15回中5回以上の欠席は単位が出せません。(5回まで)
備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		教養科目 スポーツと健康					
科目名		生涯スポーツ I (1組)				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	平岡 英樹						

授業の位置づけ

様々なスポーツについての理解と実践方法を学ぶための科目である。

授業の概要

体育としてのスポーツ、楽しみ実践するスポーツ、レクリエーションとスポーツ、競技としてのスポーツ等々について概念を明確にする。また、健康的で楽しい生活を送るためのスポーツ活動の意義を理解し、具体的な実技を通して、個々の身体的・精神的な健康レベルを向上させながら、生涯学習とは何か、生涯学習に果たすスポーツの役割について考察し、生涯にわたってスポーツを継続していくための基礎知識を習得する。

到達目標

- ①スポーツ・運動することの楽しさや重要性を理解することができるようになる。
- ②ルールやマナーを理解し、ゲームを通して仲間を尊重するところを育てることができるようになる。
- ③日常生活において健康への意識を高め、体力の維持・増進を目指せるようになる。
- ④生涯を通じて積極的に且つ楽しく、スポーツや運動に親しむ意識を持ち、それを習慣化できるようになる。

授業の方法

チーム(グループ)分けをし、ゲームを中心として進める。
ゲーム内容や勝敗をもとに、技術の習得やチームワーク等を確認する。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとしては、ゲームによる個人技術の確認と評価

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	授業内容についてのガイダンス 授業内容の説明、受講上の注意事項、評価等についての解説する。	シラバスで授業の内容を確認する。(20分)	受講に関しての注意事項等を確認する。(25分)
担当教員			
第2回	ソフトバレーボール(1) 基礎的なパス練習・アタック練習を行う。	ソフトバレーボールとはどのような競技なのかを調べておく。(20分)	基礎技術・ルールを確認する。(25分)
担当教員			
第3回	ソフトバレーボール(2) 練習した技術をゲームの中で活用する	戦術・コンビネーションプレーを考える。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			

第4回	バドミントン・卓球(1) 基礎・応用練習ーサーブ・様々なストローク・ショットの練習を行う。	簡単なルールを調べる。(20分)	基本技術・ルールの確認。(25分)
担当教員			
第5回	バドミントン・卓球(2) ゲーム(技術の応用・コンビネーションプレー)ーシングルス・ダブルスによるゲームを行う。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第6回	バレーボール(1) ゲーム(チームプレー)ー2人・3人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			

第7回	バレーボール② ゲーム(チームプレー)ー6人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第8回	バレーボール③ ゲーム(チームプレー)ー6人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第9回	バレーボール④ ゲーム(チームプレー)ー6人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			

第10回	アウトドアスポーツ(1) ソフトボール基本練習(キャッチ・スロー・バッティング)を行う。 テニス基本練習(フォアハンド・バックハンド)を行う。	屋外スポーツの重要性・注意事項を考える。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第11回	アウトドアスポーツ(2) ソフトボールゲーム(キャッチ・スロー・バッティング技術を活用)を行う。 テニスラリー(フォアハンド・バックハンド技術を活用)を行う。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第12回	バスケットボール(1) 基礎・応用練習ーパス・シュート練習、2人・3人のプレーの練習を行う。	簡単なルールを調べる。(20分)	基礎技術・ルールを確認する。(25分)
担当教員			

第13回	バスケットボール(2) ゲーム(技術の活用)ーパス・シュートをゲームの中で活用する。	簡単なルールを調べる。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第14回	バスケットボール(3) ゲーム(技術の応用)ー個人・2人・3人のプレーをゲームで活用する。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第15回	バスケットボール(4) ゲーム(チームプレー)ー個人・2人・3人・4人・5人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	15回の授業を通し、生涯スポーツの意義や重要性についての考えをまとめる(25分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	平常点80%(準備・片付け・受講態度など)、レポート等課題提出による評価20%
その他	0	なし
教科書		
なし		
参考文献		

特になし、必要に応じて資料を配付

履修条件・留意事項等

ジャージ等の運動・スポーツに適した服装・スポーツシューズ(屋内用)を着用して受講すること
屋外で行う場合は屋外用のスポーツシューズを着用して受講すること
天候その他状況により種目が変更となる場合がある
積極的にプレーに参加すること

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		教養科目 スポーツと健康					
科目名		生涯スポーツ I (2組)				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	平岡 英樹						

授業の位置づけ

様々なスポーツについての理解と実践方法を学ぶための科目である。

授業の概要

体育としてのスポーツ、楽しみ実践するスポーツ、レクリエーションとスポーツ、競技としてのスポーツ等々について概念を明確にする。また、健康的で楽しい生活を送るためのスポーツ活動の意義を理解し、具体的な実技を通して、個々の身体的・精神的な健康レベルを向上させながら、生涯学習とは何か、生涯学習に果たすスポーツの役割について考察し、生涯にわたってスポーツを継続していくための基礎知識を習得する。

到達目標

- ①スポーツ・運動することの楽しさや重要性を理解することができるようになる。
- ②ルールやマナーを理解し、ゲームを通して仲間を尊重するところを育てることができるようになる。
- ③日常生活において健康への意識を高め、体力の維持・増進を目指せるようになる。
- ④生涯を通じて積極的に且つ楽しく、スポーツや運動に親しむ意識を持ち、それを習慣化できるようになる。

授業の方法

チーム(グループ)分けをし、ゲームを中心として進める。
ゲーム内容や勝敗をもとに、技術の習得やチームワーク等を確認する。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとしては、ゲームによる個人技術の確認と評価

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	授業内容についてのガイダンス 授業内容の説明、受講上の注意事項、評価等についての解説する。	シラバスで授業の内容を確認する。(20分)	受講に関しての注意事項等を確認する。(25分)
担当教員			
第2回	ソフトバレーボール(1) 基礎的なパス練習・アタック練習を行う。	ソフトバレーボールとはどのような競技なのかを調べておく。(20分)	基礎技術・ルールを確認する。(25分)
担当教員			
第3回	ソフトバレーボール(2) 練習した技術をゲームの中で活用する	戦術・コンビネーションプレーを考える。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			

第4回	バドミントン・卓球(1) 基礎・応用練習ーサーブ・様々なストローク・ショットの練習を行う。	簡単なルールを調べる。(20分)	基本技術・ルールの確認。(25分)
担当教員			
第5回	バドミントン・卓球(2) ゲーム(技術の応用・コンビネーションプレー)ーシングルス・ダブルスによるゲームを行う。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第6回	バレーボール(1) ゲーム(チームプレー)ー2人・3人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			

第7回	バレーボール② ゲーム(チームプレー)ー6人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第8回	バレーボール③ ゲーム(チームプレー)ー6人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第9回	バレーボール④ ゲーム(チームプレー)ー6人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			

第10回	アウトドアスポーツ(1) ソフトボール基本練習(キャッチ・スロー・バッティング)を行う。 テニス基本練習(フォアハンド・バックハンド)を行う。	屋外スポーツの重要性・注意事項を考える。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第11回	アウトドアスポーツ(2) ソフトボールゲーム(キャッチ・スロー・バッティング技術を活用)を行う。 テニスラリー(フォアハンド・バックハンド技術を活用)を行う。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第12回	バスケットボール(1) 基礎・応用練習ーパス・シュート練習、2人・3人のプレーの練習を行う。	簡単なルールを調べる。(20分)	基礎技術・ルールを確認する。(25分)
担当教員			

第13回	バスケットボール(2) ゲーム(技術の活用)ーパス・シュートをゲームの中で活用する。	簡単なルールを調べる。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第14回	バスケットボール(3) ゲーム(技術の応用)ー個人・2人・3人のプレーをゲームで活用する。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第15回	バスケットボール(4) ゲーム(チームプレー)ー個人・2人・3人・4人・5人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	15回の授業を通し、生涯スポーツの意義や重要性についての考えをまとめる(25分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	平常点80%(準備・片付け・受講態度など)、レポート等課題提出による評価20%
その他	0	なし
教科書		
なし		
参考文献		

特になし、必要に応じて資料を配付

履修条件・留意事項等

ジャージ等の運動・スポーツに適した服装・スポーツシューズ(屋内用)を着用して受講すること
屋外で行う場合は屋外用のスポーツシューズを着用して受講すること
天候その他状況により種目が変更となる場合がある
積極的にプレーに参加すること

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		教養科目 スポーツと健康					
科目名		生涯スポーツⅡ(1組)				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	平岡 英樹						

授業の位置づけ

様々なスポーツについての理解と実践方法を学ぶための科目である。

授業の概要

参加者のレベルに応じて展開するスポーツ及び軽スポーツの方法論について、個々の学生がすでに修得しているスポーツの技術・技能レベルを基礎として、設備・用具等を含め、実践を通して考察する。とりわけ、北海道の自然環境を活かしたスポーツ活動を実際に行いながら、生活の中に運動に親しむ活動時間を定着させ、生涯にわたって、仲間とともにスポーツを継続できる知識と実践法を学ぶ。

到達目標

- ①スポーツ・運動することの楽しさや重要性を理解することができるようになる。
- ②ルールやマナーを理解し、ゲームを通して仲間を尊重するところを育てることができるようになる。
- ③日常生活において健康への意識を高め、体力の維持・増進を目指せるようになる。
- ④生涯を通じて積極的に且つ楽しく、スポーツや運動に親しむ意識を持ち、それを習慣化できるようになる。

授業の方法

チーム(グループ)分けをし、ゲームを中心として進める。
ゲーム内容や勝敗をもとに、技術の習得やチームワーク等を確認する。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとしては、ゲームによる個人技術の確認と評価

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	授業内容についてのガイダンス 授業内容の説明、受講上の注意事項、評価等について解説する。	シラバスで授業内容を確認する。(20分)	受講にあたっての注意事項等を確認する。(25分)
担当教員			
第2回	バドミントン・卓球(1) ゲーム(技術の応用・コンビネーションプレー)ーシングルス ・ダブルスによるゲームを行う。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。(25分)
担当教員			
第3回	バドミントン・卓球(2) ゲーム(技術の応用・コンビネーションプレー)ーシングルス ・ダブルスによるゲームを行う。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。(25分)
担当教員			

第4回	バレーボール(1) ゲーム(チームプレー)ー2人・3人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。(25分)
担当教員			
第5回	バレーボール(2) ゲーム(チームプレー)ー6人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。(25分)
担当教員			
第6回	バスケットボール(1) ゲーム(技術の応用)ー個人・2人・3人のプレーがゲームで活用する。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。(25分)
担当教員			

第7回	バスケットボール(2) ゲーム(チームプレー) 一個人・2人・3人・4人・5人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。(25分)
担当教員			
第8回	フットサル(1) ゲーム(技術の応用) ルールを理解し、個人・2人・3人のプレーがゲームで活用する。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。(25分)
担当教員			
第9回	フットサル(2) ゲーム(技術の応用) 一個人技術を活用し、2人・3人のプレーを生かし、5人でゲームを行う。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。(25分)
担当教員			

第10回	ニュースポーツ(1) 基礎技術を活用しゲームを行う	ニュースポーツにはどのような競技があるかかを調べる。(20分)	基本技術・ルールの確認。(25分)
担当教員			
第11回	ニュースポーツ(2) 基礎技術・コンピプレーを活用しゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。(25分)
担当教員			
第12回	ニュースポーツ(3) 基礎・応用技術を活用しゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。(25分)
担当教員			

第13回	ニュースポーツ(4) 基礎・応用技術を活用しゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。 (25分)
担当教員			
第14回	モルック(1) ルールを理解しゲームを行う。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。 (25分)
担当教員			
第15回	モルック(2) ルールを理解し、戦術を考えながらゲームを行う。	技術・戦術の確認。(20分)	15回の授業を通し、生涯スポーツの意義や重要性についての考え、今後どのように生涯スポーツと関わっていくかをまとめる。 (25分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	平常点80%(準備・片付け・受講態度など)、レポート等課題提出による評価20%
その他	0	なし
教科書		
なし		
参考文献		

特になし、必要に応じて資料を配付

履修条件・留意事項等

ジャージ等の運動・スポーツに適した服装・スポーツシューズ(屋内用)を着用して受講すること
 屋外で行う場合は屋外用のスポーツシューズを着用して受講すること
 天候その他状況により種目が変更となる場合がある
 積極的にプレーに参加すること

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		教養科目 スポーツと健康					
科目名		生涯スポーツⅡ(2組)				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	平岡 英樹						

授業の位置づけ

様々なスポーツについての理解と実践方法を学ぶための科目である。

授業の概要

参加者のレベルに応じて展開するスポーツ及び軽スポーツの方法論について、個々の学生がすでに修得しているスポーツの技術・技能レベルを基礎として、設備・用具等を含め、実践を通して考察する。とりわけ、北海道の自然環境を活かしたスポーツ活動を実際に行いながら、生活の中に運動に親しむ活動時間を定着させ、生涯にわたって、仲間とともにスポーツを継続できる知識と実践法を学ぶ。

到達目標

- ①スポーツ・運動することの楽しさや重要性を理解することができるようになる。
- ②ルールやマナーを理解し、ゲームを通して仲間を尊重するところを育てることができるようになる。
- ③日常生活において健康への意識を高め、体力の維持・増進を目指せるようになる。
- ④生涯を通じて積極的に且つ楽しく、スポーツや運動に親しむ意識を持ち、それを習慣化できるようになる。

授業の方法

チーム(グループ)分けをし、ゲームを中心として進める。
ゲーム内容や勝敗をもとに、技術の習得やチームワーク等を確認する。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとしては、ゲームによる個人技術の確認と評価

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	授業内容についてのガイダンス 授業内容の説明、受講上の注意事項、評価等について解説する。	シラバスで授業内容を確認する。 (20分)	受講にあたっての注意事項等を確認する。(25分)
担当教員			
第2回	バドミントン・卓球(1) ゲーム(技術の応用・コンビネーションプレー)ーシングルス ・ダブルスによるゲームを行う。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。 (25分)
担当教員			
第3回	バドミントン・卓球(2) ゲーム(技術の応用・コンビネーションプレー)ーシングルス ・ダブルスによるゲームを行う。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。 (25分)
担当教員			

第4回	バレーボール(1) ゲーム(チームプレー)ー2人・3人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。(25分)
担当教員			
第5回	バレーボール(2) ゲーム(チームプレー)ー6人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。(25分)
担当教員			
第6回	バスケットボール(1) ゲーム(技術の応用)一個人・2人・3人のプレーがゲームで活用する。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。(25分)
担当教員			

第7回	バスケットボール(2) ゲーム(チームプレー) 一個人・2人・3人・4人・5人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。(25分)
担当教員			
第8回	フットサル(1) ゲーム(技術の応用) ルールを理解し、個人・2人・3人のプレーがゲームで活用する。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。(25分)
担当教員			
第9回	フットサル(2) ゲーム(技術の応用) 一個人技術を活用し、2人・3人のプレーを生かし、5人でゲームを行う。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。(25分)
担当教員			

第10回	ニュースポーツ(1) 基礎技術を活用しゲームを行う	ニュースポーツにはどのような競技があるかかを調べる。(20分)	基本技術・ルールの確認。(25分)
担当教員			
第11回	ニュースポーツ(2) 基礎技術・コンビプレーを活用しゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。(25分)
担当教員			
第12回	ニュースポーツ(3) 基礎・応用技術を活用しゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。(25分)
担当教員			

第13回	ニュースポーツ(4) 基礎・応用技術を活用しゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。 (25分)
担当教員			
第14回	モルック(1) ルールを理解しゲームを行う。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。 (25分)
担当教員			
第15回	モルック(2) ルールを理解し、戦術を考えながらゲームを行う。	技術・戦術の確認。(20分)	15回の授業を通し、生涯スポーツの意義や重要性についての考え、今後どのように生涯スポーツと関わっていくかをまとめる。 (25分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	平常点80%(準備・片付け・受講態度など)、レポート等課題提出による評価20%
その他	0	なし
教科書		
なし		
参考文献		

特になし、必要に応じて資料を配付

履修条件・留意事項等

ジャージ等の運動・スポーツに適した服装・スポーツシューズ(屋内用)を着用して受講すること
屋外で行う場合は屋外用のスポーツシューズを着用して受講すること
天候その他状況により種目が変更となる場合がある
積極的にプレーに参加すること

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		専門基礎科目 教育基礎					
科目名		教育学概論 I				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	中田 和彦						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーの「地域社会における教育の役割を理解し、教育学に関する専門的知識・技能を身につけ、生涯にわたり学び続ける素養を有している。(知識・技能)」と特に関係がある科目である。また、「地域社会における意欲的かつ主体性のある個人や企業の学習活動を引き出し、支援することで、生涯学習社会の実現に貢献できる。(関心・意欲・態度)」とも関係し、教育学及び社会教育の基礎知識・技能を身につけるための基礎科目である。さらに、初年次教育の一環として、これから専門領域を学習するに当たっての心構えを養うための科目である。

授業の概要

本科目は、教育学の学習・研究活動を進めるに当たって、コンピュータやインターネット、オンライン会議等のICTの技能の修得や積極的に活用する態度の育成をはじめ、文脈を踏まえた文章の読解や要約、それらに基づいた主張の明確化と効果的な表現方法、特に聴くことを重視したコミュニケーションスキル、異なる考えへの共感的な理解や合意形成の方法等のミーティングマネジメント、問題解決の考え方等、主体的な学習・研究活動のために不可欠なツールの獲得を目的とする。

到達目標

- ①学ぶことの意義を説明できる。
- ②参加型の学びの意義を説明できる。
- ③他者の話を共感的に聞きながらグループワークに参加できる。
- ④文書作成やプレゼンテーションソフト等の基本を理解し、相手に伝わる資料を作ることができる。

授業の方法

- ・導入として、パワーポイントや動画、配布資料等による説明・講義を行い、グループや個人のワーク・エクササイズによって考察を深め、必要に応じて解説を交えながら、気づきや学びが深まるよう、個人の内省やグループでわかちあう時間を設ける。
- ・ゲストによる講話も予定する。

ICT活用

- ・プレゼンテーションソフトを活用した説明や事例研究を行う。
 - ・Google classroom、Google formを活用して、受講生の毎時の気づきの言語化、把握やフィードバックを行う。
 - ・Google Geminiを活用して、リアルタイムに受講生のふりかえりや意見の集約を行う。
- ※Google meet等を活用し、ゲストによる講話等を行う。

実務経験のある教員の教育内容

公立小学校教諭、校長として9年の学校現場勤務と市町村や国立青少年教育施設への派遣等、24年の社会教育行政の勤務経験があり、公教育や生涯学習について幅広いの知識を有している。この経験を活かし、学びの構造をはじめ、これからの時代に求められる学びや具体的な支援方策等について指導する。

課題に対するフィードバックの方法

- ・Google foamを活用し、毎回の気づきを整理する。
- ・次回の講義で前時の気づき等について、受講生同士の意見交換やコメントの時間を設ける。
- ・提出を要する課題に対しては、以降につながるコメントを付してフィードバックする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 共に学ぶ仲間を知り、教育と学びの違いについて理解を深める。	教育・学習・学びについて調べ、自分なりのイメージを持って授業に臨む(90分)。	教育・学習・学びなどについての気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第2回	学びの基礎1 読書やメモなど、学びを深め、気づきを得るための具体的な手立てについて理解を深める。(講義内課題①予定)	授業のテーマについて調べて授業に臨む(90分)。	講義資料やノートをもとに、読書やメモの取り方についての気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第3回	学びの基礎2 体験学習法やふりかえり、わかちあいの意義について理解を深める。	授業のテーマについて調べて授業に臨む(90分)。	講義資料やノートをもとに、体験学習法やふりかえり、わかちあいの意義についての気づきを整理する(90分)。
担当教員			

第4回	学びの基礎3 教育や学びの場における望ましいコミュニケーションの在り方について理解を深める。	授業のテーマについて調べて 授業に臨む(90分)。	講義資料やノートをもとに、聴く力の重要性についての気づきを整理するとともに、課題に取り組む(90分)。
担当教員			
第5回	学びの基礎4 傾聴や適切なリアクションなど、学びにおける聴く力の重要性について理解を深める。(個人課題①予定)	授業のテーマについて調べて 授業に臨む(90分)。	講義資料やノートをもとに、文脈を読み、簡潔に考えを表現する話し方や伝え方についての気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第6回	学びの基礎5 文脈を読み、簡潔に考えを表現する話し方や伝え方について理解を深める。(講義内課題②予定)	授業のテーマについて調べて 授業に臨む(90分)。	講義資料やノートをもとに、文脈を読み、簡潔に考えを表現する話し方や伝え方についての気づきを整理する(90分)。
担当教員			

第7回	学びの基礎6 プレゼンテーションソフトを用いた資料づくりの方法について理解を深める。	授業のテーマについて調べて授業に臨む(90分)。	講義資料やノートをもとに、プレゼンテーションの意義や方法についての気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第8回	学びの基礎7 資料や考えを簡潔に要約し、共感を得る、資料づくりや発表の方法(KP法)を学ぶ。(個人課題②予定)	授業のテーマについて調べて授業に臨む(90分)。	講義資料やノートをもとに、プレゼンテーションの意義や方法についての気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第9回	学びの基礎8 資料や考えを簡潔に要約し、共感を得る、資料づくりや発表の方法(レジュメ)を学ぶ。(講義内課題③)	授業のテーマについて調べて授業に臨む(90分)。	講義資料やノートをもとに、資料を簡潔に伝えることの意義や方法についての気づきを整理する(90分)。
担当教員			

第10回	学びの場と場づくり1 参加型の学び(ワークショップ)を体験し、意義や効果についての理解を深める。	授業のテーマについて調べて 授業に臨む(90分)。	講義資料やノートをもとに、参加 型の学び(ワークショップ)を体験 し、意義や効果についての気づ きを整理する(90分)。
担当教員			
第11回	学びの場と場づくり2 参加型の学びにおけるファシリテーターの役割やファシリテーション技術の基礎を理解する。	授業のテーマについて調べて 授業に臨む(90分)。	講義資料やノートをもとに、参加 型の学びにおけるファシリテーターの役割やファシリテーション技術の基礎についての気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第12回	学びの場と場づくり3 参加型の学びにおける様々な思考ツールを理解する。	授業のテーマについて調べて 授業に臨む(90分)。	講義資料やノートをもとに、参加 型の学びにおける様々な思考ツ ールについての気づきを整理す る(90分)。
担当教員			

第13回	学びの場の応用 模擬的な会議を通して、望ましい会議・ミーティングの在り方について理解を深める。(個人課題③予定)	授業のテーマについて調べて 授業に臨む(90分)。	講義資料やノートをもとに、会議 の意義合意形成の方法につい ての気づきを整理するとともに、 課題に取り組む(90分)。
担当教員			
第14回	講義のふりかえり 講義全体を個人・グループでふりかえり、重要な気づきについて協議する。	授業のテーマについて調べて 授業に臨む(90分)。	レポート課題をまとめて期限内 に提出するとともに発表の練習 を行う(90分)。
担当教員			
第15回	まとめ レポートを発表し、講義全体をふりかえるとともに、学びや 気づきを共有する。	授業のテーマについて調べると ともに、レポートの発表練習を行 い授業に望む(90分)。	教育学概論Ⅰを通しての気づき をふりかえり、整理する(90分)。
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	①授業ごとのふりかえり15回 45% ②授業外レポート3回 30% ③授業内の課題3回 15% ④授業への参加度・出席態度 10%
その他	0	なし
教科書		
なし		
参考文献		

・人間関係トレーニング 私を育てる教育への人間学的アプローチ 津村俊充・山口真人 編 ナカニシヤ出版
 ・対話を生みだすKP法 川嶋 直 著 みくに出版
 ・ファシリテーション革命 参加型の場づくりの技法 中野民夫 著 岩波書店
 ・わかりあえないことから 平田オリザ 著 講談社
 ・教えから学びへ 汐見稔幸 著 河出新書
 ※その他授業内で適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

・できる限りPC(難しければスマートフォン)を持参する。

備考欄

なし

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		専門基礎科目 教育基礎					
科目名		教育学概論Ⅱ				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	中田 和彦						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーの「地域社会における教育の役割を理解し、教育学に関する専門的知識・技能を身につけ、生涯にわたり学び続ける素養を有している。(知識・技能)」と特に関係がある科目である。また、「地域社会における意欲的かつ主体性のある個人や企業の学習活動を引き出し、支援することで、生涯学習社会の実現に貢献できる。(関心・意欲・態度)」とも関係し、教育学及び社会教育の基礎知識・技能を身につけるための基礎科目である。

授業の概要

本科目は、教育学研究の基礎コースとしての位置づけである。「教育学概論Ⅰ」での学びを基盤として、教育の目的、教育と学習、公教育と私教育、学校教育と社会教育、生涯学習社会における教育の使命や役割、教育に対する社会的な要請・課題の把握、生涯各期の学習課題、学習者主体の学びの促進と支援の在り方等、より専門的な教育学の探求に向けて、大切かつ必要な知識・論理の理解と前向きな探求姿勢の修得を目的とする。

到達目標

- ①教育が法令に基づき行われていることを理解し、説明できる。
- ②教育活動の現状や問題点を理解し、課題点や解決のアイデアと関連付けることができる。
- ③適切な資料を探し出せるよう、検索ソフト等を操作できる。
- ④多様な考えを踏まえた、自分らしい教育観を形成し、述べることができる。

授業の方法

- ・導入として、パワーポイントや動画、配布資料等による説明・講義を行い、グループや個人のワーク・エクササイズによって考察を深め、必要に応じて解説を交えながら、気づきや学びが深まるよう、個人の内省やグループでわかちあう時間を設ける。
- ・ゲストによる講話も予定する。

ICT活用

- ・プレゼンテーションソフトを活用した説明や事例研究を行う。
 - ・Google classroom、Google formを活用して、受講生の毎時の気づきの言語化、把握やフィードバックを行う。
 - ・Google Geminiを活用して、リアルタイムに受講生のふりかえりや意見の集約を行う。
- ※Google meet等を活用し、ゲストによる講話等を行う。

実務経験のある教員の教育内容

公立小学校教諭、校長として9年の学校現場勤務と市町村や国立青少年教育施設への派遣等、24年の社会教育行政の勤務経験があり、公教育や生涯学習について幅広いの知識を有している。この経験を活かし、教育活動の法的根拠や現状と課題をはじめ、教育現場と教育行政の連携等について指導する。

課題に対するフィードバックの方法

- ・Google formを活用し、毎回の気づきを整理する。
- ・次回の講義で前時の気づき等について、受講生同士の意見交換やコメントの時間を設ける。
- ・提出を要する課題に対しては、以降につながるコメントを付してフィードバックする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 公教育が日本国憲法や教育基本法に基づいて行われていることについて理解を深める。	授業のテーマについて調べて 授業に臨む(90分)。	公教育が日本国憲法や教育基本法に基づいて行われていることについての気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第2回	教育制度等の歴史 公教育の歴史的な経緯や施策の背景について理解を深める。	授業のテーマについて調べて 授業に臨む(90分)。	講義資料やノートをもとに、公教育の歴史や施策の背景についての気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第3回	教育関係法令について 公教育の法体系や仕組みについて理解を深める。	授業のテーマについて調べて 授業に臨む(90分)。	講義資料やノートをもとに、公教育の法体系や仕組みについての気づきを整理する(90分)。
担当教員			

第4回	学校教育の現状と課題 学校で行われている教育活動のや生徒指導の現状や課題について理解を深める。(個人課題①予定)	授業のテーマについて調べて 授業に臨む(90分)。	講義資料やノートをもとに、学校 で行われている教育活動のや 生徒指導の現状や課題につい ての気づきを整理するとともに、 課題に取り組む(90分)。
担当教員			
第5回	家庭教育の現状と課題 家庭教育の現状や課題について理解を深める。	授業のテーマについて調べて 授業に臨む(90分)。	講義資料やノートをもとに、レポ ート課題をまとめて期限内に提 出するとともに発表の練習を行う (90分)。
担当教員			
第6回	社会教育の現状と課題1 地域における社会教育や社会教育主事の役割について 理解を深める。	授業のテーマについて調べて 授業に臨む(90分)。	講義資料やノートをもとに、社会 教育の現状や課題についての 気づきを整理する(90分)。
担当教員			

第7回	社会教育の現状と課題2 社会教育行政の仕組みや社会教育主事の役割について理解を深める。	授業のテーマについて調べて授業に臨む(90分)。	講義資料やノートをもとに、社会教育行政の仕組みや社会教育主事の役割についての気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第8回	社会教育の現状と課題3 公民館、図書館、博物館における教育活動の現状や課題について理解を深める。	授業のテーマについて調べて授業に臨む(90分)。	講義資料やノートをもとに、公民館、図書館、博物館における教育活動の現状や課題についての気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第9回	社会教育の現状と課題4 青少年教育施設における教育活動の現状や課題について理解を深める。	授業のテーマについて調べて授業に臨む(90分)。	講義資料やノートをもとに、青少年教育施設における教育活動の現状や課題についての気づきを整理する(90分)。
担当教員			

第10回	社会教育の現状と課題5 青少年教育施設における教育活動とボランティアの役割等についての理解を深める。(個人課題②予定)	授業のテーマについて調べて授業に臨む(90分)。	講義資料やノートをもとに、レポート課題をまとめて期限内に提出するとともに発表の練習を行う(90分)。
担当教員			
第11回	社会教育の現状と課題6 民間が取り組む社会教育活動の現状や課題について理解を深める。	授業のテーマやゲストについて調べて授業に臨む(90分)。	講義資料やノートをもとに、民間が取り組む社会教育活動の現状や課題についての気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第12回	社会教育の現状と課題7 広域行政における社会教育活動の現状や課題について理解を深める。	授業のテーマやゲストについて調べて授業に臨む(90分)。	社会教育行政による社会教育活動の現状や課題についての気づきを整理する(90分)。
担当教員			

第13回	教育学概論のまとめ1 社会や地域の要請(ニーズ)に応える等、今後の教育に求められる役割について理解を深める。(個人課題③予定)	授業のテーマについて調べて 授業に臨む(90分)。	レポート課題をまとめて期限内 に提出するとともに発表の練習 を行う(90分)。
担当教員			
第14回	教育学概論のまとめ2 今日的な教育の課題と解決手段についてグループで討議 を行う。	授業のテーマについて調べると ともに、レポートの発表練習を行 い授業に臨む(90分)。	今日的な教育の課題と解決手 段についての気づきを整理する (90分)。
担当教員			
第15回	まとめとふりかえり 個人課題③をもとにした面談によって、講義全体をふりか えるとともに、学びや気づきをさらに深める。	授業のテーマについて調べると ともに、レポートの発表練習を行 い授業に臨む(90分)。	教育学概論を通しての気づきを ふりかえり、整理する(90分)。
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	①授業ごとのふりかえり(15回) 45% ②授業外レポート3回 計30% ③グループ面談 15% ④授業への参加度・出席態度 10%
その他	0	
教科書		
なし		
参考文献		

・生涯学習・社会教育行政必携 令和6年版 生涯学習・社会教育行政研究会 編集 第一法規出版
 ・生涯学習の支援 伊藤俊夫 編 実務教育出版
 ・北海道立生涯学習推進センターHP 等
 ※その他授業内で適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

・できる限りPC(難しければスマートフォン)を持参する。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		専門基礎科目 教育基礎					
科目名		生涯学習概論 I				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	吉岡 亜希子						

授業の位置づけ

ディプロマポリシーの「地域社会における教育の役割を理解し、教育学に関する専門的知識・技能を身につけ、生涯にわたり学び続ける素養を有している(知識・技能)」、「地域社会における意欲的かつ主体性のある個人や企業の学習活動を引き出し、支援することで、生涯学習社会の実現に貢献できる(関心・意欲・態度)」ことと特に関係がある科目である。「生涯学習概論Ⅱ」へとつながる科目である。

授業の概要

本科目では、生涯学習の概念を歴史的に捉えながら、その意義と成り立ちを概観する。従来、教育は学校教育に限定的に捉えられる傾向があったが、生涯学習は生まれてから高齢期に至るまで、生涯を通した教育・学習の在り方を構想するものといえる。学ぶことが人間の生存にとって不可欠な要件であり、普遍的な価値を有していることを理解する。また、生涯学習社会の基盤となる社会教育について、戦後社会教育実践における学習観を辿りながらその意義を理解する。

到達目標

- ① 生涯学習の意義を説明することができる。
 ② 生涯学習を支える社会教育の意義を説明することができる。

授業の方法

配布資料を用いた講義形式で行う。受講生の予定を調整した上で、学外での現地学習を予定している。

ICT活用

webアプリを用いた双方向授業を取り入れる。意見や感想の共有、議論に活用する。

実務経験のある教員の教育内容

子育て支援組織の社会教育実践者としての経験を活かし、理論と実践を往還する指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

webアプリを活用してフィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	ガイダンス 「学習権宣言」の内容を検討した上で、人間の生存と学びの関係を考える	授業のテーマについて調べる。 (90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			
第2回	生涯学習の基礎的理解～生涯学習の概念について学ぶ	授業のテーマについて調べる。 (90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			
第3回	社会教育の基礎的理解～社会教育の概念について学ぶ	授業のテーマについて調べる。 (90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			

第4回	地域における学習課題:義務教育未修了者等の学び直し その1 公立夜間中学の現状	授業のテーマについて調べる。 (90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			
第5回	地域における学習課題:義務教育未修了者等の学び直し その2 自主夜間中学の現状と教育内容	授業のテーマについて調べる。 (90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			
第6回	地域における学習課題:義務教育未修了者等の学び直し その3 現地学習(見学～札幌市内の自主夜間中学への訪問を予定)	授業のテーマについて調べる。 (90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			

第7回	地域における学習課題:義務教育未修了者等の学び直し その4 現地学習(札幌市内の自主夜間中学の代表者へ聞き取りを予定)	授業のテーマについて調べる。 (90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			
第8回	地域における学習課題:義務教育未修了者等の学び直し その5 現地学習の振り返りと共有～Aグループ	授業のテーマについて調べる。 (90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			
第9回	地域における学習課題:義務教育未修了者等の学び直し その5 現地学習の振り返りと共有～Bグループ	授業のテーマについて調べる。 (90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			

第10回	不登校の児童生徒の教育保障 その1 不登校の子どもの現状～札幌市内を中心に	授業のテーマについて調べる。(90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			
第11回	不登校の児童生徒の教育保障 その2 子どもの教育保障～日本における教育の枠組みを問う	授業のテーマについて調べる。(90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			
第12回	不登校の児童生徒の教育保障 その3 不登校の子どもの学びの場と教育内容	授業のテーマについて調べる。(90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			

第13回	フリースクールにおける教育～事例検討:フリースクールの教育内容について	授業のテーマについて調べる。(90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			
第14回	フリースクールにおける教育～事例検討:フリースクールの教育方法について	授業のテーマについて調べる。(90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			
第15回	まとめ～自主夜間中学とフリースクールの事例から生涯学習の意義と生涯学習を支える社会教育の意義についてまとめる。	授業のテーマについて調べる。(90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	現地学習の報告30%、レポート40%、リアクションペーパー30%
その他	0	なし
教科書		
なし		
参考文献		

社会教育推進全国協議会編「社会教育・生涯学習ハンドブック第9版」、エイデル研究所

履修条件・留意事項等

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		専門基礎科目 教育基礎					
科目名		生涯学習概論Ⅱ				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	吉岡 亜希子						

授業の位置づけ

ディプロマポリシーの「地域社会における教育の役割を理解し、教育学に関する専門的知識・技能を身につけ、生涯にわたり学び続ける素養を有している(知識・技能)」、「地域社会における意欲的かつ主体性のある個人や企業の学習活動を引き出し、支援することで、生涯学習社会の実現に貢献できる(関心・意欲・態度)」ことと特に関係がある科目である。「生涯学習支援論」へとつながる科目である。

授業の概要

本科目では、人間の発達・成長、自己実現と生涯学習の関連と社会における諸課題に対し、共同による学習実践がどのような役割を果たしてきたのかを検討する。日本における生涯学習は、国際的な動向とも連動している。講義の後半は、国際的な生涯教育・生涯学習思想の展開と成人学習論の理論的枠組みの理解を目指す。

到達目標

- ① 生涯学習の概念、政策の展開を説明することができる。
- ② 社会教育の概念と歴史、戦後の社会教育の特徴を説明することができる。
- ③ 日本の社会教育実践史、国際的な成人学習論の展開を説明することができる。

授業の方法

教科書を用いて行う。各回リアクションペーパーを配布する。リアクションペーパーの意見、感想は、次回の講義に反映させる。第1回と第12回にグループワークを行い、理解を深める。

ICT活用

webアプリを用いた双方向授業を取り入れる。意見や感想の共有、議論に活用する。

実務経験のある教員の教育内容

子育て支援組織の社会教育実践者としての経験を活かし、理論と実践を往還する指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

webアプリを活用してフィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	ガイダンス 「生涯学習の基礎的理解」①グループワーク～生涯学習とは何か？	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる。(90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			
第2回	「生涯学習の基礎的理解」②日本における生涯教育論の導入と政策の展開	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる。(90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			
第3回	「生涯学習の基礎的理解」③生涯学習政策の動向と展開	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる。(90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			

第4回	「生涯学習の基礎的理解」④生涯学習支援の取り組み	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる。(90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			
第5回	「生涯学習の基礎的理解」⑤成人学習者の理解	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる。(90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			
第6回	「社会教育の基礎的理解」①社会教育の概念	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる。(90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			

第7回	「社会教育の基礎的理解」②社会教育の歴史	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる。(90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			
第8回	「社会教育の基礎的理解」③社会教育の法制度	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる。(90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			
第9回	「社会教育の基礎的理解」④社会教育の施設と職員	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる。(90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			

第10回	「社会教育の基礎的理解」⑤社会教育主事と社会教育士	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる。(90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			
第11回	「成人学習論の展開」①社会教育の思想と実践の系譜～国際的な動向	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる。(90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			
第12回	「成人学習論の展開」②生涯学習論と学習権宣言～学習権宣言の成り立ちを学ぶグループワーク	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる。(90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			

第13回	「成人学習論の展開」③生涯学習論と学習権宣言～学習権宣言の内容を検討する	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる。(90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			
第14回	「成人学習論の展開」④パウロ・フレイレの教育思想(その1)～被抑圧者の教育学―人間化の課題をめぐって	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる。(90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			
第15回	「成人学習論の展開」⑤パウロ・フレイレの教育思想(その2)～銀行型教育と課題提起教育について まとめ～14回の授業の振り返り	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる。(90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	レポート60%、リアクションペーパー30%、授業参加の態度10%
その他	0	なし
教科書		
小林 繁・平川景子・片岡 了著「生涯学習概論 学び合うコミュニティを支える 第3版」、エイデル研究所		
参考文献		

授業内で適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		専門基礎科目 教育基礎					
科目名		教育心理学 I				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	木谷 岐子						

授業の位置づけ

教育学及び社会教育の基礎知識を身につける教育基礎に位置し、ディプロマポリシーの、「地域社会における教育の役割を理解し、教育学に関する専門的知識・技能を身につけ、生涯に渡り学び続ける教養を有している(知識・技能)」との関連が強い。また、「地域社会における意欲的かつ主体性のある個人や企業の学習活動を引き出し、支援することで、生涯学習社会の実現に貢献する(関心・意欲・態度)」に関連する。教養科目である心理学概論との連続性を有している。

授業の概要

本科目では、人間の発達過程および特徴について心理学の基礎理論を学ぶとともに、発達段階をふまえての主体的な学習を支える指導の在り方やクラス集団形成について学ぶ。また、保育や教育現場で生じる様々な現象に対し、その背景を正しく把握し、有効な対処方法を見つけ出す力を身に付けることを目的に講義を行う。

到達目標

①心理学や教育心理学の体系の基礎的な知識を身につけ説明できる。
 ②発達を捉える理論を理解できる。
 ③パーソナリティの発達や自己形成、社会性の発達について理解できる。
 ④学習理論や動機付けの理論について説明できる。

授業の方法

授業とグループ単位で取り組む演習を組み合わせで行う。アクティブな学習環境を提供し、受講学生中心の授業展開とする。

ICT活用

Google Classroom上での意見交流や、情報共有、共同作業を効果的に取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

臨床心理士/公認心理師として、発達相談及び、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー業務に従事してきた実務経験を活かし、現実の教育現場で起きている諸問題についての知識と理解、さらに対応方法についての学びを提供する。

課題に対するフィードバックの方法

提出されたレポートにコメントを書き添えてフィードバックする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	●オリエンテーション 講義担当者の臨床実践や研究の経過を紹介し、講義の内容や目的、進め方についての説明を行う。心理学に対してもっているイメージや、各自の興味関心を確認する。	シラバスを読み、学習内容を確認し、特に興味がある内容を書き出す。(90分)	配布された資料を基に、これからの授業の見通しを持つ。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第2回	心理学の歴史と教育心理学の範囲	心理学、教育心理学とはどのような学問分野なのかについて調べておく。(90分)	授業で取り扱われた内容について、重要と思われる事柄を取り上げ、まとめる。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第3回	発達を捉える考え方① 発達の仕組みと様相	発達を捉える考え方について調べておく。(90分)	配布されたプリントを参考にして、発達を捉える考え方についてまとめる。(90分)
担当教員	木谷 岐子		

第4回	発達を捉える考え方② 胎児期・新生児期・乳児期の発達	胎児期・新生児期・乳児期の発達の概要について調べておく。(90分)	配付されたプリントを参考にして、胎児期・新生児期・乳児期の特徴についてまとめる。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第5回	発達を捉える考え方③ 幼児期・児童期の発達	幼児期・児童期の発達の概要について調べておく。(90分)	配付されたプリントを参考にして、幼児期・児童期の特徴についてまとめる。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第6回	発達を捉える考え方④ 思春期・青年期の発達	思春期・青年期の発達の概要について調べておく。(90分)	配付されたプリントを参考にして、思春期・青年期の特徴についてまとめる。(90分)
担当教員	木谷 岐子		

第7回	発達を捉える考え方⑤ 成人期・老年期の発達	成人期・老年期の発達の概要について調べておく。(90分)	配付されたプリントを参考にして、成人期・老年期の特徴についてまとめる。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第8回	絵本とともに学ぶ発達と教育① 絵本の活用	これまでの発達の過程で自分自身が好んだ絵本を想起し、それらの絵本について調べ、まとめておく。(90分)	授業で紹介する絵本について、その絵本が意味すること、伝えたい内容について説明できるよう準備する。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第9回	絵本とともに学ぶ発達と教育② 絵本の世界の表現	絵本の読み聞かせの準備をする。(90分)	他の学生が紹介した絵本から受けた印象を振り返る。(90分)
担当教員	木谷 岐子		

第10回	パーソナリティの発達① 自己形成	様々な自己形成の理論について調べておく。(90分)	配付されたプリントを参考にして、自己形成についての自身の理解をまとめる。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第11回	パーソナリティの発達② パーソナリティの理論	様々なパーソナリティの理論について調べておく。(90分)	配付されたプリントを参考にして、パーソナリティ理論についての自身の理解をまとめる。また、物語やドラマに描かれる人物を一人選び、パーソナリティ理論を活用して、その人物像を解釈する。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第12回	パーソナリティの発達③ パーソナリティの理解	物語やドラマに描かれる人物を一人選び、パーソナリティ理論を活用して、その人物像について解釈したことを発表できるように準備する。(90分)	パーソナリティ検査についての自身の理解をまとめる。(90分)
担当教員	木谷 岐子		

第13回	パーソナリティの発達④ パーソナリティの測定	パーソナリティ検査とはどのようなものか、調べておく。(90分)	体験的な学びを通して得た気づきを書き出す。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第14回	学習と動機付けの発達	学習理論と動機付け理論とはどのようなものがあるのか、調べておく。(90分)	配付されたプリントを参考にして、学習理論と動機付け理論についての自身の理解をまとめる。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第15回	●まとめ この授業についての全体的な内容を振り返り、学びの定着を確認する。	第14回までの講義で配布された資料を見直し、学んだことを確認する。(90分)	授業全体を通しての感想や意見をまとめる。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	レポート内容と、学びの定着を確認するテストの点数(50%) ディスカッションへの参加の積極性等、授業参加態度(50%)
その他	0	
教科書		
使用しない。		
参考文献		

絵本とともに学ぶ 発達と教育の心理学 晃洋書房

履修条件・留意事項等

この講義では、積極的な授業参加態度が求められている。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		専門基礎科目 教育基礎					
科目名		教育心理学Ⅱ				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	木谷 岐子						

授業の位置づけ

教育学及び社会教育の基礎知識を身につける教育基礎に位置し、ディプロマポリシーの、「地域社会における教育の役割を理解し、教育学に関する専門的知識・技能を身につけ、生涯に渡り学び続ける教養を有している(知識・技能)」との関連が強い。また、「地域社会における意欲的かつ主体性のある個人や企業の学習活動を引き出し、支援することで、生涯学習社会の実現に貢献する(関心・意欲・態度)」に関連する。教育心理学Ⅰとの連続性を有している。

授業の概要

本科目では、子どもを教育していく上で必要となる人間科学の知識を提示し、子どもの成長を促すためのより良い教育とは何かを心理学的視点から解説する。教育心理学の基礎とされる発達、学習、パーソナリティ、測定・評価の4つの領域について基礎知識を深め、今日の教育の現場が必要としている問題解決のための諸要因を解説する。本科目では、以上のような基礎的知識の習得に加え、事例を用い、それらの知識をいかに教育の実践にやくだてていくのか検討する。併せて、現実の教育現場で起きている諸問題に対する支援の在り方についても考察する。

到達目標

- ① 不登校・いじめ・少年非行など、教育現場での心理的問題とその対応を理解できる。
- ② 自分自身の認知や行動特性を知ることを通して、発達障がい等のある児童生徒に対する理解を深めることができる。
- ③ 学校におけるカウンセリングの技法について、体験的に理解し考察することができる。

授業の方法

授業とグループ単位で取り組む演習を組み合わせで行う。アクティブな学習環境を提供し、受講学生中心の授業展開とする。

ICT活用

Google Classroom上での意見交流や、情報共有、共同作業を効果的に取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

臨床心理士/公認心理師として、発達相談及び、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー業務に従事してきた実務経験を活かし、現実の教育現場で起きている諸問題についての知識と理解、さらに対応方法についての学びを提供する。

課題に対するフィードバックの方法

提出されたレポートにコメントを書き添えてフィードバックする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	●オリエンテーション 講義担当者の臨床実践や研究の経過を紹介し、講義の内容や目的、進め方についての説明を行う。教育現場での心理的問題に対してもっている印象や、各自のこれまでの経験を確認する。	シラバスを読み、学習内容を確認し、特に興味がある内容を書き出す。(90分)	配布された資料を基に、これからの授業の見通しを持つ。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第2回	教育現場での心理的問題と対応① 不登校	不登校についてこれまでの自身の経験を想起し、その問題について確認する。(90 分)	他の受講生の発言や、授業で取り扱われた内容について、重要と思われる事柄を取り上げ、まとめておく。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第3回	教育現場での心理的問題と対応② いじめ	いじめを捉える考え方について調べておく。(90分)	配布されたプリントを参考にして、いじめを捉える考え方についてまとめておく。(90分)
担当教員	木谷 岐子		

第4回	教育現場での心理的問題と対応③ 少年非行	少年非行について調べておく。(90分)	配付されたプリントを参考にして、少年非行の特徴についてまとめておく。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第5回	特別な配慮を要するこどもの心理的問題と対応① 障がい をどうとらえるか	ICFやICIDHの障がい概念について調べておく。(90分)	配付されたプリントを参考にして、障がい概念についてまとめる。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第6回	特別な配慮を要するこどもの心理的問題と対応② 自閉スペクトラム症について	自閉スペクトラム症についてどのような特徴を有するのか調べておく。(90分)	授業で紹介された事例について整理しておく。(90分)
担当教員	木谷 岐子		

第7回	特別な配慮を要するこどもの心理的問題と対応③ 注意欠如多動症について	注意欠如多動症についてどのような特徴を有するのか調べておく。(90分)	授業で紹介された事例について整理しておく。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第8回	特別な配慮を要するこどもの心理的問題と対応④ 限局性学習症について	限局性学習症についてどのような特徴を有するのか調べておく。(90分)	授業で紹介された事例について整理しておく。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第9回	特別な配慮を要するこどもの心理的問題と対応⑤ 知的発達症	知的発達症についてどのような特徴を有するのか調べておく。(90分)	配付されたプリントを参考にして、知的発達症についての自身の理解をまとめる。(90分)
担当教員	木谷 岐子		

第10回	特別な配慮を要するこどもの心理的問題と対応⑥ 性の多様性	性の多様性について自身の関心事をまとめておく。(90分)	配付されたプリントを参考にして、性の多様性についての自身の理解をまとめる。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第11回	特別な配慮を要するこどもの心理的問題と対応⑦ 特性シートを作ってみよう 発達障がい等の特性をまとめるのに役立つシートを紹介する。項目の意味や記入方法について伝え、実際に作成してみる。グループ内で交流し互いに知識や理解を補い合いながら演習を行う。	自分自身の得意や苦手について書き出しておく。(90分)	自分が作成したシートを見直して、気づいたことを書き出す。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第12回	学校におけるカウンセリング① カウンセリング技法を学ぶ	カウンセリングとはどのようなものか、調べておく。(90分)	体験的な学びを通して得た気づきを書き出す。(90分)
担当教員	木谷 岐子		

第13回	学校におけるカウンセリング② ソーシャルスキルトレーニング	ソーシャルスキルトレーニングとはどのようなものか、調べておく。(90分)	体験的な学びを通して得た気づきを書き出す。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第14回	学校におけるカウンセリング③ ロールプレイングを学ぶ	ロールプレイングとはどのようなものか、調べておく。(90分)	体験的な学びを通して得た気づきを書き出す。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第15回	●まとめ この授業についての全体的な内容を振り返り、学びの定着を確認する。	第14回までの講義で配布された資料を見直し、学んだことを確認する。(90分)	授業全体を通しての感想や意見をまとめる。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	レポート内容と、学びの定着を確認するテストの点数(50%) ディスカッションへの参加の積極性等、授業参加態度(50%)
その他	0	
教科書		
使用しない。		
参考文献		

続・発達障害のある女の子・女性の支援: 自分らしさとカモフラージュの狭間を生きる 金子書房

履修条件・留意事項等

この講義では、積極的な授業参加態度が求められている。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		専門基礎科目 教育基礎					
科目名		アカデミックライティング				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	宮崎 隆志						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーにおける「地域社会における教育の役割を理解し、教育学に関する専門的知識・技能を身につけ、生涯にわたり学び続ける素養を有している。(知識・技能)」と「地域の歴史や文化、多様な資源の価値を深く理解し、新たな価値を創造することにより、持続可能な社会を実現し、次代へ発信・継承することができる。(知識・技能)」と特に関連する科目である。

授業の概要

アカデミック・ライティングとは学術的文章を作成することであるが、卒業論文はもとよりレポートの作成もアカデミック・ライティングに属する。高校までの教育課程における作文とは異なり、学術的文章では固有の形式が求められる。この授業では、その形式について学ぶとともに、実際に小レポートを作成し相互に批評することによって、各自の学習・研究活動に役立つ知識・技能を身につけることを目指す。

到達目標

①学術的文章の特徴について理解し説明できる
 ②問いの立て方について説明できる
 ③文献の引用の意義と方法について説明できる

授業の方法

①各回の主題に対応する教科書の箇所を読み解く
 ②教科書が指摘しているポイントについて、少人数グループで具体例を挙げて検討し、そこで確認できたことや生じた疑問を全体討議で発表する
 ③割り当てられた担当者が各回の授業のまとめ(気づき)を作成する
 ④各自が作成した小論文(合計3回を予定)をクラス内で発表し、それまでに学習した事柄に照らして相互に批評する

ICT活用

Google Classroomに担当者が各回の授業のまとめ(気づき)を記述する。必要に応じて教員がコメントを付す。

実務経験のある教員の教育内容

該当しない

課題に対するフィードバックの方法

提出された小論文にコメントを付して返却する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション:本講義の概要(到達目標・授業の方法・日程を含む)について理解する。 各回講義のまとめの担当者を確定する。 授業のノートの取り方について理解する。	シラバスを読み、疑問点を整理しておく(60分)。	担当者は授業により学んだことや気づいたことをまとめ、Google Classroom で共有する(60分)。 担当者以外の受講者は各自でノートに授業の要点をまとめておく(60分)。
担当教員	宮崎 隆志		
第2回	アカデミック・ライティングの必要性和意義について学ぶ。教科書の「卒論とは何か」の関連箇所を読み解き、論文としての卒論を書く意義について少人数で討議する。作文との違いについて議論し整理する。	シラバスを読み、疑問点を整理しておく(60分)。	担当者は授業により学んだことや気づいたことをまとめ、Google Classroom で共有する(60分)。 担当者以外の受講者は各自でノートに授業の要点をまとめておく(60分)。
担当教員			
第3回	アカデミック・ライティングの前提となる論理的思考はゼミや文献講読によって鍛えられる。教科書の「ゼミでの学び方」の関連箇所を確認しながら、論理を読み取るための思考方法について検討する。	シラバスを読み、疑問点を整理しておく(60分)。	担当者は授業により学んだことや気づいたことをまとめ、Google Classroom で共有する(60分)。 担当者以外の受講者は各自でノートに授業の要点をまとめておく(60分)。
担当教員			

第4回	教科書の「テキストクリティーク」を参照しながら、授業中に紹介する論文を基に、グループごとにテキストクリティークのレジュメを作成する。 グループ間の結果を比較し、改善のための課題を検討する。	シラバスを読み、疑問点を整理しておく(60分)。	担当者は授業により学んだことや気づいたことをまとめ、Google Classroom で共有する(60分)。 担当者以外の受講者は各自でノートに授業の要点をまとめておく(60分)。 全ての受講者は小論文課題①に取り組む。授業内容を踏まえて、さらに検討を進めたテキストクリティークのレジュメを作成する。講義中にグループでまとめたものと同じである場合は評価対象外とする(150分)。
担当教員			
第5回	第4回授業で課した小論文課題①について各自が発表し、相互に批評する。	シラバスを読み、疑問点を整理しておく(60分)。	担当者は授業により学んだことや気づいたことをまとめ、Google Classroom で共有する(60分)。 担当者以外の受講者は各自でノートに授業の要点をまとめておく(60分)。
担当教員			
第6回	レポートとは異なって、論文を作成する前提には研究がある。研究を進めるにはテーマを定める必要がある。教科書の「研究の進め方」の参考箇所を確認しながら、問いの立て方について検討する。各自の現時点での関心をグループごとに共有し、テーマの探索を行う。	シラバスを読み、疑問点を整理しておく(60分)。	担当者は授業により学んだことや気づいたことをまとめ、Google Classroom で共有する(60分)。 担当者以外の受講者は各自でノートに授業の要点をまとめておく(60分)。
担当教員			

第7回	問いを立てるためには先行研究を踏まえる必要がある。教科書の「文献の集め方」および「研究の進め方」の参考箇所を確認しながら、先行研究の収集の方法と読み方について検討する。	シラバスを読み、疑問点を整理しておく(60分)。	担当者は授業により学んだことや気づいたことをまとめ、Google Classroom で共有する(60分)。担当者以外の受講者は各自でノートに授業の要点をまとめておく(60分)。
担当教員			
第8回	図書館を利用した情報収集の方法について学ぶ。授業は図書館で行う予定。	シラバスを読み、疑問点を整理しておく(60分)。	担当者は授業により学んだことや気づいたことをまとめ、Google Classroom で共有する(60分)。担当者以外の受講者は各自でノートに授業の要点をまとめておく(60分)。
担当教員			
第9回	論理的に表現するための方法について検討する。教科書の「論文の書き方」および「ゼミでの学び方」の関連箇所を読み解き、論理的な表現のための条件を確認する。	シラバスを読み、疑問点を整理しておく(60分)。	担当者は授業により学んだことや気づいたことをまとめ、Google Classroom で共有する(60分)。担当者以外の受講者は各自でノートに授業の要点をまとめておく(60分)。
担当教員			

第10回	論文の構成の仕方にかかわり、パラグラフ・ライティングについて学ぶ。教科書の「論文の書き方」の関連箇所及び補足資料を読み解き、文章を論理的に構成するための技法について学ぶ。	シラバスを読み、疑問点を整理しておく(60分)。	担当者は授業により学んだことや気づいたことをまとめ、Google Classroom で共有する(60分)。担当者以外の受講者は各自でノートに授業の要点をまとめておく(60分)。全ての受講者は小論文課題②に取り組む。論文を書くための課題と方法についてまとめる(150分)。
担当教員			
第11回	第10回授業で課した小論文課題②について各自が発表し、相互に批評する。	シラバスを読み、疑問点を整理しておく(60分)。	担当者は授業により学んだことや気づいたことをまとめ、Google Classroom で共有する(60分)。担当者以外の受講者は各自でノートに授業の要点をまとめておく(60分)。
担当教員			
第12回	論文に求められる固有の形式について学ぶ。教科書の「論文の書き方」の関連箇所を確認し、論文の「決まり事」について検討する。	シラバスを読み、疑問点を整理しておく(60分)。	担当者は授業により学んだことや気づいたことをまとめ、Google Classroom で共有する(60分)。担当者以外の受講者は各自でノートに授業の要点をまとめておく(60分)。
担当教員			

第13回	卒業論文を前提として、論文の組立て方と各構成要素(序章等)の書き方について学ぶ。教科書の「卒論の書き進め方」の関連箇所を確認し、これまでの授業において学んだ内容との関連を読み解く。	シラバスを読み、疑問点を整理しておく(60分)。	担当者は授業により学んだことや気づいたことをまとめ、Google Classroom で共有する(60分)。担当者以外の受講者は各自でノートに授業の要点をまとめておく(60分)。
担当教員			
第14回	研究倫理について学ぶ。教科書の「研究の進め方」と「研究の方法」の関連箇所を確認するとともに、補足資料によって研究および論文執筆に際して守らねばならない基準についての理解を深める。	シラバスを読み、疑問点を整理しておく(60分)。	担当者は授業により学んだことや気づいたことをまとめ、Google Classroom で共有する(60分)。担当者以外の受講者は各自でノートに授業の要点をまとめておく(60分)。全ての受講者は小論文課題③に取り組む。再度、論文を書くための課題と方法についてまとめる。第二回課題と同一内容の場合は評価対象外とする(1500分)。
担当教員	宮崎 隆志		
第15回	第14回授業で課した小論文課題③について各自が発表し、相互に批評する。これまでの授業内容を総括し、アカデミック・ライティングの要点を確認する。	シラバスを読み、疑問点を整理しておく(60分)。	担当者は授業により学んだことや気づいたことをまとめ、Google Classroom で共有する(60分)。担当者以外の受講者は各自でノートに授業の要点をまとめておく(60分)。
担当教員	宮崎 隆志		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	小論文(75%) 担当回の授業のまとめ(10%) 授業ノートの提出(15%)
その他	0	
教科書		
白井利明・高橋一郎『よくわかる卒論の書き方 第2版』ミネルヴァ書房、2015年		
参考文献		

戸田山和久『最新版 論文の教室 レポートから卒論まで』NHK出版、2022年

履修条件・留意事項等

備考欄

授業ノート(手書き・ノートPCいずれも可)を定期的に確認する。提示がない回については減点する(満点15点)。

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		専門基礎科目 地域理解					
科目名		地域未来概論(地域の未来を語る)				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	熊野 稔、木村 俊昭						

授業の位置づけ

初年次教育科目として位置付け、地域未来学科で学ぶ入門編として専門的な基礎知識について理解させる。ディプロマ・ポリシーにおける「地域の歴史や文化、多様な資源の価値を深く理解し、新たな価値を創造することにより、持続可能な社会を実現し、次代へ発信・継承することができる(知識・技能)」、及び「幅広い視点から地域課題を発見し、課題解決に向けて主体的に行動でき、かつ、地域において協働できる人的資源の開発や組織体制の構築に貢献できる人材を養成する(思考・判断・表現)」ことに関連し地域づくり、地域創生学入門の科目である。

授業の概要

本科目は、地域未来学科のカリキュラムのダイジェストであり、イントロダクションである。地域創造に関連する専門の教員がオムニバス形式で、過疎地域、中山間地域、地方都市等が抱えるそれぞれの問題点や課題を解説し、各地で実施されている地域活性化の事例を通じて、地域社会の今後の方向性、まちづくりやむらづくりのマネジメント手法等基礎を学ぶ。達成目標は、地域社会がもつ課題や社会制度的仕組みの基礎知識を身に付けること、および地域の課題や問題解決に関する取組の情報を収集し、考察するために必要なコミュニケーション能力を身に付けることである。

到達目標

地域社会が持つ課題や地域づくり、社会制度的仕組みの基礎知識を身に着けること、及び地域の課題や問題解決に関する取り組みの情報を収集し、考察するために、必要なコミュニケーション能力を身に着けることができる。

授業の方法

オムニバス形式で1回目は熊野・木村、2回から8回目まで熊野、9回から14回目まで木村(ゲスト講師含む)、15回目の総括は熊野・木村で実施する。パワーポイント資料、印刷物・動画資料などを用いる形で、地域に係るテーマやトピック、課題や事例についての学習を講義形式で展開し、各教員と学生間のディスカッションなども行う。また現場に精通しているゲスト講師の話も聞く。

ICT活用

インターネットのほか、課題や授業連絡などのやり取りにGoogle classroomを活用する。

実務経験のある教員の教育内容

国家公務員や地方教育行政、大学職員等、多様な職種における勤務経験のある教員が指導を行う。現場に精通しているゲスト講師の講義も行う。

課題に対するフィードバックの方法

事前学習を踏まえ、各教員が学生間とのディスカッションや討議等を通してフィードバックを行う、また授業後には演習シートの提出を行い、質問等には適切に対応する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	1. 講義内容の説明・概論 全国的な地域づくり、地域創生の基本的な考え方、手法及び先進事例等、本講義の概要と目的、スケジュールの説明と学生の自己紹介を含めた地域づくりへの思いを話し合う。	準備学習および必要時間(30分):シラバスを読み授業内容を理解しておく	事後学習および必要時間(150分):授業の概要を復習し演習シートに取り組み提出する
担当教員	木村 俊昭、熊野 稔		
第2回	2. まちづくりとしての地域未来学 まちづくりの基本や考え方及び内容や体系、プロジェクトの企画、調査、計画、実践、評価のフロー、先進事例などを学び、演習シートに記入していくアクティブラーニングも実施する。	準備学習および必要時間(90分) インターネットでまちづくりについて検索して学習する	事後学習および必要時間(90分) まちづくりの考え方、手法、先進事例を復習して演習シートを提出する。
担当教員	熊野 稔		
第3回	3. 「村おこし」としての地域未来学 過疎地域で人口減少に悩む町村地域の再生、特産品開発や観光開発、移住・定住施策他の村おこし事業についての基礎、考え方及び内容や体系を、北海道内外の先進事例のケーススタディも学習しながら学ぶ。演習シートに記入していくアクティブラーニングも実施する。	準備学習および必要時間(90分) インターネットで村おこしについて検索して学習する	事後学習および必要時間(90分) 村おこし事業について復習するとともに演習シートを行い提出する。
担当教員	熊野 稔		

第4回	4. 国土開発と利用、都市計画及び地域マネジメント基礎 我が国の国土開発、国土計画を国土のグランドデザイン2050などから学び、都市計画とエリアマネジメント、農村計画と地域運営組織等の地域マネジメントの基礎を学習する。演習シートに記入していくアクティブラーニングも実施する。	準備学習および必要時間(90分) インターネットで国土開発と利用、都市計画及び地域マネジメントについて検索して学習する。	事後学習および必要時間(90分) 授業の復習とともに演習シートを行い提出する。
担当教員	熊野 稔		
第5回	5. 全国の地域づくり先進事例 現代の地域課題の解決に向けて推進中の先進的な地域づくり事例を都市部、農山村地域から選抜して紹介する。演習シートに記入していくアクティブラーニングも実施する。	準備学習および必要時間(90分) インターネットで地域づくり先進事例について検索して学習する	事後学習および必要時間(90分) 授業の復習とともに演習シートを行い提出する。
担当教員	熊野 稔		
第6回	6. 北海道の先進地域づくり 北海道野の各地域課題の解決に向けて推進中の先進的な地域づくり事例を都市部、農山村地域から選抜して紹介する。演習シートに記入していくアクティブラーニングも実施する。	準備学習および必要時間(90分) インターネットで北海道の地域づくり先進事例について検索して学習する	事後学習および必要時間(90分) 授業の復習とともに演習シートを行い提出する。
担当教員	熊野 稔		

第7回	7. 地域づくりのイノベーションと法体系 地域課題を解決する革新的な手法で生み出された地域イノベーション体系の基礎を学習する。ポケットパークや道の駅、市街地再開発や温泉街の再生なども事例に取り上げて理解を深める。また地域づくりに関する都市計画法などの法体系の基礎も学習する。 演習シートに記入していくアクティブラーニングも実施する。	準備学習および必要時間(90分) インターネットで地域イノベーションの先進事例について検索して学習する	事後学習および必要時間(90分) 授業の復習とともに演習シートを行い提出する。
担当教員	熊野 稔		
第8回	8. 地域未来学演習:アクティブラーニング どこの町のどの地区の課題を浮き彫りにして、いかなる手法で解決していくかの地域のデザインを考えて1000字程度のレポートを仕上げて提出する。	準備学習および必要時間(90分) インターネットで地域づくりワークショップについて検索して学習する	事後学習および必要時間(90分) 授業の復習とともに演習シートを行い提出する。
担当教員	熊野 稔		
第9回	9. 地域創生学と地域創生・SDGsの本質 都心部への過度な人口集中を食い止め、少子高齢化や人口減少等で衰退する地方自治体の持続的発展のために、国・企業と一体となって地域経済を活性化しようとする取り組みを「地域創生」と考える。2014年に打ち出された「地方創生」という政策の名前から生まれた。また、SDGsとは「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」の略称でSDGs(エス・ディー・ジーズ)と読む。SDGsは2015年9月の国連サミットで採択され、国連加盟193か国が2016年から2030年の15年間で達成するために持続可能でよりよい世界を目指すために掲げた17目標と169ターゲットからなる。この2つの基礎を学ぶ。	準備学習および必要時間(90分) インターネットで地域創生、SDGsを検索して学習する	事後学習および必要時間(90分) 復習を実施して課題等にも取り組む
担当教員	木村 俊昭		

第10回	10. 地域創生・SDGsと6次産業化の推進 ＊ゲスト農林水産省農村政策部長 地域創生・SDGsの基礎を学びながら、17の目標の様々な分野に関連する6次産業化の推進について、政策現場に精通した農林水産省農村政策部長をゲストに学ぶ。 6次産業化とは、1次産業を担う農林漁業者が、自ら2次産業である「加工」や3次産業の「販売・サービス」を手掛け、生産物の付加価値を高めて農林漁業者の所得を向上する取り組みを指す。「6次産業=1次産業(農林漁業)×2次産業(加工)×3次産業(販売・サービス)」と、1次産業にほかの産業を掛け算して6次産業としている。	準備学習および必要時間(90分) インターネットで地域創生、SDGsと6次産業化を検索して学習する	事後学習および必要時間(90分) 復習を実施して課題等にも取り組む
担当教員	木村 俊昭		
第11回	11. 地域創生・SDGsの実践 地域創生・SDGsの実践について講師の体験実践や先進事例等を通じて実証的に学ぶ。	準備学習および必要時間(90分) インターネットで地域創生、SDGs実践を検索して学習する	事後学習および必要時間(90分) 復習を実施して課題等にも取り組む
担当教員	木村 俊昭		
第12回	12. 地域創生・SDGsとデジタル化 デジタル庁審議官(経済産業省からの出向者) 地域創生・SDGsを推進するに際して労働生産性を高めるデジタル化は欠かせない。デジタル化とは、アナログな業務をデジタルに変えることを意味し、事務処理をペーパーレス化する、朱肉の押印の契約処理を電子契約化する、社内のマニュアルや資料を電子化・クラウド化する、ウェブ会議ツールを用いたりリモートワーク(テレワーク)なども含まれる。業務効率化やコスト削減、新規ビジネス創出、働きやすい環境づくりなどにおいて欠かせない手段とされ、デジタル庁審議官をゲスト講師でお呼びして学習する。	準備学習および必要時間(90分) インターネットで地域創生、SDGs、デジタル化を検索して学習する	事後学習および必要時間(90分) 復習を実施して課題等にも取り組む
担当教員	木村 俊昭		

第13回	13. 地域創生・SDGsと地域雇用の促進 厚生労働省審議官(地域雇用活性化担当)地域雇用開発促進法に基づき厚生労働省では、雇用機会が不足している地域や過疎化が進んでいる地域等による、地域の特性を生かした「魅力ある雇用」や「それを担う人材」の維持・確保を図るための創意工夫ある取組を地域雇用活性化推進事業等により支援している。厚生労働省審議官をゲスト講師にお招きして講義を行う。	準備学習および必要時間(90分)インターネットで地域創生、SDGs、地域雇用促進を検索して学習する	事後学習および必要時間(90分)復習を実施して課題等にも取り組む
担当教員	木村 俊昭		
第14回	14. 地域創生・SDGsの推進と人財養成 地域創生・SDGsの推進とその担い手となる人財養成について、自らの体験や先進事例、その手法と体系などについて学習する。	準備学習および必要時間(90分)インターネットで地域創生、SDGs、人財養成を検索して学習する	事後学習および必要時間(90分)復習を実施して課題等にも取り組む
担当教員	木村 俊昭		
第15回	15. 総括 今までの授業を振り返り、受講生と対話や議論を重ねながら重要点の復習や今後の地域創生の方向性を語り合う。	準備学習および必要時間(90分):今までの学習を振り返り重要事項を復習する。	事後学習および必要時間(90分):今までの復習と反省点に立ち、今後の学習の方向性を考える。
担当教員	木村 俊昭、熊野 稔		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	各授業の出席状況(20%)と各授業の演習シート等の提出(30%)、全体レポート等(50%)による合計100%で評価する。
その他	0	なし
教科書		
オリジナル資料を配布する		
参考文献		

特になし

履修条件・留意事項等

原則、すべての授業に出席すること。各授業の出席と演習シート等の提出、全体レポート等で評価する。試験は無し。

備考欄

インターネットによる資料検索等を事前学習で行う

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		専門基礎科目 地域理解					
科目名		世界と北海道				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	小山田 健						
授業の位置づけ							
世界と地域の視点から、自然環境、社会、文化、歴史等についての専門知識を身につける。世界各地域の活性化につながるための異文化コミュニケーション能力を身につける。グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力を備えていく。世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚も身につける。初年次教育の一環として、北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につける。(思考・判断・表現) 地域未来学科のディプロマポリシー「地域の歴史や文化、多様な資源の価値を深く理解し、新たな価値を創造することにより、持続可能な社会を実現し、次代へ発信・継承することができる(知識・技能)。」ことと特に関係する科目である。							
授業の概要							
地域の歴史や文化、多様な資源の価値を深く理解し、新たな価値を創造することにより、持続可能な社会を実現し、次代への発信・継承することができる。グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や教養力を備えている。世界とつながるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけている。北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につけている。本科目は、私たちが暮らす北海道と世界がどのようにつながっているかの理解を深め、北海道に関する知識を深めていく科目である。北海道の主力産業である第一次産業の産品は今や世界の高級ブランドとして消費され、北海道には世界中から観光客が訪れるようになった。また外国人居住者も増加しており、北海道のグローバル化の現状について、学生は様々な分野の統計や詳細データを収集し、その資料を多角的な視点で分析し、データの裏付けから現状と課題を映し出す手法を身に付ける。							
到達目標							

1.北海道と世界のつながりを、観光の視点から述べるができるようになる。 2.経済産業省が示す社会人基礎力である前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力を得ていく。 3.PBL学習 (Project/Problem Based Learning)について論じることができるようになる。 4.北海道について知るための統計やデータの収集方法がわかり、実践できるようになる。 5.データの初歩的な分析方法がわかり、実践できるようになる。 6.北海道全体と地域の問題を述べるができるようになる。 7.地元学を理解し、課題解決法のための実践ができるようになる。

授業の方法

パワーポイントと配布資料などを使用し講義を進める。また、授業ごとに編成するチームでのグループワークやプレゼンテーションなども行っていく。

ICT活用

資料提示や情報収集のために、スマートフォンなどを使用する場合がある。本学が推奨するものや、zoomなども取り入れていく。

実務経験のある教員の教育内容

観光や広告業界で約20年間の実務経験があり、ビジネス実務についての幅広い知識を有している。この経験を活かして、学術的な視点だけでなく、ビジネスの場における実践的内容の指導も行う

課題に対するフィードバックの方法

各回に、全体での振り返り、グループでの振り返り、グーグルクラスルームなどでの振り返りなどを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション(授業の進め方) この講義における授業の進め方・評価の方法・習得できる 内容が理解できるようになる	世界の人口、世界各国の人口、 日本の人口、日本各都道府県 の人口、北海道の人口、北海道 各市町村の人口を調べておくこ と(90分)	授業内容を復習しまとめておくこ と(90分)
担当教員	小山田 健		
第2回	世界を、日本を、北海道を知ろうⅠ →一緒にともにする同学年のこれまで住んでいた場所を調 べる、共有する	同じ学年の留学生の出身国の「 国の人口」「首都の人口＋首都 名」「主な産業」を調べておくこ と(90分)	授業内容を復習しまとめておくこ と(90分)
担当教員	小山田 健		
第3回	世界を、日本を、北海道を知ろうⅡ →先生方の出身国や出身地について調べる	「国の人口」「首都の人口＋首都 名」「主な産業」を調べておくこ と(90分)	授業内容を復習しまとめておくこ と(90分)
担当教員	小山田 健		

第4回	世界を、日本を、北海道を知ろうⅢ →本学の図書館やシステムを活用しての情報収集方法を把握する。また、経営学の手法を使った基礎的分析法についても把握すること	図書館にいて、世界各国や日本、北海道に関連する書籍がどこにあるのかを確認しておくこと。また、その他に、図書館にはどのような書籍があり、どのようなことができるかも、実際に足を運ばせ確認しておくこと(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員	小山田 健		
第5回	世界を、日本を、北海道を知ろうⅣ →事前に調べた世界の国と、日本や北海道の関係をグループで話しあい、まとめていく調べていく(前回授業の情報収集法を活かして行う)	選択した世界の国と、日本や北海道の関係を調べておくこと(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員	小山田 健		
第6回	世界を、日本を、北海道を知ろうⅤ →事前に調べた選択された世界の国と、日本や北海道の関係をグループで話しあい、まとめていく調べていく(前々回と前回授業の情報収集法を活かして行う)	選択した世界の国と、日本や北海道の関係を調べておくこと(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員	小山田 健		

第7回	世界を、日本を、北海道を知ろうⅥ →第5回、第6回で各グループで調べられた内容をまとめ、全体を把握していく	グーグルクラスルームに投稿されている、各チームのこれまでの情報を確認しておくこと(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員	小山田 健		
第8回	前半:小テスト(第2回～第7回の内容) 後半:北海道について(これからの授業内容等について)	これまで行った内容を復習しておくこと(90分)	グーグルクラスルームに投稿した、これからの内容について再度目を通し把握しておくこと(90分)
担当教員	小山田 健		
第9回	北海道の戦略と取り組みⅠ →世界水準の価値創造空間を目指す開発計画についての把握(ホームページからの統計やデータの収集について)	「北海道総合開発計画」について調べておくこと(90分)*詳しくは前の授業内で伝えます(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員	小山田 健		

第10回	北海道の戦略と取り組みⅡ →世界水準の価値創造空間を目指す開発計画と、北海道グローバル戦略についての把握(統計やデータの収集)	「北海道グローバル戦略」指定箇所について調べておくこと(90分)*詳しくは前の授業内で伝えます(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員	小山田 健		
第11回	北海道の戦略と取り組みⅢ →北海道グローバル戦略についての把握(統計やデータの収集)	「北海道グローバル戦略」指定箇所について調べておくこと(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員	小山田 健		
第12回	主要施策の「観光」についての分析と把握Ⅰ／地元を考える。地元を分析する。 →地域資源カードの作成法	「地元学」について調べておくこと。また、出身国、出身地の観光産業や入込状況などを調べていくこと(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員	小山田 健		

第13回	主要施策の「観光」についての分析と把握Ⅱ／北海道の観光先進地を把握し分析していく。 →地域資源カードの作成	ニセコエリア、富良野エリアについての市町村、各市町村の入込、1－12月の観光状況について調べておくこと(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員	小山田 健		
第14回	主要施策の「観光」についての分析と把握Ⅱ／大学のある恵庭市を把握する。分析していく。 →地域資源カードを使った戦略立案法	指定する恵庭市の資料を読み、観光の状況を把握しておくこと(90分)	本日フィードバックされたことと、各チームの内容を整理しておくこと(90分)
担当教員	小山田 健		
第15回	最終レポート(SWOT分析を使った戦略立案について) ＊これまでの内容を踏まえた最終レポートの作成をいただきます。詳細は当日発表します。	SWOT分析ができるようになっておくこと、また恵庭市の観光の魅力についても、再度分析しておくこと(90分)	第1回から第15回までの内容を再度確認し復習すること(90分)
担当教員	小山田 健		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	○授業意欲(事前・事後課題の取り組み、授業内個人ワーク、グループワーク具合を評価します) ○授業態度(無断欠席、着帽、授業態度が悪い場合は減点します) ○小テスト(第2回～第6回の内容を踏まえ、第7回に行います) ○最終レポート(これまでの授業の取り組みを確認をするため、最終レポートの作成を行っていただきます。最終回第15回に御旨います。レポートの内容については、当日伝えます)
その他	0	
教科書		
なし		
参考文献		

なし

履修条件・留意事項等

- ・国際学部 of 学生は、「ニセコ国際研修」かこの「世界と北海道」のいずれかを履修しなければならない『選択必修』です。どちらかの科目を必ず履修するようにしてください。
- ・地域未来学科 of 学生は、この科目は『選択科目』となります。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		専門基礎科目 地域理解					
科目名		日本政治経済論				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	宮本 融						

授業の位置づけ

本科目は、国際学部国際教養学科のディプロマ・ポリシー「専門分野における基本的な知識を系統立てて修得し、そこから得られた知見をもとに世界の諸課題を分析し、研究成果としてまとめる方法論を身につけている。(知識・技能)。」等に関連する。国際教養学科に多く存在する政治系科目の一年生科目として「政治学入門」の役割も担い、ディプロマ・ポリシー「複数の専門分野を総合的に理解し、世界の諸地域の課題を理解し分析することのできる幅広い教養を身につけている。(思考・判断・表現)」につながる複眼的な眼差しというものを体感してもらう。この科目は地域未来学科でも開講しており、地域未来学科のディプロマ・ポリシー「幅広い視点から地域課題を発見し、課題解決に向けて主体的に行動でき、かつ、地域において協働できる人的資源の開発や組織体制の構築に貢献できる。(思考・判断・表現)」に特に関連している。

授業の概要

本科目は、世界の変化や現象をどのように分析するのかを学んでいくにあたり、その出発点として、現代の日本の政治についての基本的な知識を習得するための科目である。具体的には、日本の現代政治を主題としながら政治学の基本的な理論、観点を修得し、現代日本政治の特徴について、近代から現代に至る歴史的変遷を踏まえ、実証的に考察する力を養う。

到達目標

受講生は、
 ① 自ら関心を持つ政治分野をいくつか特定して現代の動きをフォローするようになる。
 ② その分析について必要な理論的枠組みの概要について、基礎的な知識を得る。
 ③ 自らの見解を持つために必要な情報を、どのような形で(新聞、テレビ・ラジオ、ネット等から)収集し、どのような基準で取捨選択すべきかを判断し、解決策を主体的に提示できるようになる。
 以上を到達目標とする。

授業の方法

PowerPointを用いた講義形式で行う。受講生の積極的な議論参加を期待している。思いついた疑問をクラス内で共有し、双方向的な講義を行う。

ICT活用

Google Classroomにより、授業外においても日々のマスコミ情報の補充等を行うとともに受講生との対話を行う。また関連するインターネット上の資料や報道動画等を適宜参照する。

実務経験のある教員の教育内容

通商産業省(現・経済産業省)職員として、地球環境問題をはじめとする条約交渉やWTOを中心とする外交交渉の現場だけでなく、日米における政策決定過程に関与した経験および日本政治の実践に関わった経験を交えたエピソードも適宜紹介しながら、受講生の問題への関心を高める工夫をする。

課題に対するフィードバックの方法

講義中での積極的なディスカッションを称揚するほか、講義期間中2回程度の小課題を提出させ、理解度や受講者個人の関心の方向性を把握し、ケーススタディの選択の参考にする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	はじめに 1. 政治学とは何か 2. 政治学の学び方 3. 参考文献リストの使い方 4. 受講生の心得	シラバスを読み、自らの関心を明確にしつつ、指定された参考文献を読んでおくこと。(90分)	配布プリントや参考文献を読了し、講義の内容をノート等で復習しておくこと。(90分)
担当教員			
第2回	第1章 権力と支配 0. みんなの知ってる「〇〇」は「ブラック企業」か？ 1. 「権力」 (1) 権力の構成要素 (2) 権力の行使の態様 (3) 権力関係の類型 (4) 権力と権威 (5) 「〇〇」について考える	指定された文献を読んでおくこと。(90分) 北村・久米・真淵『はじめて出会う政治学』第3版補訂 有斐閣アルマ 2010	講義の内容をノートで復習するとともに、指定された文献を読了しておくこと。(90分)
担当教員			
第3回	第2章 「政治」と「国家」 1. 「政治」 (1) 「政治」現象の範囲 (2) 「政治」の定義 2. 「国家」観の歴史 (1) 古代における「国家」 (2) 中世における「国家」 (3) 近世における「国家」	指定された文献を読んでおくこと。(90分) ジャック・ル＝ゴフ(菅沼潤訳)『ヨーロッパは中世に誕生したのか？』藤原書店 2014	講義の内容をノートで復習するとともに、指定された文献を読了しておくこと。(90分)
担当教員			

第4回	第3章 欧州世界における「国家」 1. ヨーロッパとは何か～中世後期の欧州世界 2. ルネッサンスと国民国家形成 3. 絶対主義国家	指定された文献を読んでおくこと。(90分) 高校世界史(できればB)教科書で、欧州中世から近代に至る過程を復習しておくこと。 高校時代世界史を受講しなかった受講生は、『世界の歴史』編集委員会編『新 もう一度読む山川世界史』山川出版社 2017の該当箇所を読んでおくこと。	講義の内容をノートで復習するとともに、指定された文献を読了しておくこと。(90分)
担当教員			
第5回	第4章「国家観」の近代 1. ドイツ国家論 2. 社会主義への道 3. マルクスとマルクス主義による批判 4. 20世紀アメリカ政治学と実証主義	指定された文献を読んでおくこと。(90分) Roman Szporluk, Communism and Nationalism: Karl Marx versus Friedrich List, Oxford UP. 1993	講義の内容をノートで復習するとともに、指定された文献を読了しておくこと。(90分)
担当教員			
第6回	第5章 現代政治学における「政治」と「国家」 1. 民主主義と権威主義 2. 「発展段階説」と「革命」 3. 「第三世界」と「Global South」における「国家」	指定された文献を読んでおくこと。(90分)	講義の内容をノートで復習するとともに、指定された文献を読了しておくこと。(90分)
担当教員			

第7回	第6章 日本政治の最大命題としての「天皇制」 1. 日本の「国体」 (1) 明治維新の構造 (2) 「密教」としての大日本帝国憲法と「密教」としての教育勅語 (3) 帝国議会と立憲主義	指定された文献を読んでおくこと。(90分) 藤田省三『天皇制国家の支配原理』みすず書房 2012 または市川弘正編『藤田省三セレクション』平凡社 2010	講義の内容をノートで復習するとともに、指定された文献を読了しておくこと。(90分)
担当教員			
第8回	第6章 日本政治の最大命題としての「天皇制」 1. 日本の「国体」 (4) 大正デモクラシー (5) 日本型ファシズム 2. 丸山眞男「超国家主義の論理と心理」を読む	指定された文献を読んでおくこと。(90分) 丸山眞男「超国家主義の論理と心理」杉田敦編『丸山眞男セレクション』平凡社 2010 苅部直『丸山眞男ーリベラリストの肖像』岩波新書 2006	講義の内容をノートで復習するとともに、指定された文献を読了しておくこと。(90分)
担当教員			
第9回	第6章 日本政治の最大命題としての「天皇制」 2. 丸山眞男「超国家主義の論理と心理」を読む 3. 戦後日本の天皇制 (1) 新憲法における象徴天皇制 (2) 戦争責任論 (3) 現代日本における天皇の役割	指定された文献を読んでおくこと。(90分) 安丸良夫『近代天皇像の形成』岩波現代文庫 2007 山本雅人『天皇陛下の全仕事』講談社現代新書 2009 古川隆久『昭和天皇「理想の君主」の孤独』中公新書 2011	講義の内容をノートで復習するとともに、指定された文献を読了しておくこと。(90分)
担当教員			

第10回	第7章 フェミニズムと日本政治 1. 上野千鶴子「東大入学式祝辞」を読む 2. 女性のいない日本政治 3. 政治学とフェミニズム	指定された文献を読んでおくこと。(90分) 上野千鶴子「平成31年度東京大学入学式祝辞」 前田健太郎『女性のいない民主主義』岩波新書 2019 安藤優子『自民党の女性認識 イエ中心主義の政治志向』明石書店 2022 岡野八代『ケアの倫理ーフェミニズムの政治思想』2024	講義の内容をノートで復習するとともに、指定された文献を読了しておくこと。(90分)
担当教員			
第11回	第8章 民主主義の制度 1. Poliarchy 2. 議会	指定された文献を読んでおくこと。(90分) ロバート・A・ダール(高島通敏・前田脩 訳)『ポリアーキー』岩波文庫 2014	講義の内容をノートで復習するとともに、指定された文献を読了しておくこと。(90分)
担当教員			
第12回	第8章 民主主義の制度 3. 体制変動における議院内閣制と大統領制 4. 首相公選制	指定された文献を読んでおくこと。(90分)	講義の内容をノートで復習するとともに、指定された文献を読了しておくこと。(90分)
担当教員			

第13回	第8章 民主主義の制度 5. 政党 (1) 政党の役割 (2) 政党組織の分類学 (3) 政党システム～選挙区制と政党	指定された文献を読んでおくこと。(90分) 川人貞史・吉野孝・平野浩・加藤淳子『現代の政党と選挙』有斐閣アルマ 新版 2011	講義の内容をノートで復習するとともに、指定された文献を読了しておくこと。(90分)
担当教員			
第14回	第9章 日本における政党政治 1. 大正デモクラシーと憲政の常道 2. 自由民主党	指定された文献を読んでおくこと。(90分) 井上寿一『政友会と民政党 戦前の二大政党制に何を学ぶか』中公新書 2012	講義の内容をノートで復習するとともに、指定された文献を読了しておくこと。(90分)
担当教員			
第15回	第10章 日本における政党政治 3. 「野党」論 まとめ 日本政治における「学び」	指定された文献を読んでおくこと。(90分) 吉田徹『「野党論」何のためにあるのか』ちくま新書 2016	講義の内容をノートで復習するとともに、指定された文献を読了しておくこと。さらに、期末課題を作成すること。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行わない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業への参加度・出席態度 40 % 中間課題 30 % 期末課題 30 %
その他	0	
教科書		
北村俊哉・久米郁男・真淵勝『はじめて出会う政治学』有斐閣アルマ		
参考文献		

久米郁男・川出良枝・古城佳子・田中愛治・真淵勝『補訂版 政治学』有斐閣 2011
 佐々木毅『政治学講義』第2版 東京大学出版会 2012
 政治学の教科書として前者は標準的なものであり、手元に置いて用語集のように利用してほしい。後者は現時点でも日本語で書かれた最高水準の内容である。購入して手元におき、本講義はもとより日々のマスコミ等に接しての疑問に思ふ事項を検索するようにしてほしい。
 日本については、
 京極純一『日本の政治』東京大学出版会 1983
 かなり古くなったが、日本政治の古層に岩盤のように維持されている構造を現時点においても、最もよく分析している本の一つ。変わらない日本の組織のあり方に絶望すればするほど、深く納得させられる分析が随所に見られる。「オトナ」にならないとこれは理解されないことかもしれない。

履修条件・留意事項等

大学生としての出発点として、政治学・政治過程論の基礎概念の解説を行いながら、受講者の関心を反映することを検討するのであって、扱ってほしい課題のリクエスト等、積極的に参加してほしい。
 なお、2025年の参議院選挙を経て日本の政治の中心課題が大きく変わりうるので、扱う内容を一部変更することはありうるので、日々の政治報道に注目してほしい。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		専門基礎科目 地域理解					
科目名		自治体を知る				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	熊野 稔						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「地域の歴史や文化、多様な資源の価値を深く理解し、新たな価値を創造することにより、持続可能な社会を実現し、次代へ発信・継承することができる。(知識・技能)」、「地域社会の中核的コーディネーターとして、多様な主体とのつながりを生み出し、包摂的で持続可能な地域コミュニティを他者と共創できる。(知識・技能)」及び「幅広い視点から地域課題を発見し、課題解決に向けて主体的に行動でき、かつ、地域において協働できる人的資源の開発や組織体制の構築に貢献できる。(思考力・判断力・表現力)」と特に関係し、地域の歴史、文化、資源について理解するための科目である。							
授業の概要							
本科目では、(地方)自治体について広く学ぶ。各回、自治体に関連するトピックを扱い、場合によっては、首長をはじめとする自治体関係者をゲストスピーカーとして招く等、履修者の学びに立体的な深みを持たせながら、我が国の地域社会を支える自治体についての基礎的な理解を促進する。							
到達目標							

ディプロマ・ポリシーの位置づけに則り、学生は、地方自治法の基礎や地方自治体のしくみや総合計画及び行政の実態を理解して、地方自治体についての知識や自分の意見を語ることができる。

授業の方法

・パワーポイントや動画、配布資料等による説明・講義、恵庭市をはじめとする自治体関係者をゲストに招くなどして、地域資源の活用や地域づくり・協働の実情などについての学びが深まるようにする。

ICT活用

・プレゼンテーションソフトを活用した説明や事例研究を行う。
 ・Google Geminiを活用して、リアルタイムに受講生のふりかえりや意見の集約を行う。
 ※Google meet等を活用し、ゲストによる講話等を行う。

実務経験のある教員の教育内容

なし

課題に対するフィードバックの方法

・次回の講義で前時の気づき等について、受講生同士の意見交換やコメントの時間を設ける。
 ・提出を要する課題に対しては、以降につながるコメントを付してフィードバックする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	講義の進め方を理解するとともに、自治体の機能や役割等の概要について理解を深める。地方自治に関する基礎演習実施。	教育・学習・学びについて調べ、自分なりのイメージを持って授業に臨む(90分)。	講義資料やノートをもとに、講義全体についての見通しを持つ(90分)。
担当教員	熊野 稔		
第2回	恵庭市の総合計画とまちづくりについて理解を深める。	授業のテーマについて調べて授業に臨む(90分)。	講義資料やノートをもとに、気づきを整理する(90分)。
担当教員	熊野 稔		
第3回	恵庭市の都市計画行政とまちづくりについて理解を深める。	授業のテーマについて調べて授業に臨む(90分)。	講義資料やノートをもとに、気づきを整理する(90分)。
担当教員	熊野 稔		

第4回	地方自治法の基本的事項について理解を深める。	授業のテーマについて調べて授業に臨む(90分)。	講義資料やノートをもとに、気づきを整理する(90分)。
担当教員	熊野 稔		
第5回	地方自治体における広報の意義や役割について理解を深める。	授業のテーマについて調べて授業に臨む(90分)。	講義資料やノートをもとに、気づきを整理する(90分)。
担当教員	熊野 稔		
第6回	地方自治体における観光とまちづくりについて理解を深める。	授業のテーマについて調べて授業に臨む(90分)。	講義資料やノートをもとに、気づきを整理する(90分)。
担当教員	熊野 稔		

第7回	地方自治体における財政の基本的事項について理解を深める。	授業のテーマについて調べて授業に臨む(90分)。	講義資料やノートをもとに、気づきを整理する(90分)。
担当教員	熊野 稔		
第8回	安心安全な生活のための自治体の役割について理解を深める。	授業のテーマについて調べて授業に臨む(90分)。	講義資料やノートをもとに、気づきを整理する(90分)。
担当教員	熊野 稔		
第9回	農村型自治体(長沼町)の地域づくり(交流人口を増やすグリーンツーリズムの取組)について理解を深める。	授業のテーマについて調べて授業に臨む(90分)。	講義資料やノートをもとに、気づきを整理する(90分)。
担当教員	熊野 稔		

第10回	農村型自治体(長沼町)の地域づくり(芸術文化、アーティスト支援の取組)について理解を深める。	授業のテーマについて調べて授業に臨む(90分)。	講義資料やノートをもとに、気づきを整理する(90分)。
担当教員	熊野 稔		
第11回	農村型自治体(長沼町)の地域づくり(住民によるまちづくりの取組)について理解を深める。	授業のテーマについて調べて授業に臨む(90分)。	講義資料やノートをもとに、気づきを整理する(90分)。
担当教員	熊野 稔		
第12回	貧困問題と自治体の役割について理解を深める。	授業のテーマについて調べて授業に臨む(90分)。	講義資料やノートをもとに、気づきを整理する(90分)。
担当教員	熊野 稔		

第13回	恵庭市における子育て支援と自治体の役割について理解を深める。	授業のテーマについて調べて授業に望む(90分)。	講義資料やノートをもとに、気づきを整理する(90分)。
担当教員	熊野 稔		
第14回	恵庭市における家庭教育支援と教育委員会の役割について理解を深める。	授業のテーマについて調べて授業に臨む(90分)。	講義資料やノートをもとに、気づきを整理する(90分)。
担当教員	熊野 稔		
第15回	ふりかえりとまとめ 講義での学びや気づきをふりかえり、まとめた内容を発表し、グループで協議する。	これまでの講義資料やノート、課題を読み直し、授業に臨む(90分)。	講義全体を通しての学びや気づきをふりかえり、整理する(90分)。
担当教員	熊野 稔		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	①授業外レポート4回(各20%) 80% ②最後のプレゼン1回 10% ③授業への参加度・出席態度 10%
その他	0	
教科書		
無し		
参考文献		

・適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

・地方自治体職員を目指す学生の受講を特に期待する。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		専門基礎科目 地域理解					
科目名		北海道の食文化				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	藤井 駿吾、渡部 俊弘、青 晴海						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーにおける「北海道、日本及び世界諸地域の課題とその分析や解決を考えることのできる、世界諸地域の言語、政治、経済、社会、文化等の国際教養を身につけている。(知識・技能)」、および地域未来学科のディプロマ・ポリシー「地域の歴史や文化、多様な資源の価値を深く理解し、新たな価値を創造することにより、持続可能な社会を実現し、次代へ発信・継承することができる。(知識・技能)」ことと特に関係がある科目である。また、「世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけている。(関心・意欲・態度)」こととも関係がある。							
授業の概要							
この授業は、北海道の先住民であるアイヌ民族の生活からの食文化について。シャケなどを例に挙げ、生活様式と食文化の関連をアイヌ文化の観点から講述する。一方、明治2年、蝦夷地は北海道に改名され、開拓とともに日本各地から人々が移住してきた。そのような歴史的背景と地域特性から食生活が多様化し、ジンギスカンや石狩鍋、鮭のちゃんちゃん焼きなどの郷土料理が生まれた。その観点からも北海道の食文化を講述する。							
到達目標							

学園創設の時代背景を踏まえ、いま再び不安定になっている世界情勢に鑑み、食文化(食べること)が各所に与える影響の大きさやその質については、VUCAの時代を生きる上で理解する必要がある。本授業では「食べること／食文化」を多角的に観察し、国際的かつ歴史的に、食が文化の創造に不可欠な要素である点や、それらの要素が現代社会の基盤を形成している点について学習する。履修者は絶えず変化を求められる時代を生きていく中において、社会構造を再考するために必要な素養と基礎知識の獲得を目標とする。

授業の方法

教員作成パワーポイント資料、印刷物・動画資料などを用いて講義形式で展開し、社会の実務者による講義も行う。また、学生間での対話(ディスカッション)を含むチーム学習も行う。

ICT活用

授業内容に関連するホームページや動画を用いる。課題などのやり取りにGoogle classroomを使用する。

実務経験のある教員の教育内容

なし

課題に対するフィードバックの方法

ディスカッションなどのフィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	〈はじめに〉「北海道の食文化を理解するために」 北海道の食文化や、食べることは総合的な学問体系の基礎につながると考える。人々の食生活はその国や地域の歴史や地形、気候等を基礎として決定づけられており、例えばそこに派生する「農業」を理解するためには、食文化が総合的な学びであることへの理解が必須である。その他、民族や食生活、産業や海外文化等の要素と関連づけて講述する。	シラバスをよく読み、自らの問題意識を整理すること。また、「北海道の食文化」の自分なりのイメージを持っておくこと。(90分)	配布プリント、講義内容を復習し、必要に応じて調べること。(90分)
担当教員	渡部 俊弘		
第2回	「北海道の食文化とアイヌ～漫画『ゴールデンカムイ』から～」 アイヌ民族と食との関係についての理解深化を目指し、アイヌ関連資料を用いて講述する。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布プリント、講義内容を復習し、必要に応じて調べること。(90分)
担当教員	青 晴海		
第3回	「北海道内各地の食文化を比較する(道北・道南・道東・道央など)」／「食を支える栄養学」 ・道内各地方の郷土料理 ・食と、食を支える栄養学の関係 など	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布プリント、講義内容を復習し、必要に応じて調べること。(90分)
担当教員	青 晴海		

第4回	「北海道の食と日本各地の食文化を比較する(関東・東北地方など)」／「食を支える栄養学」 ・関東・東北地方の郷土料理 ・食と、食を支える栄養学の関係 など	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布プリント、講義内容を復習し、必要に応じて調べること。(90分)
担当教員	青 晴海		
第5回	「北海道の食と日本各地の食文化を比較する(関西・九州・四国地方など)」／「食を支える栄養学」 ・関西・九州・四国地方の郷土料理 ・食と、食を支える栄養学の関係 など	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布プリント、講義内容を復習し、必要に応じて調べること。(90分)
担当教員	青 晴海		
第6回	「北海道の食と世界の食文化を比較する(ヨーロッパ編)」 ・イタリア:スローフード(Citta Slow)の考え方 ・フランス:食の都パリ、国が食を大事にする精神性・スペイン:食を柱とした地域の活性化の成功例 ・鶴岡新太郎とフランス料理(料理法百たい(1)、料理法百たいに学ぶ) など	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布プリント、講義内容を復習し、必要に応じて調べること。(90分)
担当教員	青 晴海		

第7回	「北海道の食と世界の食文化を比較する(アジア編)」 ・中国、韓国: 日中韓の食事様式について	これまでの授業の全体像を見つめ直し、自分にとって必要な栄養や知識について整理しておくこと。(90分)	これまでの授業を踏まえ、今後自分にとって何が重要なポイントか、必要に応じて文献などを用いて調べること。(90分)
担当教員	青 晴海		
第8回	〈まとめ〉「食糧難の時代 2050年に備えて」 ・人口増大のピークにむかう地球(総人口90億人へ) ・世界情勢と食糧危機 ・国際学部生として大切なこと など	これまでの授業の全体像を見つめ直し、自分にとって必要な栄養や知識について整理しておくこと。(90分)	これまでの授業を踏まえ、今後自分にとって何が重要なポイントか、必要に応じて文献などを用いて調べること。(90分)
担当教員	青 晴海		
第9回	「ガイダンス／その他の学びへと派生する(北海道の)食」 ・「(北海道の)食や食べること×その他の総合的な学問体系」の関係性 など	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布プリント、講義内容を復習し、必要に応じて調べること。(90分)
担当教員	藤井 駿吾		

第10回	「北海道の食文化の誕生と郷土料理」 ・北海道の食文化と郷土料理(ジンギスカン、石狩鍋、鮭のちゃんちゃん焼き等)、食文化の歴史 など	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布プリント、講義内容を復習し、必要に応じて調べること。(90分)
担当教員	藤井 駿吾		
第11回	「北海道の遺跡からわかる食文化(仮)(恵庭市郷土資料館長町 章弘 学芸員)」 北海道及び恵庭市の歴史について展示等を通して学びに繋げる取組を行っている社会教育施設の現場に従事する実務者による実践的な講義を通して、北海道の歴史や民族について考察する。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布プリント、講義内容を復習し、必要に応じて調べること。(90分)
担当教員	藤井 駿吾		
第12回	「北海道の食を支える人と産業」 ・北海道の食を支える主な食産業、歴史 など	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布プリント、講義内容を復習し、必要に応じて調べること。(90分)
担当教員	藤井 駿吾		

第13回	「地理と食産地の関係」 ・実は暗記科目ではない「地理」 ・「地理」から見つめてみる世界の食産地 など	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布プリント、講義内容を復習し、必要に応じて調べること。(90分)
担当教員	藤井 駿吾		
第14回	「海外の食について」 ・日本以外の国や地域で生産されている原材料 ・海外の食文化について	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布プリント、講義内容を復習し、必要に応じて調べること。(90分)
担当教員	藤井 駿吾		
第15回	〈まとめ〉「〈食べること〉がなぜ重要なのか？」 ・食糧自給率の仕組み ・学園のルーツである「食」と多様性を認める時代の「食」など	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布プリント、講義内容を復習し、必要に応じて調べること。(90分)
担当教員	藤井 駿吾		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業に取り組む姿勢やレポートなどを中心に総合的に評価する。
その他	0	
教科書		
特に指定しない。		
参考文献		

「食の歴史」(ジャック・アタリ著、プレジデント社)、「ゴールデンカムイ」シリーズ(野田サトル著、集英社)。その他は授業中に適宜提示する。

履修条件・留意事項等

本授業は国際教養学科および国際コミュニケーション学科2年次の選択科目であるが履修することが望ましい。

備考欄

ゲストスピーカー(実務者)の講義内容、講義日程は変更となる場合がある。

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		専門基礎科目 地域理解					
科目名		持続可能な地域社会と地域創生				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	木村 俊昭						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーにおける「地域社会における教育の役割を理解し、教育学に関する専門的知識・技能を身につけ、生涯にわたり学び続ける素養を有した人材を養成する。(知識・技能)」及び「幅広い視点から地域課題を発見し、課題解決に向けて主体的に行動でき、かつ、地域において協働できる人的資源の開発や組織体制の構築に貢献できる人材を養成する。(思考・判断・表現)」ことと特に関係がある科目である。

授業の概要

本科目は、地域の未来を創造していくための基礎を身に付けることを目的とする。教育学をはじめ、地域創生に資する学術分野における基礎知識の理解と習得を踏まえた上で、道内の地域を広く調査研究し、地域特性や地域間の違いを認識しながら、マネジメントやマーケティングの側面を通して、地域の性質に合わせたアプローチの必要性を理解することを目指す。

到達目標

本学が本拠とする地域(恵庭市)や連携協定先(自治体)の最新情報を踏まえ、さらに知識や技能を高めること、随時。フィールドワークを通じて、地域特性や地域間格差といった特長や差異について比較や説明できる。また、地域が直面する特性的な課題を発見し、それらに対する具体的な方策について企画したり、その実施に向けた検討を行うことができる。

授業の方法

主に、パワーポイント資料、印刷物・動画資料などを用い、必要に応じてフィールドワークを行ったり、地域で主体的に活動する人からのブリーフィングやディスカッションを展開する。なお、詳細な授業方法については担当教員の指示による。

ICT活用

主に、課題や授業連絡などのやり取りにGoogle classroomを活用する。なお、詳細については担当教員の指示による。

実務経験のある教員の教育内容

国家公務員や地方公務員、大学教員の経験を持つ私のほか、必要に応じて、連携大学の教員、企業経営者等の実務経験のある教員が指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

担当教員の指示による。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	ガイダンス 本科目の概要説明(授業の進め方、目指す到達点、内容、日程等について)後、履修生の自己紹介を行う。また、講義内容の希望等に関して対話を行う。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生に関する知識や経験など、整理のうえ、講義に臨むこと(90分)。	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			
第2回	地域創生の背景、現状と課題に関する講義後、問い立て、対話し、講義内容の理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た“地域”に係る知識や経験について整理して授業に臨むこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			
第3回	地域創生の背景、現状と課題に関する講義後、問い立て、対話し、講義内容の理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た“地域”に係る知識や経験について整理して授業に臨むこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			

第4回	地域創生の先行研究(五感六育)に関する講義後、問い立て、対話し、講義内容の理解を深める。 「五感六育」とは、視覚・聴覚・嗅覚・味覚・触覚の五感を研ぎ、食育・遊育・知育・木育・健育・職育の六育をバランスよく育むこと。豊かな感性と人間力を高め、地域社会の発展に貢献できる人材育成を目指す思考のこと。	シラバスをよく読み、これまでに得た“地域”に係る知識や経験について整理して授業に臨むこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			
第5回	地域創生の先行研究(五感六育)に関する講義後、問い立て、対話し、講義内容の理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た“地域”に係る知識や経験について整理して授業に臨むこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			
第6回	地域創生の先行研究(五感六育)に関する講義後、問い立て、対話し、講義内容の理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た“地域”に係る知識や経験について整理して授業に臨むこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			

第7回	地域創生の先行研究(五感六育)に関する講義後、問い立て、対話し、講義内容の理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た“地域”に係る知識や経験について整理して授業に臨むこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			
第8回	地域創生の調査研究の指標(ものさし)に関する講義後、問い立て、対話し、講義内容の理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た“地域”に係る知識や経験について整理して授業に臨むこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			
第9回	地域創生の調査研究の指標(ものさし)に関する講義後、問い立て、対話し、講義内容の理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た“地域”に係る知識や経験について整理して授業に臨むこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			

第10回	地域人財養成と定着のシステム形成に関する講義後、問い立て、対話し、講義内容の理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た“地域”に係る知識や経験について整理して授業に臨むこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			
第11回	地域人財養成と定着のシステム形成に関する講義後、問い立て、対話し、講義内容の理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た“地域”に係る知識や経験について整理して授業に臨むこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			
第12回	地域人財養成と定着のシステム形成に関する講義後、問い立て、対話し、講義内容の理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た“地域”に係る知識や経験について整理して授業に臨むこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			

第13回	地域人財の類型に関する先駆事例に基づく講義後、問い立て、対話し、講義内容の理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た“地域”に係る知識や経験について整理して授業に臨むこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			
第14回	地域人財の類型に関する先駆事例に基づく講義後、問い立て、対話し、講義内容の理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た“地域”に係る知識や経験について整理して授業に臨むこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			
第15回	これまでの講義、対話を踏まえ、地域創生に関する政策提言に関して各自発表、総括する。	これまでに得た“地域”に係る知識や経験について整理して授業に臨むこと。(90分)	これまでの配布資料や講義内容を復習し、自分の知識、知恵にすること。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	講義時の課題提出、最終回による発表により、成績評価とする。
その他	0	なし。
教科書		
講義説明用の資料はメール添付にて配布する。		
参考文献		

講義時にその都度紹介する。

履修条件・留意事項等

日頃から地域創生の情報に関心を持つこと。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		専門基礎科目 地域理解					
科目名		北海道の社会と文化(多文化共生)				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	小山田 健						

授業の位置づけ

世界と地域の視点から、自然環境、社会、文化、歴史等についての専門知識を身につける。北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につける。世界各地域の活性化につながるための異文化コミュニケーション能力を身につける。グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力を備える。世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚も身につける。「地域の歴史や文化、多様な資源の価値を深く理解し、新たな価値を創造することにより、持続可能な社会を実現し、次代へ発信・継承することができる。

授業の概要

この授業は、北海道の歴史を再認識し、アイヌや外国人移住者も含めた多様な人々が安心して暮らせる地域社会の実現には何が必要か、これからの多文化共生社会のありかたを考えていく。ここでいう多文化共生とは、言語や民族、肌の色、背が高いか低い、左利きか、右利きか、男か女か、障がいの有無、宗教、出身、学歴、収入、家族形態、年齢など、皆異なっていることを優劣の価値観や偏見としてみるのではなく、個性としてとらえていく。授業では、ウポボイ(民族共生象徴空間)や北海道の歴史博物館の見学も行う。そこから、地域社会がみなで持続的に共生していくための意識化をはかる。

到達目標

1.共生社会とは何かを述べることができるようになる。 2.自らが積極的に学習を進め、北海道のこれまでの歴史が説明できるようになる。 3.前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力を、これまで以上に向上させる。 4.これからの多文化共生のありかたについて述べるができるようになる。 (2年次の配当科目であるため、各授業ごとに、事前・事後の課題を出します。事前・事後課題の提出が守れない場合は、この授業の到達目標に達することができないと判断し、成績を評価していきます)

授業の方法

パワーポイントと配布資料などを使用し講義を進める。また、授業ごとに編成するチームでのグループワークやプレゼンテーションなども行っていく。

ICT活用

Google classroomを活用し、事前事後の報告・連絡や、課題の出題・回収等を行う。

実務経験のある教員の教育内容

観光や広告業界で約20年間の実務経験があり、ビジネス実務についての幅広い知識を有している。この経験を活かして、学術的な視点だけでなく、ビジネスの場における実践的内容の指導も行う。

課題に対するフィードバックの方法

各回に、全体での振り返り、グループでの振り返り、グーグルクラスルームなどでの振り返りなどを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション →授業の進め方・評価方法・受講時の留意点	これまでに習ってきた北海道の歴史やアイヌ文化について整理し、まとめること(90分)	授業内容を復習しまとめること(90分)
担当教員	小山田 健		
第2回	共生社会について 共生社会とは何かについて考え、まとめる。	共生社会とは何かを調べまとめること(90分)	授業内容を復習しまとめること(90分)
担当教員	小山田 健		
第3回	北海道の歴史・アイヌ文化の歴史 本州との違いについてを把握し、まとめる。	事前に配布する資料を読み、北海の歴史、アイヌ文化の歴史を整理しておくこと(90分)	授業内容を復習しまとめること(90分)
担当教員	小山田 健		

第4回	学外学修準備① ウポポイ 民族共生象徴空間、恵庭市郷土資料館についての把握と準備	ウポポイ 民族共生象徴空間、恵庭市郷土資料館について調べておくこと(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員	小山田 健		
第5回	実施研修1-1 ウポポイ 民族共生象徴空間、恵庭市郷土資料館／学外学修・フィールドワーク	ウポポイの見学コースを決定し、そこで何が学べるかを整理しておくこと(90分)	行ったフィールドワークの内容をまとめておくこと(90分)
担当教員	小山田 健		
第6回	実施研修1-2 ウポポイ 民族共生象徴空間、恵庭市郷土資料館／学外学修・フィールドワーク	恵庭郷土資料館が何が学べる施設かを調べておくこと。また、恵庭市の縄文時代の歴史(資料配布)も目を通し調べておくこと(90分)	行ったフィールドワークの内容をまとめておくこと(90分)
担当教員	小山田 健		

第7回	実施研修1－3 ウポポイ 民族共生象徴空間、恵庭市郷土資料館／学外学修・フィールドワーク	アイヌの歴史(資料配布)を読み、時代ごとの内容をまとめておくこと(90分)	行ったフィールドワークの内容をまとめておくこと(90分)
担当教員	小山田 健		
第8回	実施研修1の振り返りとまとめ →反転学習:アイヌ文化の歴史を伝えるため、フィールドワークを用いたスタディープランを考える。	フィールドワークで見学した場所と内容についての詳細を調べて整理しておくこと。(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員	小山田 健		
第9回	学外学修準備② 北海道博物館、平取町二風谷についての把握と準備	北海道博物館、平取町二風谷について調べておくこと(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員	小山田 健		

第10回	実施研修2-1 北海道博物館、平取町二風谷／学外学修・フィールドワーク	北海道博物館の見学コースを決定し、そこで何が学べるかを整理しておくこと(90分)	行ったフィールドワークの内容をまとめておくこと(90分)
担当教員	小山田 健		
第11回	実施研修2-2 北海道博物館、平取町二風谷／学外学修・フィールドワーク	平取町二風谷で行うことやお会いする方について調べ、複数の質問ができるようにしておくこと。また各内容の整理をしておくこと(90分)	行ったフィールドワークの内容をまとめておくこと(90分)
担当教員	小山田 健		
第12回	実施研修2-3 北海道博物館、平取町二風谷／学外学修・フィールドワーク	北海道の歴史(事前配布)を読み、年代ごとの出来事を整理しておくこと(90分)	行ったフィールドワークの内容をまとめておくこと(90分)
担当教員	小山田 健		

第13回	ゲーミング手法を使った学修の検討Ⅰ ゲーミング手法の効果と実用事例、作成方法 *アイヌ文化や北海道の歴史をより把握するために、外国人や小中学生に向けたカードゲーム(日本語・英語)を作成していく。	謎解きゲームやカードゲームには、どのようなものがあるのかを調べまとめておくこと(90分)	グループで、次回授業までにゲームを完成させておくこと
担当教員	小山田 健		
第14回	ゲーミング手法を使った学修の検討Ⅱ グループで作成したゲーミングの実施及び内容のプレゼン(日本語・英語) *アイヌ文化や北海道の歴史をより把握するために、外国人や小中学生に向けたカードゲーム(日本語・英語)を作成していく。	プレゼンテーションとゲーム実施のための準備をしておくこと(90分)	行った結果について分析と検証を行いまとめること(90分)
担当教員	小山田 健		
第15回	実施研修2の振り返りとまとめ →反転学習:北海道の文化の歴史を伝えるため、ゲーム手法(謎解きゲームなど)を用いた一人一人が考えた問題を考える。 最終レポートの作成 →グローバルゼーションと多文化共生について *これまで行った内容を踏まえてレポートの作成	これまでの授業内容を復習しておくこと(90分)	これまでの内容を整理しまとめておくこと(90分)
担当教員	小山田 健		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	○授業意欲(事前・事後課題の取り組み、授業内個人ワーク、グループワーク具合を評価します) ○授業態度(無断欠席、着帽、授業態度が悪い場合は減点します) ○グループ・プレゼンテーション(第14回講義の内容+それまでのグループワークの取り組みを踏まえ採点します) ○最終レポート(これまでの授業の取り組みを確認をするため、最終レポートの作成を行っていただきます。最終回第15回に御乞います。レポートの内容については、当日伝えます)
その他	0	
教科書		
なし(資料は随時配布します)		
参考文献		

各、授業内でお伝えしていきます

履修条件・留意事項等

学外での実施研修(学外学修)があり大型バスでの移動が伴うため、履修人数を設定している科目です。
履修人数がオーバーした場合には、これまでの単位取得状況やTOEIC点数(第14回で英語でのプレゼンテーションを行うため)などから判断する場合がありますので、ご了承ください。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		専門科目 生涯教育					
科目名		教育から考える地域と未来 I				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	中田 和彦						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「地域社会のデジタル化等の変化に適応しながら、地域の特性を踏まえた教育の在り方について考究し、地域の未来を担う人づくりに貢献できる。(思考力・判断力・表現力)」及び「地域社会における意欲的かつ主体性のある個人や企業の学習活動を引き出し、支援することで、生涯学習社会の実現に貢献できる。(関心・意欲・態度)」と特に関係し、生涯学び続けることの重要性を理解するための科目である。							
授業の概要							
本科目は、変化が激しく、予測不能な時代の教育の在り方を見据え、教育学の知識を動員し、地域の諸課題の解消や未来を想像(創造)する能力の修得に向けた素地の涵養を目的とする。例えば、人口減少に伴う基幹産業の後継者不足においては「指導者(年上、上司、先輩…)/学習者(年下、部下、後輩…)」といった、旧来型の指導方法や枠組みからの脱却が求められているように、慣例や前例にとらわれない行動変容が必要であり、様々な先進事例のケーススタディやヒアリング等を通して、視野を広げ、履修者が教育という切り口から積極的に未来の地域の姿をデザインしていこうとする態度の醸成を目的とする。							
到達目標							

- ①地域づくりと教育の関連性や重要性について、事例をもとに理解し、説明できる。
- ②地域づくりのコーディネーターを担う人材が備えるべき特性について説明できる。
- ③課題意識を明確にし、的確に相手の回答引き出すことができる。
- ④「RESAS 地域経済分析システム」等のWebアプリの基本的な操作方法を理解し、活用できる。

授業の方法

- ・導入として、パワーポイントや動画、配布資料等による説明・講義を行い、グループや個人のワーク・エクササイズによって考察を深め、必要に応じて解説を交えながら、気づきや学びが深まるよう、個人の内省やグループでわかちあう時間を設ける。
- ・近隣の教育活動の現場訪問やゲストによる講話を予定する。

ICT活用

- ・プレゼンテーションソフトを活用した説明や事例研究を行う。
 - ・Google classroom、Google formを活用して、受講生の毎時の気づきの言語化、把握やフィードバックを行う。
 - ・Google Geminiを活用して、リアルタイムに受講生のふりかえりや意見の集約を行う。
- ※Google meet等を活用し、ゲストによる講話等を行う。

実務経験のある教員の教育内容

道立生涯学習推進センターや国立青少年教育施設等の教育行政勤務の中で、市町村教育委員会をはじめ、学校や社会教育関係団体へ指導・助言する経験があり、地域づくりに取り組む幅広いネットワークを有している。このネットワークを生かし、地域における教育と異業種との協働の実態や在り方等について指導する。

課題に対するフィードバックの方法

- ・Google formを活用し、毎回の気づきを整理する。
- ・次回の講義で前時の気づき等について、受講生同士の意見交換やコメントの時間を設ける。
- ・提出を要する課題に対しては、以降につながるコメントを付してフィードバックする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 授業全体の構成を俯瞰し、地域のよさ、人口減少が地域に与える影響について理解を深める。	授業のテーマについて調べて授業に臨む(90分)。	講義資料やノートをもとに、人口減少が地域に与える影響についての気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第2回	人口減少の時代と地域の課題 RESAS、Google classroom等の基本操作や事前・事後学習のポイントを学ぶ。	授業のテーマについて調べて授業に臨む(90分)。	講義資料やノートをもとに、RESAS、google classroom等の基本操作をふりかえる(90分)。
担当教員			
第3回	教育と地域とデータ1 表計算、地図作成等、教育と地域を考えるうえでのデータの整理について、基本的なPCの基本操作を学ぶ。(個人課題①予定)	授業のテーマについて調べて授業に臨む(90分)。	講義資料やノートをもとに、文書作成、表計算の基本操作についてふりかえり、課題に取り組む(90分)。
担当教員			

第4回	教育と地域とデータ2 情報の検索や吟味、クラウドの活用等、教育と地域を考 えるうえでのデータの取り扱いについて、基本的なPCの基本 操作を学ぶ。	授業のテーマについて調べて 授業に臨む(90分)。	講義資料やノートをもとに、情報 の検索や吟味、クラウドの活用 等についてふりかえる(90分)。
担当教員			
第5回	教育と地域とデータ3 アンケートフォームや生成AIの活用等、教育と地域を考 えるうえでの基本的なPCの基本操作を学ぶ。(個人課題②予 定)	授業のテーマについて調べて 授業に臨む(90分)。	講義資料やノートをもとに、アン ケートフォームや生成AIの活用 等についてふりかえり、課題に 取り組む(90分)。
担当教員			
第6回	事例研究1-1 コミュニティ・スクールによる学校支援や地域づくりの取組 事例から、教育が貢献できる可能性やつながりの重要性に ついて理解を深める。	事例として取り上げる自治体・団 体等に関する基礎データを調べ て授業に臨む(90分)。	事例を通しての気づきや疑問点 を整理する(90分)。
担当教員			

第7回	事例研究1-2 コミュニティ・スクールによる学校支援や地域づくりの取組事例から、教育が貢献できる可能性やつながりの重要性について理解を深める。	事例として取り上げる自治体・団体等に関する基礎データを調べて授業に臨む(90分)。	事例を通しての気づきや疑問点を整理する(90分)。
担当教員			
第8回	事例研究2-1 スポーツ振興による地域づくりの取組事例から、教育が貢献できる可能性やつながりの重要性について理解を深める。	事例として取り上げる自治体・団体等に関する基礎データを調べて授業に臨む(90分)。	事例を通しての気づきや疑問点を整理する(90分)。
担当教員			
第9回	事例研究2-2 スポーツ振興による地域づくりの取組事例から、教育が貢献できる可能性やつながりの重要性について理解を深める。	事例として取り上げる自治体・団体等に関する基礎データを調べて授業に臨む(90分)。	事例を通しての気づきや疑問点を整理する(90分)。
担当教員			

第10回	事例研究3-1 芸術・文化振興による地域づくりの取組事例から、教育が貢献できる可能性やつながりの重要性について理解を深める。	事例として取り上げる自治体・団体等に関する基礎データを調べて授業に臨む(90分)。	事例を通しての気づきや疑問点を整理する(90分)。
担当教員			
第11回	事例研究3-2 芸術・文化振興による地域づくりの取組事例から、教育が貢献できる可能性やつながりの重要性について理解を深める。	事例として取り上げる自治体・団体等に関する基礎データを調べて授業に臨む(90分)。	事例を通しての気づきや疑問点を整理する(90分)。
担当教員			
第12回	事例研究4-1 市民活動や市民の社会教育活動による地域づくりの取組事例から、教育が貢献できる可能性やつながりの重要性について理解を深める。	事例として取り上げる自治体・団体等に関する基礎データを調べて授業に臨む(90分)。	事例を通しての気づきや疑問点を整理する(90分)。
担当教員			

第13回	事例研究4－2 市民活動や市民の社会教育活動による地域づくりの取組事例から、教育が貢献できる可能性やつながりの重要性について理解を深める。(個人課題③予定)	事例として取り上げる自治体・団体等に関する基礎データを調べて授業に臨む(90分)。	事例を通しての気づきや疑問点を整理する(90分)。
担当教員			
第14回	まとめとふりかえり 地域づくりに取り組むキーパーソンに共通すること(キーコンピテンシー)を考察し、グループ課題をまとめる。(グループ課題予定)	事例研究全体をふりかえり、それぞれの気づきを整理しながら授業に臨む(90分)。	地域づくりに取り組むキーパーソンに共通することについての気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第15回	まとめとふりかえり グループ課題を発表し、講義全体をふりかえるとともに、学びや気づきを共有する。	グループ発表に向けて資料や役割分担などの準備を行う(90分)。	教育から考える地域と未来Ⅰを通しての気づきをふりかえり、整理する(90分)。
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	①授業ごとのふりかえり15回 45% ②講義内課題3回 30% ③グループ課題1回 15% ④授業への参加度・出席態度 10%
その他	0	
教科書		
なし		
参考文献		

適宜紹介する

履修条件・留意事項等

・できる限りPC(難しければスマートフォン)を持参する。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		専門科目 生涯教育					
科目名		教育から考える地域と未来Ⅱ				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	中田 和彦						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーの「地域社会のデジタル化等の変化に適応しながら、地域の特性を踏まえた教育の在り方について考究し、地域の未来を担う人づくりに貢献できる。(思考力・判断力・表現力)」及び「地域社会における意欲的かつ主体性のある個人や企業の学習活動を引き出し、支援することで、生涯学習社会の実現に貢献できる。(関心・意欲・態度)」と特に関係し、生涯学び続けることの重要性を理解するための科目である。

授業の概要

本科目は、「教育から考える地域と未来Ⅰ」における学びや気づきをもとに、公教育と異業種、異校種が協働した取組の事例研究、企画書や助成金等による資金調達の計画書の作成・プレゼンテーション法、効果的な情報発信や社会から共感を得る広報戦略、協力者の獲得の方法やコーディネート等、地域の持続に資する学びを推進する総合的なプロデューサーとしての資質・技能の獲得と行動力の育成を目的とする。

到達目標

- ①教育と異業種の協働による取組における教育の意義や可能性を説明できる。
- ②学びと地域づくりにおけるネットワークやパートナーシップの重要性を説明できる。
- ③補助金や助成金等について理解し、申請書を作成できる。
- ④場に適した方法を用いてプレゼンテーションを行うことができる。

授業の方法

- ・導入として、パワーポイントや動画、配布資料等による説明・講義を行い、グループや個人のワーク・エクササイズによって考察を深め、必要に応じて解説を交えながら、気づきや学びが深まるよう、個人の内省やグループでわかちあう時間を設ける。
- ・ゲストによる講話も予定する。

ICT活用

- ・プレゼンテーションソフトを活用した説明や事例研究を行う。
 - ・Google classroom、Google formを活用して、受講生の毎時の気づきの言語化、把握やフィードバックを行う。
 - ・Google Geminiを活用して、リアルタイムに受講生のふりかえりや意見の集約を行う。
- ※Google meet等を活用し、ゲストによる講話等を行う。

実務経験のある教員の教育内容

国立青少年教育施設での勤務の中で、子供の体験活動等を支援する「子どもゆめ基金」についての知識を有しており、地域の教育振興に向けた資金獲得方策等について指導する。

課題に対するフィードバックの方法

- ・Google formを活用し、毎回の気づきを整理する。
- ・次回の講義で前時の気づき等について、受講生同士の意見交換やコメントの時間を設ける。
- ・提出を要する課題に対しては、以降につながるコメントを付してフィードバックする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 地域の未来につながる学びを実現させるためのつながりや 具体の行動に向けた資金調達の重要性について理解を深 める。	授業のテーマについて調べて 授業に臨む(90分)。	地域の未来につながる学びを実 現させるためのつながりや具体 の行動に向けた資金調達の重 要性についての気づきを整理す る(90分)。
担当教員			
第2回	教育とまちづくり 社会教育士の講話から、地域づくりにおける教育、特に住 民が主体となった社会教育の意義について理解を深める。	授業のテーマについて調べて 授業に臨む(90分)。	ゲストの話やノートをもとに、授 業のテーマに関する気づきを整 理する。(90分)。
担当教員			
第3回	事例研究1 青少年教育や学校運営への貢献を通して進める地域づく り事例から、教育の果たす役割や課題について理解を深 める。	事例として取り上げる自治体の 基礎データを調べて授業に臨 む(90分)。	講義資料やノートをもとに、事例 を通しての気づきを整理する(90 分)。
担当教員			

第4回	事例研究2 防災・減災に取り組む自治体の事例から、教育の果たす役割や課題について理解を深める。	事例として取り上げる自治体の基礎データを調べて授業に臨む(90分)。	講義資料やノートをもとに、事例を通しての気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第5回	事例研究3-1 過疎地域の地域課題の解決に向けた取組とそのキーパーソンについて理解を深める。(講義内課題①)	事例として取り上げる自治体の基礎データを調べて授業に臨む(90分)。	講義資料やノートをもとに、事例を通しての気づきや講義内課題のフィードバックを整理する(90分)。
担当教員			
第6回	事例研究3-2 過疎地域の地域課題の解決に取り組むゲストの話を聞き、対話を通して、コーディネーターの役割や特性について理解を深める。	事例として取り上げる自治体の基礎データを調べて授業に臨む(90分)。	ゲストのコーディネーターとしての役割や特性についての気づきを整理する(90分)。
担当教員			

第7回	事例研究4-1 青年の社会参画や起業に取り組むキーパーソンについて理解を深める。(講義内課題②)	事例として取り上げる自治体の基礎データを調べて授業に臨む(90分)。	事例を通しての気づきや講義内課題のフィードバックを整理する(90分)。
担当教員			
第8回	事例研究4-2 青年の社会参画や企業に取り組むゲストの話を聞き、対話を通して、コーディネーターの役割や特性について理解を深める。	前時の内容を踏まえ、ゲストへのインタビューをシミュレーションして授業に臨む(90分)。	ゲストのコーディネーターとしての役割や特性についての気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第9回	事例研究5-1 アウトドア業界のネットワーク化に取り組むキーパーソンについて理解を深める。(講義内課題③)	事例として取り上げる自治体の基礎データを調べて授業に臨む(90分)。	事例を通しての気づきや講義内課題のフィードバックを整理する(90分)。
担当教員			

第10回	事例研究5-2 アウトドア業界のネットワーク化に取り組むゲストの話を聞き、対話を通して、コーディネーターの役割や特性について理解を深める。	前時の内容を踏まえ、ゲストへのインタビューをシミュレーションして授業に臨む(90分)。	ゲストのコーディネーターとしての役割や特性についての気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第11回	事例研究のまとめ 授業で取り上げた事例を俯瞰し、教育が貢献できる可能性やつながりの重要性、コーディネーターの役割等について整理し、考察を深める。	これまでの講義資料やノートを読みかえして授業に臨む(90分)。	グループ協議やのコーディネーターとしての役割や特性についての気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第12回	資金調達の基礎1 行政予算の基本、補助金や助成金の仕組みなどについて理解を深める。	授業のテーマについて調べて授業に臨む(90分)。	講義資料やノートをもとに、行政予算の基本等についての気づきを整理する(90分)。
担当教員			

第13回	資金調達の基礎2 助成金の申請書の作成を通して、学びや学習を届けたい人のニーズのつかみ方やPRの基本等を学び、具体的な取り組みのアイデアを練り上げる。(グループ課題)	授業のテーマについて調べて授業に臨む(90分)。	グループで分担した役割に基づき、グループ発表・ヒアリングの準備を行う(90分)。
担当教員			
第14回	資金調達の基礎3 作成した申請書類のプレゼンテーションを行い、グループ相互に批評し合い、ブラッシュアップさせる。	授業のテーマについて調べて授業に臨む(90分)。	グループで分担した役割に基づき、グループ発表・ヒアリングの準備を行う(90分)。
担当教員			
第15回	資金調達の基礎4 作成した申請書類に基づき、模擬ヒアリングを行う。	グループで分担した役割に基づき、グループ発表・ヒアリングの準備を行う(90分)。	グループ発表・ヒアリングのを通しての気づきを整理する(90分)。
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	①授業ごとのふりかえり15回 45% ②授業内課題3回 30% ③グループ課題1回 15% ④授業への参加度・出席態度 10%
その他	0	
教科書		
なし		
参考文献		

・北海道アウトドアネットワークHP<https://hokkaidooutdoor.jp/>
・事例として取り上げる自治体のHP
・だから僕は船をおりた 東京生まれの元漁師が挑む、フードアクション！ 近江正隆 著 講談社
・世の中への扉 ぼくの職場は富士山です 近藤光一 著 講談社
・子どもゆめ基金HP
※その他授業内で適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

・できる限りPC(難しければスマートフォン)を持参する。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		専門科目 生涯教育					
科目名		社会教育論				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	中田 和彦						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーの「地域社会における教育の役割を理解し、教育学に関する専門的知識・技能を身につけ、生涯にわたり学び続ける素養を有している。(知識・技能)」、「地域社会のデジタル化等の変化に適応しながら、地域の特性を踏まえた教育の在り方について考究し、地域の未来を担う人づくりに貢献できる。(思考力・判断力・表現力)」、「地域社会における意欲的かつ主体性のある個人や企業の学習活動を引き出し、支援することで、生涯学習社会の実現に貢献できる。(関心・意欲・態度)」と特に関係し、生涯学び続けることの重要性を理解するための科目である。

授業の概要

本科目は、これからの時代を担う青少年に焦点を当て、社会教育施設(特に青少年教育施設)や社会教育団体等における教育活動の事例を題材に、学校教育と対比しながら、青少年教育の現状と課題、体験活動と青少年の健全育成、学習プログラムの企画と運営・効果や成果の検証、教えずに気づかせる学び方(体験学習法)、対象者の理解の手法、リスクマネジメントの基礎、ボランティアによる活動・学習支援の在り方やボランティアコーディネート等、学びのデザインや支援等に関する基本的な知識についての理解と技能の獲得を目的とする。

到達目標

①ニーズや効果・成果を明確にした学習プログラム・アクティビティを作成し、実施できる。 ②学習の成果を定量的に評価し、改善策を説明できる。 ③学習プログラムや社会教育事業の運営において、場に応じたファシリテーションを行うことができる。 ④リスクマネジメントの基礎を理解し、学習プログラムに適用できる。

授業の方法

・導入として、パワーポイントや動画、配布資料等による説明・講義を行い、グループや個人のワーク・エクササイズによって考察を深め、必要に応じて解説を交えながら、気づきや学びが深まるよう、個人の内省やグループでわかちあう時間を設ける。 ・学習プログラムのファシリテーション体験を行う。

ICT活用

・プレゼンテーションソフトを活用した説明や事例研究を行う。 ・Google classroom、Google formを活用して、受講生の毎時の気づきの言語化、把握やフィードバックを行う。 ・Google Geminiを活用して、リアルタイムに受講生のふりかえりや意見の集約を行う。 ※Google meet等を活用し、ゲストによる講話等を行う。

実務経験のある教員の教育内容

道立生涯学習推進センターや国立青少年教育施設等の教育行政勤務の中で、社会教育事業の企画・運営をはじめ、市町村教育委員会、学校や社会教育関係団体へ指導・助言する経験を有している。これを生かし、学習プログラムの在り方等について指導する。

課題に対するフィードバックの方法

・Google formを活用し、毎回の気づきを整理する。 ・次回の講義で前時の気づき等について、受講生同士の意見交換やコメントの時間を設ける。 ・提出を要する課題に対しては、以降につながるコメントを付してフィードバックする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 講義の進め方を理解するとともに、学習プログラムの企画者の有り方について理解を深める。	教育・学習・学びについて調べ、自分なりのイメージを持って授業に臨む(90分)。	講義資料やノートをもとに、学習プログラムや企画者についての気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第2回	学習プログラムとは何か 事業や学習プログラムの意図、目的や目標についての理解を深める。	授業のテーマについて調べて授業に臨む(90分)。	講義資料やノートをもとに、プログラムの意図についての気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第3回	学習プログラムのデザイン1 プログラムとアクティビティの違いやアクティビティのデザインについて理解を深める。	授業のテーマについて調べて授業に臨む(90分)。	講義資料やノートをもとに、アクティビティのデザインについての気づきを整理するとともに、課題に取り組む(90分)。
担当教員			

第4回	学習プログラムのデザイン2 プログラムの構成要素や参加者の理解など、学習プログラムの企画について理解を深める。課題①予定。	授業のテーマについて調べて授業に臨む(90分)。	講義資料やノートをもとに、プログラムのデザインについての気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第5回	学習プログラムのデザイン3 リスクとハザード、ヒューマンエラー、クライシスマネジメント等、リスクマネジメントの基本について理解を深める。	授業のテーマについて調べるとともに、レポートの発表練習を行い授業に望む(90分)。	講義資料やノートをもとに、リスクマネジメントについての気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第6回	学習プログラムのデザイン4 学習プログラムや事業を対象者に届ける方策、広報の基礎について理解を深める。課題②予定。	授業のテーマについて調べて授業に臨む(90分)。	講義資料やノートをもとに、広報についての気づきを整理するとともに、課題に取り組む(90分)。
担当教員			

第7回	ボランティアのマネジメント 学習プログラムや事業を実施するに当たってのボランティアの役割やボランティアコーディネートの基礎について理解を深める。	授業のテーマについて調べて授業に臨む(90分)。	講義資料やノートをもとに、ボランティアやボランティアマネジメントについての気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第8回	ファシリテーションスキル 学びの場における声のかけ方や見取り方など、対象者との関わり方について理解を深める。	授業のテーマについて調べるとともに、レポートの発表練習を行い授業に臨む(90分)。	講義資料やノートをもとに、ファシリテーションについての気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第9回	学習プログラムの実際1 子どもを対象とした体験教室のプログラムの企画、運営を題材として、具体的な方法について理解を深める。	授業のテーマについて調べて授業に臨む(90分)。	グループワークや講義資料、ノートをもとに、学習プログラムの企画・運営の方法についての気づきを整理する(90分)。
担当教員			

第10回	学習プログラムの実際2 プログラムの運営細案やロジスティックの在り方などについて理解を深める。グループ課題予定。	授業のテーマについて調べて 授業に臨む(90分)。	グループワークや講義資料、ノートをもとに、学習プログラムの企画・運営の方法についての気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第11回	学習プログラムの評価1 参加者や対象者へのアンケートの意義や作り方、分析についての理解を深める。	授業のテーマについて調べて 授業に臨む(90分)。	講義資料やノートをもとに、参加者や対象者へのアンケートの意義や作り方、分析についての気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第12回	学習プログラムの評価2 成果の検証・改善と申し送りなど、学習プログラムの評価の在り方について理解を深める。	授業のテーマについて調べて 授業に臨む(90分)。	実践をふりかえり、学習プログラムの企画や運営についての気づきを整理する(90分)。
担当教員			

第13回	学習プログラムの実践1 作成した学習プログラムの指導・支援を実践する。	授業のテーマについて調べて 授業に臨む(90分)。	実践をふりかえり、学習プログラムの企画や運営についての気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第14回	学習プログラムの実践2 作成した学習プログラムの指導・支援の実践から、成果や効果、改善点等について評価する。	授業のテーマについて調べて 授業に臨む(90分)。	実践をふりかえり、学習プログラムの企画や運営についての気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第15回	ふりかえりとまとめ グループごとに講義での学びや気づきをふりかえり、学習プログラムの企画者として必要な資質・能力について理解を深める。	これまでの講義資料やノート、課題を読み直し、授業に臨む(90分)。	講義全体を通しての学びや気づきをふりかえり、整理する(90分)。
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	①授業ごとのふりかえり15回 45% ②授業外レポート2回 30% ③グループ課題1回 15% ④授業への参加度・出席態度 10%
その他	0	
教科書		
なし		
参考文献		

・体験格差 今井悠介 著 講談社現代新書
・野外教育研究法 日本野外教育学会編 杏林書院
※その他、適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

・できる限りPC(難しければスマートフォン)を持参する。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		専門科目 生涯教育					
科目名		人口減少時代の地域と大学				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	山本 健慈						
授業の位置づけ							
ディプロマポリシー「地域社会の中核的コーディネーターとして、多様な主体とのつながりを生み出し、包摂的で持続可能な地域コミュニティを他者と共創できる(知識・技能)」、「地域社会のデジタル化等の変化に適応しながら、地域の特性を踏まえた教育の在り方について考究し、地域の未来を担う人づくりに貢献できる(思考・判断・表現)」、「地域社会における意欲的かつ主体性のある個人や企業の学習活動を引き出し、支援することで、生涯学習社会の実現に貢献できる(関心・意欲・態度)」ことと特に関係がある科目である。							

(1) 自らの育ち、被教育体験を振り返り、大学という存在の歴史、意味を説明できる。
 (2) これまでの＜地域＞についての学びを基礎に、2100年(22世紀)にむけての地域変化、とくに身近な＜地域＞の変化を描くことができる。
 (3) (2)の変化のなかでの大学という存在の社会的、地域的変化を描くことができる。
 (4) 人生100年時代、2100年に向けての自己の人生の歩みと変化する地域・大学への関与を自らの言葉で描くことができる。

授業の方法

集中講義という形式であるので、主題毎に講義のなかで最新の資料等(映像を含む)にアクセスし、それを共有しつつ、レクチャー、ディスカッション、プレゼンテーションを繰り返す。

ICT活用

主題毎に講義のなかで最新の資料等をネットによってアクセスし、それを共有する。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

主題ごとにレクチャー、ディスカッション、プレゼンテーションを組み合わせる共同学習のなかに教員もコメント(評価)という形式で参加する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	自らの育ち、被教育体験、大学に到達するまでの自分史を振り返る1 あわせて講義の主題および進め方について説明する。	自分の誕生後の育ち、学校体験の記憶を整理しておく(90分)	他者の資料および教員のコメントを踏まえ自分史を補強する(90分)
担当教員			
第2回	自らの育ち、被教育体験、大学に到達するまでの自分史を振り返る2	補強された自分史を時代史と重ねる(90分)	同時代に育ち、同時代の教育のなかで多様性を確認する(90分)
担当教員			
第3回	自らの育ち、被教育体験、大学に大学に到達するまでの自分史を振り返る3	上記多様性の背景を調べる(90分)	多様性と地域性の関連をまとめる。(90分)
担当教員			

第4回	自分史と重なる現代日本の大学史をたどる(中教審答申を読み解く)1	中教審答申『我が国の「知の総和」向上の未来像～高等教育システムの再構築』(2025年2月)を一読する(読み方は第3回で指示する)(90分)	中教審答申『我が国の「知の総和」向上の未来像～高等教育システムの再構築』(2025年2月)への疑問やコメントを準備する。(90分)
担当教員			
第5回	自分史と重なる現代日本の大学史をたどる(中教審答申を読み解く)2	中教審答申『我が国の「知の総和」向上の未来像～高等教育システムの再構築』(2025年2月)への疑問やコメントをまとめる(90分)	中教審答申の＜地域＞認識をまとめる。(90分)
担当教員			
第6回	これまでの＜地域＞について振り返る1	本学科1年次で学んだ＜地域＞を思い起こし、自分なりのまとめを整理しておく(90分)	他者の整理とあわせて、1年次の学びを深める(90分)
担当教員			

第7回	これまでの＜地域＞について振り返る2	本学科1年次での＜地域＞についての学びを補強しておく(90分)	これまで学んできた＜地域＞認識を確認する。(90分)
担当教員			
第8回	2100年(22世紀)にむけての超少子化のなかでの地域変化、とくに身近な＜地域＞の変化を考察する1	2014年日本創成会議・人口減少問題検討分科会提言「ストップ少子化・地方元気戦略」にアクセスする(90分)	自分の身近な地域の変化予測を確かめる。(90分)
担当教員			
第9回	2100年(22世紀)にむけての超少子化のなかでの地域変化、とくに身近な＜地域＞の変化を考察する2	2024年人口戦略会議『令和6年・地方自治体「持続可能性」分析レポート―新たな地域別将来推計人口から分かる自治体の実情と課題』にアクセスする(90分)	自分の身近な地域の変化を確かめる(90分)
担当教員			

第10回	2100年(22世紀)にむけての超少子化のなかでの地域変化、とくに身近な＜地域＞の変化を考察する3	前2回をふりかえり整理する(90分)	前3回を振り返り、改めて中教審答申『我が国の「知の総和」向上の未来像～高等教育システムの再構築』(2025年)にアクセスする。(90分)
担当教員			
第11回	2100年にむけての地域変化のなかでの大学の未来を考察する1	中教審答申『我が国の「知の総和」向上の未来像～高等教育システムの再構築』(2025年)のなかから2100年にむけての課題を探索(90分)	地域変化のなかでの大学の課題を整理する。(90分)
担当教員			
第12回	2100年にむけての地域変化のなかでの大学の未来を考察する2	引きつづき中教審答申『我が国の「知の総和」向上の未来像～高等教育システムの再構築』(2025年)のなかから2100年にむけての課題を探索(90分)	共同学習をへての課題を整理する。(90分)
担当教員			

第13回	2100年にむけての地域変化のなかでの大学の未来を考察する3	前2回の学びをふまえて2100年にむけて生きる自分の課題を探る(90分)	いままでの学びのなかから2100年に向けて生きる自分の課題を設定する(90分)
担当教員			
第14回	人生100年時代、2100年に向けての未来の自分史をつくる(地域への関与、大学への関与を含む)1	最初の3回で作成した過去の自分の自分史の未来を構想する(90分)	お互いの未来自分史のなかからの学びを整理する(90分)
担当教員			
第15回	人生100年時代、2100年に向けての未来の自分史をつくる(地域への関与、大学への関与を含む)2	人生100年、自分の人生の設計図を地域・大学への関与を組み込んで準備する(90分)	人生100年、自分の人生の設計図を地域・大学への関与を組み込んで完成させる(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	レポート30%、リアクションペーパー30%、発表・発言40%
その他	0	
教科書		
なし		
参考文献		

履修条件・留意事項等

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		専門科目 生涯教育					
科目名		教育から考える社会貢献				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	吉岡 亜希子						
授業の位置づけ							
ディプロマポリシーの「地域社会の中核的コーディネーターとして、多様な主体とのつながりを生み出し、包摂的で持続可能な地域コミュニティを他者と共創できる。(知識・技能)」、「地域社会における意欲的かつ主体性のある個人や企業の学習活動を引き出し、支援することで、生涯学習社会の実現に貢献できる。(関心・意欲・態度)」と特に関係する科目である。							
</							

- ①ボランティア活動の概念、内容、方法を説明できる。
 ②地域の実態、課題を理解するための方法について説明できる。
 ③ボランティアを行う者の学習過程、意識変容にかかわる理論について討議できる。

授業の方法

パワーポイント資料、印刷物、動画資料などを用い、講義形式で行う。第5回、9回、13回、14回、15回にグループワークを行う。

ICT活用

Google classroom、Google formを用いた双方向授業を行う。意見や感想の共有、議論に活用する。

実務経験のある教員の教育内容

市民活動として行っている子育て支援に関連する団体運営、学びの場づくり等でのコーディネーター経験を活かした授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

Google classroom、Google formを活用してフィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	ガイダンス ボランティア活動の概念、内容、方法	授業のテーマについて調べる。 (90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			
第2回	地域社会におけるボランティア活動 ～恵庭市民による子育て支援活動を事例に①実践の概要	授業のテーマについて調べる。 (90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			
第3回	地域社会におけるボランティア活動 ～恵庭市民による子育て支援活動を事例に②地域社会の実態・課題	授業のテーマについて調べる。 (90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			

第4回	地域社会におけるボランティア活動 ～恵庭市民による子育て支援活動を事例に③学習過程・意識変容	授業のテーマについて調べる。 (90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			
第5回	地域社会におけるボランティア活動 ～恵庭市民による子育て支援活動を事例に④考察	授業のテーマについて調べる。 (90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			
第6回	地域社会におけるボランティア活動 ～稚内市民による子育て運動を事例に①実践の概要	授業のテーマについて調べる。 (90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			

第7回	地域社会におけるボランティア活動 ～稚内市民による子育て運動を事例に②地域社会の実態・課題	授業のテーマについて調べる。 (90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			
第8回	地域社会におけるボランティア活動 ～稚内市民による子育て運動を事例に③学習過程・意識変容	授業のテーマについて調べる。 (90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			
第9回	地域社会におけるボランティア活動 ～稚内市民による子育て運動を事例に④考察	授業のテーマについて調べる。 (90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			

第10回	地域社会におけるボランティア活動 ～韓国農村地域教育共同体を事例に①実践の概要	授業のテーマについて調べる。 (90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			
第11回	地域社会におけるボランティア活動 ～韓国農村地域教育共同体を事例に②地域社会の実態・課題	授業のテーマについて調べる。 (90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			
第12回	地域社会におけるボランティア活動 ～韓国農村地域教育共同体を事例に③学習過程・意識変容	授業のテーマについて調べる。 (90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			

第13回	地域社会におけるボランティア活動 ～韓国農村地域教育共同体を事例に④考察	授業のテーマについて調べる。 (90分)	学習内容を振り返り、まとめる。 (90分)
担当教員			
第14回	3事例の振り返り	授業のテーマについて調べる。 (90分)	学習内容を振り返り、まとめる。 (90分)
担当教員			
第15回	まとめ	授業のテーマについて調べる。 (90分)	学習内容を振り返り、まとめる。 (90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	レポート60%、リアクションペーパー30%、授業参加の態度10%
その他	0	
教科書		
なし		
参考文献		

授業内で適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		専門科目 地域教育					
科目名		コミュニティ教育論Ⅰ				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	宮崎 隆志						

授業の位置づけ

「地域社会の中核的コーディネーターとして、多様な主体とのつながりを生み出し、包摂的で持続可能な地域コミュニティを他者と共創できる(知識・技能)」、「地域社会のデジタル化等の変化に適応しながら、地域の特性を踏まえた教育の在り方について考究し、地域の未来を担う人づくりに貢献できる(思考・判断・表現)」ことと特に関係がある科目である。「コミュニティ教育論Ⅱ」へとつながる科目である。

授業の概要

本科目では、コミュニティの存在における意義・意味、現代社会における役割等について、教育学の観点から学ぶ。基礎的な知識にはじまり、場合によっては事例を挙げながらより深い理解を促す。履修者は、自らが地域社会の一員であることを踏まえ、コミュニティを通じた他者との関わりを具体的にデザインするための素養を身につける。

到達目標

- (1)コミュニティ教育の課題について説明できる。
 (2)暮らしの中での学習の論理について説明できる。
 (3)暮らしをつくり変える社会運動における学びの論理を説明できる。
 (4)コミュニティ教育との関わりで社会教育施設が有する可能性や課題を指摘できる。

授業の方法

講義では映像を含む資料を提示し、講義主題との関連を説明する。その後に小グループに分かれて各回の講義主題について検討し、グループごとに発表する。最後に教員から総評を行う。

ICT活用

全体討議の際に、クリッカーを使用する場合がある。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

講義内で発表に対するコメントを示すとともに、個別レポート提出後に全体に対し課題に対する解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	①講義全体の主題及び進め方について説明する。 ②地域づくりにおいて求められる教育機能について、グループ討議によって検討する。 ③北海道内の地域づくりに関するインタビュー動画をもとに地域づくりにおいて求められる教育機能を検討する。 ④以上を踏まえてこの講義全体に関わる課題を確認する。	シラバスを読んで疑問点を整理しておく。(60分)	地域づくりと教育の関連についての仮説的理解をまとめる。(60分)
担当教員			
第2回	地域づくりにおいて求められる教育機能を、戦前から戦後にかけての学校の歴史に関する資料映像を用いて、学校教育との対比で検討する。生活と学習の関連、学習者の意識変化、学習支援者の役割、カリキュラム構成等の点に即して、二つの教育概念の間の差異について検討する。	シラバスを読んで疑問点を整理しておく。(60分)	教育の二つの概念について整理する。(60分)
担当教員			
第3回	コミュニティ教育は暮らしの場において展開する教育である。その特質を理解するために、人間形成に及ぼす作用を検討したうえで、形成と教育の関連と区別について検討する。	シラバスを読んで疑問点を整理しておく。(60分)	形成と教育の区別について整理する。(60分) 課題レポート(1)をまとめる。課題はコミュニティ教育における教育概念について。(600分)
担当教員			

第4回	課題レポート(1)について、各自が発表する。発表をもとに地域づくりにおいて求められる教育機能について、中間的なまとめを行う。	課題レポート(1)を完成させ、持参すること。その上で、これまでの授業内容についての疑問点を整理しておく。(60分)	地域づくりにおいて求められる教育の特徴について整理する。(60分)
担当教員			
第5回	この回からは暮らしの中での学びと人間形成について検討する。地域の伝統産業を取材した映像資料をもとに、仕事を通した人間形成の論理を探る。	シラバスを読んで疑問点を整理しておく。(60分)	地域を支えた産業における人間形成と地域づくりの関連についてまとめる。(60分)
担当教員			
第6回	人間形成にとって地域文化が持つ意義を北海道・二風谷の事例をもとに検討する。アイヌ民族の文化的アイデンティティを育む実践を紹介した映像資料をもとに、地域づくりと文化との関連を考える。	シラバスを読んで疑問点を整理しておく。(60分)	地域文化の継承・発展に関わる活動が人間形成にとって有する意義についてまとめる。(60分)
担当教員			

第7回	地域生活の破壊に対抗する住民の運動を事例に取り上げ、その運動の中での学習の特徴を検討する。近代化過程における地域の再編に対する住民の主体的対応が地域づくりにとって持つ意義について考える。	シラバスを読んで疑問点を整理しておく。(60分)	住民運動における学習の特徴と意義についてまとめる。(60分)
担当教員			
第8回	都市部における社会資本・社会的共通資本の不足に対抗する住民運動として、保育所づくり運動を取り上げ、その運動における学習の展開過程と地域づくりの課題が意識される論理について検討する。	シラバスを読んで疑問点を整理しておく。(60分)	保育所づくり運動における住民の意識変化についてまとめる。(60分)
担当教員			
第9回	社会的に排除された人々を包摂する地域づくりの課題について、地域福祉の実践事例(麦の郷)に即して検討する。ネットワークを形成しながら地域課題を解決する社会的企業が地域づくりについて持つ意義について考える。	シラバスを読んで疑問点を整理しておく。(60分)	共同作業所から出発した麦の郷が地域づくりの担い手になっていった理由についてまとめる。(60分) 課題レポート(2)をまとめる。課題は、地域の人間形成力を高める住民の学習の特徴について。(600分)
担当教員			

第10回	課題レポート(2)を各自が発表する。発表をもとに地域の人間形成力を高める学習のありかたについて、中間的なまとめを行う。	課題レポート(2)を完成させ、持参すること。その上で、第5－9回の授業内容についての疑問点を整理しておく。(60分)	地域の人間形成力を高める学習のありかたについて整理する。(60分)
担当教員			
第11回	ここからは住民自治と地域づくりの関係について考える。地域生活のインフラである医療について、その在り方を問いながら、住民と共に再構築する実践事例(秋愛知県・南医療生協)に即して、暮らしを支える地域づくりの課題について検討する。	シラバスを読んで疑問点を整理しておく。(60分)	南医療生協の取り組みの特徴についてまとめる。(60分)
担当教員			
第12回	住民自治を推進するために求められる社会教育の課題と方法について検討する。この回では公民館における健康学習から地域づくりが展開した事例を取り上げ、公民館実践の可能性について考える。	シラバスを読んで疑問点を整理しておく。(60分)	住民自治と公民館実践の関連について整理する。(60分)
担当教員			

第13回	住民が協働で創造することを重視したニュー・ミニユシバリズムの実践について、国内外の事例を基に、その意義と可能性を検討する。自治体経営における効率性を規制する公共性を構築する課題について考える。	シラバスを読んで疑問点を整理しておく。(60分)	ニュー・ミニユシバリズムの特徴について成立する。(60分)
担当教員			
第14回	新しい働き方に基づく協同組合である労働者協同組合の実践に即して、社会的連帯経済の実現に向けた取り組みが住民自治・地域づくりにとって持つ意義を検討する。	シラバスを読んで疑問点を整理しておく。(60分)	労働者協同組合の特徴について整理する。(60分) 課題レポート(3)をまとめる。課題は、地域づくりと住民自治の関連について。(600分)
担当教員			
第15回	課題レポート(3)を各自が発表する。発表をもとに住民自治を進めるためのコミュニティ教育の課題を検討する。	シラバスを読んで疑問点を整理しておく。(60分)	地域づくりとコミュニティ教育の現代的課題と今後の学習課題について整理する。(60分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題提出(70%) グループ活動への参加度合い(30%)
その他	0	
教科書		
なし。授業資料を配布する。		
参考文献		

各回の課題に関連する文献を授業中に紹介する。

履修条件・留意事項等

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		専門科目 地域教育					
科目名		コミュニティ教育論Ⅱ				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	宮崎 隆志						

授業の位置づけ

「地域社会の中核的コーディネーターとして、多様な主体とのつながりを生み出し、包摂的で持続可能な地域コミュニティを他者と共創できる(知識・技能)」、「地域社会のデジタル化等の変化に適応しながら、地域の特性を踏まえた教育の在り方について考究し、地域の未来を担う人づくりに貢献できる(思考・判断・表現)」ことと特に関係がある科目である。

授業の概要

本科目では、「コミュニティ教育論Ⅰ」で得た学びを踏まえた内容を扱う。たとえば、我が国をはじめとする人口減少社会において重要な要素の一つとされる「社会関係資本」と訳されるソーシャル・キャピタル等についての理解をさらに深める等、履修者はコミュニティの存在が実際の地域社会に与える効用について観察し、分析できる能力を身につける。

到達目標

(1)地域における日常意識の再生産の仕組みについて説明できる。
 (2)意識化の条件について指摘できる。
 (3)地域が直面する現代的課題との関わりで、学習・教育実践の課題を分析できる。
 (4)地域を創る学びを組織し、促進するための支援者の課題について論じることができる。

授業の方法

事前に各回の講義主題を提示し、事前学習を求める。講義では映像を含む資料を提示し、講義主題との関連を説明する。その後に小グループに分かれて、各自が事前に検討した内容と資料に基づき考察した内容を総合し、グループごとの意見を集約する。最後に教員から総評を行う。

ICT活用

全体討議の際に、クリッカーを使用する場合がある。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

講義内で発表に対するコメントを示すとともに、個別レポート提出後に全体に対し課題に対する解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	講義の主題と構成について紹介する。「郷土意識」を振り返りながら、それを住民の間の対話と協働によって自治的に作りだすための課題について検討する。	シラバスを読み、疑問点を整理しておく。(60分)	「郷土意識」についての見方を整理する。(60分)
担当教員			
第2回	住民は常に地域を意識しているわけではない。しかし、地域をつくるのは住民である。この回では住民の日常意識の在り方について整理する。	シラバスを読み、疑問点を整理しておく。(60分)	住民の日常意識の特徴について整理する。(60分)
担当教員			
第3回	住民が地域を意識するための条件を検討する。小樽運河保存運動を取り上げ、運動の背後にあった共通の地域意識(集合的記憶)について検討する。	シラバスを読み、疑問点を整理しておく。(60分)	小樽運河運動に関わった人々の共通の思いを整理する。(60分)
担当教員			

第4回	住民の共通の記憶は時間とともに薄れていくが、何らかの働きかけによって想起され継承される。開発が進む地域での共通の記憶の継承の可能性や方法について多摩ニュータウンでの取り組みを参考に考える。	シラバスを読み、疑問点を整理しておく。(60分)	共通の記憶の継承の方法について整理する。(60分) 課題レポート①に取り組む。課題は、住民の日常意識と郷土意識の関連について。(600分)
担当教員			
第5回	課題レポート①について、各自が発表する。その内容を踏まえてこれまでの授業内容を振り返る。	シラバスを読み、疑問点を整理しておく。(60分)	住民の日常意識と郷土意識の関連について、再度整理していく。(60分)
担当教員			
第6回	ここからは自らの日常意識を住民が振り返り、暮らしと地域の価値を意識化していく学習過程に焦点を当てる。この回では、「地元学」と呼ばれる実践方法を紹介する。そのうえで、東近江市の図書館活動を事例に、地域の物語を住民自身が再編集する実践について、その意義を検討する。	シラバスを読み、疑問点を整理しておく。(60分)	東近江市立図書館の実践の意義についてまとめる。(60分)
担当教員			

第7回	日常意識の振り返りでは、「よそ者」が果たす役割も大きい が、必ずしもすべての「よそ者」が有効な役割を担うとは限 らない。その理由について事例(地域おこし協力隊とうらほ ろ楽舎)をもとに検討し、実践を左右する条件について考 える。	シラバスを読み、疑問点を整理 しておく。(60分)	紹介する事例の間の違いを整 理する。(60分)
担当教員			
第8回	住民とよそ者との間だけではなく、住民同士の間でも摩擦 や対立が起きることは避けられない。それらを乗り越えるに は自由で開かれ、排除性がない対話的空間が必要になる 。その空間を非決定空間として把握し、それを位置づける 必要性和意義について、被差別部落の解放運動を事例に して検討する。	シラバスを読み、疑問点を整理 しておく。(60分)	紹介するNPOの取り組みの特徴 をまとめる。(60分)
担当教員			
第9回	非決定空間を地域社会に埋め込む上で、公民館などの社 会教育施設は大きな役割を担う。国立公民館の多文化共 生に関わる取り組みを参照しながら、共生社会を創るため の学びあいを産み出す場の在り方について検討する。	シラバスを読み、疑問点を整理 しておく。(60分)	紹介する公民館の実践の意義 をまとめる。(60分)
担当教員			

第10回	アートは想像の領域を拡張することによって、日常意識を省察する可能性を産み出すと同時に、課題意識や希望を産み出す活動でもある。コミュニティ・アートやソーシャリー・エンゲイジド・アートと呼ばれる実践に即して、その可能性を検討する。神戸市の事例と学校で展開するアート実践の事例を紹介する。	シラバスを読み、疑問点を整理しておく。(60分)	コミュニティ・アートがもつ可能性をまとめておく。(60分)
担当教員			
第11回	非決定空間を地域で生み出す仕組みの一つである労働者協同組合の取り組みを紹介する。全国の事例とともに、苫小牧市・恵庭市の事例も検討する。	シラバスを読み、疑問点を整理しておく。(60分)	労働者協同組合の可能性についてまとめる。(60分) 課題レポート②に取り組む。課題は、居場所づくりの実践が地域づくりにとつてもつ意義について。
担当教員			
第12回	ここからは、これまでの地域づくりへのアプローチが現代の地域課題の解決にとって持つ意義を確認していく。地域は多様な価値観を持つ人々の集まりであり、多様性を前提とし尊重しながら、同時に集合的な価値(必要性)を見出すことが必要である。多様な人々が多様なままに「共生」するための課題を検討する。ここでは滋賀県において循環型地域経済への挑戦を続けている菜の花プロジェクトの実践を事例に検討する。	シラバスを読み、疑問点を整理しておく。(60分)	菜の花PJの意義についてまとめる。(60分)
担当教員			

第13回	「共生」の重要な課題の一つは社会的排除の克服である。育成就労性(外国人技能実習生)の事例をもとに、地域共生社会の課題を恵庭の事例に即して検討する。	シラバスを読み、疑問点を整理しておく。(60分)	外国人との共生の課題についてまとめる。(60分)
担当教員			
第14回	現代の地域づくりにおいて、観光は大きなウェイトを持つ。地域外の人々との交流が増大する中で、共生の在り方も視野を広げて考える必要がある。地域内の共生を踏まえて地域外の人々との共生の課題について、観光を切り口に検討する。	シラバスを読み、疑問点を整理しておく。(60分)	事例を基に観光が地域学習にとって有する意義についてまとめる。(60分) 課題レポート③をまとめる。課題は、共生社会を創るための課題について。(600分)
担当教員			
第15回	課題レポート③を各自が発表する。その内容を踏まえて、コミュニティ教育・地域社会教育実践の課題について検討する。	シラバスを読み、疑問点を整理しておく。(60分)	発表された意見を踏まえてコミュニティ教育・地域社会教育実践の課題について改めて整理する。
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題提出(80%) グループ討議への参加状況(20%)
その他	0	
教科書		
使用しない。講義資料を毎回配布する。		
参考文献		

関連する文献を講義中に紹介する。

履修条件・留意事項等

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		専門科目 地域教育					
科目名		こども家庭支援論				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	吉岡 亜希子						

授業の位置づけ

本科目は、こども発達学科のディプロマポリシー「保育者、教育者、子育て支援者として、地域社会と保護者のニーズに応え、同僚と協力しつつ多様なこどもの実態に即して成長・発達を支援するための基本的資質を身につけている。(知識・技能)」、「教育・保育・子育て支援において、同僚、保護者、地域の人々と交わり、協力関係を形成できる人間的コミュニケーション能力を身につけている。(思考・判断・表現)」ことと特に関係がある科目である。「こども家庭支援の心理学」と関連し、「子育て支援」へとつながる科目である。また、地域未来学科のディプロマポリシー「地域社会の中核的コーディネーターとして、多様な主体とのつながりを生み出し、包摂的で持続可能な地域コミュニティを他者と共創できる。(知識・技能)」、「地域社会のデジタル化等の変化に適応しながら、地域の特性を踏まえた教育の在り方について考究し、地域の未来を担う人づくりに貢献できる。(思考・判断・表現)」ことと特に関係がある科目である。

授業の概要

本科目では、保育士が行う家庭支援の原理を学ぶ。なぜ子育て家庭への支援が必要なのか。保育所に入所している子どもの保護者だけではなく、地域の子育て家庭への支援を含めた包括的な支援の在り方について理解を深める。とりわけ保育の専門性を活かした子ども家庭支援とはどのようなことなのか、その意義と基本の理解を深める。また、地域における子育て家庭への支援体制や支援施策、次世代育成支援施策についても学ぶ。後半は、保育士が行う相談等の子ども家庭支援の内容、関係機関との連携について学ぶ。

到達目標

- ・子ども家庭支援の意義と役割を説明できる。
- ・保育の専門性を活かした子ども家庭支援について説明できる。
- ・子ども家庭支援にかかわる体制や施策について説明できる。
- ・保育所を利用している家庭、地域の子育て家庭、要保護児童等の家庭に対する相談や支援のあり方を説明できる。

授業の方法

テキスト・プリントを使用した講義形式で行う。必要に応じて映像資料を用い、理解を深める。適宜、授業内でwebによるリアクションペーパーを配布する。リアクションペーパーの意見、感想は、次回の講義に反映させる。子育て家庭に対する相談や支援のあり方について、第2回と第11回にグループワークを行い、理解を深める。

ICT活用

Webアプリを用いた双方向授業を取り入れる。意見や感想の共有、議論に活用する。

実務経験のある教員の教育内容

子育て支援組織の実践者としての経験を活かし、理論と実践を往還する指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で配布するリアクションペーパーに記入された受講生の意見・感想等を共有、フィードバックする時間を設ける。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	子ども家庭支援とはなにか 1.子ども家庭支援とは 2.子ども家庭支援が必要とされる背景 3.子育てを取り巻く環境をどう捉えるか	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる(90分)	学習内容を振り返り、まとめる(90分)
担当教員			
第2回	家庭生活の現在 1.家族構造の変化と子育て支援 2.「家族」とは何か 3.現代のライフスタイルと子育ての悩み 4.家族と子育て 5.子育て観の変容と現代の子どもが置かれている状況 グループワーク	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる(90分)	学習内容を振り返り、まとめる(90分)
担当教員			
第3回	求められる保育、子ども家庭支援の内容 1.多様な保育・支援ニーズへの対応した施策と事業 2.気になる子ども、障害のある子どもとその家庭への支援	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる(90分)	学習内容を振り返り、まとめる(90分)
担当教員			

第4回	保育者の専門性を活かした子ども家庭支援のあり方とその意義 1.保育者の3つの専門性 2.子ども家庭支援のあり方と意義	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる(90分)	学習内容を振り返り、まとめる(90分)
担当教員			
第5回	保育者に求められる基本的役割と姿勢 1.保護者の子育て実践のための支援 2.子どもの理解(子どもの見方)の共有 3.相談支援の実際(相談, 助言, 情報提供, 行動見本の提示等) 4.受容的関わり, 自己決定の尊重, 秘密保持等(バイステイクの7原則等) 5.支援に生かされる保育技術 6.地域の社会資源の活用と自治体・関係機関との連携	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる(90分)	学習内容を振り返り、まとめる(90分)
担当教員			
第6回	子育て家庭の福祉を図るための社会資源 1.保育所保育指針における社会資源との連携 2.子ども家庭支援の対象と関係機関の特徴	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる(90分)	学習内容を振り返り、まとめる(90分)
担当教員			

第7回	子育て支援施策と次世代育成支援施策の推進 1.制度のあらまし 2.子ども・子育て支援新制度 3.市町村子ども家庭支援指針(ガイドライン) 4.子育て支援・次世代育成支援施策の現状と課題	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる(90分)	学習内容を振り返り、まとめる(90分)
担当教員			
第8回	子ども家庭支援の内容と対象 1.妊娠期からの切れ目のない支援 2.相談支援 3.情報提供 4.保育所等を利用している家庭への支援 5.地域の子育て家庭への支援	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる(90分)	学習内容を振り返り、まとめる(90分)
担当教員			
第9回	子ども家庭支援の内容と対象 1.妊娠期からの切れ目のない支援 2.相談支援 3.情報提供 4.保育所等を利用している家庭への支援 5.地域の子育て家庭への支援	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる(90分)	学習内容を振り返り、まとめる(90分)
担当教員			

第10回	保育所・こども園・幼稚園を利用する子ども家庭支援 1. 保護者に対する支援 2. 保護者や家庭が抱える多様な支援ニーズへの気づき 3. 保育施設の特性を生かした支援と方法	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる(90分)	学習内容を振り返り、まとめる(90分)
担当教員			
第11回	保育所・こども園・幼稚園を利用する子ども家庭支援 1. 保護者に対する支援 2. 保護者や家庭が抱える多様な支援ニーズへの気づき 3. 保育施設の特性を生かした支援と方法 グループワーク	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる(90分)	学習内容を振り返り、まとめる(90分)
担当教員			
第12回	要保護児童等とその家庭に対する支援 1. 要保護児童とは 2. 虐待の予防と対応 3. 要保護児童と家庭への支援 4. 社会的養護一乳児院・児童養護施設・里親一 5. 児童虐待予防に向けた支援の課題と展望	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる(90分)	学習内容を振り返り、まとめる(90分)
担当教員			

第13回	要保護児童等とその家庭に対する支援 1.要保護児童とは 2.虐待の予防と対応 3.要保護児童と家庭への支援 4.社会的養護一乳児院・児童養護施設・里親一 5.児童虐待予防に向けた支援の課題と展望	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる(90分)	学習内容を振り返り、まとめる(90分)
担当教員			
第14回	保育の場における子ども家庭支援の現状と課題 1.保育の場における子ども家庭支援の現状と課題 2.保育者の協働 3.保護者との協働、共育て	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる(90分)	学習内容を振り返り、まとめる(90分)
担当教員			
第15回	まとめ	14回の授業を教科書を参考にしながら振り返る(90分)	こども家庭支援論の到達目標と自己の理解について振り返りを行う(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	レポート(60%)、リアクションペーパー(30%)、授業参加の態度(10%)
その他	0	なし
教科書		
太田光洋 編著ほか「保育ニュー・スタンダード 子ども家庭支援論—保育を基礎とした子ども家庭支援—」、同文書院		
参考文献		

令和6年版「こども白書」、こども家庭庁

履修条件・留意事項等

授業内でweb配布するリアクションペーパーは、成績評価の対象となるものであるため、必ず提出のこと。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		専門科目 地域教育					
科目名		こども家庭支援の心理学				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	吉岡 亜希子						

授業の位置づけ

本科目は、こども発達学科のディプロマポリシー「教育・保育・子育て支援に関わる者として、一人一人のこどもの特徴と発達へのニーズを見きわめ、それに対応できる教育的能力を身につけている。(知識・技能)」、「今日の教育・保育・子育て支援をめぐる諸条件のもとで、より良い教育環境及び教育実践を実現するために、不断に学び、深く思慮し、適切に判断し、実行しようとする意欲・態度を身につけている。(関心・意欲・態度)」ことと特に関係がある科目である。「保育者論」「乳幼児心理学」「こども家庭支援論」「子育て支援」に関連する。また、地域未来学科のディプロマポリシー「地域社会の中核的コーディネーターとして、多様な主体とのつながりを生み出し、包摂的で持続可能な地域コミュニティを他者と共創できる。(知識・技能)」、「地域社会のデジタル化等の変化に適応しながら、地域の特性を踏まえた教育の在り方について考究し、地域の未来を担う人づくりに貢献できる。(思考・判断・表現)」ことと特に関係がある科目である。

授業の概要

子どもは社会に生まれ、社会の中で育つ。その中で子どもが最初に出会う最も身近な社会が家庭である。本科目では、生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、各時期の移行、発達課題等について理解すること、さらに家族・家庭の意義や機能、親子関係や家族関係等について発達の的に理解する。近年の社会の変化に伴う子育て家庭をめぐる現代の社会状況と課題を理解し、包括的にとらえる視点を習得する。

到達目標

- 1心理学の基礎的な知識を生涯学習の観点から習得し、乳幼児期の重要性について各時期への移行と発達課題などを挙げることができる。
- 2家族・家庭の意義と機能について発達をふまえて理解し、子どもと家族を包括的に捉える視点について説明できる。
- 3子育て家庭を中心とした現代社会の課題を述べることができる。
- 4子どもの精神保健と課題を述べることができる。

授業の方法

教科書(または動画)を用い、講義形式ですすめる(1~15回目)
各回の一部をグループ学習にあてる。家庭支援に関する課題について、グループごとにプレゼンテーションを行う(2~14回目)

ICT活用

webアプリを用いた双方向授業を取り入れる。意見や感想の共有、議論に活用する。

実務経験のある教員の教育内容

子育て支援組織の実践者としての経験を活かし、理論と実践を往還する指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

Webアプリを活用して意見、感想へのフィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	乳児期の発達の特徴と課題	教科書の該当ページを読む(90分)	教科書の復習(90分)
担当教員			
第2回	幼児期前期の発達の特徴と課題 ・グループワーク	教科書の該当ページを読む(90分)	グループワークの準備と各グループから提示された課題について理解を深める(90分)
担当教員			
第3回	幼児期後期の発達の特徴と課題 ・グループワーク	教科書の該当ページを読む(90分)	グループワークの準備と各グループから提示された課題について理解を深める(90分)
担当教員			

第4回	児童期の発達の特徴と課題	教科書の該当ページを読む(90分)	グループワークの準備と各グループから提示された課題について理解を深める(90分)
担当教員			
第5回	青年期の発達の特徴と課題 ・グループワーク	教科書の該当ページを読む(90分)	グループワークの準備と各グループから提示された課題について理解を深める(90分)
担当教員			
第6回	成人期・老年期の発達の特徴と課題 ・グループワーク	教科書の該当ページを読む(90分)	グループワークの準備と各グループから提示された課題について理解を深める(90分)
担当教員			

第7回	子どもの生活・生育環境とその影響 ・グループワーク	教科書の該当ページを読む(90分)	グループワークの準備と各グループから提示された課題について理解を深める(90分)
担当教員			
第8回	子どもの心の健康に関わる問題 ・グループワーク	教科書の該当ページを読む(90分)	グループワークの準備と各グループから提示された課題について理解を深める(90分)
担当教員			
第9回	子どもの心の健康に関わる問題 ・グループワーク	教科書の該当ページを読む(90分)	グループワークの準備と各グループから提示された課題について理解を深める(90分)
担当教員			

第10回	ライフコースと仕事・子育て ・グループワーク	教科書の該当ページを読む(90分)	グループワークの準備と各グループから提示された課題について理解を深める(90分)
担当教員			
第11回	多様な家庭とその理解 ・グループワーク	教科書の該当ページを読む(90分)	グループワークの準備と各グループから提示された課題について理解を深める(90分)
担当教員			
第12回	多様な家庭とその理解 ・グループワーク	教科書の該当ページを読む(90分)	グループワークの準備と各グループから提示された課題について理解を深める(90分)
担当教員			

第13回	家族・家庭の意義と機能 ・グループワーク	教科書の該当ページを読む(90分)	グループワークの準備と各グループから提示された課題について理解を深める(90分)
担当教員			
第14回	親子関係・家族関係の理解 ・グループワーク	教科書の該当ページを読む(90分)	各グループから提示された課題について理解を深める(90分)
担当教員			
第15回	子育ての経験と親としての育ち まとめ	教科書の該当ページを読む(90分)	到達目標を確認し振り返りを行う(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	レポート40%・発表30% 授業内のリアクションペーパー30%
その他	0	なし
教科書		
芝野松次郎ほか『事例で楽しく学ぶ 子ども家庭支援の心理学』中央法規出版		
参考文献		

父親ネットワーク北海道『シングルファザー ハンドブック』2018年、
リンク <https://fathers-net-hokkaido.org/>

履修条件・留意事項等

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		専門科目 地域創造					
科目名		地域商業概論				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	木村 悠里菜						

授業の位置づけ

本科目は、小売業を起点にした地域づくりを批判的に考察し、市場経済・贈与・互酬の理論を踏まえ、持続可能な地域経済のモデルを分析する。商業の公共性や地域社会の相互作用を探究し、実践的な課題解決能力を養う。地域資源を活かす価値創造の視点を培い、持続可能な社会発展に貢献する理論とスキルを獲得する。ディプロマ・ポリシーの地域の歴史や文化、多様な資源の価値を深く理解し、新たな価値を創造することにより、持続可能な社会を実現し、次代へ発信・継承することができる、幅広い視点から地域課題を発見し、課題解決に向けて主体的に行動でき、かつ、地域において協働できる人的資源の開発や組織体制の構築に貢献できることと関連する。

授業の概要

本科目では、小売業を起点としたまちづくりの全体像を広く理解する。具体的には、小売業起点のまちづくりの系譜や背景、行政の役割等を学ぶ。その上で、まちの客観的な現実をみつめるためのデータや、データだけでは捉えきれないまちの資源、まちづくりの主体と事業を支える仕組み等について学ぶ。これらを学んだ上で、防災・減災、観光、高齢者・子育て世代のためのまちづくり等に加え、商いの場と公共の場の両立を求められる商店街組織の実態や取組、そして、学生によるまちづくりをはじめとした、様々な事例を通して、まちづくりの理論と現状の理解を目指す。

到達目標

本科目を通じて、受講生は小売業を起点としたまちづくりの全体像を捉え、地域経済における商業の役割とその変遷を分析できるようになる。市場経済の構造を理解し、贈与や信用、負債といった異なる経済の枠組みを比較することで、地域商業の多様なあり方を探求できる。さらに、商業と社会の関係性を考察し、持続可能な経済の在り方について理論と事例の両面から検討できる。最後に、得られた知見をもとに、現代の商業と地域社会の未来について自らの視点を構築し、論理的に議論を展開できるようになる。

授業の方法

- ・パワーポイントによるプレゼンテーション資料と教科書等を併用しながら、講義形式とアクティブラーニングの手法を取り入れた演習方式の授業を実施する。
- ・理解度確認のために、最終成果発表を実施する。

ICT活用

- ・パワーポイントによるプレゼンテーション資料と教科書等を併用しながら、視覚的に内容が理解しやすい授業を実施する。
- ・Google Classroomを活用し、配布資料を共有するため、授業前に各自印刷し持参する。

実務経験のある教員の教育内容

消費財メーカーのマーケティング職や外資系コンサルティングファームでの経営コンサルタント職や、全国のまちづくり活動等での実務経験を活かして、実例を交えた具体的な授業を実施する。

課題に対するフィードバックの方法

各授業において振り返りを実施し、学生の理解度の確認を行う。加えて質問については、解説を適宜実施する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーションの実施と、価値の概念とその意義を概観する。	「価値論」の序章を読み、その概念的基盤を批判的に分析すること。本書が「価値」をどのように定義しているのか、またその議論の背後にある認識論的前提を考察する。価値の創出に関する経済学的・哲学的・人類学的な異なる視点を検討し、これらの理論の限界と影響を問う批判的な問いを作成すること。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第2回	価値を語る方法を整理し、理論的枠組みを検討する。	「価値論」の第1章を読み、授業内で指示された課題を実施する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第3回	交換理論の変遷と価値形成のプロセスを考察する。	「価値論」の第2章を読み、授業内で指示された課題を実施する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			

第4回	行為の価値とマルクス主義的視点を整理する。	「価値論」の第3章を読み、授業内で指示された課題を実施する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第5回	価値のフェティシズムと象徴的構造の役割を探る。	「価値論」の第3章を読み、授業内で指示された課題を実施する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第6回	富と権力、貨幣のフェティシズムの関係を考察する。	「価値論」の第4章を読み、授業内で指示された課題を実施する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			

第7回	ワンパムとイロコイ社会の構造と価値観を分析する。	「価値論」の第5章を読み、授業内で指示された課題を実施する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第8回	贈与経済と交換の倫理をめぐる理論を整理する。	「価値論」の第6章を読み、授業内で指示された課題を実施する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第9回	贈与と社会契約、ポトラッチの経済的意義を考察する。	「価値論」の第6章を読み、授業内で指示された課題を実施する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			

第10回	フェティッシュの問題と経済的象徴の役割を探る。	「価値論」の第7章を読み、授業内で指示された課題を実施する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第11回	これまでの議論を整理し、主要概念の相互関係を検討する。	「価値論」の第1-7章を読み、授業内で指示された課題を実施する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第12回	既存の市場と国家の枠組みを超える経済の可能性を探る。	授業内で指示された課題を実施する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			

第13回	学生による最終発表テーマの設定と、資料作成の方向性について議論する。	授業内で指示された課題を実施する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第14回	学生によるプレゼンテーション①と、発表内容をめぐるディスカッションを実施する。	発表者:発表準備を実施し、発表資料を期日までに提出する。 発表者以外:事前に発表者のスライドを読み込み、質問を考える。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第15回	学生によるプレゼンテーション②と、発表内容をめぐるディスカッションを実施し、授業全体の振り返りを行う。	発表者:発表準備を実施し、発表資料を期日までに提出する。 発表者以外:事前に発表者のスライドを読み込み、質問を考える。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	60	最終成果発表
その他	40	事前課題提出・授業態度や意欲等
教科書		
価値論/デヴィッド・グレーバー/以文社		
参考文献		

授業内で順次紹介する。

履修条件・留意事項等

本授業は、事前学習を前提としたディスカッション形式で進める。次回の授業範囲について配布する課題を、前日23:59までにGoogle Classroomへ提出せよ。提出がない場合や、授業態度が不適切な場合は出席扱いとならない。授業内でランダムに指名し、発表を行う。履修登録後のシラバスに関する申し立ては一切受け付けない。

備考欄

なし

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		専門科目 地域創造					
科目名		人口減少時代の対話と合意形成				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	松田 祐						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーにおける「地域社会の中核的コーディネーターとして、多様な主体とのつながりを生み出し、包摂的で持続可能な地域コミュニティを他者と共創できる。(知識・技能)」、及び「幅広い視点から地域課題を発見し、課題解決に向けて主体的に行動でき、かつ、地域において協働できる人的資源の開発や組織体制の構築に貢献できる人材を養成する。(思考・判断・表現)」ことと特に関係がある科目である。

授業の概要

本科目では、人口減少社会に起因する労働力不足等の諸課題に際し、他者との協働が日頃求められる現況を踏まえ、自らと相容れない考え(方)を持つ他者との共存の在り方について考える。共存・共生に必要とされる有効なコミュニケーションや合意形成、関係調整、交渉等を円滑に行える諸能力について触れる。講義を通して、考え(方)の異なる他者とのより良い共存関係を目指すことを念頭に、コミュニケーションや合意形成、交渉における基本メカニズムをはじめ、実践的なアプローチ、実際事例について学ぶ。

到達目標

①人口減少時代における対話や合意形成、交渉等の必要性や重要性について説明できる。
 ②交渉の型や手法など諸要素や関連知識に触れ、実践的な事例において他者とのコミュニケーションを図り、問題解決や環境改善に導ける。

授業の方法

主に、パワーポイント資料、印刷物・動画資料などを用いたり、履修生間でのディスカッションを展開する。

ICT活用

主に、課題や授業連絡などのやり取りにGoogle classroomを活用する。

実務経験のある教員の教育内容

民間企業や大学職員、地域における官学連携研究機関などの就業経験がある。地域と大学のよりよい関係性や官学連携などについて指導する。

課題に対するフィードバックの方法

適宜課すコメントシートを通して、知識の整理や派生的な知識の獲得を促す。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 授業の進め方や評価基準等について説明する。	シラバスをよく読み、これまでに 得た知識や経験について整理 して授業に臨むこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、 必要に応じて調べておくこと。 (90分)
担当教員			
第2回	対話と合意形成について 限りあるリソースの選択と集中が求められる時代において、 他者との対話や合意形成の重要性について理解を深める。 。	授業内での指示課題や指定課 題を行うこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、 必要に応じて調べておくこと。 (90分)
担当教員			
第3回	問題はなぜ起こるのか(1) 他者との間に起きる問題の本質について理解を深める。	授業内での指示課題や指定課 題を行うこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、 必要に応じて調べておくこと。 (90分)
担当教員			

第4回	問題はなぜ起こるのか(2) 前回に引き続き、他者との間に起きる問題の本質について理解を深める。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			
第5回	従来型の問題解決法を考える 従来の問題解決方法に触れ、他者との問題解決のプロセスについて理解を深める。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			
第6回	交渉による問題解決法を考える 交渉における2つのタイプについておさえ、協調、譲歩、妥協についての理解を深める。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			

第7回	協調的交渉で問題を解決する(1) 他者との「協調的交渉」における意義、手法、善後策などについて学び、日常的な事例を挙げながら実務的な活用を見据えた理解を進める。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			
第8回	協調的交渉で問題を解決する(2) 前回は引き続き、他者との「協調的交渉」における意義、手法、善後策などについて学び、日常的な事例を挙げながら実務的な活用を見据えた理解を進める。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			
第9回	協調的交渉で問題を解決する(3) 前回は引き続き、他者との「協調的交渉」における意義、手法、善後策などについて学び、日常的な事例を挙げながら実務的な活用を見据えた理解を進める。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			

第10回	交渉・合意形成を実践する(1) これまでの学びを踏まえ、実事例を基に問題解決を目指したアプローチについて実践する。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			
第11回	交渉・合意形成を実践する(2) 前回到引き続き、これまでの学びを踏まえ、実事例を基に問題解決を目指したアプローチについて実践する。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			
第12回	交渉・合意形成を実践する(3) 前回到引き続き、これまでの学びを踏まえ、実事例を基に問題解決を目指したアプローチについて実践する。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			

第13回	映像作品から交渉に触れる(1) 交渉を題材に扱った映像作品に触れ、作中の人物たちの考えや思い、立場について理解し、自分なりの解決像について模索する。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			
第14回	映像作品から交渉に触れる(2) 前回に引き続き、交渉を題材に扱った映像作品に触れ、作中の人物たちの考えや思い、立場について理解し、自分なりの解決像について模索する。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			
第15回	クロージング 講義全体を通して、対話や合意形成、交渉における重要なファクターについて改めて整理し、実際に活用できるような知見にするためにまとめを行う。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業に取り組む姿勢、コメントシート、ディスカッション、各種レポートなどを中心に総合的に評価する。定期試験は行わない。
その他	0	
教科書		
特に指定しない。		
参考文献		

適宜、教員から指定または提供された、テーマやトピックに係る資料等

履修条件・留意事項等

なし

備考欄

なし

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		専門科目 地域創造					
科目名		地域と文化				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	木村 悠里菜						

授業の位置づけ

本科目は、文化人類学の視点から、人間の経済行為と社会・文化の関係を探究する。贈与・互酬・消費等多様な経済形態を学び、社会構造の変容を考察し、地域経済の役割を分析、歴史・文化・資源の価値を理解し、持続可能な社会の実現を目指す。オルタナティブ経済の可能性を議論、地域課題の発見・解決する力を養う。ディプロマ・ポリシーの地域の歴史や文化、多様な資源の価値を深く理解し、新たな価値を創造することにより、持続可能な社会を実現し、次代へ発信・継承することができる。幅広い視点から地域課題を発見し、課題解決に向けて主体的に行動でき、かつ、地域において協働できる人的資源の開発や組織体制の構築に貢献できるに関連する。

授業の概要

本科目では、まちづくりを構成する要素のひとつである、ひとや文化を広く理解する。具体的には、個人や社会、家族、コミュニティ、国家等の概念や、そのなりたち等を学ぶ。加えて、文化人類学等の概念の理解をおし、ひととひととのつながりについて理解する。これらの、日本社会をふくめた世界中の人々にあてはまる概念を学んだ上で、現代の日本社会における社会現象をとおして、日本社会がどのように位置づけられるかという、社会構造の分析に関する理論等を学習する。これにより、我々が日常で直面する様々な社会現象の理解を目指す。

到達目標

本科目では、受講生は、経済人類学の視点を用いて、経済行為が社会や文化の構造に与える影響を多角的に捉えることができる。市場経済、贈与経済、互酬経済といった異なる経済システムの特徴を把握し、それらが歴史的にどのように形成・変容してきたのかを説明することができる。また、経済活動を通じた社会関係や消費行動の特質を整理し、経済の枠組みが変化することで生じる社会的影響について論じることができる。さらに、経済の制度やそのオルタナティブな展開を踏まえ、現代社会における経済的営みを批判的に検討し、多様な視点から議論することができる。

授業の方法

- ・パワーポイントによるプレゼンテーション資料と教科書等を併用しながら、講義形式とアクティブラーニングの手法を取り入れた演習方式の授業を実施する。
- ・理解度確認のために、最終成果発表を実施する。

ICT活用

- ・パワーポイントによるプレゼンテーション資料と教科書等を併用しながら、視覚的に内容が理解しやすい授業を実施する。
- ・Google Classroomを活用し、配布資料を共有するため、授業前に各自印刷し持参する。

実務経験のある教員の教育内容

消費財メーカーのマーケティング職や外資系コンサルティングファームでの経営コンサルタント職や、全国のまちづくり活動等での実務経験を活かして、実例を交えた具体的な授業を実施する。

課題に対するフィードバックの方法

各授業において振り返りを実施し、学生の理解度の確認を行う。加えて質問については、解説を適宜実施する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーションの実施と、地域・文化・経済の多様な視点等について概観する。	「経済人類学入門」の序章を読み、その主要な議論を批判的に検討する。著者が提示する理論的視点を特定し、それらが経済人類学の広範な議論にどのように貢献するかを考察すること。現代の経済システムへの応用可能性を検討し、批判的な問いを準備する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員	木村 悠里菜		
第2回	人間と経済の概念、その歴史的背景と発展等について考察する。	「経済人類学入門」の第1章と第2章を読み、授業内で指示された課題を実施する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第3回	経済行動の基本的原理(充足性・希少性・合理性)とその社会的文脈等を検討する。	「経済人類学入門」の第3章と第4章を読み、授業内で指示された課題を実施する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			

第4回	経済行動の合理性とその基盤等を、多角的な視点から検討する。	「経済人類学入門」の序章～第5章を読み、授業内で指示された課題を実施する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第5回	文化と環境の相互作用について、社会システムとの関連性等を踏まえて検討する。	「経済人類学入門」の第6章と第7章を読み、授業内で指示された課題を実施する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第6回	交換・協力・分業の社会的役割とその進化等について考察する。	「経済人類学入門」の第8章と第9章を読み、授業内で指示された課題を実施する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			

第7回	経済の持続性と物質文化の象徴的価値等について総括的に考察する。	「経済人類学入門」の第6～10章を読み、授業内で指示された課題を実施する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第8回	経済倫理と行為の価値観が、社会構造に与える影響について考察する。	「経済人類学入門」の第11章と第12章を読み、授業内で指示された課題を実施する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第9回	社会における消費の役割と、その再生産のメカニズムを検討する。	「経済人類学入門」の第13章と第14章を読み、授業内で指示された課題を実施する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			

第10回	経済行為の変容と社会への影響等を、多角的な視点から総括的に考察する。	「経済人類学入門」の第11～第14章を読み、授業内で指示された課題を実施する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第11回	社会構造の歴史的変遷と経済の関わりについて検討する。	授業内で指示された課題を実施する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第12回	経済の歴史的発展を概観し、通説を再考する。	授業内で指示された課題を実施する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			

第13回	学生による最終発表テーマの設定と、資料作成の方向性について議論する。	これまでの授業内容から、最終発表で取り扱う研究テーマを検討する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第14回	学生によるプレゼンテーション①と、発表内容をめぐるディスカッションを実施する。	発表者:発表準備を実施し、発表資料を期日までに提出する。 発表者以外:事前に発表者のスライドを読み込み、質問を考える。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第15回	学生によるプレゼンテーション②と、発表内容をめぐるディスカッションを実施し、授業全体の振り返りを行う。	発表者:発表準備を実施し、発表資料を期日までに提出する。 発表者以外:事前に発表者のスライドを読み込み、質問を考える。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	60	最終成果発表
その他	40	事前課題提出・授業態度や意欲等
教科書		
経済人類学入門【理論的基礎】/鈴木康治/作品社		
参考文献		

授業内で順次紹介する。

履修条件・留意事項等

本授業は、事前学習を前提としたディスカッション形式で進める。次回の授業範囲について配布する課題を、前日23:59までにGoogle Classroomへ提出せよ。授業内でランダムに指名し、発表を行う。課題を事前に準備することで、より深い議論が可能となる。履修登録後のシラバスに関する申し立ては一切受け付けない。

備考欄

なし

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		専門関連科目 まちづくり・地域政策					
科目名		健康社会と福祉				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	松本 洋子						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーの「国際社会における地域や組織で、職務に関する限定的な領域だけでなく、専門知識を活かしつつ、協働できるコミュニケーション力を有している(思考・判断・表現)」および「地域社会の中核的コーディネーターとして、多様な主体とのつながりを生み出し、包摂的で持続可能な地域コミュニティを他者と共創できる(知識・技能)」と関係がある科目である。
「健康社会と福祉」は、管理栄養士養成の初期に学ぶ専門基礎科目であり、「栄養教育論」、「食行動論」および「公衆栄養学」などの専門科目につながる科目である。また、地域未来学の幅広い教養を身につける「生活と社会環境」につながる科目である。

授業の概要

本科目では、急激な変容を続ける現代社会の下で、社会生活を営む住民が抱えている福祉の問題や課題を解決するための法令や関連施策について学習する。加えて、多様な職種が協業する病院等医療機関、老人保健施設、老人福祉施設および保育所等児童福祉施設における、福祉関連の基礎知識を修得する科目である。

到達目標

1. 社会福祉に係る専門用語と福祉施策等の現在について説明できる。
2. 社会保障制度と社会福祉を展開する行政や組織、マンパワーなどについて説明できる。
3. 子どもや高齢者などのライフステージ、障害や低所得など対象特性に施行されている福祉施策について説明できる。
4. 医療保険制度や介護保険制度の概要と、関わりを持つ専門職種に求められている役割について説明できる。

授業の方法

スライドと教科書を使いながら講義形式ですすめる。理解度を深めるための確認テストを行う。

ICT活用

Google Formのテスト作成機能を用いて練習問題を繰り返し解かせて自主学習を促す。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

事後学習ノートにコメントして返却する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	「社会福祉」に関して、福祉用語の語源や現状の定義などの学習、ソーシャルポリシー、社会保障など用語の学習、社会事業および社会福祉事業など、「社会福祉」の歴史を概括し、理解するためのガイダンスを行う。	シラバスにある科目の位置づけ、授業の概要を理解し「社会福祉」について準備学習に取り組む、授業に備える(90分)。	講義内容を取りまとめ、事後学習ノートに記入し提出する(90分)。
担当教員	松本 洋子		
第2回	「わが国における社会福祉の歴史」に関して、古代から近世までの慈善救済、第二次世界大戦後の社会福祉および新たな社会福祉の動向と、社会福祉と税の一体改革にいたる施策や制度の変遷について、それぞれ内容を整理して理解を図る。	「わが国における社会福祉の歴史」を教科書で学習する(90分)。	講義内容を取りまとめ、事後学習ノートに記入し提出する(90分)。
担当教員			
第3回	「社会保障制度と社会福祉を展開する組織」に関して、社会保障制度の体系、社会保険および公的扶助(必要性和現状)と、社会福祉を展開する行政機関、民間機関、施設および団体について、それぞれの内容を整理し理解を図る。	「社会保障制度と社会福祉を展開する組織」を教科書で学習する(90分)。	講義内容を取りまとめ、事後学習ノートに記入し提出する(90分)。
担当教員			

第4回	「子ども福祉」に関して、少子化対策、子ども福祉に関わる法制度(児童福祉法)、母子保健(母子保健法)、子どもの貧困および子育て支援事業について、それぞれ内容を整理し理解を図る。	「子ども福祉」を教科書で学習する(90分)。	講義内容を取りまとめ、事後学習ノートに記入し提出する(90分)。
担当教員			
第5回	「障害者福祉」に関して、障害者を支える理念、障害者福祉関連法令(障害者基本法、身体障害者福祉法、知的障害者福祉法)、障害者総合支援の目的について、それぞれ内容を整理し理解を図る。	「障害者福祉」を教科書で学習する(90分)。	講義内容を取りまとめ、事後学習ノートに記入し提出する(90分)。
担当教員			
第6回	「高齢者福祉」に関して、高齢者を取り巻く状況、高齢者を対象とした法令(老人福祉法、老人保健法、高齢社会対策基本法、介護保険法、社会福祉法)について、それぞれの内容を整理して理解を図る。	「高齢者福祉」を教科書で学習する(90分)。	講義内容を取りまとめ、事後学習ノートに記入し提出する(90分)。
担当教員			

第7回	「介護保険制度と専門職の役割:チームアプローチの必要性」に関して、介護保険制度創設の背景、制度の概要、制度を支えるチームアプローチと専門職の役割について、それぞれ内容を整理し理解を図る。	「介護保険制度と専門職の役割:チームアプローチの必要性」を教科書で学習する(90分)。	講義内容を取りまとめ、事後学習ノートに記入し提出する(90分)。
担当教員			
第8回	「低所得者福祉」に関して、社会における貧困、生活保護制度(基本原理・実施上の原則、保護の要件と最低生活費)、生活保護関連事業、低所得者対策および生活保護の現状について、それぞれ内容を整理し理解を図る。	「低所得者福祉」を教科書で学習する(90分)。	講義内容を取りまとめ、事後学習ノートに記入し提出する(90分)。
担当教員			
第9回	「医療福祉」に関して、医療保険制度(給付の種類)、保険診療の仕組み(保険医療機関、保険医、診療報酬制度)、特定機能病院・地域医療支援病院、地域連携および医療福祉と専門職について、それぞれ内容を整理して理解を図る。	「医療福祉」を教科書で学習する(90分)。	講義内容を取りまとめ、事後学習ノートに記入し提出する(90分)。
担当教員			

第10回	「精神保健福祉」に関して、精神保健福祉法(社会復帰、自立と社会参加、精神保健指定医、精神保健福祉手帳)、障害者雇用促進法、自殺防止対策について、それぞれ内容を整理して理解を図る。	「精神保健福祉」を教科書で学習する(90分)。	講義内容を取りまとめ、事後学習ノートに記入し提出する(90分)。
担当教員			
第11回	「社会福祉施設の役割」に関して、施設の分類および目的と機能、社会福祉施設の推移(歩みと現状)、枠組み(社会福祉法人、設備および運営に関する最低基準)について、それぞれ内容を整理して理解を図る。	「社会福祉施設の役割」を教科書で学習する(90分)。	講義内容を取りまとめ、事後学習ノートに記入し提出する(90分)。
担当教員			
第12回	「地域福祉」に関し、ノーマライゼーションとコミュニティーケア、推進組織と担い手(社会福祉協議会、民生委員・福祉協力員、ボランティアとNPO)、日常生活自立支援事業について、それぞれ内容を整理して理解を図る。	「地域福祉」を教科書で学習する(90分)。	講義内容を取りまとめ、事後学習ノートに記入し提出する(90分)。
担当教員			

第13回	「社会福祉を担う人々」に関して、社会福祉従事者の現状、社会福祉専門職の資格制度、社会福祉を担う専門職・非専門職(民生委員、身体障害者・知的障害者相談員)および社会福祉従事者による連携・共働について、それぞれ内容を整理して理解を図る。	「社会福祉を担う人々」を教科書で学習する(90分)。	講義内容を取りまとめ、事後学習ノートに記入し提出する(90分)。
担当教員			
第14回	「社会福祉の諸問題とコメディカルへの期待」に関して、福祉従事者の確保、貧困対策、自殺者対策、在宅高齢者の介護、災害弱者対策、判断能力低下者への保険医療従事者の支援、虐待対策およびサービスの質について、それぞれ内容を整理し理解を図る。	「社会福祉の諸問題とコメディカルへの期待」を教科書で学習する(90分)。	教科書の該当箇所を読んで復習する(90分)。
担当教員			
第15回	確認テスト テスト範囲は、第1～14回までの学習内容から出題する。	教科書の該当箇所を読んで復習する(90分)。	教科書「社会福祉を担う人々」を読んで復習する(90分)。
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	60	確認テスト(50%) 授業への参加態度(10%)
その他	40	事後学習ノート(40%)
教科書		
「コメディカルのための社会福祉概論」／鬼崎信好・本郷秀和編著／講談社		
参考文献		

「国民衛生の動向」／(一財)厚生労働統計協会
 「国民福祉と介護の動向」／(一財)厚生労働統計協会

履修条件・留意事項等

履修条件なし

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		専門関連科目 まちづくり・地域政策					
科目名		まちづくり法規				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	熊野 稔、浦田 洋						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーにおける「地域の歴史や文化、多様な資源の価値を深く理解し新たな価値を創造することにより、持続可能な社会を実現し、次代へ発信・継承することができる知識や技能を有する(知識・技能)」ことに特に関連する。

授業の概要

本科目では、地域づくりの人材養成に不可欠なまちづくり関連の法律の体系と基本を学習・理解する。

(オムニバス方式/全15回)

(1 熊野 稔/8回) 主に国土利用計画法、国土形成計画法、都市計画法、建築基準法、都市再生特別措置法、中心市街地活性化法、宅地建物取引業法等を中心に、まちづくりに関連する法体系を学習する。

③ (2 浦田 洋/7回)

主に地方自治法、地方財政法、地方公務員法や、地方自治制度等を中心に、地域社会の基盤を形成する法体系について学習する。

到達目標

まちづくりの関連法規の基礎を理解し、本学科で養成していく人材として掲げる「持続可能な社会を実現し」「地域の未来を担う」人材に求められる「好奇心をもってあらゆる情報に接し、咀嚼し、多角的な批評眼を用いて地域のあるべき将来像を描き、その実現に向かって多分野の人と協働して汗を流すことができる」資質・能力を身に着けることができる。

授業の方法

パワーポイントによる講義を行う。熊野は、主に国土利用計画法、国土形成計画法、都市計画法、建築基準法、都市再生特別措置法、中心市街地活性化法、宅地建物取引業法等を中心に、街づくりに関連する法体系を講義し学習する。浦田は地方自治法他、地域社会に関連する法体系の下に社会インフラの実例等を講義する。講義後に毎回演習シート等提出、試験、レポート作成・提出で成績評価する。

ICT活用

インターネット活用による学習のほか、課題や授業連絡などのやり取りにGoogle classroomを活用する。

実務経験のある教員の教育内容

地方行政、大学職員等、現場の実践経験が豊富な多様な職種における勤務経験のある教員が指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

事前学習を踏まえ、各教員が学生間とのディスカッションや討議等を通してフィードバックを行う。演習シート提出による質問には適切に対応する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	1回目 まちづくり法規ガイダンス 法律の基本的考え方、まちづくり関連の法律体系 憲法 法律 政令 省令 条例 規則などのガイダンス学習を行う。	準備学習および必要時間(30分):シラバスを読み授業内容を理解しておく	事後学習および必要時間(150分):授業の概要を復習し演習シートに取り組み提出する。
担当教員	熊野 稔		
第2回	2回目 国土利用計画法、国土形成計画法、環境基本法、都市計画法 我が国の地域づくりに関連する国土利用計画法、国土形成計画法、環境基本法、環境関連法、都市計画法などの用語や考え方、重要法令などを学習する。	準備学習および必要時間(90分):インターネットで上記法律について検索して学習する	事後学習および必要時間(90分):上記法律について重要事項等を理解し授業の概要を復習し演習シートに取り組み提出する。
担当教員	熊野 稔		
第3回	3回目 都市計画法 宅地造成等規制法 土地区画整理法 農地法など 都市計画法における都市計画行政の役割、土地利用規制、開発行為、都市施設、市街地開発事業等を主に学習し、盛土規制法 土地区画整理法 農地法の改正なども踏まえて基本を学習していく。	準備学習および必要時間(90分):インターネットで上記法律について検索して学習する	事後学習および必要時間(90分):上記法律について重要事項等を理解し授業の概要を復習し演習シートに取り組み提出する。
担当教員	熊野 稔		

第4回	4回目 都市再生特別措置法 中心市街地活性化法 その他まちづくり関連法 都市再生特別措置法 中心市街地活性化法等を実例も交えて基本を解説する。	準備学習および必要時間(90分): インターネットで上記法律について検索して学習する	事後学習および必要時間(90分): 上記法律について重要事項等を理解し授業の概要を復習し演習シートに取り組み提出する。
担当教員	熊野 稔		
第5回	5回目 建築基準法 用語と総則 制度規定 全国一律に適用される単体規定 都市計画区域のみ適用の集団規定などの基本を学習する。 アクティブラーニングとして容積率や建蔽率の計算問題等の演習も行う。	準備学習および必要時間(90分): インターネットで上記法律について検索して学習する	事後学習および必要時間(90分): 上記法律について重要事項等を理解し授業の概要を復習し演習シートに取り組み提出する。
担当教員	熊野 稔		
第6回	6回目 宅地建物取引業法 不動産業務の基礎となる宅地建物取引業法の重要点を学ぶ。用語の定義等の総則、免許制度、宅地建物取引士、保証金制度、業務上の規制、監督処分・罰則を学習する。 アクティブラーニングとして不動産関連の法規の演習を行う	準備学習および必要時間(90分): インターネットで上記法律について検索して学習する	事後学習および必要時間(90分): 上記法律について重要事項等を理解し授業の概要を復習し演習シートに取り組み提出する。
担当教員	熊野 稔		

第7回	7回目 宅地建物取引業法 借地借家法 建物区分所有法 不動産登記法 不動産業務に関連する法規の宅地建物取引業法 借地借家法 建物区分所有法 不動産登記法の基礎を学ぶ。アクティブラーニングとして不動産関連の法規の演習を行う	準備学習および必要時間(90分):インターネットで上記法律について検索して学習する	事後学習および必要時間(90分):上記法律について重要事項等を理解し授業の概要を復習し演習シートに取り組み提出する。
担当教員	熊野 稔		
第8回	8回目 まちづくり法規演習及び定期試験 7回までの内容に関する試験実施。建築法規用教材2025など教科書を参考としながら、まちづくりに関する法規のレポートを作成して提出する。	準備学習および必要時間(90分):まちづくりの法律について検索して復習し、学習する	事後学習および必要時間(90分):上記法律について重要事項等を理解し授業の概要を復習しレポートや演習シートに取り組み提出する。
担当教員	熊野 稔		
第9回	9回目 オリエンテーション:地域社会の中核的コーディネーター⇔地方公務員として活躍する人材の輩出。地域における社会インフラ。自治体で長年インフラ整備・管理を行ってきた経験から、地域住民に必要な社会インフラの現状と将来について、生活者からは見えづらいシステムや課題等の説明を交えながら、議論を進めていく。特に人口減少社会が到来した今、「社会的共通資本」としての社会インフラのあるべき姿を考えることは、直接行政機関とは関係がない(ように見える)企業・機関に進む学生にとっても、「生活者」「市民」としては必須である、という前提で、関連知識と考える技法を獲得することを目指す。	準備学習および必要時間(30分):シラバスを読み授業内容を理解しておく	事後学習および必要時間(150分):授業の概要を復習し演習シートに取り組み提出する。
担当教員	浦田 洋		

第10回	10回目 社会インフラの実例1「道路」:役割、重要性、歴史、現状、課題。北海道の特殊性を踏まえた将来像に関する議論を行う。	準備学習および必要時間(90分):インターネットで道路について検索して学習する	事後学習および必要時間(90分):授業内容について重要事項等を理解し授業の概要を復習し演習シートに取り組み提出する。
担当教員	浦田 洋		
第11回	11回目 社会インフラの実例2「旅客運送事業」:JR、バス、地下鉄(札幌市)。まちづくりに果たす役割、新幹線札幌延伸、運転手不足、地下鉄延伸について語る。	準備学習および必要時間(90分):インターネットで旅客運送事業について検索して学習する。	事後学習および必要時間(90分):授業内容について重要事項等を理解し授業の概要を復習し演習シートに取り組み提出する。
担当教員	浦田 洋		
第12回	12回目 自治体職員になる:業務の多様性(窓口業務から工事監督、こども園の教師から大学教授)、国家公務員or地方公務員、社会的立ち位置等、やり甲斐について語る。	準備学習および必要時間(90分):インターネットで地方公務員法、地方自治法などを検索して学習する。	事後学習および必要時間(90分):授業内容について重要事項等を理解し授業の概要を復習し演習シートに取り組み提出する。
担当教員	浦田 洋		

第13回	13回目 社会インフラの実例3「治水・利水・防災・再開発」:河川事業と道路事業、上下水道事業の課題、再開発の状況、大規模集客施設の実現。	準備学習および必要時間(90分):インターネットで地方自治法、治水・利水・防災・再開発などを検索して学習する。	事後学習および必要時間(90分):授業内容について重要事項等を理解し授業の概要を復習し演習シートに取り組み提出する。
担当教員	浦田 洋		
第14回	14回目 社会インフラの実例4「現地視察」:市民が日常生活を円滑に営むために利用している各種施設の舞台裏を見学(札幌市施設を想定:地下鉄車両基地、浄水場等)。	準備学習および必要時間(90分):インターネットで地方自治法、札幌市公共施設、地下鉄車両基地、浄水場などを検索して学習する。	事後学習および必要時間(90分):授業内容について重要事項等を理解し授業の概要を復習し演習シートに取り組み提出する。
担当教員	浦田 洋		
第15回	15回目 北海道を支える人になる:豊かな1次産業、(比較的)冷涼というアドバンテージを活かし、サステナビリティを先導する地域の担い手になっていくために。	準備学習および必要時間(90分):インターネットで地方自治法、北海道、人材育成などを検索して学習する。	事後学習および必要時間(90分):授業内容について重要事項等を理解し授業の概要を復習し演習シートに取り組み提出する。
担当教員	浦田 洋		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	各授業の出席状況(20%)と各授業の演習シート等の提出(30%)、全体レポート(50%)による合計100%で評価する。
その他	0	なし
教科書		
建築法規用教材2025 日本建築学会編 パワーポイントなどのオリジナル資料を配布する		
参考文献		

なし

履修条件・留意事項等

出席、毎回演習シート提出、レポート作成・提出で成績評価する。

備考欄

インターネットによる資料検索等を事前学習で行う

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		専門関連科目 まちづくり・地域政策					
科目名		公衆衛生学				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	續 佳代						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーの「他分野と協働しながら、人々の栄養改善・健康増進を実現する指導者として必要な理論と技術を身につけている。(知識・技能)」ことと特に関係がある科目である。人間の健康を規定する要因である社会・環境に関する基礎知識、健康の維持・増進や疾病予防に役立てる基本的な考え方、保健・医療・福祉制度や関連法規の概要についての基礎知識を学ぶ科目である。「環境と化学」、「食品衛生学」の基礎となる。

授業の概要

公衆衛生学は、人の集団の健康に関わる自然条件や人為的条件を分析して、集団としての人の健康の保持と増進を図る学問である。人の生命と健康を支える食と栄養の専門家として、健康について広い視野から考えるために、公衆衛生学の考え方や保健指標・分析方法などを学び、生活習慣病などの現状と対策について理解を進め、基礎的知識を修得することを目的とする。

到達目標

・公衆衛生の基本を論じることができる。 ・保健統計、疫学、公衆衛生に関する情報などの要点を述べることができる。 ・生活習慣病、感染症などの疾患について説明できる。 ・地域保健、衛生行政、母子・学校・高齢者などについて説明できる。

授業の方法

パワーポイントと教科書を用いて講義形式で進める。 毎回配布する国家試験対策問題で知識が深まるよう解説する。 各講義の最後に、講義内容についての小テストを行う。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

毎回配布する国家試験対策問題は講義内でフィードバックします。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	公衆衛生と健康の概念 ・公衆衛生の定義、健康の定義を理解する。 ・予防医学の概念を理解する。 ・プライマリヘルスケアとヘルスプロモーションについて理解する。 ・行動変容といしき変容について理解する。	シラバスを参考にしてあらかじめ教科書を読んでおくこと。(90分)	講義で配布した国家試験対策問題を復習すること。(90分)
担当教員			
第2回	感染症対策- I ・感染症成立の三要因について理解する。 ・新興感染症、再興感染症について理解する。 ・人畜共通感染症について理解する。	シラバスを参考にしてあらかじめ教科書を読んでおくこと。(90分)	講義で配布した国家試験対策問題を復習すること。(90分)
担当教員			
第3回	感染症対策- II ・感染症法について理解する。 ・検疫法について理解する。 ・予防接種法について理解する。	シラバスを参考にしてあらかじめ教科書を読んでおくこと。(90分)	講義で配布した国家試験対策問題を復習すること。(90分)
担当教員			

第4回	医療と社会- I ・医の倫理をめぐる歴史と医の倫理に関する規定を理解する。 ・ヘルシンキ宣言とインフォームドコンセントについて理解する。 ・医療の質と安全の確保について理解する。	シラバスを参考にしてあらかじめ教科書を読んでおくこと。(90分)	講義で配布した国家試験対策問題を復習すること。(90分)
担当教員			
第5回	地域保健法 ・保健所の業務について理解する。 ・保健所と市町村保健センターの役割について理解する。	シラバスを参考にしてあらかじめ教科書を読んでおくこと。(90分)	講義で配布した国家試験対策問題を復習すること。(90分)
担当教員			
第6回	成人保健と健康増進- I ・健康増進法について理解する。 ・健康日本21(第三次)の飲酒・喫煙について理解する。	シラバスを参考にしてあらかじめ教科書を読んでおくこと。(90分)	講義で配布した国家試験対策問題を復習すること。(90分)
担当教員			

第7回	成人保健と健康増進-Ⅱ ・健康日本21(第三次)について理解する。けん生活習慣病対策について理解する。 ・生活習慣病について理解する。 ・肝炎対策、がん対策について理解する。	シラバスを参考にしてあらかじめ教科書を読んでおくこと。(90分)	講義で配布した国家試験対策問題を復習すること。(90分)
担当教員			
第8回	復習試験 ・第1回目から第7回目までの内容の復習試験を行う。 ・復習試験のフィードバックを行い、問題の内容を理解する。	シラバスを参考にしてあらかじめ教科書を読んでおくこと。(90分)	講義で配布した国家試験対策問題を復習すること。(90分)
担当教員			
第9回	食品保健 ・食品保健に関する法律について理解する。 ・食品の表示について理解する。 ・食品の種類と機能について理解する。 ・食の安全性について理解する。	シラバスを参考にしてあらかじめ教科書を読んでおくこと。(90分)	講義で配布した国家試験対策問題を復習すること。(90分)
担当教員			

第10回	食中毒 ・三類感染症について理解する。 ・細菌性食中毒について理解する。 ・ウイルス性食中毒について理解する。 ・寄生虫による食中毒について理解する。	シラバスを参考にしてあらかじめ教科書を読んでおくこと。(90分)	講義で配布した国家試験対策問題を復習すること。(90分)
担当教員			
第11回	・児童福祉法について理解する。 ・児童虐待防止法について理解する。	シラバスを参考にしてあらかじめ教科書を読んでおくこと。(90分)	講義で配布した国家試験対策問題を復習すること。(90分)
担当教員			
第12回	母子保健 ・母子保健法について理解する。 ・母子保健の統計について理解する。	シラバスを参考にしてあらかじめ教科書を読んでおくこと。(90分)	講義で配布した国家試験対策問題を復習すること。(90分)
担当教員			

第13回	保健統計 ・人口静態統計、人口動態統計について理解する。 ・人口構造の変化について理解する。 ・死因統計について理解する。	シラバスを参考にしてあらかじめ教科書を読んでおくこと。(90分)	講義で配布した国家試験対策問題を復習すること。(90分)
担当教員			
第14回	学校保健 ・学校保健関係法規について理解する。 産業保健 ・産業保健に関する法律について理解する。 ・労働衛生の3管理について理解する。	シラバスを参考にしてあらかじめ教科書を読んでおくこと。(90分)	講義で配布した国家試験対策問題を復習すること。(90分)
担当教員			
第15回	復習試験 ・9回目から14回目までの講義の内容の復習試験を行う。 ・復習試験のフィードバックを行い、問題の内容を理解する。	復習試験に備えて講義で配布した国家試験対策問題を勉強しておくこと。(90分)	復習試験の問題を復習すること。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	毎回、講義の最後に実施する小テストの合計点と、15回目の講義で行う復習試験の合計点で評価する。
その他	0	
教科書		
公衆衛生がみえる 2024-2025 医療情報科学研究所 メディックメディア		
参考文献		

なし

履修条件・留意事項等

10回以上出席すること。6回以上欠席した場合、単位は認定できない。
2回の復習試験の合計で評価するので2回の復習試験は必ず受験すること。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		専門関連科目 まちづくり・地域政策					
科目名		都市計画学				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	熊野 稔						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーの「地域の歴史や文化、多様な資源の価値を深く理解し、新たな価値を創造することにより、持続可能な社会を実現し、次代へ発信・継承することができる。(知識・技能)」、「地域社会の中核的コーディネーターとして、多様な主体とのつながりを生み出し、包摂的で持続可能な地域コミュニティを他者と共創できる。(知識・技能)」及び「幅広い視点から地域課題を発見し、課題解決に向けて主体的に行動でき、かつ、地域において協働できる人的資源の開発や組織体制の構築に貢献できる。(思考力・判断力・表現力)」と関係し、地域計画・都市計画学について理解するための科目である。

授業の概要

都市計画とは、都市の健全な発展と秩序ある整備を図るための土地利用、都市施設の整備、市街地開発事業に関する計画であり、理想的な都市を実現していくための手段である。本講義では、都市・都市計画とは何かに始まり、都市と都市計画の世界史と日本史、都市計画法等の体系、調査計画方法論、マスタープラン、土地利用、都市施設の整備、市街地開発事業、都市交通計画、公園緑地計画、供給処理施設計画、景観デザイン、全国の都市計画の先進事例を検証することを学ぶ。

到達目標

地域・都市計画の体系を理解し、基本的知識を習得して、レポート研究課題をAIも活用して、各自の創意工夫の元に解決しまとめて提出することにより、学生は実務に生かせることができることを目標とする。

授業の方法

公務員や企業、コンサルタント等、地域づくりの人材養成として必要な地域計画・都市計画の歴史、基本的知識・考え方、方法論、計画論、全国や世界各地の先進事例等を学習する。毎回の講義出席と理解及び演習シートの提出、最終日の試験、AIを活用しての1課題のレポート作成・提出で成績評価する。パワーポイントによる講義を実施して、演習やアクティブ・ラーニングを取り入れ、クイズ形式での回答も取り入れる。また外部講師のオンライン講演等も取り入れる。毎回の講義には、最初に講義の目的と構成、最後に纏めや重要ポイントを整理し、次回の予習ポイントを話す、最後に演習シートを提出して出席確認をする。

ICT活用

パソコンによるパワーポイントによる講義。

実務経験のある教員の教育内容

該当する。都市計画の調査計画策定など数多くのコンサルタント経験があり、実務経験を授業内容にも取り入れる。

課題に対するフィードバックの方法

演習シートを返却しての解説等を実施する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	講義の目的と構成・概要、地域・都市・都市計画とは、都市計画事例紹介	教科書やネット環境による予習、言葉の意味などの準備学習。90分	授業の復習、レポートや演習課題実施。90分
担当教員	熊野 稔		
第2回	都市と都市計画の歴史・その1 世界史、	教科書やネット環境による予習、言葉の意味などの準備学習。90分	授業の復習、レポートや演習課題実施。90分
担当教員	熊野 稔		
第3回	都市と都市計画の歴史・その2 日本史	教科書やネット環境による予習、言葉の意味などの準備学習。90分	授業の復習、レポートや演習課題実施。90分
担当教員	熊野 稔		

第4回	都市計画法の体系及び関連法規の体系・建築基準法集団規定 他	教科書やネット環境による予習、言葉の意味などの準備学習。90分	授業の復習、レポートや演習課題実施。90分
担当教員	熊野 稔		
第5回	土地利用計画 規制と誘導、都市計画区域 線引きと用途地域、地域地区など	教科書やネット環境による予習、言葉の意味などの準備学習。90分	授業の復習、レポートや演習課題実施。90分
担当教員	熊野 稔		
第6回	自治体の都市計画(その内容と動向及び課題)都市計画計画手法・各種データ・調査分析方法・計画策定手法、住民参加手法・ワークショップ	教科書やネット環境による予習、言葉の意味などの準備学習。90分	授業の復習、レポートや演習課題実施。90分
担当教員	熊野 稔		

第7回	都市計画区域マスタープランと市町村マスタープラン及び調査・計画策定方法論	教科書やネット環境による予習、言葉の意味などの準備学習。90分	授業の復習、レポートや演習課題実施。90分
担当教員	熊野 稔		
第8回	各種都市施設の配置計画 道路と交通 物資循環・供給処理施設計画	教科書やネット環境による予習、言葉の意味などの準備学習。90分	授業の復習、レポートや演習課題実施。90分
担当教員	熊野 稔		
第9回	各種都市施設 上下水道・都市河川、地区計画、建築協定、まちづくり協定他	教科書やネット環境による予習、言葉の意味などの準備学習。90分	授業の復習、レポートや演習課題実施。90分
担当教員	熊野 稔		

第10回	市街地開発事業 土地区画整理事業 仕組みと事例、計画演習含む	教科書やネット環境による予習、言葉の意味などの準備学習。90分	授業の復習、レポートや演習課題実施。90分
担当教員	熊野 稔		
第11回	市街地再開発事業 仕組みと事例、計画演習含む	教科書やネット環境による予習、言葉の意味などの準備学習。90分	授業の復習、レポートや演習課題実施。90分
担当教員	熊野 稔		
第12回	都市交通計画・需要推計法、交通マネジメント、公共交通、交通環境保全、交通安全論	教科書やネット環境による予習、言葉の意味などの準備学習。90分	授業の復習、レポートや演習課題実施。90分
担当教員	熊野 稔		

第13回	公園緑地計画、環境保全、低炭素都市・コンパクトシティのまちづくり・エリアマネジメント	教科書やネット環境による予習、言葉の意味などの準備学習。90分	授業の復習、レポートや演習課題実施。90分
担当教員	熊野 稔		
第14回	景観計画、都市デザイン、ポケットパーク、全国のまちづくりの先進事例紹介 今後の方向性、まとめ・総合演習	教科書やネット環境による予習、言葉の意味などの準備学習。90分	授業の復習、レポートや演習課題実施。90分
担当教員	熊野 稔		
第15回	試験 全範囲(都市計画の定義、都市計画史、土地利用計画、調査計画方法、土地区画整理事業、市街地再開発事業、交通、公園緑地 他) 演習問題含む	教科書やネット環境による予習、言葉の意味などの準備学習。90分	授業の復習、レポートや演習課題実施。90分
担当教員	熊野 稔		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内試験を実施する50%、授業内の課題・参加度・出席態度等50%
その他	0	
教科書		
図説都市計画(学芸出版社)		
参考文献		

無し

履修条件・留意事項等

可能な限り100%の出席を求めます。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		専門関連科目 まちづくり・地域政策					
科目名		社会福祉				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	松岡 是伸						

授業の位置づけ

・ディプロマポリシー「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる」と関連する科目である。

・保育・教育の基礎的な専門知識を身に付けるための専門基礎科目である。社会福祉の理念や社会問題の構造を理解することで、「子ども家庭福祉」や「社会的養護Ⅰ・Ⅱ」「こども家庭支援論」「子育て支援」等の基盤となる科目である。

授業の概要

本科目では、社会問題発生メカニズムを学び、現代における社会福祉の意義と役割を理解する。社会福祉の歴史・制度・行財政を基にした社会福祉サービスの展開について概観するとともに地域社会にとっての社会福祉の意味やグローバル下での社会福祉の在り方についても検討する。

到達目標

1. 社会福祉法制度の基礎的知識・理解を身に着け、法制度や自らの考えを説明できるようにする。
2. 私たちの生活の中に「社会福祉」が、どのように位置づいているかを理解し、述べることができる。
3. 「社会福祉・ソーシャルワーク」実践の基本的知識の理解と実際を知り、専門職者としての連携や保育士としての在り方を考え、自ら説明できるようにする。
4. 社会福祉の専門職としての基本的な知識を身に付け、実践につなげるよう考えることができる。

授業の方法

1. 本講義では、講義形式で展開される。そのうえで対話型講義となる場合がある。
2. 本講義の配布物・諸連絡等については、Googleクラスルームを活用する。そのため講義必要な資料とは、Googleクラスルームよりダウンロードもしくは印刷し、講義に参加すること。
3. 本講義では、毎講義終了後にリアクションペーパーを提出し、次回以降の講義にてフィードバックする。

ICT活用

Googleクラスルームを活用する。また必要に応じてデジタルデバイスを活用する

実務経験のある教員の教育内容

特になし

課題に対するフィードバックの方法

講義のリアクションペーパーに対して、定期的に講義内でフィードバック(講評・アドバイス等)を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	授業のオリエンテーション ・授業の進め方や評価方法などを説明 ・現代社会と社会福祉	指定されたテキストならびに講義配布資料を活用し、内容や疑問点を調べておくこと。(90分)	講義を踏まえ、指定されたテキストや資料等をもとにの範囲を熟読し、内容や疑問点を調べておくこと。(90分)
担当教員			
第2回	社会福祉の理念・意義 ・社会福祉の基本理念と基礎理解	指定されたテキストならびに講義配布資料を活用し、内容や疑問点を調べておくこと。(90分)	講義を踏まえ、指定されたテキストや資料等をもとにの範囲を熟読し、内容や疑問点を調べておくこと。(90分)
担当教員			
第3回	社会福祉の歴史(1) ・社会福祉史の意義 ・イギリスの社会福祉の史的展開	指定されたテキストならびに講義配布資料を活用し、内容や疑問点を調べておくこと。(90分)	講義を踏まえ、指定されたテキストや資料等をもとにの範囲を熟読し、内容や疑問点を調べておくこと。(90分)
担当教員			

第4回	社会福祉の歴史(2) ・アメリカの社会福祉の史的展開 ・日本の社会福祉の史的展開	指定されたテキストならびに講義配布資料を活用し、内容や疑問点を調べておくこと。(90分)	講義を踏まえ、指定されたテキストや資料等をもとにの範囲を熟読し、内容や疑問点を調べておくこと。(90分)
担当教員			
第5回	社会福祉法制と実施体制 ・社会福祉法制と行財政	指定されたテキストならびに講義配布資料を活用し、内容や疑問点を調べておくこと。(90分)	講義を踏まえ、指定されたテキストや資料等をもとにの範囲を熟読し、内容や疑問点を調べておくこと。(90分)
担当教員			
第6回	子ども家庭と社会福祉(1) ・子ども家庭・児童福祉の概念・対象 ・子ども家庭・児童福祉の施策	指定されたテキストならびに講義配布資料を活用し、内容や疑問点を調べておくこと。(90分)	講義を踏まえ、指定されたテキストや資料等をもとにの範囲を熟読し、内容や疑問点を調べておくこと。(90分)
担当教員			

第7回	子ども家庭と社会福祉(2) ・児童虐待と社会的養護 ・ひとり親家庭と母子保健 ・少子化対策・子育て支援等の施策	指定されたテキストならびに講義配布資料を活用し、内容や疑問点を調べておくこと。(90分)	講義を踏まえ、指定されたテキストや資料等をもとにの範囲を熟読し、内容や疑問点を調べておくこと。(90分)
担当教員			
第8回	障がい者(児)と社会福祉 ・障がい者(児)の概念・対象 ・障がい者(児)福祉の施策	指定されたテキストならびに講義配布資料を活用し、内容や疑問点を調べておくこと。(90分)	講義を踏まえ、指定されたテキストや資料等をもとにの範囲を熟読し、内容や疑問点を調べておくこと。(90分)
担当教員			
第9回	高齢者と社会福祉 ・高齢者の概念・対象 ・高齢者福祉の施策	指定されたテキストならびに講義配布資料を活用し、内容や疑問点を調べておくこと。(90分)	講義を踏まえ、指定されたテキストや資料等をもとにの範囲を熟読し、内容や疑問点を調べておくこと。(90分)
担当教員			

第10回	貧困と社会福祉 ・貧困問題と社会福祉 ・生活保護・生活困窮者自立支援法等の貧困に対する施策	指定されたテキストならびに講義配布資料を活用し、内容や疑問点を調べておくこと。(90分)	講義を踏まえ、指定されたテキストや資料等をもとにの範囲を熟読し、内容や疑問点を調べておくこと。(90分)
担当教員			
第11回	地域福祉の推進 ・地域福祉の現状と考え方 ・包括的相談支援体制と地域支援	指定されたテキストならびに講義配布資料を活用し、内容や疑問点を調べておくこと。(90分)	講義を踏まえ、指定されたテキストや資料等をもとにの範囲を熟読し、内容や疑問点を調べておくこと。(90分)
担当教員			
第12回	社会保障制度 ・社会保障の概念・基本的理解 ・年金保険、医療保険、雇用保険・労災等の法制度の理解	指定されたテキストならびに講義配布資料を活用し、内容や疑問点を調べておくこと。(90分)	講義を踏まえ、指定されたテキストや資料等をもとにの範囲を熟読し、内容や疑問点を調べておくこと。(90分)
担当教員			

第13回	社会福祉の担い手と専門職者 ・社会福祉専門職の概要、倫理、種類 ・専門職者間の連携	指定されたテキストならびに講義配布資料を活用し、内容や疑問点を調べておくこと。(90分)	講義を踏まえ、指定されたテキストや資料等をもとにの範囲を熟読し、内容や疑問点を調べておくこと。(90分)
担当教員			
第14回	ソーシャルワーク実践 ・ソーシャルワークの基本的な理解 ・ソーシャルワークの実践事例 ・保育ソーシャルワークの基本的理解と実践事例	指定されたテキストならびに講義配布資料を活用し、内容や疑問点を調べておくこと。(90分)	講義を踏まえ、指定されたテキストや資料等をもとにの範囲を熟読し、内容や疑問点を調べておくこと。(90分)
担当教員			
第15回	現代社会における社会福祉 ・社会福祉の動向と課題	指定されたテキストならびに講義配布資料を活用し、内容や疑問点を調べておくこと。(90分)	講義を踏まえ、指定されたテキストや資料等をもとにの範囲を熟読し、内容や疑問点を調べておくこと。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	レポート50%、リアクションペーパー20%、授業参加状況30%
その他	0	
教科書		
鈴木幸雄(編)『改訂現代の社会福祉』, 中央法規出版.		
参考文献		

特になし。

履修条件・留意事項等

- ・講義は対話型講義で進められる場合があるため、積極的な講義参加を望む。
- ・日常において社会や地域に関心をはらい、常に学究心を持ち、講義、予習・復習にのぞんでもらいたい。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		専門関連科目 まちづくり・地域政策					
科目名		景観デザイン論				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	熊野 稔						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーにおける「地域の歴史や文化、多様な資源の価値を深く理解し、新たな価値を創造することにより、持続可能な社会を実現し、次代へ発信・継承することができる(知識・技能)」、及び「幅広い視点から地域課題を発見し、課題解決に向けて主体的に行動でき、かつ、地域において協働できる人的資源の開発や組織体制の構築に貢献できる。(思考・判断・表現)」ことに特に関連の強い科目である。

授業の概要

景観、風景の意味を学習して、生活環境の向上のため、美しく良好な景観をいかに保全、デザインしていくかというこの方法論を体系的に学ぶ。景観法を習得して景観行政施策や景観デザイン論、各種都市景観、農村景観等のデザイン手法、世界・全国の景観先進事例、行政施策、景観まちづくり等を学ぶ。景観デザイン演習も授業で実施する。パワーポイントによる講義を実施して、カラー映像の先進事例等の画像を見せる。アクティブ・ラーニングを取り入れ、クイズ形式での回答やデザイン演習、ワーキングも取り入れる。また毎回の講義には、最初に講義の目的と構成、最後に纏めや重要ポイントを整理し、次回の予習ポイントを話す。

到達目標

学生が、景観工学・風景デザイン論の体系を理解し、基本的知識を習得して、レポート課題を各自の創意工夫の元に解決しまとめて提出することにより、実務に生かせることができる。

授業の方法

パワーポイントによる映像を重視した講義やアクティブラーニングを行う。講義理解と演習シートの提出、期末試験、1課題のレポート提出で成績評価する。

ICT活用

ノートパソコンの持ち込み必要。Google Form、Google Classroom等の活用含む。

実務経験のある教員の教育内容

実績あり。熊野稔は実際に景観デザインのコンサルタント経験があり、経験上の実務内容も授業に取り入れる。

課題に対するフィードバックの方法

演習シート等の返却や解説を行う

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	全体講義の説明、成績評価説明。景観、風景、デザインとは何か。(都市、農山漁村、自然景観等 映像解説)。クイズ方式での景観の解説も取り入れる。	教科書やネット環境での事前学習90分	授業の復習やレポート作成90分
担当教員	熊野 稔		
第2回	景観行政の歴史・経緯。北海道など自治体の景観条例、宮崎県沿道修景美化条例などの学習	教科書やネット環境での事前学習90分	授業の復習やレポート作成90分
担当教員	熊野 稔		
第3回	景観法の体系 基本用語 景観計画の構成と内容を学ぶ。北海道内の自治体景観計画事例なども学ぶ。	教科書やネット環境での事前学習90分	授業の復習やレポート作成90分
担当教員	熊野 稔		

第4回	地方自治体の景観計画、協定、計画の調査と手法、マネジメントの手法と体系	教科書やネット環境での事前学習90分	授業の復習やレポート作成90分
担当教員	熊野 稔		
第5回	都市景観 農山漁村景観 自然景観保全のデザインコード・ガイドライン体系	教科書やネット環境での事前学習90分	授業の復習やレポート作成90分
担当教員	熊野 稔		
第6回	道路・街路景観、街路樹、ストリートファニチャー等のデザイン	教科書やネット環境での事前学習90分	授業の復習やレポート作成90分
担当教員	熊野 稔		

第7回	河川景観、水辺景観、港湾景観等の景観ガイドライン	教科書やネット環境での事前学習90分	授業の復習やレポート作成90分
担当教員	熊野 稔		
第8回	公園緑地、ポケットパーク、緑の基本計画等の緑と花の景観ガイドライン	教科書やネット環境での事前学習90分	授業の復習やレポート作成90分
担当教員	熊野 稔		
第9回	都市の色彩と照明計画、夜間景観の計画と演出	教科書やネット環境での事前学習90分	授業の復習やレポート作成90分
担当教員	熊野 稔		

第10回	建築の景観ガイドラインと街並み景観のガイドライン・景観マネジメント	教科書やネット環境での事前学習90分	授業の復習やレポート作成90分
担当教員	熊野 稔		
第11回	歴史的町並み保全、重要伝統的建造物群保存地区、歴史まちづくり法、他。	教科書やネット環境での事前学習90分	授業の復習やレポート作成90分
担当教員	熊野 稔		
第12回	文化財保護法と重要文化的景観。北海道の事例。日南市等自治体の事例・計画と景観マネジメント。	教科書やネット環境での事前学習90分	授業の復習やレポート作成90分
担当教員	熊野 稔		

第13回	農山漁村地域の景観計画と景観保全マネジメント、景観保全支援	教科書やネット環境での事前学習90分	授業の復習やレポート作成90分
担当教員	熊野 稔		
第14回	景観計画・マネジメントの課題と今後の方向性 ポケットパークなど基本的パース作成演習、景観のリデザインとリデザイン演習。	教科書やネット環境での事前学習90分	授業の復習やレポート作成90分
担当教員	熊野 稔		
第15回	授業全体のまとめ及び確認試験実施。レポート提出。レポートは生成AIの活用も含む。	期末試験対策及びレポート作成(270分以上)	授業の復習90分
担当教員	熊野 稔		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業の参加態度・レポート提出5割。確認テストの実施5割(授業の範囲全体(景観まちづくりの基本、専門用語、景観法の理解、ポケットパークの作成など)
その他	0	
教科書		
都市景観の景観デザイン(森北出版)石井一郎 他		
参考文献		

景観とデザイン(オーム社)

履修条件・留意事項等

できるだけ授業を欠席しないこと。遅刻厳禁。教科書をそろえること。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		専門関連科目 まちづくり・地域政策					
科目名		統計と社会調査法				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	小田 史郎						

授業の位置づけ

健康栄養学科のディプロマ・ポリシー「地域社会の生活習慣病予防・健康増進、および臨床の場において必要とされる高度な専門知識を体系的に身につけている(知識・技能)」、「科学的根拠に基づいて、人を対象とした適切な栄養指導・教育を行うために必要な知識・技術を身につけている(知識・技能)」、および「特定給食施設において適切なマネジメントを行い、特定多数人に継続して適切に栄養管理された食事を提供するための知識・技術を身につけている(知識・技能)」、地域未来学科のディプロマ・ポリシー「幅広い視点から地域課題を発見し、課題解決に向けて主体的に行動でき、かつ、地域において協働できる人的資源の開発や組織体制の構築に貢献できる(思考・判断・表現)」と関係がある科目である。また「統計の基礎」の応用科目に位置づけられる。

授業の概要

統計に関する基礎知識の上に立って、自らの課題解決のための調査実施の原理と方法を理解し、疫学的調査の基本技術を身につける。特に社会集団を観察するとはどのようなことなのか、母集団や標本の設定、質問票の作成や集計、統計処理など、社会調査全般について実践的に学ぶ。

到達目標

- ①学生が、社会調査法の理論に基づいた方法で、調査計画を立てることができるようになる。
 ②学生が、社会調査法の理論に基づいた方法で、質問紙を作成することができるようになる。
 ③学生が、社会調査法の理論に基づいた方法で、データを分析し、まとめることができるようになる。

授業の方法

パワーポイント、配付印刷物を活用しながら、講義とグループ学習の形式で進める(全15回)。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

毎回の小レポートに対しては、内容に関する質問に回答します。
 最終レポートについては第15回の講義時に講評します。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	ガイダンスにおいて講義の流れや評価の方法について確認する。また社会調査とは何か、社会調査の目的やその分類について学ぶ。	シラバスを読み、社会調査の定義について調べておく(30分)	自分が調査したいテーマについて関連する資料を探しておく(150分)。
担当教員			
第2回	社会調査の流れについて、フローチャートに基づいて学ぶ。全体像をつかんだ後、最初に行うべき基礎資料の収集法について学び、グループ学習にて論文検索を実施する。	社会調査の流れについて示した文献を探し、読んでおく(60分)。	講義で習った方法を用いて、調査テーマに関連する文献検索と収集を行う(120分)。
担当教員			
第3回	文献の読み方について学ぶ。調査テーマに関連する学術論文を題材に、どこまで明らかにされており、何が課題として残っているか、またどのような方法が用いられているかを読み解く方法について学ぶ。	収集した文献を読み、必要な部分をまとめておく(90分)。	講義で習ったことを参考に、収集した論文で明らかにされていること、課題として残されていることをまとめる(90分)。
担当教員			

第4回	考察やまとめを意識した学術論文の収集方法、整理方法について学ぶ。調査テーマに関する論文だけでなく、関係性を説明できる学術論文の集め方について学ぶ。さらに社会調査における倫理的な配慮についても学ぶ。	収集した文献を読み、研究背景として使える部分をまとめておく(90分)。	先行研究を参考に、研究背景と研究目的をレポートにまとめる(90分)。
担当教員			
第5回	調査バイアスや交絡因子について学ぶ。バイアスが入ったデータは精度が低くなることを理解し、調査の精度を高めるためにこれらをできるだけ少なくするための方法を学ぶ。	調査時に起きるバイアスや交絡の考え方について事前に調べておく(30分)。	講義で習った内容を参考に、調査質問紙の構成について整理する。また文献検討により、「方法」の部分に記載する事項について調べる(150分)。
担当教員			
第6回	妥当性と信頼性について学び、調査質問紙を作成する際にどのような点に注意するかについて学ぶ。また報告書の「方法」の部分の記載方法について学ぶ。またこれまでに習った知識をもとに、質問紙の設問に関するグループ学習を行う。	調査における妥当性や信頼性について事前に調べておく(30分)。	講義で習った内容を参考に、調査質問紙の構成や内容について精査する。また講義で習った記載方法に基づいて、自分の調査の「方法」の部分を文章化する(150分)。
担当教員			

第7回	質問の文章化、選択肢の作り方のルール、質問紙のレイアウトについても学ぶ。また習った知識をもとに、設問文と選択肢を作成するグループ学習を行う。	調査質問紙作成のルールについて事前に調べておく(30分)。	講義で習った内容を参考に、調査内容を具体的に文章化する。また選択肢も作成する(150分)。
担当教員			
第8回	アンケート実施後のデータの編集方法、パソコンへの入力方法、集計方法について学ぶ。	「統計の基礎」で習ったデータの集計方法について復習する(30分)。	講義内容をもとに、自分の調査結果を入力するデータベースを作成する(150分)。
担当教員			
第9回	データの種類に合わせた統計解析の方法について学ぶ。分割表の検定について学ぶ。	「統計の基礎」で習ったデータの検定方法について復習する(60分)。	調査質問紙を精査する。また自分のデータをどのように解析するかについてのレポート作成を開始する(120分)。
担当教員			

第10回	データの種類の合わせた統計解析の方法について学ぶ。 差の検定について学ぶ。	「統計の基礎」で習ったデータの 検定方法について復習する(60 分)。	架空のデータを入れて集計・解 析する。その結果に基づき、調 査質問紙の修正する(120分)。
担当教員			
第11回	データの種類の合わせた統計解析の方法について学ぶ。 相関係数の検定について学ぶ。	「統計の基礎」で習ったデータの 検定方法について復習する(60 分)。	調査質問紙、自分のデータをど のように解析するかについての レポートを作成する(120分)。
担当教員			
第12回	データの種類の合わせた統計解析の方法について学ぶ。 重複測定一分散分析法について学ぶ。さらに母集団と標 本について理解し、母集団から標本を抽出する無作為抽 出法について学ぶ。	全数調査と標本調査について 調べておく(30分)。	講義の内容を復習するとともに、 レポートを作成する(150分)。
担当教員			

第13回	標本誤差の考え方と社会調査で必要とされる標本数の求め方について学ぶ。	標本誤差や必要なサンプル数について事前に調べておく(30分)。	講義の内容を復習するとともに、レポートを完成させる(150分)。
担当教員			
第14回	有効回収率とこれを高める必要性について学ぶ。さらに有効回収率を高める工夫について学ぶ。最終レポートの提出を行う。	有効回収率に関して事前に調べておく。また最終レポートを完成し、提出できるように印刷しておく(120分)。	講義の内容をまとめる(60分)。
担当教員			
第15回	最終レポートへの講評により学びを深める。研究デザインとエビデンスレベルについて学び、症例対照研究、コホート研究、ランダム化比較試験の特徴について理解する。	症例対照研究、コホート研究、ランダム化比較試験について事前に調べておく(30分)。	第15回の講義内容をまとめるとともに、講義全体で習ったことを整理する(150分)。
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	毎回の小レポート、あるいは課題(50点)、研究背景、研究目的、質問紙、解析計画に関するレポート(50点)の総合点で評価する。
その他	0	なし
教科書		
なし		
参考文献		

「統計の基礎」で使用した「4stepエクセル統計」をデータ解析の説明時に用います。
第8-12回の授業時にあるとより理解が深まります。

履修条件・留意事項等

この講義は、「統計の基礎」の応用科目に位置づけられる。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		専門関連科目 実務実践					
科目名		アントレプレナーシップ概論				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	玉井 健一						

授業の位置づけ

ディプロマポリシーの「地域の歴史や文化、多様な資源の価値を深く理解し、新たな価値を創造することにより、持続可能な社会を実現し、次代へ発信・継承することができる(知識・技能)」、また「幅広い視点から地域課題を発見し、課題解決に向けて主体的に行動でき、かつ、地域において協働できる人的資源の開発や組織体制の構築に貢献できる(思考、判断、表現)」にあてはまる。

授業の概要

アントレプレナーシップ概念は、新しい企業の設立にとどまらず、新事業開発、新製品やサービスの開発、新しいマーケットの開発等、イノベーションの担い手である企業の意識や行動を捉える概念である。本科目では、アントレプレナーが演じるイノベーションの仕組みを理解することに焦点をおいている。講義ではまず、企業活動を支える経営戦略や組織構造等組織の仕組みを理解する。その上でアントレプレナーシップに関わるイノベーションのタイプ、イノベーションプロセス、イノベーションと外部環境、製品・サービス開発と組織についての理論を企業の事例分析を通じて理解していく。

到達目標

1. 経営戦略の基本概念や分析フレームを理解し、企業の経営戦略を分析することができること。
2. イノベーションのプロセスやタイプ、およびイノベーションを促進する戦略要因や組織要因を理解し、それらを分析する能力を確保すること

授業の方法

アントレプレナーシップに関わる理論や概念の講義を行うとともに、講義中に小テスト、ディスカッション、ケーススタディを行う。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

なし

課題に対するフィードバックの方法

講義中に小テスト、レポートなどの解答についてフィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	イノベーションと社会 イノベーションは経済発展の原動力といわれているが、近年は社会的な価値創造にも寄与することが必要である。我々の住む社会を構成する公共システム、経済システム、サードセクターといった構造について講義し、イノベーションを起こすためには何が必要かを議論していく。	90分	90分
担当教員			
第2回	組織とは何か 今日のアントレプレナーシップおよびイノベーションは、個人というよりも組織を通じて行われる。ここでは、イノベーションの議論に先立ち組織とは何か、またどのようなマネジメントによって支えられているかを理解していく。	90分	90分
担当教員			
第3回	事業戦略と競争優位1 イノベーションは創造や変革に関わるが、企業にとってはイノベーションを競争力のある戦略に反映させる必要がある。ここでは、事業戦略の観点から競争力の実体とそれを可能にする事業戦略(差別化、コストリーダーシップ、集中)について講義し、具体的な企業がどのような戦略を通じて競争力を確保しているかを議論していく。	90分	90分
担当教員			

第4回	事業戦略と競争優位2 イノベーションは創造や変革に関わるが、企業にとってはイノベーションを競争力のある戦略に反映させる必要がある。ここでは、事業戦略の観点から競争力の実体とそれを可能にする事業戦略(差別化、コストリーダーシップ、集中)について講義し、具体的な企業がどのような戦略を通じて競争力を確保しているかを議論していく。	90分	90分
担当教員			
第5回	事業環境の構造分析1 企業がイノベーションを通じて競争力を確保するためには、事業環境に適応する必要がある。環境適応に必要な一般環境の分析ツールと業界を分析する5フォース分析のツールについて講義し、環境分析の方法を学ぶ。	90分	90分
担当教員			
第6回	事業環境の構造分析2 企業がイノベーションを通じて競争力を確保するためには、事業環境に適応する必要がある。環境適応に必要な一般環境の分析ツールと業界を分析する5フォース分析のツールについて講義し、環境分析の方法を学ぶ。	90分	90分
担当教員			

第7回	価値創造のための活動と経営資源1 イノベーションの結果として具体化される事業戦略は、様々な活動を統合・調整することで市場に価値ある製品・サービスを提供することができる。ここでは、価値を生み出す活動であるバリューチェーンおよびバリューチェーンを支える経営資源について議論する。	90分	90分
担当教員			
第8回	価値創造のための活動と経営資源2 イノベーションの結果として具体化される事業戦略は、様々な活動を統合・調整することで市場に価値ある製品・サービスを提供することができる。ここでは、価値を生み出す活動であるバリューチェーンおよびバリューチェーンを支える経営資源について議論する。	90分	90分
担当教員			
第9回	イノベーションの基本理論1 イノベーションにはいくつかのタイプがある。このようなイノベーションを理解するための基本概念と分析ツールについて講義していく。	90分	90分
担当教員			

第10回	イノベーションの基本理論2 イノベーションにはいくつかのタイプがある。このようなイノベーションを理解するための基本概念と分析ツールについて講義していく	90分	90分
担当教員			
第11回	イノベーション・ライフサイクル 製品にライフサイクルがあるようにイノベーションにもライフサイクルがある。ライフサイクルの3段階を検討し、ライフサイクルの進展とともに、業界の環境がどのように変化するかを議論していく	90分	90分
担当教員			
第12回	製品開発と組織の管理 イノベーションの一つである製品開発の成功は、組織構造や管理システム、人材によって変わってくる。イノベーションを促進したり、阻害する組織要因は何かについて講義していく。	90分	90分
担当教員			

第13回	製品開発と組織の管理 イノベーションの一つである製品開発の成功は、組織構造や管理システム、人材によって変わってくる。イノベーションを促進したり、阻害する組織要因は何かについて講義していく。	90分	90分
担当教員			
第14回	イノベーションにおける競争と協調1 企業のイノベーションは、企業内部の経営資源だけでなく外部の技術や資源を活用することで達成されているが、そのためには外部の企業や個人との協調のネットワークを構築する必要がある。このような協調関係を価値相関図の分析枠組みを使って分析し、企業間関係を通じたイノベーションを理解していく。	90分	90分
担当教員			
第15回	イノベーションにおける競争と協調2 企業のイノベーションは、企業内部の経営資源だけでなく外部の技術や資源を活用することで達成されているが、そのためには外部の企業や個人との協調のネットワークを構築する必要がある。このような協調関係を価値相関図の分析枠組みを使って分析し、企業間関係を通じたイノベーションを理解していく。	90分	90分
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	参加度(20%)、小テスト(50%)、レポート(30%)
その他	0	
教科書		
特に指定しない		
参考文献		

延岡健太郎(2006)、『MO技術経営』、日本経済新聞出版社。
 浅羽 茂，牛島 辰男(2010)、『経営戦略をつかむ』、有斐閣。
 一橋大学イノベーション研究センター編(2017)『イノベーションマネジメント入門』、日本経済新聞出版社。

履修条件・留意事項等

特になし

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		専門関連科目 実務実践					
科目名		公務員講座Ⅰ				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	高橋 保夫						

授業の位置づけ

この科目は、ディプロマ・ポリシーより、公務員を目指す学生への対策講座である。集中講義形式であるので、自然・社会・人文科学を広く網羅的に勉強する強い意志を有する学生の履修を希望する。世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけるための科目である。

授業の概要

この授業は、主に国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用試験に合格することを目指した公務員試験対策のための授業で、「公務員講座Ⅱ」と連動する。公務員試験に合格するためには、幅広い一般常識と高度な専門知識が求められ、相当の学習時間が要求される。授業は講義形式で公務員試験の出題範囲を網羅すべくポイントを解説していくので、受講者は予習復習はいうまでもなく、すべての課題に深く取り組んでいくこと。数回行う確認テスト以外にも自己研鑽していくことを求める。

到達目標

大学卒業レベルの公務員採用試験に合格することができる学力の修得を目標とする。
公務員をいう仕事に対する理解が深まり、公務員を志す理由が明確になり、合格するにはどのような努力が必要なのか明確になる。

授業の方法

配布教材と配布印刷物を用いて講義形式ですすめる。春季期間における集中講義であるので履修登録の際に注意すること。事前ガイダンスを実施するので必ず参加すること。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして理解度を確認するための質問と解説を適宜実施する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	判断推理(1) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「判断推理」分野を対象とする。	公僕たる公務員を目指すにあたって、その気概と初志を明らかにしておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集をつかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第2回	判断推理(2) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「判断推理」分野を対象とする。	講義で学習する領域について予め問題集を使い、どこが最もわからない領域かを明らかにしておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集をつかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第3回	判断推理(3) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「判断推理」分野を対象とする。	講義で学習する領域について予め問題集を使い、どこが最もわからない領域かを明らかにしておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集をつかって復習しておくこと(90分)
担当教員			

第4回	判断推理(4) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「判断推理」分野を対象とする。	講義で学習する領域について 予め問題集を使い、どこが最も わからない領域かを明らかにし ておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集を つかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第5回	日本史(1) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「日本史」分野を対象とする。	講義で学習する領域について 予め問題集を使い、どこが最も わからない領域かを明らかにし ておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集を つかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第6回	日本史(2) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「日本史」分野を対象とする。	講義で学習する領域について 予め問題集を使い、どこが最も わからない領域かを明らかにし ておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集を つかって復習しておくこと(90分)
担当教員			

第7回	図形(1) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「図形」分野を対象とする	講義で学習する領域について 予め問題集を使い、どこが最も わからない領域かを明らかにし ておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集を つかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第8回	図形(2) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「図形」分野を対象とする。	講義で学習する領域について 予め問題集を使い、どこが最も わからない領域かを明らかにし ておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集を つかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第9回	図形(3) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「図形」分野を対象とする。	講義で学習する領域について 予め問題集を使い、どこが最も わからない領域かを明らかにし ておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集を つかって復習しておくこと(90分)
担当教員			

第10回	図形(4) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「図形」分野を対象とする。	講義で学習する領域について 予め問題集を使い、どこが最も わからない領域かを明らかにし ておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集を つかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第11回	世界史(1) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「世界史」分野を対象とする。	講義で学習する領域について 予め問題集を使い、どこが最も わからない領域かを明らかにし ておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集を つかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第12回	世界史(2) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「世界史」分野を対象とする。	講義で学習する領域について 予め問題集を使い、どこが最も わからない領域かを明らかにし ておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集を つかって復習しておくこと(90分)
担当教員			

第13回	数的推理(1) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「数的推理」分野を対象とする。	講義で学習する領域について 予め問題集を使い、どこが最も わからない領域かを明らかにし ておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集を つかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第14回	数的推理(2) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「数的推理」分野を対象とする。	講義で学習する領域について 予め問題集を使い、どこが最も わからない領域かを明らかにし ておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集を つかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第15回	数的推理(3) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「数的推理」分野を対象とする。	講義で学習する領域について 予め問題集を使い、どこが最も わからない領域かを明らかにし ておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集を つかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業への参加姿勢／意欲を総合的に評価する 課題レポート(チャレンジテスト)等
その他	0	
教科書		
資格の大原 公務員講座テキストを使用する。		
参考文献		

講座中に適宜指示する。

履修条件・留意事項等

留意事項等

全ての回の講義への積極的参加を必須とする。集中講義方式で履修するので、開講時期・場所等について学科掲示板での告知に注意を払い、初回ガイダンスには必ず出席すること。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		専門関連科目 実務実践					
科目名		公務員講座Ⅱ				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	高橋 保夫						

授業の位置づけ

この科目は、ディプロマ・ポリシーより、公務員を目指す学生への対策講座である。集中講義形式であるので、自然・社会・人文科学を広く網羅的に勉強する強い意志を有する学生の履修を希望する。「公務員受験講座Ⅰ」の履修学生が対象である。世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけるための科目である。

授業の概要

この授業は、主に国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用試験に合格することを目指した公務員試験対策のための授業で、「公務員講座Ⅱ」と連動する。公務員試験に合格するためには、幅広い一般常識と高度な専門知識が求められ、相当の学習時間が要求される。授業は講義形式で公務員試験の出題範囲を網羅すべくポイントを解説していくので、受講者は予習復習はいうまでもなく、すべての課題に深く取り組んでいくこと。数回行う確認テスト以外にも自己研鑽していくことを求める。

到達目標

大学卒業レベルの公務員採用試験に合格することができる学力の修得を目標とする。
公務員をいう仕事に対する理解が深まり、公務員を志す理由が明確になり、合格するにはどのような努力が必要なのか明確になる。

授業の方法

配布教材と配布印刷物を用いて講義形式ですすめる。春季期間における集中講義であるので履修登録の際に注意すること。事前ガイダンスを実施するので必ず参加すること

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして理解度を確認するための質問と解説を適宜実施する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	地理(1) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「地理」分野を対象とする。	公僕たる公務員を目指すにあたって、その気概と初志を明らかにしておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集をつかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第2回	地理(2) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「地理」分野を対象とする。	講義で学習する領域について予め問題集を使い、どこが最もわからない領域かを明らかにしておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集をつかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第3回	数的推理(1) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「数的推理」分野を対象とする。	講義で学習する領域について予め問題集を使い、どこが最もわからない領域かを明らかにしておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集をつかって復習しておくこと(90分)
担当教員			

第4回	数的推理(2) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「数的推理」分野を対象とする。	講義で学習する領域について 予め問題集を使い、どこが最も わからない領域かを明らかにし ておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集を つかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第5回	数的推理(3) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「数的推理」分野を対象とする。	講義で学習する領域について 予め問題集を使い、どこが最も わからない領域かを明らかにし ておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集を つかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第6回	数的推理(4) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「数的推理」分野を対象とする。	講義で学習する領域について 予め問題集を使い、どこが最も わからない領域かを明らかにし ておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集を つかって復習しておくこと(90分)
担当教員			

第7回	政治経済(1) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「政治経済」分野を対象とする。	講義で学習する領域について 予め問題集を使い、どこが最も わからない領域かを明らかにし ておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集を つかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第8回	政治経済(2) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「政治経済」分野を対象とする。	講義で学習する領域について 予め問題集を使い、どこが最も わからない領域かを明らかにし ておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集を つかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第9回	政治経済(3) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「政治経済」分野を対象とする。	講義で学習する領域について 予め問題集を使い、どこが最も わからない領域かを明らかにし ておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集を つかって復習しておくこと(90分)
担当教員			

第10回	政治経済(4) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「政治経済」分野を対象とする。	講義で学習する領域について 予め問題集を使い、どこが最も わからない領域かを明らかにし ておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集を つかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第11回	政治経済(5) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「政治経済」分野を対象とする。	講義で学習する領域について 予め問題集を使い、どこが最も わからない領域かを明らかにし ておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集を つかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第12回	政治経済(6) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「政治経済」分野を対象とする。	講義で学習する領域について 予め問題集を使い、どこが最も わからない領域かを明らかにし ておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集を つかって復習しておくこと(90分)
担当教員			

第13回	時事(1) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「時事」分野を対象とする。	講義で学習する領域について 予め問題集を使い、どこが最も わからない領域かを明らかにし ておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集を つかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第14回	時事(2) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「時事」分野を対象とする。	講義で学習する領域について 予め問題集を使い、どこが最も わからない領域かを明らかにし ておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集を つかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第15回	チャレンジテスト いままで受講してきた内容を理解できているかどうかの確認を公務員模擬試験によって行う。	講義で学習する領域について 予め問題集を使い、どこが最も わからない領域かを明らかにし ておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集を つかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	60	授業への参加姿勢／意欲を総合的に評価する
その他	40	課題レポート(チャレンジテスト)等
教科書		
資格の大原 公務員講座テキストを使用する。		
参考文献		

講座中に適宜指示する。

履修条件・留意事項等

全ての回の講義への積極的参加を必須とする。集中講義方式で履修するので、開講時期・場所等について学科掲示板での告知に注意を払い、初回ガイダンスには必ず出席すること。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		専門関連科目 実務実践					
科目名		日本語ビジネスライティング				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	佐々木 雅哉						

授業の位置づけ

ディプロマポリシーの、「学術目的の言語使用に主眼をおいた英語及び日本語の高度な運用能力を身につけている【知識・技能】」と関連があり、ビジネスシーンに羽ばたく上での文章作成能力を習得する科目である。
「地域社会の中核的コーディネーターとして、多様な主体とのつながりを生み出し、包摂的で持続可能な地域コミュニティを他者と共創できる。【知識・技能】」ことと関係する科目である。

授業の概要

本科目は、日本語でビジネスをする上で欠かせない文書作成の基本を学ぶ。電子媒体が主流の今日であっても、仕事でやりとりする文書には一定の様式とマナーがある。情報技術の進展とともに、ビジネス文書の書き方は少しずつ簡略化され、言葉遣いも変化してきているとはいえ、相手に失礼な表現や言い回し、敬語の誤った使い方では、仕事への信頼を失うことがある。そこで、ここでは、敬語について理論的に学ぶとともに、日常業務における依頼・謝罪・お礼・断り・問い合わせ等の社外文書と、要請や報告、連絡等仕事をスムーズにするための社内文書の基本的な書き方を身に付けていく。

到達目標

・社会に存在する様々なビジネスライティングについて理解できるようになる。 ・各講義の目標とするライティング技術を習得し、実際的な文書作成ができるようになる。 ・文の正誤・適否・美醜等が区別でき、適切な言葉選びが出来るようになる。

授業の方法

1.講義形式で、作成する文章の形式を中心に説明を行う。 2.説明に基づいて実際に各自で文章作成・添削・相互評価を行う。 3.完成させた文章は毎時間提出して担当教員の指導を受け、指定されたものを締め切りまでに提出する。

ICT活用

・必要に応じて遠隔授業システム等を用いた授業を実施し、ICT技術の修得を促す。

実務経験のある教員の教育内容

・公立小学校の担任としての国語教育、また校長としての学校経営や対外的な渉外の知識と経験を有する。これを生かし、実践的な指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

・作成した課題は原則マンツーマンのセッションを経て添削し受理する。 ・作成した課題の相互評価・自己評価結果のシェアリングによって、成果と課題を可視化する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	【ビジネス文書とは】 個人的な文書、社用文書、公用文書など、文書の種類について、その内容や性格を学ぶ。 【就職課と連絡が取れるようになろう】 就職課へのメールアドレス(携帯電話)登録を通して依頼文のメールを学ぶ。	テキストの事前通読(90分)	講義の振り返りと課題提出(90分)
担当教員	佐々木 雅哉		
第2回	社会人の先輩に聞いてみよう。 大学内外の社会人に、職場や業界などの状況を聞き取り、「働くこと」のイメージを学ぶ。 事前の依頼状、事後の礼状など、手紙やメールにおける正しい言葉遣いを学ぶ。	テキストの事前通読(90分)	講義の振り返りと課題提出(90分)
担当教員			
第3回	【ビジネス文書の作成1】テキストp10-41 ・取引に関わる文書について、その種類や形式、構成について学ぶ。 ・文書作成演習	テキストの事前通読(90分)	講義の振り返りと課題提出(90分)
担当教員			

第4回	【ビジネス文書の作成2】 テキストp42-61 ・社内に関わる文書について、その種類や形式、構成について学ぶ。 ・文書作成演習	テキストの事前通読(90分)	講義の振り返りと課題提出(90分)
担当教員			
第5回	【ビジネス文書の作成3】 テキストp62-93 ・社交文書や電子的な文書について、その種類や形式、構成について学ぶ。 ・文書作成演習	テキストの事前通読(90分)	講義の振り返りと課題提出(90分)
担当教員			
第6回	【文書の受発信業務1】 テキストp94-108 ・受発信に際する取り扱い方、郵便の知識などについて学ぶ。	テキストの事前通読(90分)	講義の振り返りと課題提出(90分)
担当教員			

第7回	【管理職に聞く】 採用側、会社はどんな人材を期待しているのか。 説明会申込から始まる一連の流れの中で必要とされる文書の作成を体験し、その体裁を学ぶ。	テキストの事前通読(90分)	講義の振り返りと課題提出(90分)
担当教員			
第8回	【文書管理の基本】テキストp109-115 ・ファイリングの知識、効果、効率的な用具等について学ぶ。 ・演習	テキストの事前通読(90分)	講義の振り返りと課題提出(90分)
担当教員			
第9回	【就職関連文書1】テキストp122-126 ・履歴書を書いてみよう。 ・就職における文書の役割を学ぶ。	テキストの事前通読(90分)	講義の振り返りと課題提出(90分)
担当教員			

第10回	【就職関連文書2】 テキストp127-132 ・エントリーシートや送付状を書いてみよう。 ・就職活動の過程で必要な文書を学ぶ。	テキストの事前通読(90分)	講義の振り返りと課題提出(90分)
担当教員			
第11回	【就職に必要な文章読解と表記1】 ・基本的な文章読解法を学ぶ。 ・簡潔な表記を学ぶ。	テキストの事前通読(90分)	講義の振り返りと課題提出(90分)
担当教員			
第12回	【就職に必要な文章読解と表記2】 ・難易度が高い文章読解法を学ぶ。 ・複雑な表記について学ぶ。	テキストの事前通読(90分)	講義の振り返りと課題提出(90分)
担当教員			

第13回	【手書き文字を美しく1】 ・自分の手書き文字を客観的にみつめる。 ・美しさとは	テキストの事前通読(90分)	講義の振り返りと課題提出(90分)
担当教員			
第14回	【手書き文字を美しく2】 ・美しさと丁寧さ ・「美文字」に見せるコツ	テキストの事前通読(90分)	講義の振り返りと課題提出(90分)
担当教員			
第15回	まとめ 作成課題の最終チェックとまとめ問題への取り組みを行い 自己評価することを学ぶ。	テキストの事前通読(90分)	全課題の提出(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	行わない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題の提出:70%(70点) 出席率、参加態度30%(30点)
その他	0	
教科書		
ビジネス文書ーオフィスワーカーの実務ー(横山秀世 編著／建帛社)		
参考文献		

必要に応じて提示する。

履修条件・留意事項等

「自分の書いた文章に責任を持つ」ことを目的とする。
外部講師の都合等により、授業の順番が変わることがある。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		演習科目 地域未来基礎					
科目名		地域を知る(地域未来創造入門)(熊野 稔)				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	熊野 稔						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーにおける「地域社会における教育の役割を理解し、教育学に関する専門的知識・技能を身につけ、生涯にわたり学び続ける素養を有した人材を養成する。(知識・技能)」及び「幅広い視点から地域課題を発見し、課題解決に向けて主体的に行動でき、かつ、地域において協働できる人的資源の開発や組織体制の構築に貢献できる。(思考・判断・表現)」ことと特に関係がある科目である。さらに、初年次教育の一環として、これから専門領域を学習するに当たっての心構えを養うための科目である。

授業の概要

本科目では、恵庭市等の身近な地域に実際に触れ、地域主体(ステークホルダー)による講話や体験談、意見交換等、見る・聞くといった行為を通して、地域そのものへの理解を深める。地域を知ることを手がかりに、地域資源や地域課題とは何であるかについて気づき、地域の未来を創造していく力を養うことを目的とする。

到達目標

① 本学が本拠とする地域(恵庭市)が持つ固有の地域資源や価値、ならびに地域が抱える課題等について幅広く知り、現状を把握することができる。

② 持続可能な地域社会の形成や発展に向けて必要となるアプローチについて、まちづくり、地域創生学の観点から見つめ、地域社会を支えるステークホルダーとの関係の構築や協働の重要性について、自らの言葉で論じたり、述べることができる。

授業の方法

パワーポイント資料、印刷物、動画資料などを用い、各回の地域にかかわるテーマについて事前学習を講義形式で行う。その後、テーマに関連する施設等へのフィールドワークを行う。まとめでは受講生がプレゼンテーションを行う。

ICT活用

Google classroom、Google formを用いた双方向授業を行う。意見や感想の共有、議論に活用する。

実務経験のある教員の教育内容

地域都市計画等の調査計画等の実務を通して培ったノウハウを生かし、フィールド調査の手法や課題解決の方向性などの基礎を学ぶ

課題に対するフィードバックの方法

Google classroom、Google formを活用してフィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 本科目の概要(授業の進め方、目指す到達点、内容、日程等)について)理解を深めると共に、本科目で学びの対象とする「地域(フィールド)」や「地域資源」の定義について協議し、情報を共有する。	シラバスをよく読んで授業に臨む。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておく。(25分)
担当教員	熊野 稔		
第2回	フィールドワークの意義 恵庭市等、大学周辺の「地域資源」を探り、それらの有する価値やフィールドワークにおける着眼点、留意事項についての理解を深める。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておく。(25分)
担当教員	熊野 稔		
第3回	地域資源やその価値を理解すると共に関連する課題を把握する。～道の駅・郷土資料館、図書館などの公共施設に関連する事前学習	事前の指示による情報の収集や課題を行う。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(25分)
担当教員	熊野 稔		

第4回	地域資源やその価値を理解すると共に関連する課題を把握する。～道の駅等・郷土資料館、図書館などの公共施設に関連するフィールドワーク	事前の指示による情報の収集や課題を行う。(20分)	メモや写真画像等によって、フィールドワークの概要や気づきを整理し纏める。(60分)
担当教員	熊野 稔		
第5回	地域資源やその価値を理解すると共に関連する課題を把握する。～地域産業・施設に関連する事前学習	事前の指示による情報の収集や課題を行う。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(25分)
担当教員	熊野 稔		
第6回	地域資源やその価値を理解すると共に関連する課題を把握する。～地域産業・施設に関連するフィールドワーク	事前の指示による情報の収集や課題を行う。(20分)	メモや画像等によって、フィールドワークの概要や気づきを整理する。(25分) 配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(25分)
担当教員	熊野 稔		

第7回	地域資源やその価値を理解すると共に関連する課題を把握する。～地域振興・施設に関連する事前学習	事前の指示による情報の収集や課題を行う。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(25分)
担当教員	熊野 稔		
第8回	地域資源やその価値を理解すると共に関連する課題を把握する。～地域振興・施設に関連するフィールドワーク	事前の指示による情報の収集や課題を行う。(20分)	メモや画像等によって、フィールドワークの概要や気づきを整理する。(25分)
担当教員	熊野 稔		
第9回	地域資源やその価値を理解すると共に関連する課題を把握する。～社会教育施設に関連する事前学習	事前の指示による情報の収集や課題を行う。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(25分)
担当教員	熊野 稔		

第10回	地域資源やその価値を理解すると共に関連する課題を把握する。～社会教育施設に関連するフィールドワーク	事前の指示による情報の収集や課題を行う。(20分)	メモや画像等によって、フィールドワークの概要や気づきを整理する。(25分)
担当教員	熊野 稔		
第11回	地域資源やその価値を理解すると共に関連する課題を把握する。～子育て支援・施設に関連する事前学習	事前の指示による情報の収集や課題を行う。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(25分)
担当教員	熊野 稔		
第12回	地域資源やその価値を理解すると共に関連する課題を把握する。～子育て支援・施設に関連するフィールドワーク	事前の指示による情報の収集や課題を行う。(20分)	メモや画像等によって、フィールドワークの概要や気づきを整理する。(25分)
担当教員	熊野 稔		

第13回	地域資源やその価値を理解すると共に関連する課題を把握する。～郊外部、自然環境・施設に関連する事前学習	事前の指示による情報の収集や課題を行う。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(25分)
担当教員	熊野 稔		
第14回	地域資源やその価値を理解すると共に関連する課題を把握する。～郊外部、自然環境・施設に関連するフィールドワーク	事前の指示による情報の収集や課題を行う。(20分)	メモや画像等によって、フィールドワークの概要や気づきを整理する。(25分)
担当教員	熊野 稔		
第15回	ふりかえりとまとめ フィールドワークの中から、一つの事例を取り上げ、地域創生の観点からの地域づくりについて自分の考えを述べ、発表する。レポート提出	これまでの講義資料やノート、フィールドワークのふりかえりを読み直し、授業に臨む。レポート作業 (60分)	フィールドワークを通しての学びや気づきを整理し、後期のゼミ活動に対する課題意識を整理する。(25分)
担当教員	熊野 稔		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	①フィールドワークごとのふりかえり 50% ②個人課題 レポート40% ③授業への参加度・出席態度 10%
その他	0	
教科書		
無し		
参考文献		

授業内で適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

学外者等との協力の下、フィールドワークを展開する科目の性質上、日程・時間及び会場等の調整を行う場合があり、その場合は事前に知らせる。

備考欄

1年後期の必修科目「地域未来創造基礎(Adventure)」に連繋する科目である点から、原則、割り当てられた担当教員については後期の「地域未来創造基礎(Adventure)」についても変更しないものとする。

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		演習科目 地域未来基礎					
科目名		地域を知る(地域未来創造入門)(木村 俊昭)				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	木村 俊昭						
授業の位置づけ							
初年次教育科目として位置付け、地域未来学科で学ぶ入門編として専門的な基礎知識について理解させること、また、ディプロマ・ポリシーにおける「地域の歴史や文化、多様な資源の価値を深く理解し、新たな価値を創造することにより、持続可能な社会を実現し、次代へ発信・継承することができる(知識・技能)」ことを実践する科目である。							

地域社会が持つ課題や地域づくり、社会制度的仕組みの基礎知識を身に着けること、及び地域の課題や問題解決に関する取り組みの情報を収集し、考察するために、必要なコミュニケーション能力を高め、未来の地域創生リーダー・プロデューサー人財を目指すものである。

授業の方法

地域創生に関する関連書籍、国・自治体の先駆的事例に基づくパワーポイント資料や動画資料などを使用し、学び、習い、問い立ての実学教育を行う。また、教員と学生、学生間の対話を通じて、理解度を深めていく。自治体等に直接訪問し、地域現場を体験する機会を創出し、現状と課題、あるべき姿や政策立案のあり方などを実感する機会とする。

ICT活用

インターネットのほか、課題や授業連絡などのやり取りにGoogle classroomを活用する。

実務経験のある教員の教育内容

国家公務員や地方公務員の現場、学会代表や企業等の立上げ経験を持つ私のほか、随時、必要に応じ、行政職員、大学職員や起業家等のゲストが対面・オンラインにて講義を行うものとする。

課題に対するフィードバックの方法

事前学習を踏まえ、担当教員が学生とのディスカッション等を通じて、フィードバックを行う。また講義後に、演習シートの提出を行い、学び、習い、問い立てには適切に対応する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	国内のひと育て・まち育て、地域創生の基本的な考え方、手法や先駆事例など、本講義の概要と目的、スケジュールの説明、学生の自己紹介を実施し、地域創生に関する考え方などの対話を行う。	準備学習および必要時間(45分) 関連書籍やインターネットで関連情報を検索して学習すること。	事後学習および必要時間(45分) 講義内容を復習して演習シートを提出すること。
担当教員			
第2回	国内のひと育て・まち育て、地域創生の現状と課題を講義し、その後、学生の住み暮らすまちの現状と課題を発表のうえ、発表内容に基づき、対話を行う。	準備学習および必要時間(45分) 関連書籍やインターネットで関連情報を検索して学習すること。	事後学習および必要時間(45分) 講義内容を復習して演習シートを提出すること。
担当教員			
第3回	都市部、生産地の過疎地域、離島や被災地など、人口減少や高齢化が進むまちの政策立案や実践に関して学び、習い、問い立てを実施する。特に、北海道内の自治体の先駆事例を基に、「なぜ？」成功事例となっているのか、具体的に因果構造を分析し、要因を解明するなど、対話を行う。	準備学習および必要時間(45分) 関連書籍やインターネットで関連情報を検索して学習すること。	事後学習および必要時間(45分) 講義内容を復習して演習シートを提出すること。
担当教員			

第4回	国内の自治体における、地形や気候、地域資源の特性に関する講義を行う。自然環境が地場産業や歴史・文化、生活にどのような影響を与えているのか対話を行う。また、地域の防災・減災対策に関する講義を行い、自然災害への備えの重要性など、対話をする。	準備学習および必要時間(45分) 関連書籍やインターネットで関連情報を検索して学習すること。	事後学習および必要時間(45分) 講義内容を復習して演習シートを提出すること。
担当教員			
第5回	地域産業の変遷や産業構造に関して講義を行う。基幹産業としての、農業・漁業や製造業・観光業等の現状と課題を整理し、地域経済の持続可能性について対話を行う。また、外的要因としての企業誘致のあり方など、地域創生の政策に関する対話をする。	準備学習および必要時間(45分) 関連書籍やインターネットで関連情報を検索して学習すること。	事後学習および必要時間(45分) 講義内容を復習して演習シートを提出すること。
担当教員			
第6回	地域のものづくり伝統工芸、音楽や祭りなどの「地域文化」に関する講義を行い、文化を通じての地域の歴史的背景や「五感」を活用しての地域の魅力とは何かなど、対話をする。	準備学習および必要時間(45分) 関連書籍やインターネットで関連情報を検索して学習すること。	事後学習および必要時間(45分) 講義内容を復習して演習シートを提出すること。
担当教員			

第7回	地域課題を解決する手法や地域イノベーション体系の基礎を学習する。ポケットパーク、道の駅、市街地再開発や温泉街再生などの先駆事例を講義後、対話をする。	準備学習および必要時間(45分) 関連書籍やインターネットで関連情報を検索して学習すること。	事後学習および必要時間(45分) 講義内容を復習して演習シートを提出すること。
担当教員			
第8回	自治会や町内会、NPOなど地域コミュニティの役割に関する講義を行い、市民主体のまち育ての先駆事例を紹介し、地域の課題解決に向けた市民参加の意義を対話する。また、若者が地域コミュニティにどのように関わることができるのかなど、対話をする。	準備学習および必要時間(45分) 関連書籍やインターネットで関連情報を検索して学習すること。	事後学習および必要時間(45分) 講義内容を復習して演習シートを提出すること。
担当教員			
第9回	都心部への人口集中を食い止め、少子高齢化や人口減少等で衰退する自治体の持続的発展のため、国・自治体や企業団体等が一体となって、今、地域創生やSDGsの推進、地域人材養成が進められている。その現場の状況と今後の展開の講義後、対話をする。	準備学習および必要時間(45分) 関連書籍やインターネットで関連情報を検索して学習すること。	事後学習および必要時間(45分) 講義内容を復習して演習シートを提出すること。
担当教員			

第10回	自治体における食文化の特徴や変遷、食と健康に関する講義を行い、地元食材を使った5つの味の「食育」教育のあり方と地域創生のつながりを対話する。また、「健育」としての健康運動や発酵食品、伝統料理の効果などに関して対話をする。	準備学習および必要時間(45分) 関連書籍やインターネットで関連情報を検索して学習すること。	事後学習および必要時間(45分) 講義内容を復習して演習シートを提出すること。
担当教員			
第11回	地域創生において、地域医療は欠かせない。その現状や、福祉介護の現状と課題に関する講義を行い、少子高齢化が地域社会に与える影響や持続可能な医療・福祉のあり方などの対話をする。地域の医療機関や福祉施設の先駆事例を紹介し、地域現場の実情を理解する機会とする。	準備学習および必要時間(45分) 関連書籍やインターネットで関連情報を検索して学習すること。	事後学習および必要時間(45分) 講義内容を復習して演習シートを提出すること。
担当教員			
第12回	北海道における森林資源とその持続可能な活用に関する学びは欠かせない。林業や木材産業の現状と課題の講義を行う。その後、地域の建築業や家具産業への可能性など、特に「木育」としての木工体験や森林浴の散策などに関して対話を行う。また、地域の商店街、企業、公共施設、観光地などを実際に訪問し、現場調査を実施する。訪問先のインタビューを通じ、地域の魅力、現状や課題を発見し、フィールドワークの成果を最終講義時(15回目)に発表する。	準備学習および必要時間(45分) 関連書籍やインターネットで関連情報を検索して学習すること。	事後学習および必要時間(45分) 講義内容を復習して演習シートを提出すること。
担当教員			

第13回	北海道の観光産業の可能性、観光資源と地域創生に関する講義を行い、インバウンド観光の現状と課題、持続可能な観光業のあり方などの対話を行う。観光と市民のバランス(オーバーツーリズム等)に関して対話を行い、地域に適した観光振興プランを考えてみる。また、地域の商店街、企業、公共施設、観光地などを実際に訪問し、現場調査を実施する。訪問先のインタビューを通じ、地域の魅力、現状や課題を発見し、フィールドワークの成果を最終講義時(15回目)に発表する。	準備学習および必要時間(45分) 関連書籍やインターネットで関連情報を検索して学習すること。	事後学習および必要時間(45分) 講義内容を復習して演習シートを提出すること。
担当教員			
第14回	地域の商店街、企業、公共施設、観光地などを実際に訪問し、現場調査を実施する。訪問先のインタビューを通じ、地域の魅力、現状や課題を発見し、フィールドワークの成果を最終講義時に発表する。	準備学習および必要時間(45分) 関連書籍やインターネットで関連情報を検索して学習すること。	事後学習および必要時間(45分) 講義内容を復習して演習シートを提出すること。
担当教員			
第15回	これまでの講義を振り返り、各自の学び、習い、問い立てを整理する。講義と現場体験を通じて、訪問先のインタビューから、地域の魅力、現状や課題の知り気づき、フィールドワークの成果を発表する。また、地域活動や将来のキャリアに活かすための方向性を見出す機会とする。	これまでの講義内容の学習および必要時間(45分) 全体の復習として、関連書籍やインターネットで関連情報を検索して学習すること。	事後学習および必要時間(45分):今までの復習と反省点に立ち、今後の学習の方向性を考える。
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	各授業の出席状況と各授業の演習シートの提出、全体レポートにより評価する。
その他	0	なし。
教科書		
書籍「地域創生の真実」(世音社・木村俊昭)の内容ほか、オリジナル資料を講義時に配布する。		
参考文献		

随時、講義時に紹介する。

履修条件・留意事項等

原則、すべての授業に出席すること。各授業の出席と演習シート等の提出、全体レポート等で評価する。試験はなし。

備考欄

インターネットや書籍による関連資料検索等を事前学習で行うこと。

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		演習科目 地域未来基礎					
科目名		地域を知る(地域未来創造入門)(中田 和彦)				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	中田 和彦						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーにおける「地域社会における教育の役割を理解し、教育学に関する専門的知識・技能を身につけ、生涯にわたり学び続ける素養を有した人材を養成する。(知識・技能)」及び「幅広い視点から地域課題を発見し、課題解決に向けて主体的に行動でき、かつ、地域において協働できる人的資源の開発や組織体制の構築に貢献できる。(思考・判断・表現)」ことと特に関係がある科目である。さらに、初年次教育の一環として、これから専門領域を学習するに当たっての心構えを養うための科目である。

授業の概要

本科目では、恵庭市等の身近な地域に実際に触れ、地域主体(ステークホルダー)による講話や体験談、意見交換等、見る・聞くといった行為を通して、地域そのものへの理解を深める。地域を知ることを手がかりに、地域資源や地域課題とは何であるかについて気づき、地域の未来を創造していく力を養うことを目的とする。

到達目標

① 本学が本拠とする地域(恵庭市)が持つ固有の資源や価値、ならびに地域が抱える課題等について幅広く知り、現状を把握することができる。

② 持続可能な地域社会の形成や発展に向けて必要となるアプローチについて、教育学の観点から見つめ、地域社会を支えるステークホルダーとの関係の構築や協働の重要性について、自らの言葉で述べることができる。

授業の方法

地域に係るテーマやトピックについて印刷物や動画等による資料で事前学習を行い、フィールドワークやグループ協議を行う。

ICT活用

- Google classroom、Google formを活用して、受講生の毎時の気づきの言語化、把握やフィードバックを行う。
- Goproを用いて、動画を撮影するなどして、まとめに活用する。

実務経験のある教員の教育内容

公立小学校教諭、校長として9年の学校現場勤務と市町村や国立青少年教育施設への派遣等、24年の社会教育行政の勤務経験があり、公教育や生涯学習について幅広いの知識を有している。この経験を活かし、これからの時代に求められる教育や学び、教育と地域づくりの関連性等について指導する。

課題に対するフィードバックの方法

- Google formを活用し、毎回の気づきを整理する。
- 提出を要する課題に対しては、以降につながるコメントを付してフィードバックする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 本科目の概要(授業の進め方、目指す到達点、内容、日程等)について)理解を深めるるるもに、本科目で学びの対象とする「地域(フィールド)」や「地域資源」の定義について協議し、情報を共有する。	シラバスをよく読んで授業に臨む。(30分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておく。(15分)
担当教員			
第2回	フィールドワークの意義 大学周辺の「地域資源」を探り、それらの有する価値やフィールドワークにおける着眼点、留意事項についての理解を深める。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(25分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(20分)
担当教員			
第3回	地域資源の意義や価値1(前半) 恵庭市の自然環境や景観等の現状に触れるとともに、その機能や価値について理解を深める。	事前の指示による情報の収集や課題を行う。(25分)	メモや画像等によって、フィールドワークの概要や気づきを整理する。(20分)
担当教員			

第4回	地域資源の意義や価値1(後半) 恵庭市の自然環境や景観等の現状に触れるとともに、その機能や価値について理解を深める。	事前の指示による情報の収集や課題を行う。(25分)	メモや画像等によって、フィールドワークの概要や気づきを整理する。(20分)
担当教員			
第5回	地域資源の意義や価値2(前半) 恵庭市の教育環境や教育施設の現状に触れるとともに、その機能や価値について理解を深める。	事前の指示による情報の収集や課題を行う。(25分)	メモや画像等によって、フィールドワークの概要や気づきを整理する。(20分)
担当教員			
第6回	地域資源の意義や価値2(後半) 恵庭市の教育環境や教育施設の現状に触れるとともに、その機能や価値について理解を深める。	事前の指示による情報の収集や課題を行う。(25分)	メモや画像等によって、フィールドワークの概要や気づきを整理する。(20分)
担当教員			

第7回	地域資源の意義や価値3(前半) 恵庭市の産業資源の現状に触れるとともに、その機能や価値について理解を深める。	事前の指示による情報の収集や課題を行う。(25分)	メモや画像等によって、フィールドワークの概要や気づきを整理する。(20分)
担当教員			
第8回	地域資源の意義や価値3(後半) 恵庭市の産業資源の現状に触れるとともに、その機能や価値について理解を深める。	事前の指示による情報の収集や課題を行う。(25分)	メモや画像等によって、フィールドワークの概要や気づきを整理する。(20分)
担当教員			
第9回	地域資源の意義や価値4(前半) 恵庭市の福祉環境・施設の現状に触れるとともに、その機能や価値について理解を深める。	事前の指示による情報の収集や課題を行う。(25分)	メモや画像等によって、フィールドワークの概要や気づきを整理する。(20分)
担当教員			

第10回	地域資源の意義や価値4(後半) 恵庭市の福祉環境・施設の現状に触れるとともに、その機能や価値について理解を深める。	事前の指示による情報の収集や課題を行う。(25分)	メモや画像等によって、フィールドワークの概要や気づきを整理する。(20分)
担当教員			
第11回	地域資源の意義や価値5(前半) 恵庭市の市民生活や市民環境の現状に触れるとともに、その機能や価値について理解を深める。	事前の指示による情報の収集や課題を行う。(25分)	メモや画像等によって、フィールドワークの概要や気づきを整理する。(20分)
担当教員			
第12回	地域資源の意義や価値5(後半) 恵庭市の市民生活や市民環境の現状に触れるとともに、その機能や価値について理解を深める。	事前の指示による情報の収集や課題を行う。(25分)	メモや画像等によって、フィールドワークの概要や気づきを整理する。(20分)
担当教員			

第13回	地域資源の意義や価値6(前半) 恵庭市のまちづくりに関係する人的資源の現状に触れるとともに、その機能や価値について理解を深める。	事前の指示による情報の収集や課題を行う。(25分)	メモや画像等によって、フィールドワークの概要や気づきを整理する。(20分)
担当教員			
第14回	地域資源の意義や価値6(後半) 恵庭市のまちづくりに関係する人的資源の現状に触れるとともに、その機能や価値について理解を深める。	事前の指示による情報の収集や課題を行う。(25分)	メモや画像等によって、フィールドワークの概要や気づきを整理する。(20分)
担当教員			
第15回	ふりかえりとまとめ フィールドワークの中から、一つの事例を取り上げ、教育の観点からの地域づくりについて自分の考えを述べ、交流する。	これまでの講義資料やノート、フィールドワークのふりかえりを読み直し、授業に臨む。(25分)	フィールドワークを通しての学びや気づきを整理し、後期のゼミ活動に対する課題意識を整理する。(20分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	①フィールドワークごとのふりかえり 50% ②個人課題 40% ③授業への参加度・出席態度 10%
その他	0	
教科書		
なし		
参考文献		

恵庭市のホームページをはじめとするフィールドワーク先に関するWeb上の情報や適宜指定ないし提供された、テーマ・トピックに係る知識獲得に資する資料等を使用する。

履修条件・留意事項等

学外者等との協力の下、フィールドワークを展開する科目の性質上、日程・時間及び会場等の調整を行う場合があり、その場合は事前に知らせる。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		演習科目 地域未来基礎					
科目名		地域を知る(地域未来創造入門)(宮崎 隆志)				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	宮崎 隆志						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーにおける「地域社会における教育の役割を理解し、教育学に関する専門的知識・技能を身につけ、生涯にわたり学び続ける素養を有した人材を養成する。(知識・技能)」及び「幅広い視点から地域課題を発見し、課題解決に向けて主体的に行動でき、かつ、地域において協働できる人的資源の開発や組織体制の構築に貢献できる人材を養成する。(思考・判断・表現)」ことと特に関係がある科目である。さらに、初年次教育の一環として、これから専門領域を学習するに当たっての心構えを養うための科目である。

授業の概要

本科目では、恵庭市等の身近な地域に実際に触れ、地域主体(ステークホルダー)による講話や体験談、意見交換等、見る・聞くといった行為を通して、地域そのものへの理解を深める。地域を知ることを手がかりに、地域資源や地域課題とは何であるかについて気づき、地域の未来を創造していく力を養うことを目的とする。

到達目標

① 本学が本拠とする地域(恵庭市)が持つ固有の資源や価値、ならびに地域が抱える課題等について幅広く知り、現状を把握することができる。

② 持続可能な地域社会の形成や発展に向けて必要となるアプローチについて、教育学の観点から見つめ、地域社会を支えるステークホルダーとの関係の構築や協働の重要性について、自らの言葉で述べることができる。

授業の方法

地域に係るテーマやトピックについて印刷物や動画等による資料で事前学習を行い、フィールドワークやグループ協議を行う。

ICT活用

・Google classroom、Google formを活用して、受講生の毎時の気づきの言語化、把握やフィードバックを行う。

実務経験のある教員の教育内容

該当しない

課題に対するフィードバックの方法

・Google formを活用し、毎回の気づきを整理する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 本科目の概要(授業の進め方、目指す到達点、内容、日程等)について理解を深めるるもに、本科目で学びの対象とする「地域(フィールド)」や「地域資源」の定義について協議し、情報を共有する。	シラバスをよく読んで授業に臨む。(30分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておく。(30分)
担当教員			
第2回	フィールドワークの意義 大学周辺の「地域資源」を探り、それらの有する価値やフィールドワークにおける着眼点、留意事項についての理解を深める。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(30分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておく。(30分)
担当教員			
第3回	地域資源の意義や価値1 恵庭市の自然環境や景観等の現状に触れる。	事前の指示による情報の収集や課題を行う。(45分)	メモや画像等によって、フィールドワークの概要や気づきを整理する。(45分)
担当教員			

第4回	地域資源の意義や価値1 恵庭市の自然環境や景観等の機能や価値について理解を深める。	事前の指示による情報の収集や課題を行う。(45分)	メモや画像等によって、フィールドワークの概要や気づきを整理する。(45分)
担当教員			
第5回	地域資源の意義や価値2 恵庭市の教育環境や教育施設の現状に触れるとともに、その機能や価値について理解を深める。	事前の指示による情報の収集や課題を行う。(45分)	メモや画像等によって、フィールドワークの概要や気づきを整理する。(45分)
担当教員			
第6回	地域資源の意義や価値2 恵庭市の教育環境や教育施設の機能や価値について理解を深める。	事前の指示による情報の収集や課題を行う。(45分)	メモや画像等によって、フィールドワークの概要や気づきを整理する。(45分)
担当教員			

第7回	地域資源の意義や価値3 恵庭市の産業資源の現状に触れるとともに、その機能や価値について理解を深める。	事前の指示による情報の収集や課題を行う。(45分)	メモや画像等によって、フィールドワークの概要や気づきを整理する。(45分)
担当教員			
第8回	地域資源の意義や価値3 恵庭市の産業資源の機能や価値について理解を深める。	事前の指示による情報の収集や課題を行う。(45分)	メモや画像等によって、フィールドワークの概要や気づきを整理する。(45分)
担当教員			
第9回	地域資源の意義や価値4 恵庭市の福祉環境・施設の現状に触れるとともに、その機能や価値について理解を深める。	事前の指示による情報の収集や課題を行う。(45分)	メモや画像等によって、フィールドワークの概要や気づきを整理する。(45分)
担当教員			

第10回	地域資源の意義や価値4 恵庭市の福祉環境・施設の機能や価値について理解を深める。	事前の指示による情報の収集や課題を行う。(45分)	メモや画像等によって、フィールドワークの概要や気づきを整理する。(45分)
担当教員			
第11回	地域資源の意義や価値5 恵庭市の市民生活や市民環境の現状に触れるとともに、その機能や価値について理解を深める。	事前の指示による情報の収集や課題を行う。(45分)	メモや画像等によって、フィールドワークの概要や気づきを整理する。(45分)
担当教員			
第12回	地域資源の意義や価値5 恵庭市の市民生活や市民環境の機能や価値について理解を深める。	事前の指示による情報の収集や課題を行う。(45分)	メモや画像等によって、フィールドワークの概要や気づきを整理する。(45分)
担当教員			

第13回	地域資源の意義や価値6 恵庭市のまちづくりに関係する人的資源の現状に触れるとともに、その機能や価値について理解を深める。	事前の指示による情報の収集や課題を行う。(45分)	メモや画像等によって、フィールドワークの概要や気づきを整理する。(45分)
担当教員			
第14回	地域資源の意義や価値6 恵庭市のまちづくりに関係する人的資源の機能や価値について理解を深める。	事前の指示による情報の収集や課題を行う。(45分)	メモや画像等によって、フィールドワークの概要や気づきを整理する。(45分)
担当教員			
第15回	ふりかえりとまとめ フィールドワークの中から、一つの事例を取り上げ、教育の観点からの地域づくりについて自分の考えを述べ、交流する。	これまでの講義資料やノート、フィールドワークのふりかえりを読み直し、授業に望む。(30分)	フィールドワークを通しての学びや気づきを整理し、後期のゼミ活動に対する課題意識を整理する。(30分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	①フィールドワークごとのふりかえり 50% ②個人課題 40% ③授業への参加度・出席態度 10%
その他	0	
教科書		
指定しない		
参考文献		

恵庭市のホームページをはじめとするフィールドワーク先に関するWeb上の情報や適宜指定ないし提供された、テーマ・トピックに係る知識獲得に資する資料等を使用する。

履修条件・留意事項等

学外者等との協力の下、フィールドワークを展開する科目の性質上、日程・時間及び会場等の調整を行う場合があり、その場合は事前に知らせる。

備考欄

1年後期の必修科目「地域未来創造基礎(Adventure)」に連繋する科目である点から、原則、割り当てられた担当教員については後期の「地域未来創造基礎(Adventure)」についても変更しないものとする。

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		演習科目 地域未来基礎					
科目名		地域を知る(地域未来創造入門)(吉岡 亜希子)				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	吉岡 亜希子						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーにおける「地域社会における教育の役割を理解し、教育学に関する専門的知識・技能を身につけ、生涯にわたり学び続ける素養を有した人材を養成する。(知識・技能)」及び「幅広い視点から地域課題を発見し、課題解決に向けて主体的に行動でき、かつ、地域において協働できる人的資源の開発や組織体制の構築に貢献できる。(思考・判断・表現)」ことと特に関係がある科目である。さらに、初年次教育の一環として、これから専門領域を学習するに当たっての心構えを養うための科目である。

授業の概要

本科目では、恵庭市等の身近な地域に実際に触れ、地域主体(ステークホルダー)による講話や体験談、意見交換等、見る・聞くといった行為を通して、地域そのものへの理解を深める。地域を知ることを手がかりに、地域資源や地域課題とは何であるかについて気づき、地域の未来を創造していく力を養うことを目的とする。

到達目標

① 本学が本拠とする地域(恵庭市)が持つ固有の資源や価値、ならびに地域が抱える課題等について幅広く知り、現状を把握することができる。

② 持続可能な地域社会の形成や発展に向けて必要となるアプローチについて、教育学の観点から見つめ、地域社会を支えるステークホルダーとの関係の構築や協働の重要性について、自らの言葉で論じたり、述べることができる。

授業の方法

パワーポイント資料、印刷物、動画資料などを用い、各回の地域にかかわるテーマについて事前学習を講義形式で行う。その後、テーマに関連する施設等へのフィールドワークを行う。まとめでは受講生がプレゼンテーションを行う。

ICT活用

Google classroom、Google formを用いた双方向授業を行う。意見や感想の共有、議論に活用する。

実務経験のある教員の教育内容

市民活動として行っている子育て支援に関連する団体運営、学びの場づくり等でのコーディネーター経験を活かした授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

Google classroom、Google formを活用してフィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 本科目の概要(授業の進め方、目指す到達点、内容、日程等)について理解を深めると共に、本科目で学びの対象とする「地域(フィールド)」や「地域資源」の定義について協議し、情報を共有する。	シラバスをよく読んで授業に臨む。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておく。(25分)
担当教員			
第2回	フィールドワークの意義 大学周辺の「地域資源」を探り、それらの有する価値やフィールドワークにおける着眼点、留意事項についての理解を深める。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておく。(25分)
担当教員			
第3回	地域資源やその価値を理解すると共に関連する課題を把握する。～地域福祉・施設に関連する事前学習	事前の指示による情報の収集や課題を行う。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(25分)
担当教員			

第4回	地域資源やその価値を理解すると共に関連する課題を把握する。～地域福祉・施設に関連するフィールドワーク	事前の指示による情報の収集や課題を行う。(20分)	メモや画像等によって、フィールドワークの概要や気づきを整理する。(25分)
担当教員			
第5回	地域資源やその価値を理解すると共に関連する課題を把握する。～地域産業・施設に関連する事前学習	事前の指示による情報の収集や課題を行う。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(25分)
担当教員			
第6回	地域資源やその価値を理解すると共に関連する課題を把握する。～地域産業・施設に関連するフィールドワーク	事前の指示による情報の収集や課題を行う。(20分)	メモや画像等によって、フィールドワークの概要や気づきを整理する。(25分)
担当教員			

第7回	地域資源やその価値を理解すると共に関連する課題を把握する。～地域振興・施設に関連する事前学習	事前の指示による情報の収集や課題を行う。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(25分)
担当教員			
第8回	地域資源やその価値を理解すると共に関連する課題を把握する。～地域振興・施設に関連するフィールドワーク	事前の指示による情報の収集や課題を行う。(20分)	メモや画像等によって、フィールドワークの概要や気づきを整理する。(25分)
担当教員			
第9回	地域資源やその価値を理解すると共に関連する課題を把握する。～社会教育施設に関連する事前学習	事前の指示による情報の収集や課題を行う。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(25分)
担当教員			

第10回	地域資源やその価値を理解すると共に関連する課題を把握する。～社会教育施設に関連するフィールドワーク	事前の指示による情報の収集や課題を行う。(20分)	メモや画像等によって、フィールドワークの概要や気づきを整理する。(25分)
担当教員			
第11回	地域資源やその価値を理解すると共に関連する課題を把握する。～子育て支援・施設に関連する事前学習	事前の指示による情報の収集や課題を行う。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(25分)
担当教員			
第12回	地域資源やその価値を理解すると共に関連する課題を把握する。～子育て支援・施設に関連するフィールドワーク	事前の指示による情報の収集や課題を行う。(20分)	メモや画像等によって、フィールドワークの概要や気づきを整理する。(25分)
担当教員			

第13回	地域資源やその価値を理解すると共に関連する課題を把握する。～自然環境・施設に関連する事前学習	事前の指示による情報の収集や課題を行う。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(25分)
担当教員			
第14回	地域資源やその価値を理解すると共に関連する課題を把握する。～自然環境・施設に関連するフィールドワーク	事前の指示による情報の収集や課題を行う。(20分)	メモや画像等によって、フィールドワークの概要や気づきを整理する。(25分)
担当教員			
第15回	ふりかえりとまとめ フィールドワークの中から、一つの事例を取り上げ、教育の観点からの地域づくりについて自分の考えを述べ、交流する。	これまでの講義資料やノート、フィールドワークのふりかえりを読み直し、授業に臨む。(20分)	フィールドワークを通しての学びや気づきを整理し、後期のゼミ活動に対する課題意識を整理する。(25分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	①フィールドワークごとのふりかえり 50% ②個人課題 40% ③授業への参加度・出席態度 10%
その他	0	
教科書		
特に指定しない。		
参考文献		

授業内で適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

学外者等との協力の下、フィールドワークを展開する科目の性質上、日程・時間及び会場等の調整を行う場合があり、その場合は事前に知らせる。

備考欄

1年後期の必修科目「地域未来創造基礎(Adventure)」に連繋する科目である点から、原則、割り当てられた担当教員については後期の「地域未来創造基礎(Adventure)」についても変更しないものとする。

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		演習科目 地域未来基礎					
科目名		地域を知る(地域未来創造入門)(木村 悠里菜)				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	木村 悠里菜						

授業の位置づけ

本科目は初年次教育の一環として、批判的読解・文章作成・発表技術を修得、地域課題の学術的応用を考察、論理的思考を養い、価値創造・協働の重要性を理解し、持続可能な社会へ貢献する。ディプロマ・ポリシーの地域社会における教育の役割を理解し、教育学に関する専門的知識・技能を身につけ、生涯にわたり学び続ける素養を有している、地域の歴史や文化、多様な資源の価値を深く理解し、新たな価値を創造することにより、持続可能な社会を実現し、次代へ発信・継承することができる、幅広い視点から地域課題を発見し、課題解決に向けて主体的に行動でき、かつ、地域において協働できる人的資源の開発や組織体制の構築に貢献できると関連する。

授業の概要

本科目では、恵庭市等の身近な地域に実際に触れ、地域主体(ステークホルダー)による講話や体験談、意見交換等、見る・聞くといった行為を通して、地域そのものへの理解を深める。地域を知ることを手がかりに、地域資源や地域課題とは何であるかについて気づき、地域の未来を創造していく力を養うことを目的とする。

到達目標

本科目を通じて、受講生は基本的なアカデミック・スキルを活用し、文献の要点を整理・批判的に分析できるようになる。また、論理的な文章を構成し、簡潔かつ説得力のある発表ができることを目指す。さらに、議論を通じて異なる視点を理解し、自らの考えを発展させる力を習得することを到達目標とする。

授業の方法

- ・パワーポイントによるプレゼンテーション資料と教科書等を併用しながら、講義形式とアクティブラーニングの手法を取り入れた演習方式の授業を実施する。
- ・理解度確認のために、最終成果発表を実施する。

ICT活用

- ・パワーポイントによるプレゼンテーション資料と教科書等を併用しながら、視覚的に内容が理解しやすい授業を実施する。
- ・Google Classroomを活用し、配布資料を共有するため、授業前に各自印刷し持参する。

実務経験のある教員の教育内容

消費財メーカーのマーケティング職や外資系コンサルティングファームでの経営コンサルタント職や、全国のまちづくり活動等での実務経験を活かして、実例を交えた具体的な授業を実施する。

課題に対するフィードバックの方法

各授業において振り返りを実施し、学生の理解度の確認を行う。加えて質問については、解説を適宜実施する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーションの実施と、アカデミック・スキルの意義および本授業の目的を確認する。	大学と高校の学習スタイルの主な違いを特定する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第2回	学術的思考の基盤としてのアカデミック・スキルの概念を整理し、研究の出発点としての「問いの立て方」について考察する。①研究の起点:アカデミック・スキルズと問いの立て方	授業内で指示された課題を実施する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第3回	学術的思考の基盤としてのアカデミック・スキルの概念を整理し、研究の出発点としての「問いの立て方」について考察する。②思考の礎:学術的探究を支える問いの構築法	授業内で指示された課題を実施する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			

第4回	大学講義の特性を踏まえ、ノート・テイキングの技法を分析し、聴講と記録の関係を批判的に検討する。①大学講義の記録術:ノート・テイキングの理論と実践	授業内で指示された課題を実施する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第5回	大学講義の特性を踏まえ、ノート・テイキングの技法を分析し、聴講と記録の関係を批判的に検討する。②聴講から思考へ:効果的なノート・テイキングの技法	授業内で指示された課題を実施する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第6回	情報収集における学術的態度を学び、データベースやアーカイブを活用した高度な文献検索の手法を実践する。①研究の扉を開く:データベースとアーカイブの活用法	授業内で指示された課題を実施する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			

第7回	情報収集における学術的態度を学び、データベースやアーカイブを活用した高度な文献検索の手法を実践する。② 情報収集の技法:学術的リテラシーと高度な文献検索	授業内で指示された課題を実施する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第8回	批判的読解(クリティカル・リーディング)の意義を探究し、論理的思考の枠組みを用いた文献分析を行う。	授業内で指示された課題を実施する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第9回	知識の体系化を目的とした情報整理の技法を学び、アウトライン作成やKJ法の適用可能性を検討する。	授業内で指示された課題を実施する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			

第10回	研究の成果を適切に表現するための論理構成を学び、学問的問いの洗練と明晰な議論の展開を試みる。①学術論文の組み立て方:問いの精練と論理展開	授業内で指示された課題を実施する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第11回	研究の成果を適切に表現するための論理構成を学び、学問的問いの洗練と明晰な議論の展開を試みる。②明晰な議論の技法:研究成果を的確に表現する	授業内で指示された課題を実施する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第12回	効果的なプレゼンテーションの要素を分析し、視覚資料・レトリックの活用法を踏まえた発表技術を実践する。	授業内で指示された課題を実施する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			

第13回	学術的な文章作成の原則を整理し、論文・レポートにおける引用の方法と学問的誠実性の意義を考察する。	授業内で指示された課題を実施する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第14回	学生によるプレゼンテーション①と、発表内容をめぐるディスカッションを実施する。	授業内で指示された課題を実施する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第15回	学生によるプレゼンテーション②と、発表内容をめぐるディスカッションを実施し、授業全体の振り返りを行う。	授業内で指示された課題を実施する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	60	最終成果発表
その他	40	事前課題提出・授業態度や意欲等
教科書		
本科目では、学術的な視座を深めるための基本文献を指定する。具体的な文献については、初回授業時に共有し、授業の進行に応じて補助的な参考資料を適宜提示する。		
参考文献		

授業内で順次紹介する。

履修条件・留意事項等

本授業では、出欠管理を授業内で実施し、ディスカッションへの積極的参加を必須とする。準備・事後学習に取り組まない、またはディスカッションに参加しない場合は、退室・欠席扱いとなることがある。フィールドワークの実施有無や形式については、受講生の意向や実施可能性を踏まえ、授業内で相談の上決定する。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		演習科目 地域未来基礎					
科目名		地域未来創造基礎(Adventure)(熊野 稔)				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	熊野 稔						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーにおける「地域社会における教育の役割を理解し、教育学に関する専門的知識・技能を身につけ、生涯にわたり学び続ける素養を有した人材を養成する。(知識・技能)」及び「幅広い視点から地域課題を発見し、課題解決に向けて主体的に行動でき、かつ、地域において協働できる人的資源の開発や組織体制の構築に貢献できる。(思考・判断・表現)」ことと特に関係がある科目である。

授業の概要

地域の未来を創造していくための基礎を身に付けることを目的とする。教育学やまちづくり、地域創生に資する学術分野における基礎知識の理解と習得を踏まえた上で、道内の地域を広く調査し、地域特性や地域間の違いを認識しながら、マネジメントやマーケティングの側面を通して、地域の性質に合わせたアプローチの必要性を理解することを目指す。

到達目標

① 本学が本拠とする地域(恵庭市)での学習経験を踏まえ、さらに知識や技能を高め、フィールド範囲をより広げることを通じて、地域特性や地域間格差といった特長や差異について比較や説明ができる。
 ② 地域が直面する特性的な課題を発見し、それらに対する解決に向けての具体的な方策について、企画及びその実施に向けた検討を行うことができる。

授業の方法

印刷物・動画資料などを用いた事前学習を経て、フィールドワークやボランティア体験を行い、地域で主体的に活動するキーパーソンへのヒアリングやグループによるディスカッションを展開する。

ICT活用

生成AIの活用、Google classroom、Google form等を活用する。

実務経験のある教員の教育内容

まちづくり、地域都市計画の調査計画等の実務経験の知識やノウハウ及び、コーディネーター経験を活かした授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

Google classroom、Google formを活用してフィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 本科目の概要(授業の進め方、目指す到達点、内容、日程等)について)理解を深める。	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員	熊野 稔		
第2回	①前期の科目「地域を知る(地域未来創造入門)」のフィールドワーク先等を再訪し、取組の詳細を学ぶ。	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員	熊野 稔		
第3回	②前期の科目「地域を知る(地域未来創造入門)」のフィールドワーク先等を再訪し、実務やコーディネーターの役割について学びを深める。	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員	熊野 稔		

第4回	地域課題の解決先進地でのフィールドワークの事前準備(ニセコ町等を想定) ①地域課題の解決に向けた取組の先進地を訪れ、課題解決の実情や課題について学ぶ。	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員	熊野 稔		
第5回	地域課題の解決先進地でのフィールドワークのフィールドワーク(ニセコ町等を想定) ①地域課題の解決に向けた取組の先進地を訪れ、課題解決の実情や課題について学ぶ。コーディネーターや実践者との意見交換を行う。	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員	熊野 稔		
第6回	地域課題の解決先進地でのフィールドワークのまとめ(ニセコ町等を想定)	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員	熊野 稔		

第7回	今までのフィールド調査等による地域課題の解決に向けた方向性を考え、取りまとめる。	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員	熊野 稔		
第8回	高校生の地域貢献活動について調査し、ネットや新聞等で調査し取りまとめる。	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員	熊野 稔		
第9回	高校生の地域貢献活動について調査し、ネットや新聞等で調査し取りまとめる。	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員	熊野 稔		

第10回	生成AI等も活用し、高校生の地域貢献活動について調査し、ネットや新聞等で調査し取りまとめる。	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員	熊野 稔		
第11回	生成AI等も活用し、高校生の地域貢献活動について調査し、ネットや新聞等で調査し取りまとめる。	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員	熊野 稔		
第12回	生成AI等も活用し、高校生の地域貢献活動について調査し、ネットや新聞等で調査し取りまとめる。実際に高校訪問等フィールド調査を行う。	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員	熊野 稔		

第13回	高校訪問調査から得たデータ等を取りまとめる。	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員	熊野 稔		
第14回	テーマの中からレポート作成作業	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員	熊野 稔		
第15回	ふりかえりとまとめ フィールドワーク体験等の中から、一つの事例を取り上げ、それに対する成果、課題とそれに対する具体的な改善方策等について発表する。	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員	熊野 稔		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内の課題への取り組み、出席状況、資料収集、まとめ30% レポート50% 報告発表20%
その他	0	
教科書		
無し		
参考文献		

適宜資料を配布し、紹介する。

履修条件・留意事項等

学外者等との協力の下、フィールドワークを展開する科目の性質上、日程・時間及び会場等の調整を行う場合があり、その場合は事前に知らせる。

備考欄

なお本授業は、9月等の集中体験実習に置き換えることも可能。

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		演習科目 地域未来基礎					
科目名		地域未来創造基礎(Adventure)(木村 俊昭)				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	木村 俊昭						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーにおける「地域社会における教育の役割を理解し、教育学に関する専門的知識・技能を身につけ、生涯にわたり学び続ける素養を有した人材を養成する。(知識・技能)」及び「幅広い視点から地域課題を発見し、課題解決に向けて主体的に行動でき、かつ、地域において協働できる人的資源の開発や組織体制の構築に貢献できる人材を養成する。(思考・判断・表現)」ことを実践する科目である。

授業の概要

本科目は、地域の未来を創造していくための基礎を身に付けることを目的とする。教育学をはじめ、地域創生に資する学術分野における基礎知識の理解と習得を踏まえた上で、道内の地域を広く調査し、地域特性や地域間の違いを認識しながら、マネジメントやマーケティングの側面を通して、地域の性質に合わせたアプローチの必要性を理解することを目指す。

到達目標

本学が本拠とする地域(恵庭市)での学習経験を踏まえ、さらに知識や技能を高めること、フィールド範囲をより広げることを通じて、地域特性や地域間格差といった特長や差異について比較や説明できる。また、地域が直面する特性的な課題を発見し、それらに対する具体的な方策について企画したり、その実施に向けた検討を行うことができる。

授業の方法

主に、パワーポイント資料、印刷物・動画資料などを用い、必要に応じてフィールドワークを行ったり、地域で主体的に活動する人からのブリーフィングやディスカッションを展開する。なお、詳細な授業方法については担当教員の指示による。

ICT活用

主に、課題や授業連絡などのやり取りにGoogle classroomを活用する。なお、詳細については担当教員の指示による。

実務経験のある教員の教育内容

国家公務員や地方公務員、大学教員の経験を持つ私のほか、必要に応じて、連携大学の教員、企業経営者等の実務経験のある教員が指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

担当教員の指示による。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	ガイダンス 本科目の概要説明(授業の進め方、目指す到達点、内容、日程等について)後、履修生の自己紹介を行う。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生に関する知り気づきや経験に関して整理のうえ、講義に臨むこと(90分)。	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと(90分)。
担当教員			
第2回	地域の宝ものとは何か、あるもの探しに関して講義後、問い立て、対話することにより、地域創生の本質を理解する。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生に関する知り気づきや経験に関して整理のうえ、講義に臨むこと(90分)。	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと(90分)。
担当教員			
第3回	地域の現状と課題は何かについて、講義後、問い立て、対話することにより、地域創生の本質を理解する。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生に関する知り気づきや経験に関して整理のうえ、講義に臨むこと(90分)。	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと(90分)。
担当教員			

第4回	地域のつながりとは何か、地域コミュニティ形成に関して、講義後、問い立て、対話することにより、地域創生の本質を理解する。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生に関する知り気づきや経験に関して整理のうえ、講義に臨むこと(90分)。	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと(90分)。
担当教員			
第5回	地域の「ひと・こと・もの」の分析方に関する講義後、問い立て、対話することにより、地域創生の本質を理解する。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生に関する知り気づきや経験に関して整理のうえ、講義に臨むこと(90分)。	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと(90分)。
担当教員			
第6回	地域のひと育て・まち育てに関する講義後、問い立て、対話することにより、地域創生の本質を理解する。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生に関する知り気づきや経験に関して整理のうえ、講義に臨むこと(90分)。	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと(90分)。
担当教員			

第7回	地域の役割分担(ストーリー化)に関する講義後、問い立て、対話することにより、地域創生の本質を理解する。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生に関する知り気づきや経験に関して整理のうえ、講義に臨むこと(90分)。	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと(90分)。
担当教員			
第8回	地域の人間関係づくりとコミュニケーションについて、講義後、問い立て、対話することにより、地域創生の本質を理解する。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生に関する知り気づきや経験に関して整理のうえ、講義に臨むこと(90分)。	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと(90分)。
担当教員			
第9回	地域創生・SDGsの実践現場を訪問し、実学としての地域創生の学び、習い、問い立てを現場で実践し、理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生に関する知り気づきや経験に関して整理のうえ、講義に臨むこと(90分)。	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと(90分)。
担当教員			

第10回	地域創生・SDGsの実践現場を訪問し、実学としての地域創生の学び、習い、問い立てを現場で実践し、理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生に関する知り気づきや経験に関して整理のうえ、講義に臨むこと(90分)。	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと(90分)。
担当教員			
第11回	地域創生・SDGsの実践現場を訪問し、実学としての地域創生の学び、習い、問い立てを現場で実践し、理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生に関する知り気づきや経験に関して整理のうえ、講義に臨むこと(90分)。	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと(90分)。
担当教員			
第12回	地域創生・SDGsの実践現場を訪問し、実学としての地域創生の学び、習い、問い立てを現場で実践し、理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生に関する知り気づきや経験に関して整理のうえ、講義に臨むこと(90分)。	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと(90分)。
担当教員			

第13回	地域創生・SDGsの実践現場を訪問し、実学としての地域創生の学び、習い、問い立てを現場で実践し、理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生に関する知り気づきや経験に関して整理のうえ、講義に臨むこと(90分)。	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと(90分)。
担当教員			
第14回	地域創生・SDGsの実践現場を訪問し、実学としての地域創生の学び、習い、問い立てを現場で実践し、理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生に関する知り気づきや経験に関して整理のうえ、講義に臨むこと(90分)。	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと(90分)。
担当教員			
第15回	最終講義として、各自の地域創生の本質、解決策を成果として発表し、全体を総括する。	これまでのシラバスをよく読み、これまでに得た地域創生に関する知り気づきや経験に関して整理のうえ、講義に臨むこと(90分)。	14回目までの配布資料や講義内容を復習し、よく理解すること(90分)。
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業時の課題提出、最終回による発表により、成績評価とする。
その他	0	なし。
教科書		
講義時に説明資料をメール添付配布する。		
参考文献		

授業時に紹介する。

履修条件・留意事項等

日頃から地域創生の情報に関心を持つこと。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		演習科目 地域未来基礎					
科目名		地域未来創造基礎(Adventure)(中田 和彦)				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	中田 和彦						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーにおける「地域社会における教育の役割を理解し、教育学に関する専門的知識・技能を身につけ、生涯にわたり学び続ける素養を有した人材を養成する。(知識・技能)」及び「幅広い視点から地域課題を発見し、課題解決に向けて主体的に行動でき、かつ、地域において協働できる人的資源の開発や組織体制の構築に貢献できる。(思考・判断・表現)」ことと特に関係がある科目である。

授業の概要

本科目は、地域の未来を創造していくための基礎を身に付けることを目的とする。教育学をはじめ、地域創生に資する学術分野における基礎知識の理解と習得を踏まえた上で、道内の地域を広く調査し、地域特性や地域間の違いを認識しながら、マネジメントやマーケティングの側面を通して、地域の性質に合わせたアプローチの必要性を理解することを目指す。

到達目標

① 本学が本拠とする地域(恵庭市)での学習経験を踏まえ、さらに知識や技能を高め、フィールド範囲をより広げることを通じて、地域特性や地域間格差といった特長や差異について比較や説明ができる。

② 地域が直面する特性的な課題を発見し、それらに対する具体的な方策について企画及びその実施に向けた検討を行うことができる。

授業の方法

印刷物・動画資料などを用いた事前学習を経て、フィールドワークやボランティア体験を行い、地域で主体的に活動するキーパーソンへのヒアリングやグループによるディスカッションを展開する。

ICT活用

- Google classroom、Google formを活用して、受講生の毎時の気づきの言語化、把握やフィードバックを行う。
- Goproを用いて、動画を撮影するなどして、まとめて活用する。

実務経験のある教員の教育内容

公立小学校教諭、校長として9年の学校現場勤務と市町村や国立青少年教育施設への派遣等、24年の社会教育行政の勤務経験があり、公教育や生涯学習について幅広いの知識を有している。この経験を活かし、これからの時代に求められる教育や学び、教育と地域づくりの関連性等について指導する。

課題に対するフィードバックの方法

- Google formを活用し、毎回の気づきを整理する。
- 提出を要する課題に対しては、以降につながるコメントを付してフィードバックする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 本科目の概要(授業の進め方、目指す到達点、内容、日程等)について)理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た“地域”に係る知識や経験について整理して授業に臨むこと。(25分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(20分)
担当教員			
第2回	社会福祉の作業体験(前半) 前期の科目「地域を知る(地域未来創造入門)」のフィールドワーク先を再訪し、取組の詳細、コーディネーターの役割などについて、さらに学びを深める。	資料やWeb等によって、フィールドワーク先の地域や団体・取組の情報を調べ、訪問時の視点や想定の問題事項等を整理する。(25分)	メモや画像・映像など、フィールドワークの記録を整理し、コーディネーターの役割や課題の解決方策についての気づきを整理する。(20分)
担当教員			
第3回	社会福祉の作業体験(後半) 前期の科目「地域を知る(地域未来創造入門)」のフィールドワーク先を再訪し、取組の詳細、コーディネーターの役割などについて、さらに学びを深める。	資料やWeb等によって、フィールドワーク先の地域や団体・取組の情報を調べ、訪問時の視点や想定の問題事項等を整理する。(25分)	メモや画像・映像など、フィールドワークの記録を整理し、コーディネーターの役割や課題の解決方策についての気づきを整理する。(20分)
担当教員			

第4回	地域課題の解決先進地でのフィールドワーク1 地域課題の解決に向けた取組の先進地を訪れ、課題解決の実情や課題に直接触れる。	資料やWeb等によって、フィールドワーク先の地域や団体・取組の情報を調べ、訪問時の視点や想定の問題事項等を整理する。(25分)	メモや画像・映像など、フィールドワークの記録を整理し、コーディネーターの役割や課題の解決方策についての気づきを整理する。(20分)
担当教員			
第5回	地域課題の解決先進地でのフィールドワーク2 地域課題の解決に向けた取組の先進地を訪れ、コーディネーターや実践者へのヒアリングを行う。	資料やWeb等によって、フィールドワーク先の地域や団体・取組の情報を調べ、訪問時の視点や想定の問題事項等を整理する。(25分)	メモや画像・映像など、フィールドワークの記録を整理し、コーディネーターの役割や課題の解決方策についての気づきを整理する。(20分)
担当教員			
第6回	地域課題の解決先進地でのフィールドワーク3 地域課題の解決に向けた取組の先進地を訪れ、コーディネーターや実践者との意見交換を行う。	資料やWeb等によって、フィールドワーク先の地域や団体・取組の情報を調べ、訪問時の視点や想定の問題事項等を整理する。(25分)	メモや画像・映像など、フィールドワークの記録を整理し、コーディネーターの役割や課題の解決方策についての気づきを整理する。(20分)
担当教員			

第7回	地域課題の解決先進地でのフィールドワーク4 地域課題の解決に向けた取組の先進地を訪れ、今後における本格的な調査研究活動に向けた着眼点や対応の仕方などについて学びを深める。	資料やWeb等によって、フィールドワーク先の地域や団体・取組の情報を調べ、訪問時の視点や想定の問題事項等を整理する。(25分)	メモや画像・映像など、フィールドワークの記録を整理し、コーディネーターの役割や課題の解決方策についての気づきを整理する。(20分)
担当教員			
第8回	中間まとめ 2つのフィールドワークをふりかえり、地域課題の解決やコーディネーターの役割等についての発表し、他者の気づきに触れ、学びを深めるとともに、今後のフィールドワークに対する見通しを持つ。	2つのフィールドワークをふりかえり、地域課題の解決やコーディネーターの役割等についての発表できるよう準備する。(25分)	発表に対するフィードバックやコメントを整理し、後半のフィールドワークに向けての課題を整理する。(20分)
担当教員			
第9回	地域活動のボランティア体験(前半) 高齢化が進む地域を訪れ、住民の自治活動の現場にボランティアとして関わる中から、地域課題の現状や解決に対する基本的な考え方について、学びを深める。	資料やWeb等によって、フィールドワーク先の地域や取組の情報を調べ、訪問時の視点や想定の問題事項等を整理する。(25分)	メモや画像・映像など、フィールドワークの記録を整理し、コーディネーターの役割や課題の解決方策についての気づきを整理する。(20分)
担当教員			

第10回	地域活動のボランティア体験(後半) 高齢化が進む地域を訪れ、住民の自治活動の現場にボランティアとして関わる中から、地域課題の現状や解決に対する基本的な考え方について、学びを深める。	資料やWeb等によって、フィールドワーク先の地域や取組の情報を調べ、訪問時の視点や想定の問題事項等を整理する。(25分)	メモや画像・映像など、フィールドワークの記録を整理し、コーディネーターの役割や課題の解決方策についての気づきを整理する。(20分)
担当教員			
第11回	市民イベントへの参画の準備 2年生の作成した企画書について情報を共有し、イベントの意義や自らの役割等について理解を深める。	資料やWeb等によって、取組の情報を調べ、参画時の視点や留意事項、コーディネーターの関わり方等について整理する。(25分)	メモや画像・映像など、フィールドワークの記録を整理し、コーディネーターの役割や課題の解決方策についての気づきを整理する。(20分)
担当教員			
第12回	市民イベントへの参画1 市民団体、地域住民による地域振興のイベントへの参画を通して、企画や運営の基本的な考え方について理解を深める。	資料やWeb等によって、取組の情報を調べ、参画時の視点や留意事項、コーディネーターの関わり方等について整理する。(25分)	メモや画像・映像など、フィールドワークの記録を整理し、コーディネーターの役割や課題の解決方策についての気づきを整理する。(20分)
担当教員			

第13回	市民イベントへの参画2 市民団体、地域住民による地域振興のイベントへの参画を通して、コーディネーターの役割について理解を深める。	資料やWeb等によって、取組の情報を調べ、参画時の視点や留意事項、コーディネーターの関わり方等について整理する。(25分)	メモや画像・映像など、フィールドワークの記録を整理し、コーディネーターの役割や課題の解決方策についての気づきを整理する。(20分)
担当教員			
第14回	市民イベントへの参画3 市民団体、地域住民による地域振興のイベントへの参画を通して取組の改善点について協議する。	資料やWeb等によって、取組の情報を調べ、参画時の視点や留意事項、コーディネーターの関わり方等について整理する。(25分)	メモや画像・映像など、フィールドワークの記録を整理し、コーディネーターの役割や課題の解決方策についての気づきを整理する。(20分)
担当教員			
第15回	ふりかえりとまとめ フィールドワークやボランティア体験等の中から、一つの事例を取り上げ、それに対する成果、課題とそれに対する具体的な改善方策等について発表する。	資料やメモ等によって、地域課題の解決やコーディネーターの役割等についての発表資料を整理する。(25分)	フィールドワークやボランティア体験等を通しての学びや気づきを整理し、2年時以降のゼミ活動に対する見通しを持つ。(20分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	①フィールドワークごとのふりかえり 50% ②個人課題 40% ③授業への参加度・出席態度 10%
その他	0	
教科書		
なし		
参考文献		

適宜指定ないし提供された、テーマ・トピックに係る知識獲得に資する資料等を使用する。

履修条件・留意事項等

学外者等との協力の下、フィールドワークを展開する科目の性質上、日程・時間及び会場等の調整を行う場合があり、その場合は事前に知らせる。

備考欄

宿泊を伴うフィールドワークあり。

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		演習科目 地域未来基礎					
科目名		地域未来創造基礎(Adventure)(宮崎 隆志)				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	宮崎 隆志						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーにおける「地域社会における教育の役割を理解し、教育学に関する専門的知識・技能を身につけ、生涯にわたり学び続ける素養を有した人材を養成する。(知識・技能)」及び「幅広い視点から地域課題を発見し、課題解決に向けて主体的に行動でき、かつ、地域において協働できる人的資源の開発や組織体制の構築に貢献できる人材を養成する。(思考・判断・表現)」ことと特に関係がある科目である。

授業の概要

本科目は、地域の未来を創造していくための基礎を身に付けることを目的とする。教育学をはじめ、地域創生に資する学術分野における基礎知識の理解と習得を踏まえた上で、道内の地域を広く調査し、地域特性や地域間の違いを認識しながら、マネジメントやマーケティングの側面を通して、地域の性質に合わせたアプローチの必要性を理解することを目指す。

到達目標

① 本学が本拠とする地域(恵庭市)での学習経験を踏まえ、さらに知識や技能を高め、フィールド範囲をより広げることを通じて、地域特性や地域間格差といった特長や差異について比較や説明ができる。

② 地域が直面する特性的な課題を発見し、それらに対する具体的な方策について企画及びその実施に向けた検討を行うことができる。

授業の方法

印刷物・動画資料などを用いた事前学習を経て、フィールドワークやボランティア体験を行い、地域で主体的に活動するキーパーソンへのヒアリングやグループによるディスカッションを展開する。

ICT活用

・Google classroom、Google formを活用して、受講生の毎時の気づきの言語化、把握やフィードバックを行う。

実務経験のある教員の教育内容

該当しない

課題に対するフィードバックの方法

・Google formを活用し、毎回の気づきを整理する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 本科目の概要(授業の進め方、目指す到達点、内容、日程等)について)理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た“地域”に係る知識や経験について整理して授業に臨むこと。(15分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(30分)
担当教員			
第2回	社会福祉の作業体験-1 前期の科目「地域を知る(地域未来創造入門)」のフィールドワーク先を再訪し、取組の詳細について、さらに学びを深める。	資料やWeb等によって、フィールドワーク先の地域や団体・取組の情報を調べ、訪問時の視点や想定の問題事項等を整理する。(15分)	メモや画像・映像など、フィールドワークの記録を整理し、コーディネーターの役割や課題の解決方策についての気づきを整理する。(30分)
担当教員			
第3回	社会福祉の作業体験-2 前期の科目「地域を知る(地域未来創造入門)」のフィールドワーク先を再訪し、コーディネーターの役割などについて、さらに学びを深める。	資料やWeb等によって、フィールドワーク先の地域や団体・取組の情報を調べ、訪問時の視点や想定の問題事項等を整理する。(15分)	メモや画像・映像など、フィールドワークの記録を整理し、コーディネーターの役割や課題の解決方策についての気づきを整理する。(30分)
担当教員			

第4回	地域課題の解決先進地でのフィールドワーク1 地域課題の解決に向けた取組の先進地を訪れ、課題解決の実情や課題に直接触れ、調査研究活動の課題について学びを深める。	資料やWeb等によって、フィールドワーク先の地域や団体・取組の情報を調べ、訪問時の視点や想定の問題事項等を整理する。(15分)	メモや画像・映像など、フィールドワークの記録を整理し、地域課題の解決方策についての気づきを整理する。(30分)
担当教員			
第5回	地域課題の解決先進地でのフィールドワーク2 地域課題の解決に向けた取組の先進地を訪れ、コーディネーターや実践者との意見交換等を通して、今後における本格的な調査研究活動に向けた着眼点や対応の仕方などについて学びを深める。	資料やWeb等によって、フィールドワーク先の地域や団体・取組の情報を調べ、訪問時の視点や想定の問題事項等を整理する。(15分)	メモや画像・映像など、フィールドワークの記録を整理し、コーディネーターの役割や課題の解決方策についての気づきを整理する。(30分)
担当教員			
第6回	地域課題の解決先進地でのフィールドワーク3 地域課題の解決に向けた取組の先進地を訪れ、住民・参加者との意見交換等を通して、今後における本格的な調査研究活動に向けた着眼点や対応の仕方などについて学びを深める。	資料やWeb等によって、フィールドワーク先の地域や団体・取組の情報を調べ、訪問時の視点や想定の問題事項等を整理する。(15分)	メモや画像・映像など、フィールドワークの記録を整理し、住民・参加者の意見や課題の解決方策についての気づきを整理する。(30分)
担当教員			

第7回	地域課題の解決先進地でのフィールドワーク4 地域課題の解決に向けた取組の先進地を訪れ、行政関係者等との意見交換等を通して、今後における本格的な調査研究活動に向けた着眼点や対応の仕方などについて学びを深める。	資料やWeb等によって、フィールドワーク先の地域や団体・取組の情報を調べ、訪問時の視点や想定の問題事項等を整理する。(15分)	メモや画像・映像など、フィールドワークの記録を整理し、行政関係者等の意見や課題の解決方策についての気づきを整理する。(30分)
担当教員			
第8回	中間まとめ 2つのフィールドワークをふりかえり、地域課題の解決やコーディネーターの役割等についての発表し、他者の気づきに触れ、学びを深めるとともに、今後のフィールドワークに対する見通しを持つ。	2つのフィールドワークをふりかえり、地域課題の解決やコーディネーターの役割等についての発表できるよう準備する。(15分)	発表に対するフィードバックやコメントを整理し、後半のフィールドワークに向けての課題を整理する。(30分)
担当教員			
第9回	地域活動のボランティア体験ー1 高齢化が進む地域を訪れ、住民の自治活動の現場にボランティアとして関わる中から、地域課題の現状や解決に対する基本的な考え方について、リーダーシップに焦点を置いて学びを深める。	資料やWeb等によって、フィールドワーク先の地域や団体・取組の情報を調べ、訪問時の視点や想定の問題事項等を整理する。(15分)	メモや画像・映像など、フィールドワークの記録を整理し、地域課題の解決方策についての気づきを整理する。(30分)
担当教員			

第10回	地域活動のボランティア体験ー2 高齢化が進む地域を訪れ、住民の自治活動の現場にボランティアとして関わる中から、住民の意識変化について検討し、地域課題の現状や解決に対する基本的な考え方について、学びを深める。	資料やWeb等によって、フィールドワーク先の地域や団体・取組の情報を調べ、訪問時の視点や想定の問題事項等を整理する。(15分)	メモや画像・映像など、フィールドワークの記録を整理し、住民の意識変化や課題の解決方策についての気づきを整理する。(30分)
担当教員			
第11回	市民イベントへの参画ー1 市民団体、地域住民による地域振興のイベントへの参画を通して、取組の企画や運営の基本的な考え方について学びを深める。	資料やWeb等によって、フィールドワーク先の地域や団体・取組の情報を調べ、訪問時の視点や想定の問題事項等を整理する。(15分)	メモや画像・映像など、フィールドワークの記録を整理し、イベント企画の課題と解決方策についての気づきを整理する。(30分)
担当教員			
第12回	市民イベントへの参画ー2 市民団体、地域住民による地域振興のイベントへの参画を通して、コーディネーターの役割について学びを深める。	資料やWeb等によって、フィールドワーク先の地域や団体・取組の情報を調べ、訪問時の視点や想定の問題事項等を整理する。(15分)	メモや画像・映像など、フィールドワークの記録を整理し、コーディネーターの役割や課題の解決方策についての気づきを整理する。(30分)
担当教員			

第13回	市民イベントへの参画ー3 市民団体、地域住民による地域振興のイベントへの参画を通して、参加者・住民にとっての意義について、学びを深める。	資料やWeb等によって、フィールドワーク先の地域や団体・取組の情報を調べ、訪問時の視点や想定の問題事項等を整理する。(15分)	メモや画像・映像など、フィールドワークの記録を整理し、参加者・住民にとっての意義や課題の解決策についての気づきを整理する。(30分)
担当教員			
第14回	市民イベントへの参画ー4 市民団体、地域住民による地域振興のイベントへの参画を通して、学生を含む子ども・若者にとっての意義について、学びを深める。	資料やWeb等によって、フィールドワーク先の地域や団体・取組の情報を調べ、訪問時の視点や想定の問題事項等を整理する。(15分)	メモや画像・映像など、フィールドワークの記録を整理し、学生を含む子ども・若者にとっての意義や課題の解決策についての気づきを整理する。(30分)
担当教員			
第15回	ふりかえりとまとめ フィールドワークやボランティア体験等の中から、一つの事例を取り上げ、それに対する成果、課題とそれに対する具体的な改善方策等について発表する。	資料やメモ等によって、地域課題の解決やコーディネーターの役割等についての発表資料を整理する。(15分)	フィールドワークやボランティア体験等を通しての学びや気づきを整理し、2年時以降のゼミ活動に対する見通しを持つ。(30分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	①フィールドワークごとのふりかえり 50% ②個人課題 40% ③授業への参加度・出席態度 10%
その他	0	
教科書		
指定しない。		
参考文献		

授業中に紹介する。

履修条件・留意事項等

学外者等との協力の下、フィールドワークを展開する科目の性質上、日程・時間及び会場等の調整を行う場合があり、その場合は事前に知らせる。

備考欄

なし

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		演習科目 地域未来基礎					
科目名		地域未来創造基礎(Adventure)(吉岡 亜希子)				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	吉岡 亜希子						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーにおける「地域社会における教育の役割を理解し、教育学に関する専門的知識・技能を身につけ、生涯にわたり学び続ける素養を有した人材を養成する。(知識・技能)」及び「幅広い視点から地域課題を発見し、課題解決に向けて主体的に行動でき、かつ、地域において協働できる人的資源の開発や組織体制の構築に貢献できる。(思考・判断・表現)」ことと特に関係がある科目である。

授業の概要

本科目は、地域の未来を創造していくための基礎を身に付けることを目的とする。教育学をはじめ、地域創生に資する学術分野における基礎知識の理解と習得を踏まえた上で、道内の地域を広く調査し、地域特性や地域間の違いを認識しながら、マネジメントやマーケティングの側面を通して、地域の性質に合わせたアプローチの必要性を理解することを目指す。

到達目標

① 本学が本拠とする地域(恵庭市)での学習経験を踏まえ、さらに知識や技能を高め、フィールド範囲をより広げることを通じて、地域特性や地域間格差といった特長や差異について比較や説明ができる。

② 地域が直面する特性的な課題を発見し、それらに対する具体的な方策について企画及びその実施に向けた検討を行うことができる。

授業の方法

印刷物・動画資料などを用いた事前学習を経て、フィールドワークやボランティア体験を行い、地域で主体的に活動するキーパーソンへのヒアリングやグループによるディスカッションを展開する。

ICT活用

印刷物・動画資料などを用いた事前学習を経て、フィールドワークやボランティア体験を行い、地域で主体的に活動するキーパーソンへのヒアリングやグループによるディスカッションを展開する。

実務経験のある教員の教育内容

市民活動として行っている子育て支援に関連する団体運営、学びの場づくり等でのコーディネーター経験を活かした授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

Google classroom、Google formを活用してフィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 本科目の概要(授業の進め方、目指す到達点、内容、日程等)について)理解を深める。	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			
第2回	社会福祉の作業体験 ①前期の科目「地域を知る(地域未来創造入門)」のフィールドワーク先を再訪し、取組の詳細を学ぶ。	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			
第3回	社会福祉の作業体験 ②前期の科目「地域を知る(地域未来創造入門)」のフィールドワーク先を再訪し、コーディネーターの役割について学びを深める。	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			

第4回	地域課題の解決先進地でのフィールドワーク ①地域課題の解決に向けた取組の先進地を訪れ、課題解決の実情や課題について学ぶ。	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			
第5回	地域課題の解決先進地でのフィールドワーク ②地域課題の解決に向けた取組の先進地を訪れ、コーディネーターや実践者との意見交換を行う～前半	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			
第6回	地域課題の解決先進地でのフィールドワーク ③地域課題の解決に向けた取組の先進地を訪れ、コーディネーターや実践者との意見交換を行う～後半	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			

第7回	地域課題の解決先進地でのフィールドワーク ④地域課題の解決に向けた取組の先進地を訪れ、今後の本格的な調査研究活動に向けた着眼点や対応の仕方を学ぶ	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			
第8回	中間まとめ 2つのフィールドワークをふりかえり、地域課題の解決やコーディネーターの役割等について発表する。他者の気づきに触れ、学びを深めるとともに、今後のフィールドワークに対する見通しを持つ。	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			
第9回	地域の子育て支援にかかわる講演会・学習会の企画立案～地域住民による実行委員会形式の子育て講演会・学習会にボランティアとして関わり、コーディネーターの役割について学びを深める。	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			

第10回	地域の子育て支援にかかわる講演会・学習会の実施・運営 ～地域住民による実行委員会形式の子育て講演会・学習会にボランティアとして関わり、運営について学びを深める。	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			
第11回	市民イベントへの参画 ①市民団体、地域住民による地域振興としてのイベントについて学ぶ。	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			
第12回	市民イベントへの参画 ②取組の企画や運営の基本的な考え方について学ぶ。	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			

第13回	市民イベントへの参画 ③コーディネーターの役割について、学びを深める～前半	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			
第14回	市民イベントへの参画 ④コーディネーターの役割について、学びを深める～後半	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			
第15回	ふりかえりとまとめ フィールドワークやボランティア体験等の中から、一つの事例を取り上げ、それに対する成果、課題とそれに対する具体的な改善方策等について発表する。	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	①フィールドワークごとのふりかえり 50% ②個人課題 40% ③授業への参加度・出席態度 10%
その他	0	
教科書		
特に指定しない。		
参考文献		

授業内で適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

学外者等との協力の下、フィールドワークを展開する科目の性質上、日程・時間及び会場等の調整を行う場合があり、その場合は事前に知らせる。

備考欄

なし

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		演習科目 地域未来基礎					
科目名		地域未来創造基礎(Adventure)(木村 悠里菜)				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	木村 悠里菜						

授業の位置づけ

本科目は、商業と都市空間の形成・変遷を経済・政策・社会的文脈から分析し、持続可能な地域経済の構築と新たな価値創造を探究する。商業を社会的・文化的構築物として捉え、行政の役割や地域主体の取組を考察し、批判的視点を養う。ディプロマ・ポリシーの地域社会の中核的コーディネーターとして、多様な主体とのつながりを生み出し、包摂的で持続可能な地域コミュニティを他者と共創できる、幅広い視点から地域課題を発見し、課題解決に向けて主体的に行動できる。さらに、地域において協働できる人的資源の開発や組織体制の構築に貢献できることと関連する。

授業の概要

本科目は、地域の未来を創造していくための基礎を身に付けることを目的とする。教育学をはじめ、地域創生に資する学術分野における基礎知識の理解と習得を踏まえた上で、道内の地域を広く調査し、地域特性や地域間の違いを認識しながら、マネジメントやマーケティングの側面を通して、地域の性質に合わせたアプローチの必要性を理解することを目指す。

到達目標

本科目を通じて、受講生は、都市と地方の商業の変遷とその社会的・文化的意義を批判的に理解し、市場経済・贈与経済・都市ガバナンスの相互作用を分析できる。行政・地域コミュニティ・企業の関係性を多角的に考察し、持続可能な地域経済の在り方を理論と実践の両面から検討できる。さらに、地域課題を発見し、主体的に議論を深めることで、商業と社会の未来について独自の視点を構築できる。

授業の方法

- ・パワーポイントによるプレゼンテーション資料と教科書等を併用しながら、講義形式とアクティブラーニングの手法を取り入れた演習方式の授業を実施する。
- ・理解度確認のために、最終成果発表を実施する。

ICT活用

- ・パワーポイントによるプレゼンテーション資料と教科書等を併用しながら、視覚的に内容が理解しやすい授業を実施する。
- ・Google Classroomを活用し、配布資料を共有するため、授業前に各自印刷し持参する。

実務経験のある教員の教育内容

消費財メーカーのマーケティング職や外資系コンサルティングファームでの経営コンサルタント職や、全国のまちづくり活動等での実務経験を活かして、実例を交えた具体的な授業を実施する。

課題に対するフィードバックの方法

各授業において振り返りを実施し、学生の理解度の確認を行う。加えて質問については、解説を適宜実施する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーションの実施と、小売業起点のまちづくりの意義および本授業の目的を確認する。	小売業と都市開発の関係を探る。小売業の空間が地域経済や社会構造にどのような影響を与えるかを考察し、関連する事例を調査し、授業の議論に備えて要点をまとめる。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第2回	まちづくりの初期段階を振り返り、流通革命や商業近代化政策が都市空間に与えた影響を分析する。①都市空間の変容と商業の近代化:制度改革の影響を探る	授業内で指示された課題を実施する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第3回	まちづくりの初期段階を振り返り、流通革命や商業近代化政策が都市空間に与えた影響を分析する。②小売業の進化と都市形成:歴史的視点から見る商業の役割	授業内で指示された課題を実施する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			

第4回	規制緩和と空き店舗問題を軸に、政策介入と市場メカニズムが商業空間を形成するプロセスを検討する。①空き店舗問題の背景と政策介入:市場のダイナミクスを分析する	授業内で指示された課題を実施する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第5回	規制緩和と空き店舗問題を軸に、政策介入と市場メカニズムが商業空間を形成するプロセスを検討する。②規制緩和がもたらす商業の再編と都市空間の変化	授業内で指示された課題を実施する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第6回	地方分権と都市計画の変遷を追い、行政が果たすべき役割と市場との相互作用を批判的に考察する。①都市ガバナンスの変遷と市場の役割:地方行政の視点から考察	授業内で指示された課題を実施する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			

第7回	地方分権と都市計画の変遷を追い、行政が果たすべき役割と市場との相互作用を批判的に考察する。②分権化による地域経済の変容と持続可能な都市戦略	授業内で指示された課題を実施する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第8回	都市を財政・統計データから分析し、SWOT分析や比較手法を用いた商業政策の意思決定プロセスを探究する。①統計と財政データから都市商業を読み解く:SWOT分析の活用	授業内で指示された課題を実施する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第9回	都市を財政・統計データから分析し、SWOT分析や比較手法を用いた商業政策の意思決定プロセスを探究する。②数値化された都市:データ主導型商業政策の可能性	授業内で指示された課題を実施する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			

第10回	都市資源の可視化と価値創造のプロセスを検討し、負の資源を活用した地域再生モデルを事例とともに分析する。①負の資源を価値へ転換:地域再生の実践的アプローチ	授業内で指示された課題を実施する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第11回	都市資源の可視化と価値創造のプロセスを検討し、負の資源を活用した地域再生モデルを事例とともに分析する。②都市資源の再定義と創造的活用:文化・経済の交差点	授業内で指示された課題を実施する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第12回	商業組織の法人化や資金調達の戦略を考察し、まちづくりを担う人材とそのネットワーク構築の課題を探る。①商業組織の持続性と法人化の戦略:成功事例と課題の比較	授業内で指示された課題を実施する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			

第13回	商業組織の法人化や資金調達の戦略を考察し、まちづくりを担う人材とそのネットワーク構築の課題を探る。②まちづくりを担うネットワーク構築と資金調達の新たな方法	授業内で指示された課題を実施する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第14回	学生によるプレゼンテーション①と、発表内容をめぐるディスカッションを実施する。	授業内で指示された課題を実施する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第15回	学生によるプレゼンテーション②と、発表内容をめぐるディスカッションを実施し、授業全体の振り返りを行う。	授業内で指示された課題を実施する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	60	最終成果発表
その他	40	事前課題提出・授業態度や意欲等
教科書		
本科目では、学術的な視座を深めるための基本文献を指定する。具体的な文献については、初回授業時に共有し、授業の進行に応じて補助的な参考資料を適宜提示する。		
参考文献		

授業内で順次紹介する。

履修条件・留意事項等

本授業では、出欠管理を授業内で実施し、ディスカッションへの積極的参加を必須とする。準備・事後学習に取り組まない、またはディスカッションに参加しない場合は、退室・欠席扱いとなることがある。フィールドワークの実施有無や形式については、受講生の意向や実施可能性を踏まえ、授業内で相談の上決定する。

備考欄

なし

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		演習科目 地域未来演習					
科目名		地域未来創造演習 I (Beginning) (熊野 稔)				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	2
担当教員	熊野 稔						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーにおける「地域社会の中核的コーディネーターとして、多様な主体とのつながりを生み出し、包摂的で持続可能な地域コミュニティを他者と共創できる。(知識・技能)」、及び「幅広い視点から地域課題を発見し、課題解決に向けて主体的に行動でき、かつ、地域において協働できる人的資源の開発や組織体制の構築に貢献できる。(思考・判断・表現)」ことと特に関係がある科目である。3年次の「地域未来創造演習Ⅱ (Creative)」、「地域未来創造演習Ⅲ (Driven)」の基礎となる科目である。

授業の概要

本科目では、道内はもちろん、道外地域も対象に、2年次前期までに受講した講義や、地域でのフィールドワークで習得した知識やスキルと、2年次後期以降で関心を深めたい専門分野の両方を踏まえつつ、少人数グループで協働して意見交換およびプレゼンテーションを実施し、地域の現状と課題および自らの強い関心分野について、発見することを目指す。

到達目標

- ①自己の問題意識を説明できる。
- ②フィールドワークにおけるヒアリング項目や行程など、調査計画を作成することができる。
- ③フィールドワークの結果から自己の問題意識にかかわる地域の現状や課題を指摘できる。
- ④多様な立場や考えに配慮しながらディスカッションに参加できる。

授業の方法

問題意識の明確化、事前準備、フィールドワークの計画等は受講生のディスカッションによって進める。フィールドワークの報告、まとめでは受講生がプレゼンテーションを行う。また、1年次後期の「地域未来創造基礎(Adventure)」の補助を行う。

ICT活用

Google classroom、Google form を用いた双方向授業を行う。意見や感想の共有、議論に活用する。

実務経験のある教員の教育内容

地域づくりや都市計画に関する調査研究報告書策定などの業務経験を活かして、実務能力を高めるように指導する。

課題に対するフィードバックの方法

Google classroom、Google form等を活用してフィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 本科目の概要(授業の進め方、目指す到達点、内容、日程等)について理解を深める。	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員	熊野 稔		
第2回	フィールドワーク①に向け、自己の関心分野、問題意識を発見するためのディスカッションを行う。資料検索等実施～a) 関心分野の分析	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員	熊野 稔		
第3回	フィールドワーク①に向け、自己の関心分野、問題意識を発見するためのディスカッションを行う。資料検索等実施～b) 問題意識の分析	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員	熊野 稔		

第4回	フィールドワーク①に向け、自己の関心分野、問題意識を発見するためのディスカッションを行う。資料検索等実施～c)問題意識の共有	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員	熊野 稔		
第5回	フィールドワーク①の準備 各自の問題意識に対応した情報収集、フィールドワークの計画書づくり～ a) 情報収集の手法	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員	熊野 稔		
第6回	フィールドワーク①の準備 各自の問題意識に対応した情報収集、フィールドワークの企画・計画書づくり ～b) 情報の収集	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員	熊野 稔		

第7回	フィールドワーク①の準備 各自の問題意識に対応した情報収集、フィールドワークの計画書づくり～ c)フィールドワークの計画書づくり	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員	熊野 稔		
第8回	フィールドワーク①の準備 各自の問題意識に対応した情報収集、フィールドワークの計画書づくり～d)フィールドワーク計画書の共有	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員	熊野 稔		
第9回	フィールドワーク①の実施 調査、写真撮影、ヒアリング等～ a)ヒアリングの実施・前半	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員	熊野 稔		

第10回	フィールドワーク①の実施 調査、ヒアリング等～ b)ヒアリングの実施・後半	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員	熊野 稔		
第11回	フィールドワーク①で得た内容の整理～a) 内容の整理	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員	熊野 稔		
第12回	フィールドワーク①で得た内容の整理・分析 ～b) 内容の共有	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員	熊野 稔		

第13回	フィールドワーク①の報告、共有～a)前半	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員	熊野 稔		
第14回	フィールドワーク①の報告、共有～b)後半	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員	熊野 稔		
第15回	フィールドワーク①のまとめ、講評～a)前半	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	全体を通じて、学習内容を振り返り、レポートをまとめる。(90分)
担当教員	熊野 稔		

第16回	フィールドワーク①のまとめ、講評～b)後半	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員	熊野 稔		
第17回	フィールドワーク②に向け、自己の関心分野、問題意識を深めるためのディスカッションを行う。資料収集等 ～a)関心分野の分析	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員	熊野 稔		
第18回	フィールドワーク②に向け、自己の関心分野、問題意識を深めるためのディスカッションを行う。～b)問題意識の分析・共有	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員	熊野 稔		

第19回	フィールドワーク②の準備 各自の問題意識に対応した情報収集、フィールドワークの計画書づくり～a) 情報収集の手法	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員	熊野 稔		
第20回	フィールドワーク②の準備 各自の問題意識に対応した情報収集、フィールドワークの計画書づくり～b) 情報の収集	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員	熊野 稔		
第21回	フィールドワーク②の準備 各自の問題意識に対応した情報収集、フィールドワークの計画書づくり～c) フィールドワーク計画書づくり	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員	熊野 稔		

第22回	フィールドワーク②の準備 各自の問題意識に対応した情報収集、フィールドワークの計画書づくり～d)フィールドワーク計画書の共有	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員	熊野 稔		
第23回	フィールドワーク②の実施 調査、ヒアリング等～a)ヒアリングの実施・前半	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員	熊野 稔		
第24回	フィールドワーク②の実施 調査、ヒアリング等～b)ヒアリングの実施・後半	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員	熊野 稔		

第25回	フィールドワーク②で得た内容の整理～a) 内容の整理	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員	熊野 稔		
第26回	フィールドワーク②で得た内容の整理～b) 内容の共有	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員	熊野 稔		
第27回	フィールドワーク②の報告、共有～a) 報告、共有・前半	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員	熊野 稔		

第28回	フィールドワーク②の報告、共有～b) 報告、共有・後半	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員	熊野 稔		
第29回	フィールドワーク②のまとめ、講評～a) 前半	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員	熊野 稔		
第30回	フィールドワーク②のまとめ、講評～b) 後半	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	全体を通じて学習内容を振り返り、まとめる。(60分)
担当教員	熊野 稔		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	①フィールドワークの事前準備・計画書40% ②フィールドワークのレポート報告・プレゼンテーション50% ③授業への参加度・出席態度 10%
その他	0	
教科書		
無し		
参考文献		

授業内で適宜資料を配布し、紹介する。

履修条件・留意事項等

学外者等との協力の下、フィールドワークを展開する科目の性質上、日程・時間及び会場等の調整を行う場合があり、その場合は事前に知らせる。

備考欄

本演習は、9月等にフィールドに赴き、集中演習で済ませることも可能とする。

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		演習科目 地域未来演習					
科目名		地域未来創造演習 I (Beginning) (木村 俊昭)				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	2
担当教員	木村 俊昭						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーにおける「地域社会における教育の役割を理解し、教育学に関する専門的知識・技能を身につけ、生涯にわたり学び続ける素養を有した人材を養成する。(知識・技能)」を実践する科目である。

授業の概要

本科目は、地域の未来を創造していくための基礎から応用を身に付けることを目的とする。教育学をはじめ、地域創生に資する学術分野における基礎編から応用編に進むため、その理解と習得を踏まえたうえで、道内の自治体政策を調査研究し、地域特性や地域間の違いを認識しながら、マネジメントやマーケティング手法等を通じて、地域実情に合わせたアプローチの必要性を理解することを目指すもの。

到達目標

本学が本拠とする地域(恵庭市)や連携自治体での学習経験を踏まえ、さらに知識や技能を高めること、フィールド範囲をより広げることを通じて、地域特性や地域間格差といった特長や差異について比較や説明できる。また、地域が直面する特性的な課題を発見し、それらに対する具体的な方策について企画したり、その実施に向けた検討を行うことができる。

授業の方法

主に、パワーポイント資料、印刷物・動画資料などを用い、必要に応じてフィールドワークを行ったり、地域で主体的に活動する人からのブリーフィングやディスカッションを展開する。なお、詳細な授業方法については担当教員の指示による。

ICT活用

主に、課題や授業連絡などのやり取りにGoogle classroomを活用する。なお、詳細については担当教員の指示による。

実務経験のある教員の教育内容

国家公務員や地方公務員、大学教員の経験を持つ私のほか、必要に応じて、連携大学の教員、企業経営者等の実務経験のある教員が指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

担当教員の指示による。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	ガイダンス 本科目の概要説明(授業の進め方、目指す到達点、内容、日程等について)後、履修生の自己紹介を行う。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生の知り気づきや経験を整理のうえ、講義業に臨むこと。(45分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(45分)
担当教員			
第2回	地域創生の現状と政策課題に関して講義後、問い立て、対話のうえ、理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生の知り気づきや経験を整理のうえ、講義業に臨むこと。(45分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(45分)
担当教員			
第3回	地域創生の現状と政策課題に関して講義後、問い立て、対話のうえ、理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生の知り気づきや経験を整理のうえ、講義業に臨むこと。(45分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(45分)
担当教員			

第4回	地域創生の政策研究の整理に関して講義後、問い立て、対話のうえ、理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生の知り気づきや経験を整理のうえ、講義業に臨むこと。(45分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(45分)
担当教員			
第5回	地域創生の政策研究の整理に関して講義後、問い立て、対話のうえ、理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生の知り気づきや経験を整理のうえ、講義業に臨むこと。(45分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(45分)
担当教員			
第6回	地域創生の政策研究の整理に関して講義後、問い立て、対話のうえ、理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生の知り気づきや経験を整理のうえ、講義業に臨むこと。(45分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(45分)
担当教員			

第7回	地域創生の政策主体としての自治体のあり方に関して講義後、問い立て、対話のうえ、理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生の知り気づきや経験を整理のうえ、講義業に臨むこと。(45分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(45分)
担当教員			
第8回	地域創生の政策主体としての自治体のあり方に関して講義後、問い立て、対話のうえ、理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生の知り気づきや経験を整理のうえ、講義業に臨むこと。(45分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(45分)
担当教員			
第9回	地域創生の政策主体としての自治体のあり方に関して講義後、問い立て、対話のうえ、理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生の知り気づきや経験を整理のうえ、講義業に臨むこと。(45分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(45分)
担当教員			

第10回	地域政策の変遷と地域創生に関して講義後、問い立て、対話のうえ、理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生の知り気づきや経験を整理のうえ、講義業に臨むこと。(45分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(45分)
担当教員			
第11回	地域政策の変遷と地域創生に関して講義後、問い立て、対話のうえ、理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生の知り気づきや経験を整理のうえ、講義業に臨むこと。(45分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(45分)
担当教員			
第12回	地域政策の変遷と地域創生に関して講義後、問い立て、対話のうえ、理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生の知り気づきや経験を整理のうえ、講義業に臨むこと。(45分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(45分)
担当教員			

第13回	地域人財の養成と定着に関して講義後、問い立て、対話のうえ、理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生の知り気づきや経験を整理のうえ、講義業に臨むこと。(45分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(45分)
担当教員			
第14回	地域人財の養成と定着に関して講義後、問い立て、対話のうえ、理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生の知り気づきや経験を整理のうえ、講義業に臨むこと。(45分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(45分)
担当教員			
第15回	地域人財の養成と定着に関して講義後、問い立て、対話のうえ、理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生の知り気づきや経験を整理のうえ、講義業に臨むこと。(45分)	配布資料や講義内容を再度復習し、知識と知恵として身に付けること。(45分)
担当教員			

第16回	地域人財の養成と定着に関して講義後、問い立て、対話のうえ、理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生の知り気づきや経験を整理のうえ、講義業に臨むこと。(45分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(45分)
担当教員			
第17回	地域創生の実践的な先駆事例に関して講義後、問い立て、対話のうえ、理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生の知り気づきや経験を整理のうえ、講義業に臨むこと。(45分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(45分)
担当教員			
第18回	地域創生の実践的な先駆事例に関して講義後、問い立て、対話のうえ、理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生の知り気づきや経験を整理のうえ、講義業に臨むこと。(45分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(45分)
担当教員			

第19回	地域創生の実践的な先駆事例に関して講義後、問い立て、対話のうえ、理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生の知り気づきや経験を整理のうえ、講義業に臨むこと。(45分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(45分)
担当教員			
第20回	地域創生の実践的な先駆事例に関して講義後、問い立て、対話のうえ、理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生の知り気づきや経験を整理のうえ、講義業に臨むこと。(45分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(45分)
担当教員			
第21回	地域創生の実践的な先駆事例に関して講義後、問い立て、対話のうえ、理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生の知り気づきや経験を整理のうえ、講義業に臨むこと。(45分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(45分)
担当教員			

第22回	地域創生の実践的な先駆事例に関して講義後、問い立て、対話のうえ、理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生の知り気づきや経験を整理のうえ、講義業に臨むこと。(45分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(45分)
担当教員			
第23回	地域創生の現場入りし、実践者から政策・事業構想内容をヒアリング後、問い立て、対話のうえ、あるべき姿、その解決策を思考する。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生の知り気づきや経験を整理のうえ、講義業に臨むこと。(45分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(45分)
担当教員			
第24回	地域創生の現場入りし、実践者から政策・事業構想内容をヒアリング後、問い立て、対話のうえ、あるべき姿、その解決策を思考する。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生の知り気づきや経験を整理のうえ、講義業に臨むこと。(45分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(45分)
担当教員			

第25回	地域創生の現場入りし、実践者から政策・事業構想内容をヒアリング後、問い立て、対話のうえ、あるべき姿、その解決策を思考する。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生の知り気づきや経験を整理のうえ、講義業に臨むこと。(45分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(45分)
担当教員			
第26回	地域創生の現場入りし、実践者から政策・事業構想内容をヒアリング後、問い立て、対話のうえ、あるべき姿、その解決策を思考する。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生の知り気づきや経験を整理のうえ、講義業に臨むこと。(45分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(45分)
担当教員			
第27回	地域創生の現場入りし、実践者から政策・事業構想内容をヒアリング後、問い立て、対話のうえ、あるべき姿、その解決策を思考する。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生の知り気づきや経験を整理のうえ、講義業に臨むこと。(45分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(45分)
担当教員			

第28回	学び、習い、問い立てした内容を整理し、地域の課題解決に向けての地域創生策を各自発表する。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生の知り気づきや経験を整理のうえ、講義業に臨むこと。(45分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(45分)
担当教員			
第29回	学び、習い、問い立てした内容を整理し、地域の課題解決に向けての地域創生策を各自発表する。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生の知り気づきや経験を整理のうえ、講義業に臨むこと。(45分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(45分)
担当教員			
第30回	学び、習い、問い立てした内容を整理し、地域の課題解決に向けての地域創生策を各自発表する。最終回として全体を総括する。	これまでの講義で得た地域創生の知り気づきや経験を整理のうえ、講義業に臨むこと。(45分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(45分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	講義時の課題提出、最終回による発表により、成績評価とする。
その他	0	なし。
教科書		
授業説明用の資料はメール添付にて配布する。		
参考文献		

授業時にその都度紹介する。

履修条件・留意事項等

日頃から地域創生の情報に関心を持つこと。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		演習科目 地域未来演習					
科目名		地域未来創造演習Ⅰ (Beginning) (中田 和彦)				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	2
担当教員	中田 和彦						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーにおける「地域社会の中核的コーディネーターとして、多様な主体とのつながりを生み出し、包摂的で持続可能な地域コミュニティを他者と共創できる。(知識・技能)」、及び「幅広い視点から地域課題を発見し、課題解決に向けて主体的に行動でき、かつ、地域において協働できる人的資源の開発や組織体制の構築に貢献できる。(思考・判断・表現)」ことと特に関係がある科目である。3年次の「地域未来創造演習Ⅱ (Creative)」、「地域未来創造演習Ⅲ (Driven)」の基礎となる科目である。

授業の概要

本科目では、道外地域も対象に、2年次前期までに受講した講義や、地域でのフィールドワークで習得した知識やスキルと、2年次後期以降で関心を深めたい専門分野の両方を踏まえつつ、少人数グループで協働して意見交換およびプレゼンテーションを実施し、地域の現状と課題および自らの強い関心分野について、発見することを目指す。

到達目標

- ①地域課題の解決に取り組むキーパーソンの役割について説明できる。
- ②フィールドワークにおけるヒアリング項目や行程など、調査計画を作成することができる。
- ③フィールドワークや2年次前期までに得た知見を活かして地域の現状や課題を指摘できる。
- ④多様な立場や考えに配慮しながらグループの協議に参加できる。

授業の方法

印刷物・動画資料などを用いた事前学習を経て、フィールドワークやボランティア体験を計画するなどして、地域の課題を探るとともに、多様な人材へのヒアリングやグループによるディスカッションを展開するほか、1年次後期の「地域未来創造基礎(Adventure)」の補助を行う。

ICT活用

- ・Google classroom、Google formを活用して、受講生の毎時の気づきの言語化、把握やフィードバックを行う。
- ・Goproを用いて、動画を撮影するなどして、まとめて活用する。

実務経験のある教員の教育内容

公立小学校教諭、校長として9年の学校現場勤務と市町村や国立青少年教育施設への派遣等、24年の社会教育行政の勤務経験があり、公教育や生涯学習について幅広いの知識を有している。この経験を活かし、これからの時代に求められる教育や学び、教育と地域づくりの関連性等について指導する。

課題に対するフィードバックの方法

- ・Google formを活用し、毎回の気づきを整理する。
- ・提出を要する課題に対しては、以降につながるコメントを付してフィードバックする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 本科目の概要(授業の進め方、目指す到達点、内容、日程等)について)理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た知識や経験を整理して授業に臨むこと。(25分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べ、講義全体に対する見通しを持つ。(20分)
担当教員			
第2回	フィールドワーク①の準備1 地域課題の解決に向けた取組の先進地でのフィールドワークに向け、諸情報の収集・整理を行う。	資料やWeb等によって、フィールドワーク先の地域や団体・取組の情報を調べ、訪問に当たっての諸準備、調整事項等を整理する。(25分)	講義やグループ協議を踏まえ、フィールドワークのテーマや準備について確認する。(20分)
担当教員			
第3回	フィールドワーク①の準備2 地域課題の解決に向けた取組の先進地でのフィールドワークに向け、調査等の計画を作成する。	資料やWeb等によって、フィールドワーク先の地域や団体・取組の情報を調べ、訪問に当たっての諸準備、調整事項等を整理する。(25分)	講義やグループ協議を踏まえ、フィールドワークのテーマや準備について確認する。(20分)
担当教員			

第4回	フィールドワーク①-1 計画に基づき、視察等のフィールドワークを行う。	フィールドワークの進め方や調査内容等を確認する。(25分)	フィールドワーク先で、調査内容等を報告書として整理する。(20分)
担当教員			
第5回	フィールドワーク①-2 計画に基づき、ヒアリング等のフィールドワークを行う。	フィールドワークの進め方や調査内容等を確認する。(25分)	フィールドワーク先で、調査内容等を報告書として整理する。(20分)
担当教員			
第6回	フィールドワーク①-3 計画に基づき、フィールドワークを行う。	フィールドワークの進め方や調査内容等を確認する。(25分)	フィールドワーク先で、調査内容等を報告書として整理する。(20分)
担当教員			

第7回	フィールドワーク①-4 フィールドワークのデータを整理する。	フィールドワークの進め方や調査内容等を確認する。(25分)	フィールドワーク先で、調査内容等を報告書として整理する。(20分)
担当教員			
第8回	フィールドワーク①のふりかえり フィールドワーク①をふりかえり、学びや気づきについて、全体で協議する。	フィールドワークの報告書を取りまとめ、発表の準備を行う。(25分)	発表に対するコメントや講評を整理する。(20分)
担当教員			
第9回	フィールドワーク②の準備 青少年教育施設でのフィールドワークに向け、諸情報の収集・整理をはじめ、調査等の計画を作成する。	資料やWeb等によって、フィールドワーク先の地域や団体・取組の情報を調べ、訪問に当たっての諸準備、調整事項等を整理する。(25分)	講義やグループ協議を踏まえ、フィールドワークのテーマや準備について確認する。(20分)
担当教員			

第10回	フィールドワーク②-1 青少年教育施設の運営の現状について理解を深める。	フィールドワークの進め方や調査内容等を確認する。(25分)	フィールドワーク先で、調査内容等を報告書として整理する。(20分)
担当教員			
第11回	フィールドワーク②-2 青少年教育施設における教育に関する問題意識について理解を深める。	フィールドワークの進め方や調査内容等を確認する。(25分)	フィールドワーク先で、調査内容等を報告書として整理する。(20分)
担当教員			
第12回	フィールドワーク②-3(前半) 青少年教育施設における課題解決に向けた取組についての理解を深める。	フィールドワークの進め方や調査内容等を確認する。(25分)	フィールドワーク先で、調査内容等を報告書として整理する。(20分)
担当教員			

第13回	フィールドワーク②-4(後半) 青少年教育施設における課題解決に向けた取組についての理解を深める	フィールドワークの進め方や調査内容等を確認する。(25分)	フィールドワーク先で、調査内容等を報告書として整理する。(20分)
担当教員			
第14回	フィールドワーク②-5 青少年教育施設の利用者へのヒアリングを行う。	フィールドワークの進め方や調査内容等を確認する。(25分)	フィールドワーク先で、調査内容等を報告書として整理する。(20分)
担当教員			
第15回	フィールドワーク②-6 青少年教育施設の職員やボランティアへのヒアリングを行う。	フィールドワークの進め方や調査内容等を確認する。(25分)	フィールドワーク先で、調査内容等を報告書として整理する。(20分)
担当教員			

第16回	フィールドワーク②のふりかえり フィールドワーク②をふりかえり、学びや気づきについて、全体で協議する。	フィールドワークの報告書を取りまとめ、発表の準備を行う。(25分)	発表に対するコメントや講評を整理する。(20分)
担当教員			
第17回	フィールドワーク③の準備-1 地域行事の実行委員会に参画する。	資料やWeb等によって、フィールドワーク先の地域や団体・取組の情報を調べ、訪問に当たっての諸準備、調整事項等を整理する。(25分)	講義やグループ協議を踏まえ、フィールドワークのテーマや準備について確認する。(20分)
担当教員			
第18回	フィールドワーク③の準備-2 地域行事のコーディネーターの活動について理解を深める。	資料やWeb等によって、フィールドワーク先の地域や団体・取組の情報を調べ、訪問に当たっての諸準備、調整事項等を整理する。(25分)	講義やグループ協議を踏まえ、フィールドワークのテーマや準備について確認する。(20分)
担当教員			

第19回	フィールドワーク③-1(前半) 地域行事のボランティア体験を通して、地域課題の解決現場についての理解を深める。	フィールドワークの進め方や調査内容等を確認する。(25分)	フィールドワーク先で、調査内容等を報告書として整理する。(20分)
担当教員			
第20回	フィールドワーク③-2(後半) 地域行事のボランティア体験を通して、地域課題の解決現場についての理解を深める。	フィールドワークの進め方や調査内容等を確認する。(25分)	フィールドワーク先で、調査内容等を報告書として整理する。(20分)
担当教員			
第21回	フィールドワーク④の準備1 市民イベントの実行委員会へ参画し、ボランティアのネットワークやコーディネートの在り方について理解を深める。	資料やWeb等によって、取組の情報を調べ、調整事項等を整理する。(25分)	講義やグループ協議を踏まえ、フィールドワークのテーマや準備について確認する。(20分)
担当教員			

第22回	フィールドワーク④の準備2(前半) 市民イベントへ参画するためのプログラムの企画、運営等に関する企画会議を行う。	資料やWeb等によって、取組の情報を調べ、調整事項等を整理する。(25分)	講義やグループ協議を踏まえ、フィールドワークのテーマや準備について確認する。(20分)
担当教員			
第23回	フィールドワーク④の準備3(後半) 市民イベントへ参画するためのプログラムの企画、運営等に関する企画会議を行い、企画書を決定する。	資料やWeb等によって、取組の情報を調べ、調整事項等を整理する。(25分)	講義やグループ協議を踏まえ、フィールドワークのテーマや準備について確認する。(20分)
担当教員			
第24回	フィールドワーク④の準備4 企画書の内容について、ゼミの1年生と情報を共有し、役割分担や諸準備を進める。	プログラムの企画書や役割分担等について確認する。(25分)	企画書や運営細案等の修正点について確認する。(20分)
担当教員			

第25回	フィールドワーク④-1(前半) 市民イベントの前日準備を通して、物品の準備等、ロジスティックの基本について理解を深める。	プログラムの企画書や役割分担等について確認する。(25分)	企画書や運営細案等の修正点について確認する。(20分)
担当教員			
第26回	フィールドワーク④-2(後半) 市民イベントの前日準備を通して、ボランティアコーディネートの基本について理解を深める。	プログラムの企画書や役割分担等について確認する。(25分)	企画書や運営細案等の修正点について確認する。(20分)
担当教員			
第27回	フィールドワーク④-3(前半) 市民イベントへの参画を通して、全体の調整や細部への配慮など、プロジェクトマネジメントについて理解を深める。	プログラムの企画書や役割分担等について確認する。(25分)	企画書や運営細案等の修正点について確認する。(20分)
担当教員			

第28回	フィールドワーク④-4(後半) 市民イベントへの参画を通して、全体の調整や細部への配慮など、プロジェクトマネジメントについて理解を深める。	プログラムの企画書や役割分担等について確認する。(25分)	企画書や運営細案等の修正点について確認する。(20分)
担当教員			
第29回	フィールドワーク④-5 市民イベントへの参画を通して、全体の調整や細部への配慮など、プロジェクトマネジメントについて理解を深める。	プログラムの企画書や役割分担等について確認する。(25分)	企画書や運営細案等の修正点について確認する。(20分)
担当教員			
第30回	ふりかえりとまとめ フィールドワークやボランティア体験等を通して、取組の成果や課題、改善方策等についてチームで協議し、発表する。	資料やメモ等によって、地域課題の解決やコーディネーターの役割等についての発表資料を整理する。(45分)	フィールドワークやボランティア体験等を通しての学びや気づきを整理し、3年時のゼミ活動に対する見通しを持つ。(45分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	①フィールドワークごとのふりかえり 50% ②個人課題 40% ③授業への参加度・出席態度 10%
その他	0	
教科書		
なし		
参考文献		

適宜指定ないし提供された、テーマ・トピックに係る知識獲得に資する資料等を使用する。

履修条件・留意事項等

・学外者等との協力の下、フィールドワークを展開する科目の性質上、日程・時間及び会場等の調整を行う場合があり、その場合は事前に知らせる。

備考欄

宿泊を伴うフィールドワークあり。

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		演習科目 地域未来演習					
科目名		地域未来創造演習Ⅰ (Beginning) (宮崎 隆志)				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	2
担当教員	宮崎 隆志						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーにおける「地域社会の中核的コーディネーターとして、多様な主体とのつながりを生み出し、包摂的で持続可能な地域コミュニティを他者と共創できる。(知識・技能)」、及び「幅広い視点から地域課題を発見し、課題解決に向けて主体的に行動でき、かつ、地域において協働できる人的資源の開発や組織体制の構築に貢献できる。(思考・判断・表現)」ことと特に関係がある科目である。3年次の「地域未来創造演習Ⅱ (Creative)」、「地域未来創造演習Ⅲ (Driven)」の基礎となる科目である。

授業の概要

本科目では、2年次前期までに受講した講義や、地域でのフィールドワークで習得した知識やスキルと、2年次後期以降で関心を深めたい専門分野の両方を踏まえつつ、少人数グループで協働して意見交換およびプレゼンテーションを実施し、地域の現状と課題および自らの強い関心分野について、発見することを目指す。

到達目標

- ①地域課題の解決に取り組むキーパーソンの役割について説明できる。
- ②フィールドワークにおけるヒアリング項目や行程など、調査計画を作成することができる。
- ③フィールドワークや2年次前期までに得た知見を活かして地域の現状や課題を指摘できる。
- ④多様な立場や考えに配慮しながらグループの協議に参加できる。

授業の方法

印刷物・動画資料などを用いた事前学習を経て、フィールドワークやボランティア体験を計画するなどして、地域の課題を探るとともに、多様な人材へのヒアリングやグループによるディスカッションを展開するほか、1年次後期の「地域未来創造基礎(Adventure)」の補助を行う。

ICT活用

- ・Google classroom、Google formを活用して、受講生の毎時の気づきの言語化、把握やフィードバックを行う。

実務経験のある教員の教育内容

該当しない

課題に対するフィードバックの方法

- ・Google formを活用し、毎回の気づきを整理する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 本科目の概要(授業の進め方、目指す到達点、内容、日程等)について)理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た知識や経験を整理して授業に臨むこと。(30分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べ、講義全体に対する見通しを持つ。(30分)
担当教員			
第2回	フィールドワーク①の準備 地域課題の解決に向けた取組の先進地でのフィールドワークに向け、諸情報を収集し整理する。	資料やWeb等によって、フィールドワーク先の地域や団体・取組の情報を調べ、訪問に当たっての諸準備、調整事項等を整理する。(15分)	講義やグループ協議を踏まえ、フィールドワークのテーマや準備について確認する。(30分)
担当教員			
第3回	フィールドワーク①の準備 諸情報の収集・整理の結果を踏まえて、調査等の計画を作成する。	第2回授業で課題となったフィールドワーク先の地域や団体・取組の情報をさらに調べ、調査に当たっての調整事項等を整理する。(15分)	講義やグループ協議を踏まえ、フィールドワークのテーマや準備について確認する。(20分)
担当教員			

第4回	フィールドワーク①:地域状況を把握する 事前に決めたテーマに基づき、フィールドワークを行う。	フィールドワークの進め方や調査内容等を確認する。(15分)	フィールドワーク先で、調査内容等を報告書として整理する。(30分)
担当教員			
第5回	フィールドワーク①:地域活動に参加する 事前に決めたテーマに基づき、フィールドワークを行う。	フィールドワークの進め方や調査内容等を確認する。(15分)	フィールドワーク先で、調査内容等を報告書として整理する。(30分)
担当教員			
第6回	フィールドワーク①:関係者へのインタビューを行う 事前に決めたテーマに基づき、フィールドワークを行う。	フィールドワークの進め方や調査内容等を確認する。(15分)	フィールドワーク先で、調査内容等を報告書として整理する。(30分)
担当教員			

第7回	フィールドワーク①:現場で得た知見を整理する 事前に決めたテーマに基づき、フィールドワークを行う。	フィールドワークの進め方や調査内容等を確認する。(15分)	フィールドワーク先で、調査内容等を報告書として整理する。(30分)
担当教員			
第8回	フィールドワーク①のふりかえり フィールドワーク①をふりかえり、学びや気づきについて、全体で協議する。	フィールドワークの報告書を取りまとめ、発表の準備を行う。(15分)	発表に対するコメントや講評を整理する。(30分)
担当教員			
第9回	フィールドワーク②の準備 受講者との協議によりフィールドワーク対象を定め、諸情報を収集し整理する。	資料やWeb等によって、フィールドワーク先の地域や団体・取組の情報を調べ、訪問に当たっての諸準備、調整事項等を整理する。(15分)	講義やグループ協議を踏まえ、フィールドワークのテーマや準備について確認する。(30分)
担当教員			

第10回	フィールドワーク②:実践現場の状況を知る フィールドとワーク先における教育課題の解決に向けた取組 についてのフィールドワークを行う。	フィールドワークの進め方や調査内容等を確認する。(15分)	フィールドワーク先で、調査内容等を報告書として整理する。(30分)
担当教員			
第11回	フィールドワーク②:実践現場の教育課題を再考する フィールドとワーク先における教育課題の解決に向けた取組 についてのフィールドワークを行う。	フィールドワークの進め方や調査内容等を確認する。(15分)	フィールドワーク先で、調査内容等を報告書として整理する。(30分)
担当教員			
第12回	フィールドワーク②:実践現場における支援者の機能を検討する フィールドとワーク先における教育課題の解決に向けた取組 についてのフィールドワークを行う。	フィールドワークの進め方や調査内容等を確認する。(15分)	フィールドワーク先で、調査内容等を報告書として整理する。(30分)
担当教員			

第13回	フィールドワーク②:実践現場の管理・運営について知る フィールドとワーク先における教育課題の解決に向けた取組 についてのフィールドワークを行う。	フィールドワークの進め方や調 査内容等を確認する。(15分)	フィールドワーク先で、調査内容 等を報告書として整理する。(30 分)
担当教員			
第14回	フィールドワーク②:実践現場の評価を検討する フィールドとワーク先における教育課題の解決に向けた取組 についてのフィールドワークを行う。	フィールドワークの進め方や調 査内容等を確認する。(15分)	フィールドワーク先で、調査内容 等を報告書として整理する。(30 分)
担当教員			
第15回	フィールドワーク②:実践現場の教育達成を検討する フィールドとワーク先における教育課題の解決に向けた取組 についてのフィールドワークを行う。	フィールドワークの進め方や調 査内容等を確認する。(15分)	フィールドワーク先で、調査内容 等を報告書として整理する。(30 分)
担当教員			

第16回	フィールドワーク②のふりかえり フィールドワーク②をふりかえり、学びや気づきについて、全体で協議する。	フィールドワークの報告書を取りまとめ、発表の準備を行う。(30分)	発表に対するコメントや講評を整理する。(30分)
担当教員			
第17回	フィールドワーク③の準備 地域行事の実行委員会に参画し、企画・運営の現場について理解を深める。	資料やWeb等によって、フィールドワーク先の地域や団体・取組の情報を調べ、訪問に当たっての諸準備、調整事項等を整理する。(45分)	講義やグループ協議を踏まえ、フィールドワークのテーマや準備について確認する。(45分)
担当教員			
第18回	フィールドワーク③の準備 地域行事の実行委員会に参画し、コーディネーターの活動について理解を深める。	資料やWeb等によって、フィールドワーク先の地域や団体・取組の情報を調べ、訪問に当たっての諸準備、調整事項等を整理する。(15分)	講義やグループ協議を踏まえ、フィールドワークのテーマや準備について確認する。(30分)
担当教員			

第19回	フィールドワーク③:地域行事に参加する 地域行事のボランティア体験を通して、地域課題の解決現場についての理解を深める。	フィールドワークの進め方や調査内容等を確認する。(15分)	フィールドワーク先で、調査内容等を報告書として整理する。(30分)
担当教員			
第20回	フィールドワーク③:地域行事に参加し、参加者の声を聴く 地域行事のボランティア体験を通して、地域課題の解決現場についての理解を深める。	フィールドワークの進め方や調査内容等を確認する。(15分)	フィールドワーク先で、調査内容等を報告書として整理する。(30分)
担当教員			
第21回	フィールドワーク④の準備-1 市民イベントの実行委員会へ参画し、ボランティアのネットワークの在り方について、学びを深める。	資料やWeb等によって、取組の情報を調べ、調整事項等を整理する。(15分)	講義やグループ協議を踏まえ、フィールドワークのテーマや準備について確認する。(30分)
担当教員			

第22回	フィールドワーク④の準備-2 市民イベントへ参画するためのプログラムの企画等に関する企画会議を行う。	資料やWeb等によって、取組の情報を調べ、調整事項等を整理する。(15分)	講義やグループ協議を踏まえ、フィールドワークのテーマや準備について確認する。(30分)
担当教員			
第23回	フィールドワーク④の準備-3 市民イベントへ参画するためのプログラムの運営等に関する企画会議を行う。	資料やWeb等によって、取組の情報を調べ、調整事項等を整理する。(15分)	講義やグループ協議を踏まえ、フィールドワークのテーマや準備について確認する。(30分)
担当教員			
第24回	フィールドワーク④-1 市民イベントの前日準備を通して、ボランティアマネジメントの基本について理解を深める。	プログラムの企画書や役割分担等について確認する。(15分)	企画書や運営細案等の修正点について確認する。(30分)
担当教員			

第25回	フィールドワーク④-2 市民イベントの前日準備を通して、環境整備の基本課題について理解を深める。	プログラムの企画書や役割分担等について確認する。(15分)	企画書や運営細案等の修正点について確認する。(30分)
担当教員			
第26回	フィールドワーク④-3 市民イベントへの参画を通して、全体の調整や細部への配慮など、プロジェクトマネジメントの実際を体験する。	プログラムの企画書や役割分担等について確認する。(15分)	目的の達成度やボランティアの動き、自分の責任などについて、チーム内で整理する。(30分)
担当教員			
第27回	フィールドワーク④-4 市民イベントへの参画を通して、参加者への配慮など、プロジェクトマネジメントの実際を体験する。	プログラムの企画書や役割分担等について確認する。(15分)	目的の達成度やボランティアの動き、自分の責任などについて、チーム内で整理する。(30分)
担当教員			

第28回	フィールドワーク④-5 市民イベントへの参画を通して、リスクへの配慮など、プロジェクトマネジメントの実際を体験する。	プログラムの企画書や役割分担等について確認する。(15分)	目的の達成度やボランティアの動き、自分の責任などについて、チーム内で整理する。(30分)
担当教員			
第29回	フィールドワーク④-6 市民イベントへの参画を通して、参加者の声を聴き、プロジェクトマネジメントの課題を考える。	プログラムの企画書や役割分担等について確認する。(15分)	目的の達成度やボランティアの動き、自分の責任などについて、チーム内で整理する。(30分)
担当教員			
第30回	ふりかえりとまとめ フィールドワークやボランティア体験等を通して、取組の成果や課題、改善方策等についてチームで協議し、発表する。	資料やメモ等によって、地域課題の解決やコーディネーターの役割等についての発表資料を整理する。(15分)	フィールドワークやボランティア体験等を通しての学びや気づきを整理し、3年時のゼミ活動に対する見通しを持つ。(30分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	①フィールドワークごとのふりかえり 50% ②個人課題 40% ③授業への参加度・出席態度 10%
その他	0	
教科書		
使用しない。		
参考文献		

適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

学外者等との協力の下、フィールドワークを展開する科目の性質上、日程・時間及び会場等の調整を行う場合があり、その場合は事前に知らせる。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		演習科目 地域未来演習					
科目名		地域未来創造演習Ⅰ (Beginning) (吉岡 亜希子)				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	2
担当教員	吉岡 亜希子						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーにおける「地域社会の中核的コーディネーターとして、多様な主体とのつながりを生み出し、包摂的で持続可能な地域コミュニティを他者と共創できる。(知識・技能)」、及び「幅広い視点から地域課題を発見し、課題解決に向けて主体的に行動でき、かつ、地域において協働できる人的資源の開発や組織体制の構築に貢献できる。(思考・判断・表現)」ことと特に関係がある科目である。3年次の「地域未来創造演習Ⅱ (Creative)」、「地域未来創造演習Ⅲ (Driven)」の基礎となる科目である。

授業の概要

本科目では、道外地域も対象に、2年次前期までに受講した講義や、地域でのフィールドワークで習得した知識やスキルと、2年次後期以降で関心を深めたい専門分野の両方を踏まえつつ、少人数グループで協働して意見交換およびプレゼンテーションを実施し、地域の現状と課題および自らの強い関心分野について、発見することを目指す。

到達目標

- ①自己の問題意識を説明できる。
- ②フィールドワークにおけるヒアリング項目や行程など、調査計画を作成することができる。
- ③フィールドワークの結果から自己の問題意識にかかわる地域の現状や課題を指摘できる。
- ④多様な立場や考えに配慮しながらディスカッションに参加できる。

授業の方法

問題意識の明確化、事前準備、フィールドワークの計画等は受講生のディスカッションによって進める。フィールドワークの報告、まとめでは受講生がプレゼンテーションを行う。また、1年次後期の「地域未来創造基礎(Adventure)」の補助を行う。

ICT活用

Google classroom、Google formを用いた双方向授業を行う。意見や感想の共有、議論に活用する。

実務経験のある教員の教育内容

市民活動として行っている子育て支援に関連する団体運営、学びの場づくり等でのコーディネーター経験を活かした授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

Google classroom、Google formを活用してフィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 本科目の概要(授業の進め方、目指す到達点、内容、日程等)について)理解を深める。	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			
第2回	フィールドワーク①に向け、自己の関心分野、問題意識を発見するためのディスカッションを行う。～a)関心分野の分析	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			
第3回	フィールドワーク①に向け、自己の関心分野、問題意識を発見するためのディスカッションを行う。～b)問題意識の分析	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			

第4回	フィールドワーク①に向け、自己の関心分野、問題意識を発見するためのディスカッションを行う。～c)問題意識の共有	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			
第5回	フィールドワーク①の準備 各自の問題意識に対応した情報収集、フィールドワークの計画書づくり～a) 情報収集の手法	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			
第6回	フィールドワーク①の準備 各自の問題意識に対応した情報収集、フィールドワークの計画書づくり～b) 情報の収集	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			

第7回	フィールドワーク①の準備 各自の問題意識に対応した情報収集、フィールドワークの計画書づくり～c)フィールドワークの計画書づくり	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			
第8回	フィールドワーク①の準備 各自の問題意識に対応した情報収集、フィールドワークの計画書づくり～d)フィールドワーク計画書の共有	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			
第9回	フィールドワーク①の実施 調査、ヒアリング等～a)ヒアリングの実施・前半	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			

第10回	フィールドワーク①の実施 調査、ヒアリング等～b)ヒアリングの実施・後半	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			
第11回	フィールドワーク①で得た内容の整理～a)内容の整理	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			
第12回	フィールドワーク①で得た内容の整理～b)内容の共有	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			

第13回	フィールドワーク①の報告、共有～a)前半	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			
第14回	フィールドワーク①の報告、共有～b)後半	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			
第15回	フィールドワーク①のまとめ、講評～a)前半	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			

第16回	フィールドワーク①のまとめ、講評～b)後半	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			
第17回	フィールドワーク②に向け、自己の関心分野、問題意識を深めるためのディスカッションを行う。～a)関心分野の分析	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			
第18回	フィールドワーク②に向け、自己の関心分野、問題意識を深めるためのディスカッションを行う。～b)問題意識の分析・共有	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			

第19回	フィールドワーク②の準備 各自の問題意識に対応した情報収集、フィールドワークの計画書づくり～a) 情報収集の手法	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			
第20回	フィールドワーク②の準備 各自の問題意識に対応した情報収集、フィールドワークの計画書づくり～b) 情報の収集	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			
第21回	フィールドワーク②の準備 各自の問題意識に対応した情報収集、フィールドワークの計画書づくり～c) フィールドワーク計画書づくり	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			

第22回	フィールドワーク②の準備 各自の問題意識に対応した情報収集、フィールドワークの計画書づくり～d)フィールドワーク計画書の共有	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			
第23回	フィールドワーク②の実施 調査、ヒアリング等～a)ヒアリングの実施・前半	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			
第24回	フィールドワーク②の実施 調査、ヒアリング等～b)ヒアリングの実施・後半	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			

第25回	フィールドワーク②で得た内容の整理～a) 内容の整理	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			
第26回	フィールドワーク②で得た内容の整理～b) 内容の共有	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			
第27回	フィールドワーク②の報告、共有～a) 報告、共有・前半	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			

第28回	フィールドワーク②の報告、共有～b) 報告、共有・後半	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			
第29回	フィールドワーク②のまとめ、講評～a) 前半	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			
第30回	フィールドワーク②のまとめ、講評～b) 後半	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	①フィールドワークの事前準備・計画書40% ②フィールドワークの報告・プレゼンテーション50% ③授業への参加度・出席態度 10%
その他	0	
教科書		
なし		
参考文献		

授業内で適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

学外者等との協力の下、フィールドワークを展開する科目の性質上、日程・時間及び会場等の調整を行う場合があり、その場合は事前に知らせる。

備考欄

なし

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		演習科目 地域未来演習					
科目名		地域未来創造演習 I (Beginning) (木村 悠里菜)				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	2
担当教員	木村 悠里菜						

授業の位置づけ

本科目では、小売業を起点としたまちづくりを理論と実践の両面から分析し、商業の社会的・文化的役割を探究する。スコットの理論を踏まえ、国家・市場に依存しない地域経済の可能性を考察し、フィールドワークを通じた実証分析を行う。ディプロマ・ポリシーの地域の歴史や文化、多様な資源の価値を深く理解し、新たな価値を創造することにより、持続可能な社会を実現し、次代へ発信・継承することができる、幅広い視点から地域課題を発見し、課題解決に向けて主体的に行動でき、かつ、地域において協働できる人的資源の開発や組織体制の構築に貢献できることと関連する。

授業の概要

本科目では、道外地域も対象に、2年次前期までに受講した講義や、地域でのフィールドワークで習得した知識やスキルと、2年次後期以降で関心を深めたい専門分野の両方を踏まえつつ、少人数グループで協働して意見交換およびプレゼンテーションを実施し、地域の現状と課題および自らの強い関心分野について、発見することを目指す。

到達目標

本科目を通じて、受講生は地域商業の歴史的変遷と政策介入の影響を批判的に理解し、地域経済の持続可能性を多角的に分析できるようになる。スコットのアナキズム理論を基に、国家・市場の枠を超えた経済活動の可能性を考察し、オルタナティブなまちづくりの視点を獲得する。また、フィールドワークを通じて、商店街の現状を実証的に分析し、地域の課題発見と解決策の立案に取り組む。これらの学びを統合し、地域社会の中核的コーディネーターとして、多様な主体と連携しながら、新たな価値を創出し、地域コミュニティの持続可能な発展に貢献できる力を習得する。

授業の方法

- ・パワーポイントによるプレゼンテーション資料と教科書等を併用しながら、講義形式とアクティブラーニングの手法を取り入れた演習方式の授業を実施する。
- ・理解度確認のために、最終成果発表を実施する。

ICT活用

- ・パワーポイントによるプレゼンテーション資料と教科書等を併用しながら、視覚的に内容が理解しやすい授業を実施する。
- ・Google Classroomを活用し、配布資料を共有するため、授業前に各自印刷し持参する。

実務経験のある教員の教育内容

消費財メーカーのマーケティング職や外資系コンサルティングファームでの経営コンサルタント職や、全国のまちづくり活動等での実務経験を活かして、実例を交えた具体的な授業を実施する。

課題に対するフィードバックの方法

各授業において振り返りを実施し、学生の理解度の確認を行う。加えて質問については、解説を適宜実施する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	授業の趣旨・進め方を確認し、小売業を基盤とした都市空間の形成とまちづくりの歴史の変遷を概観する。①小売業と都市形成:経済・社会・文化の交差点	「小売業起点のまちづくり」の第1章-第8章を読み、小売業が都市空間の形成に果たす役割を分析すること。小売主導の都市計画が経済的・社会的・政治的にどのような影響を持つかを考察し、著者の主張を批判的に評価する。主要な理論枠組みや実際の応用例を特定し、小売主導のまちづくりの持続可能性と課題について議論するための分析的な問いを作成すること。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第2回	授業の趣旨・進め方を確認し、小売業を基盤とした都市空間の形成とまちづくりの歴史の変遷を概観する。②まちづくりの歴史の変遷:市場、国家、自治の視点から	「小売業起点のまちづくり」の序章-第8章までを読み、自分なりの考えや疑問を整理する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第3回	医商連携や買い物弱者支援の事例をもとに、高齢者・子育て世代が地域商業とどのように共存できるかを議論する。①地域商業と福祉の融合:持続可能な支援モデルの検討	授業内で指示された課題を実施する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			

第4回	医商連携や買い物弱者支援の事例をもとに、高齢者・子育て世代が地域商業とどのように共存できるかを議論する。 ②都市の包摂性とは何か：商業空間と社会的弱者の関係性	授業内で指示された課題を実施する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第5回	商店街組織の衰退と外部機関との連携事例を比較し、持続可能な地域経済のための協働モデルを考察する。①商店街の衰退と再生：自治と外部支援の狭間で	授業内で指示された課題を実施する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第6回	商店街組織の衰退と外部機関との連携事例を比較し、持続可能な地域経済のための協働モデルを考察する。②商業の協働モデル：ネットワークとガバナンスの可能性	授業内で指示された課題を実施する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			

第7回	観光資源の発掘・ブランド化の手法を分析し、商業と観光の連携による地域活性化の可能性を探る。①観光都市の形成：ブランド戦略と商業の役割	授業内で指示された課題を実施する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第8回	観光資源の発掘・ブランド化の手法を分析し、商業と観光の連携による地域活性化の可能性を探る。②地域アイデンティティの商業化：持続可能な観光と経済	授業内で指示された課題を実施する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第9回	学生主体のまちづくり事例を比較し、若年層の地域参画が商業・文化形成に果たす役割と限界を検討する。①若者と都市再生：まちづくりの担い手となるか	授業内で指示された課題を実施する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			

第10回	学生主体のまちづくり事例を比較し、若年層の地域参画が商業・文化形成に果たす役割と限界を検討する。②商業と文化の変革者：若年層の創造的役割を考察する	授業内で指示された課題を実施する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第11回	これまでの議論を統合し、小売業を起点としたまちづくりの理論的枠組みを整理する。各自の視点を踏まえ、地域商業の持続可能性とその発展可能性について批判的に考察し、今後の研究課題を明確にする。①小売業と都市の未来：持続可能な商業の理論と実践	授業内で指示された課題を実施する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第12回	これまでの議論を統合し、小売業を起点としたまちづくりの理論的枠組みを整理する。各自の視点を踏まえ、地域商業の持続可能性とその発展可能性について批判的に考察し、今後の研究課題を明確にする。②商業と地域の共進化：まちづくりの理論と批判的考察	授業内で指示された課題を実施する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			

第13回	アナキズム的視点から社会科学を捉え直し、秩序と支配の概念を批判的に考察する。組織論と知の権力性に焦点を当て、支配を超えた社会の可能性を探る。①支配のない秩序:アナキズムの社会科学への挑戦	授業内で指示された課題を実施する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第14回	アナキズム的視点から社会科学を捉え直し、秩序と支配の概念を批判的に考察する。組織論と知の権力性に焦点を当て、支配を超えた社会の可能性を探る。②知と権力の再構築:社会的統制とオルタナティブの探求	授業内で指示された課題を実施する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第15回	不服従の役割とリーダーシップの逆説を検討し、組織における権威と自主性の緊張関係を分析する。①権威と反逆:組織における自主性の力学	授業内で指示された課題を実施する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			

第16回	不服従の役割とリーダーシップの逆説を検討し、組織における権威と自主性の緊張関係を分析する。②支配を拒むリーダーシップ:権威の転覆と社会変革	授業内で指示された課題を実施する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第17回	制度化された秩序と土着的実践の対立構造を分析し、都市計画・ガバナンスの視点から、国家と市場の介入が生む混沌と秩序の関係を考察する。①都市のガバナンスと土着的実践:制度化の影響を問う	授業内で指示された課題を実施する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第18回	制度化された秩序と土着的実践の対立構造を分析し、都市計画・ガバナンスの視点から、国家と市場の介入が生む混沌と秩序の関係を考察する。②国家・市場・自治:都市の秩序形成とその限界	授業内で指示された課題を実施する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			

第19回	人間の生産性の概念を再評価し、介護・教育・労働の制度が生み出す管理と抑圧を批判的に検討する。①生産性の政治:介護・教育・労働の再評価	授業内で指示された課題を実施する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第20回	人間の生産性の概念を再評価し、介護・教育・労働の制度が生み出す管理と抑圧を批判的に検討する。②管理と自由:労働の規範が生み出す社会的抑圧	授業内で指示された課題を実施する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第21回	プチ・ブルジョアジーの役割を再評価し、小規模経営者・職人・自営業者が果たす社会的・経済的機能を市場と国家の枠組みを超えて考察する。①小商人の経済哲学:国家と市場の狭間で	授業内で指示された課題を実施する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			

第22回	プチ・ブルジョアジーの役割を再評価し、小規模経営者・職人・自営業者が果たす社会的・経済的機能を市場と国家の枠組みを超えて考察する。②プチ・ブルジョアジー再考:資本主義の中の自治と創造	授業内で指示された課題を実施する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第23回	現場調査を通じて、商業空間と地域社会の関係性を分析し、商業の持続可能性を探究する。①商業と地域の相互作用:フィールドワークからの示唆	授業内で指示された課題を実施する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第24回	現場調査を通じて、商業空間と地域社会の関係性を分析し、商業の持続可能性を探究する。②市場とコミュニティの接点:商業の未来を考察する	授業内で指示された課題を実施する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			

第25回	現場調査を通じて、商業空間と地域社会の関係性を分析し、商業の持続可能性を探究する。③空間・経済・アイデンティティ: 商業の社会的役割とは	授業内で指示された課題を実施する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第26回	現場調査を通じて、商業空間と地域社会の関係性を分析し、商業の持続可能性を探究する。④地域商業の持続可能性とは何か: データと事例から考える	授業内で指示された課題を実施する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第27回	学生による最終発表テーマの設定と、資料作成の方向性について議論する。①研究テーマの確立: 論理的構成と実証的アプローチ	授業内で指示された課題を実施する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			

第28回	学生による最終発表テーマの設定と、資料作成の方向性について議論する。②資料作成の実践:効果的なプレゼンテーションの戦略	授業内で指示された課題を実施する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第29回	学生によるプレゼンテーション①と、発表内容をめぐるディスカッションを実施する。	授業内で指示された課題を実施する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第30回	学生によるプレゼンテーション②と、発表内容をめぐるディスカッションを実施し、授業全体の振り返りを行う。	授業内で指示された課題を実施する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	60	最終成果課題
その他	40	事前課題提出・授業態度や意欲等
教科書		
本科目では、学術的な視座を深めるための基本文献を指定する。具体的な文献については、初回授業時に共有し、授業の進行に応じて補助的な参考資料を適宜提示する。		
参考文献		

授業内で順次紹介する。

履修条件・留意事項等

本授業では、出欠管理を授業内で実施し、グループワークへの積極的参加を必須とする。準備・事後学習に取り組まない、またはグループワークに参加しない場合は、退室・欠席扱いとなることがある。フィールドワークの実施有無や形式については、受講生の意向や実施可能性を踏まえ、授業内で相談の上決定する。

備考欄

なし

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		演習科目 地域未来演習					
科目名		地域未来創造演習Ⅰ (Beginning) (松田 祐)				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	2
担当教員	松田 祐						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーにおける「地域社会の中核的コーディネーターとして、多様な主体とのつながりを生み出し、包摂的で持続可能な地域コミュニティを他者と共創できる。(知識・技能)」、及び「幅広い視点から地域課題を発見し、課題解決に向けて主体的に行動でき、かつ、地域において協働できる人的資源の開発や組織体制の構築に貢献できる。(思考・判断・表現)」ことと特に関係がある科目である。3年次の「地域未来創造演習Ⅱ (Creative)」、「地域未来創造演習Ⅲ (Driven)」の基礎となる科目である。							
授業の概要							
本科目では、道外地域も対象に、2年次前期までに受講した講義や、地域でのフィールドワークで習得した知識やスキルと、2年次後期以降で関心を深めたい専門分野の両方を踏まえつつ、少人数グループで協働して意見交換およびプレゼンテーションを実施し、地域の現状と課題および自らの強い関心分野について、発見することを目指す。							
到達目標							

- ①講義や文献精読を通して、特定の分野における総論的な情勢の説明ができる。
- ②フィールドワークにおいて、自分の知識を活用して学外の関係者に的確な質問ができる。
- ③フィールドワークを通して、特定の分野における各論的な事例における課題と解決策を明示できる。
- ④自分以外のゼミ生や学外の関係者とのコミュニケーションを介して、自分の興味関心と就業意識の違いについて整理できる。

授業の方法

主に、パワーポイント資料、印刷物・動画資料などを用い、必要に応じてフィールドワークを行ったり、地域で主体的に活動する人からのブリーフィングやディスカッションを展開する。

ICT活用

主に、課題や授業連絡などのやり取りにGoogle classroomを活用する。なお、詳細については担当教員の指示による。

実務経験のある教員の教育内容

民間企業や大学職員、地域における官学連携研究機関などの就業経験がある。地域と大学のよりよい関係性や官学連携などについて指導する。

課題に対するフィードバックの方法

適宜課すコメントシートへの記入及び添削を通して、知識の整理や派生的な知識の獲得を促す。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション ゼミの進め方や評価基準等について説明する。	シラバスをよく読み、これまでに得た“地域”に係る知識や経験について整理して授業に臨むこと。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(25分)
担当教員			
第2回	きみが大学で学ぶ意味(1) 各個人が入学時から現在において積み重ねてきた学びについていま一度整理をし、ゼミ内での比較や気づきを通して、本ゼミで学ぶべき内容について理解を深める。	授業で指示した課題を行うこと。(20分)	講義や配布した資料、添削指導の内容を復習し、必要に応じて調べること。(25分)
担当教員			
第3回	きみが大学で学ぶ意味(2) 前回に引き続き、各個人が入学時から現在において積み重ねてきた学びについていま一度整理をし、ゼミ内での比較や気づきを通して、本ゼミで学ぶべき内容について理解を深める。	授業で指示した課題を行うこと。(20分)	講義や配布した資料、添削指導の内容を復習し、必要に応じて調べること。(25分)
担当教員			

第4回	自分を〈たなおろし〉する 自らの関心についていま一度整理することによって、ゼミ、卒業研究、就職の各フェーズにおける見通しをもつ。	授業で指示した課題を行うこと。 (20分)	講義や配布した資料、添削指導の内容を復習し、必要に応じて調べること。(25分)
担当教員			
第5回	演習①(1) 文献精読 社会課題発見に資する参考文献を精読し、ゼミ生間での発表やディスカッションを通して、座学の意義について理解を深める。	授業で指示した課題を行うこと。 (20分)	講義や配布した資料、添削指導の内容を復習し、必要に応じて調べること。(25分)
担当教員			
第6回	演習①(2) 文献精読 前回到引き続き、社会課題発見に資する参考文献を精読し、ゼミ生間での発表やディスカッションを通して、座学の意義について理解を深める。	授業で指示した課題を行うこと。 (20分)	講義や配布した資料、添削指導の内容を復習し、必要に応じて調べること。(25分)
担当教員			

第7回	演習②(1) 文献精読 社会課題発見に資する参考文献を精読し、ゼミ生間での発表やディスカッションを通して、座学の意義について理解を深める。	授業で指示した課題を行うこと。 (20分)	講義や配布した資料、添削指導の内容を復習し、必要に応じて調べること。(25分)
担当教員			
第8回	演習②(2) 文献精読 前回に引き続き、社会課題発見に資する参考文献を精読し、ゼミ生間での発表やディスカッションを通して、座学の意義について理解を深める。	授業で指示した課題を行うこと。 (20分)	講義や配布した資料、添削指導の内容を復習し、必要に応じて調べること。(25分)
担当教員			
第9回	フィールドワーク①(1) 事前学習 フィールドワーク先に関する周辺知識や現状について理解を深め、視察の準備にあたる。	授業で指示した課題を行うこと。 (20分)	講義や配布した資料、添削指導の内容を復習し、必要に応じて調べること。(25分)
担当教員			

第10回	フィールドワーク①(2)現地視察 現地を訪れ、関係者にヒアリングすることによって、実際の現状や課題について理解を深める。	授業で指示した課題を行うこと。 (20分)	講義や配布した資料、添削指導の内容を復習し、必要に応じて調べること。(25分)
担当教員			
第11回	フィールドワーク①(3)フィードバック フィールドワークを通して得た知見についてゼミ生間で共有を図り、気づきの共通項や相違点について整理し、その領域についての関心や理解を深める。	授業で指示した課題を行うこと。 (20分)	講義や配布した資料、添削指導の内容を復習し、必要に応じて調べること。(25分)
担当教員			
第12回	演習③(1)文献精読 社会課題発見に資する参考文献を精読し、ゼミ生間での発表やディスカッションを通して、座学の意義について理解を深める。	授業で指示した課題を行うこと。 (20分)	講義や配布した資料、添削指導の内容を復習し、必要に応じて調べること。(25分)
担当教員			

第13回	演習③(2) 文献精読 前回に引き続き、社会課題発見に資する参考文献を精読し、ゼミ生間での発表やディスカッションを通して、座学の意義について理解を深める。	授業で指示した課題を行うこと。 (20分)	講義や配布した資料、添削指導の内容を復習し、必要に応じて調べること。(25分)
担当教員			
第14回	大学について 大学(高等教育機関)についての基礎知識について、鶴岡学園にも触れながら理解を深める。	授業で指示した課題を行うこと。 (20分)	講義や配布した資料、添削指導の内容を復習し、必要に応じて調べること。(25分)
担当教員			
第15回	フィールドワーク②(1) 事前学習 フィールドワーク先に関する周辺知識や現状について理解を深め、視察の準備にあたる。	授業で指示した課題を行うこと。 (20分)	講義や配布した資料、添削指導の内容を復習し、必要に応じて調べること。(25分)
担当教員			

第16回	フィールドワーク②(2)現地視察 現地を訪れ、関係者にヒアリングすることによって、実際の現状や課題について理解を深める。	授業で指示した課題を行うこと。 (20分)	講義や配布した資料、添削指導の内容を復習し、必要に応じて調べること。(25分)
担当教員			
第17回	フィールドワーク②(3)現地視察 前回に引き続き、現地を訪れ、関係者にヒアリングすることによって、実際の現状や課題について理解を深める。	授業で指示した課題を行うこと。 (20分)	講義や配布した資料、添削指導の内容を復習し、必要に応じて調べること。(25分)
担当教員			
第18回	フィールドワーク②(4)フィードバック フィールドワークを通して得た知見についてゼミ生間で共有を図り、気づきの共通項や相違点について整理し、その領域についての関心や理解を深める。	授業で指示した課題を行うこと。 (20分)	講義や配布した資料、添削指導の内容を復習し、必要に応じて調べること。(25分)
担当教員			

第19回	中間報告 これまでの学び、自らの興味・関心、就職といった様々な要素を踏まえた上で、中間まとめとしてふりかえりを行う。	自分の興味・関心や就職などの諸要素を踏まえ、中間の振り返り準備を行うこと。(20分)	他者の中間報告も踏まえ、最終報告に向けた周辺知識の整理に努めること。(25分)
担当教員			
第20回	フィールドワーク③(1)事前学習 フィールドワーク先に関する周辺知識や現状について理解を深め、視察の準備にあたる。	授業で指示した課題を行うこと。(20分)	講義や配布した資料、添削指導の内容を復習し、必要に応じて調べること。(25分)
担当教員			
第21回	フィールドワーク③(2)事前学習 前回到引き続き、フィールドワーク先に関する周辺知識や現状について理解を深め、視察の準備にあたる。	授業で指示した課題を行うこと。(20分)	講義や配布した資料、添削指導の内容を復習し、必要に応じて調べること。(25分)
担当教員			

第22回	フィールドワーク③(3)企画・編集 現地を訪れ、関係者にヒアリング・協働することによって知見を得て、実際の現状や課題について理解を深める。	授業で指示した課題を行うこと。 (20分)	講義や配布した資料、添削指導の内容を復習し、必要に応じて調べること。(25分)
担当教員			
第23回	フィールドワーク③(4)企画・編集 前回に引き続き、現地を訪れ、関係者にヒアリング・協働することによって知見を得て、実際の現状や課題について理解を深める。	授業で指示した課題を行うこと。 (20分)	講義や配布した資料、添削指導の内容を復習し、必要に応じて調べること。(25分)
担当教員			
第24回	フィールドワーク③(5)企画・編集 前回に引き続き、現地を訪れ、関係者にヒアリング・協働することによって知見を得て、実際の現状や課題について理解を深める。	授業で指示した課題を行うこと。 (20分)	講義や配布した資料、添削指導の内容を復習し、必要に応じて調べること。(25分)
担当教員			

第25回	フィールドワーク③(6)提出・フィードバック 現地を訪れ、関係者にヒアリング・協働することによって知見を得て、実際の現状や課題について理解を深める。	授業で指示した課題を行うこと。 (20分)	講義や配布した資料、添削指導の内容を復習し、必要に応じて調べること。(25分)
担当教員			
第26回	フィールドワーク④(1)事前学習・準備 フィールドワーク先に関する周辺知識や現状について理解を深め、視察の準備にあたる。	授業で指示した課題を行うこと。 (20分)	講義や配布した資料、添削指導の内容を復習し、必要に応じて調べること。(25分)
担当教員			
第27回	フィールドワーク④(2)現地視察 現地を訪れ、関係者にヒアリングすることによって、実際の現状や課題について理解を深める。	授業で指示した課題を行うこと。 (20分)	講義や配布した資料、添削指導の内容を復習し、必要に応じて調べること。(25分)
担当教員			

第28回	フィールドワーク④(3)フィードバック フィールドワークを通して得た知見についてゼミ生間で共有を図り、気づきの共通項や相違点について整理し、その領域についての関心や理解を深める。	授業で指示した課題を行うこと。 (20分)	講義や配布した資料、添削指導の内容を復習し、必要に応じて調べること。(25分)
担当教員			
第29回	最終報告(1) 本ゼミを通して得た知識や実践経験、自ら調査した知見などを総動員し、最終報告を行う。	大学生活の振り返りを意識した振り返りとできるよう、準備すること。(20分)	3年次以降につながるよう、切れ目なく自発的な知識獲得や実践参画を行うこと。(25分)
担当教員			
第30回	最終報告(2) 前回に引き続き、本ゼミを通して得た知識や実践経験、自ら調査した知見などを総動員し、最終報告を行う。	大学生活の振り返りを意識した振り返りとできるよう、準備すること。(20分)	3年次以降につながるよう、切れ目なく自発的な知識獲得や実践参画を行うこと。(25分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業に取り組む姿勢、コメントシート、各種レポート、プレゼンテーション(発表)などを中心に総合的に評価する。定期試験は行わない。
その他	0	
教科書		
特に指定しない。		
参考文献		

適宜、ゼミ教員から指定または提供された、テーマやトピックに係る資料等

履修条件・留意事項等

原則は時間割で指定された曜日・開講時にて授業を行うが、地域で活動する人や組織などの学外の協力体制との調整が不可欠であるため、日程・時間調整を行う場合があり、その場合は事前にお知らせする。

備考欄

なし